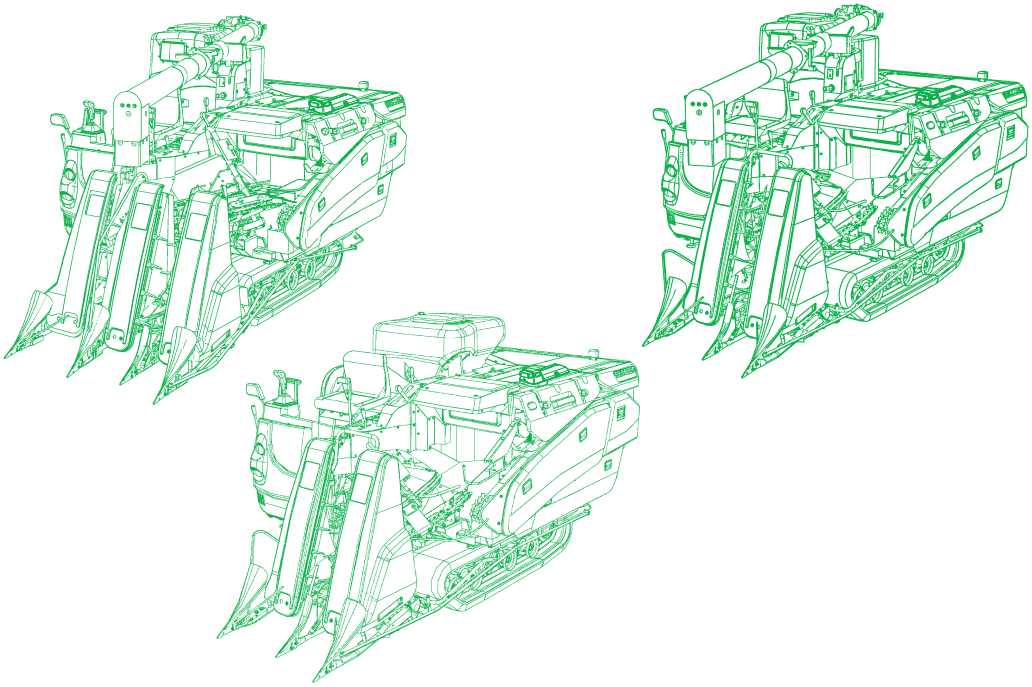
コンバイン

取扱説明書

VS321・323
VM218G・219(G)・221(G)



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに,この取扱説明書をよくお読みいただき,安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は6ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，安全作業のために からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

ページ

- **安全な作業をするための注意事項は？** — 安全作業のために（安全作業説明編）
  安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。
- **使用前に知っておかなければならないことは？** — ご使用まえに 1
  機械の概要「仕様（装備）」等について説明しています。
- **各部のはたらきを知るには？** — 各部のはたらき 6
  各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。
- **コンバインを動かすには？** — 運転のしかた 30
  運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
  運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかた等を説明しています。
- **収穫作業を行うには？** — 作業のしかた 39
  コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。
- **自動装置を使用して作業するには？** — 自動装置について 65
  各自動装置の取扱いについて説明しています。
- **機械を長もちさせるには？** — 手入れのしかた 71
  機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。「定期点検整備表」に従って保守，点検してください。
- **機械を 3 ケ月以上格納するときは？** — 長期格納のしかた 153
  機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。
- **故障かなと思ったら？** — 不調時の処置 156
  作業中のトラブルや不調，異常を感じた時はすぐ原因を調べ処置してください。
- **諸元・関連部品？** — 付　　表 164
  機械に係る諸元表・消耗部品等を一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために …（安 -1）～（安 -23）
（安全作業説明編）
ご使用まえに …… 1
１．保証とサービスについて …… 1
２．仕様（装備）について …… 2
３．用語について …… 4
４．小型特殊自動車について …… 5
１．小型特殊自動車の届出 …… 5
２．公道走行するために …… 5
各部のはたらき …… 6
１．各部の名称 …… 6
１．3 条型グレンタンク仕様 …… 6
２．2 条型グレンタンク仕様 …… 7
３．2 条型ホッパ仕様 …… 8
２．運転装置の取扱い …… 9
１．スイッチ・計器関係 …… 9
２．ペダル・レバー関係 ……16
３．電装関係 ……27
運転のしかた …… 30
１．運転まえの点検 ……30
２．エンジンの始動と停止 ……32
１．エンジン始動のしかた ……32
２．エンジン停止のしかた ……33
３．走行・停車のしかた ……33
１．走行のしかた ……33
２．停車のしかた ……35
４．自動車への積込み・積降ろし ……36
１．自動車・アユミについて ……37
２．機械の積込み要領 ……37
５．ほ場への出入り ……38
１．ほ場への出入りのしかた ……38
作業のしかた …… 39
１．作業まえの準備……39
１．作物の条件について ……39
２．ほ場の条件について ……39
３．ほ場の準備 ……40
４．機械の準備 ……40
２．刈取り作業のしかた ……43
１．刈取り操作の手順 ……43
２．作業速度の選びかた ……46
３．刈取部スライドの使い方［2 条型］……47
４．ほ場の刈取り手順 ……48
５．モミ袋の交換のしかた［ホッパ仕様］…52
６．こく粒の排出操作方法
［グレンタンク仕様］ ……52
７．グレンタンク補助樋口の取扱い
［グレンタンク仕様］ ……55
８．ニューツインハーモニー ……55
９．リフトシャットの取扱い ……56
10．トルクリミッタの取扱い ……57
11．手こぎ作業 ……58
12．エンジン停止スイッチの取扱い ……59
13．エンジン自動停止の取扱い ……59
14．夜間作業 ……60
15．警報装置について ……61
16．刈取り作業終了後の取扱い ……62
３．ワラ処理部の取扱い ……63
１．カッタ作業 ……63
２．排ワラ作業 ……64
３．中割り作業 ……64
自動装置について …… 65
１．こぎ深さ自動制御……65
１．運転装置 ……65
２．こぎ深さセンサの調整 ……66
３．こぎ深さ自動制御が使えない条件 ……66
２．方向自動制御［A 仕様］……66
１．運転装置 ……66
２．作業のしかた ……67
３．方向自動制御の使えない条件 ……67
３．刈高さポジションコントロール ……68
１．運転装置 ……68
２．自動での作業のしかた ……68
３．手動での作業のしかた ……68
４．オーガ旋回自動制御
［グレンタンク仕様］……69
１．運転装置 ……69

５．送じん量自動調節 ……70
手入れのしかた …… 71
１．定期点検整備 ……71
「定期点検整備表」……71
２．給油・注油・給水のしかた ……75
「給油・注油・給水表」……76
１．燃料の補給 ……77
２．エンジンオイルの点検・交換 ……78
３．エンジンオイルフィルタの交換 ……80
４．ラジエータ冷却水の点検・交換 ……81
５．トランスミッションケースのオイル点検・交換 ……82
６．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST オイルフィルタの交換 …83
７．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…85
８．搬送 HST ギヤケースのオイルの点検・交換 ……85
９．トルクリミッタケース「3 条型」……86
10．スターホイルギヤケース「2 条型」……86
11．集中注油タンク ……86
12．ローラ，アイドラのグリスアップ ……87
13．こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンの注油……87
14．排ワラチェンの注油 ……87
15．グレン入力ギヤケース「グレンタンク仕様」 ……88
16．その他の注油個所 ……89
17．集中注油の使いかた ……90
３．各部の点検と掃除のしかた ……92
１．ラジエータ吸気部の掃除 ……92
２．エアクリーナの掃除 ……92
３．燃料フィルタの掃除・交換 ……93
４．燃料のエア抜きのしかた ……94
５．電気配線の点検と掃除 ……95
６．バッテリの点検と充電 ……95
７．グレンタンクの回動のしかた …… 101
８．こぎ胴部の開きかた …… 103
９．脱こく内部の掃除 …… 104
10．揺動流板の掃除 …… 108
11．グレンタンク部の掃除 …… 112
12．引起しケースカバーの外しかた …… 114
13．カッタ部開閉のしかた …… 115
４．各部の点検と部品交換のしかた…… 117
１．カッタ刃組品の取外しと分解 …… 117
２．爪の交換のしかた …… 127
３．刈刃 …… 127
４．ワラ切カマの手入れ …… 131
５．こぎ歯の点検と交換 …… 134
６．ホース類の点検と交換 …… 134
５．各部の点検と調整のしかた …… 135
「レバー・ペダルの点検・調整」 …… 136
１．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 136
２．脱こく・刈取クラッチレバー …… 137
３．こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］…138
４．排ワラ切替レバー …… 138
「ベルトの点検・調整」…… 139
５．エンジンファンベルト …… 139
６．走行ベルト …… 140
７．こぎ胴ベルト …… 141
８．１番ラセン駆動ベルト …… 141
９．カッタベルト …… 142
10．選別ベルト …… 142
11．穂先排ワラベルト …… 143
12．排ワラ駆動ベルト …… 143
13．グレン入力ベルト［グレンタンク仕様］… 144
14．搬送 HST 入力ベルト …… 144
15．かき込みベルト（刈取部）…… 145
「チェンの点検・調整」…… 147
16．株元搬送チェン …… 147
17．こぎ深搬送チェン …… 148
18．穂先搬送チェン …… 149
19．かき込み搬送チェン（右，左）…… 150
20．脱こくフィードチェン …… 151
21．排ワラチェン …… 151
「クローラの点検・調整」…… 152
22．クローラ …… 152
長期格納のしかた …… 153
１．機械の掃除と洗浄 …… 153

２．錆止めと注油 …… 153
３．エンジンの手入れ …… 153
４．点検・整備 …… 153
５．格納 …… 154
６．再使用にあたって …… 155
不調時の処置 …… 156
１．エンジン部 …… 156
２．走行・運転操作部 …… 158
３．電気・自動制御部 …… 158
４．刈取部 …… 159
５．脱こく部 …… 160
６．ワラ処理部 …… 163
７．グレンタンク部［グレンタンク仕様］… 163
付　　表 …… 164
１．主要諸元 …… 164
２．ベルト一覧表 …… 166
３．主な消耗部品 …… 167
　１．爪関係 …… 167
　２．カッタ関係 …… 169
　３．ヒューズ …… 169
　４．刈刃・カマ関係 …… 170
４．アタッチメント（別売り）…… 172
５．付属品一覧表 …… 172
６．潤滑油について …… 173
　１．エンジンオイル …… 173
　２．油圧作動油 …… 173
　３．ギヤオイル …… 173
７．コンバイン関連商品 …… 174

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1. 安全作業のしかた …… （安 -1）

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！ …… （安 -1）

⚠ 安全作業のポイント …… （安 -2）

⚠ 作業前の一般的な注意事項 …… （安 -4）

⚠ 点検・整備及び掃除をするときは …… （安 -5）

⚠ エンジンを始動するときは …… （安 -9）

⚠ 路上走行をするときは …… （安 -10）

⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは …… （安 -12）

⚠ ほ場で作業をするときは …… （安 -13）

⚠ 1日の作業が終わったら …… （安 -16）

⚠ 長期格納するときは …… （安 -17）

2. 表示ラベルについて …… （安 -18）

（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

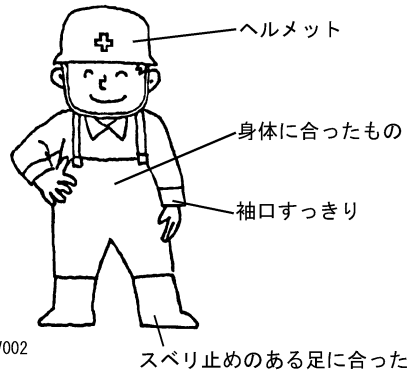
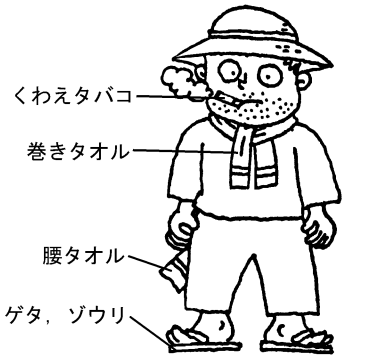
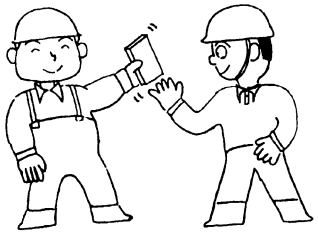
安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を，危険 警告 注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠ 作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16 才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆ 運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V001
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V002	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。  V003
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V004	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

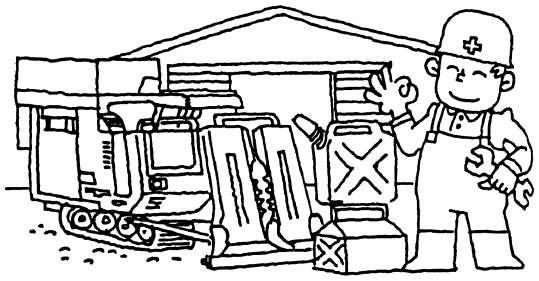
安全作業のポイント


V005

- 取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
- 集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
- 給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
- 燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない。
- 方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
- 刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
- 機械は改造しない。


V006

エンジン始動

- 始動前にすべてのカバーを取付ける。
- 駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》《中立》または《切》にする。
- 屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
- 機械の周囲から人を遠ざける。
- エンジンの始動は，座席に座って行う。
- 始動のときは，周囲の人に「合図」をする。



V007

走行・運転

- 刈取部先端部にバンパを取付ける。
- 刈取スライドを右セットにする［2 条型 ］。
- 補助モミ受台［ ホッパ仕様 ］，ナローガイド，排出オーガ［ グレンタンク仕様 ］を収納する。
- 機械に子供等，人や物をのせない。
- 走行する前にこく粒タンク内のこく粒をすべて排出する。
- 発進時は周囲を確かめる。
- 走行時の旋回は低速で行う。
- 後進時は後方を確認する。
- 急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
- わき見運転や手放し運転をしない。
- 脱こくクラッチ，刈取クラッチを《切》にする。
- 運転中は子供等，人を機械に近づけない。
- 排出オーガ［ グレンタンク仕様 ］は折りたたむ。

道路（公道）走行

- ナンバープレートの交付を受ける。
- 運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
- 取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
- 前後左右を確認し，低速車線を走る。
- 夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
- 走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

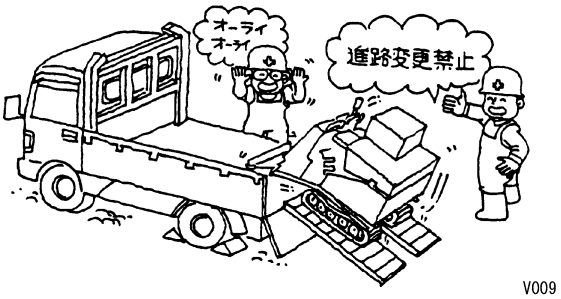
- 速度を落として走行する。
- 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
- 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
- 急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
- 下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使用する。
- 急傾斜地は，走行しない。
- 坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

- 平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
- 傾斜地では，駐車しない。
  （やむを得ず駐車するときは，歯止めをする）
- 機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る。
- 副変速レバーを《低速》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミは強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上），すべり止め，フックのあるものを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 脱こく・刈取クラッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。
- 刈取スライドを右スライドにする［2 条型 ］。



V009

ほ場作業　ほ場の出入り

- ホッパ，グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 変速は低速であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用する。
- あぜが崩れないことを確認しゆっくり行う。



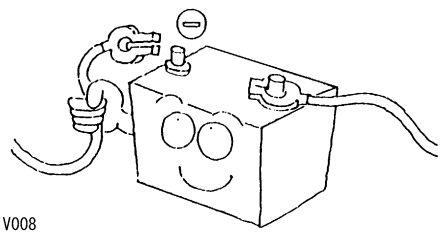
V010

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には，周囲を確認する。
- 刈取り作業は機械の周囲に子供等，人を近づけない。
- 旋回時は周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガ［グレンタンク仕様］の排出口やホッパ［ホッパ仕様］のシャッタ内に手を入れない。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜぎわでの旋回時は，周囲を確認する。
- ノッタの結束紐を交換するときは，エンジンを停止する［ノッタ仕様］。
- ノッタのそばに，手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

- 刈取クラッチを《切》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに機械を停止しない。


V008

作業中途の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まり等の異常時にはエンジンを停止して行う。
- こぎ胴部を開いたらストッパをかける。
- カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

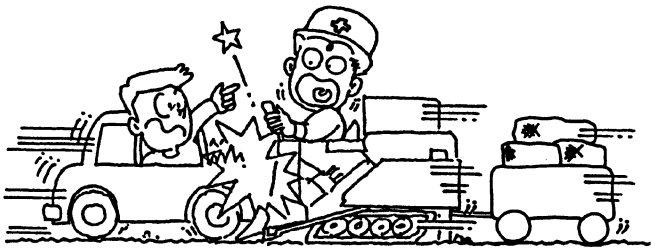
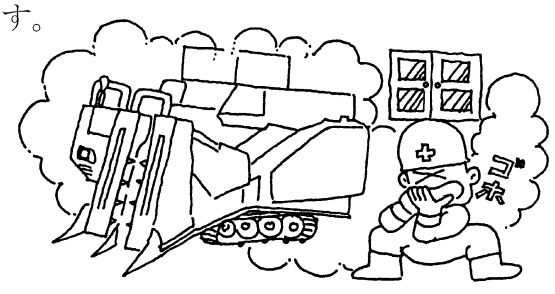
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて歯止めをする。
- スタータスイッチよりキーを抜取っておく。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータ等は冷えるまで直接触れない。
- シートカバーは，エンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「 ㊀ 側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに歯止めをする。

⚠作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。  V011
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。  V012
⚠警告 ◆毎日の運転まえには，**「運転まえの点検表」**の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆ １年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行ってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。  V013
⚠警告 ◆ 屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。  V014

⚠点検・整備及び掃除をするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠危険

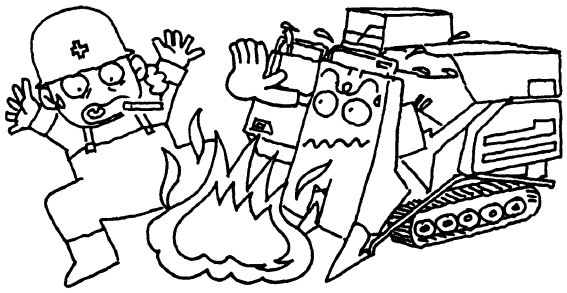
◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。

- 燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取る。
- エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。

◆燃料ホース破損や燃料漏れがないか，点検してください。

- 燃料ホースは２年ごとに交換する。

燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。



V015

⚠警告

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行ってください。

機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。



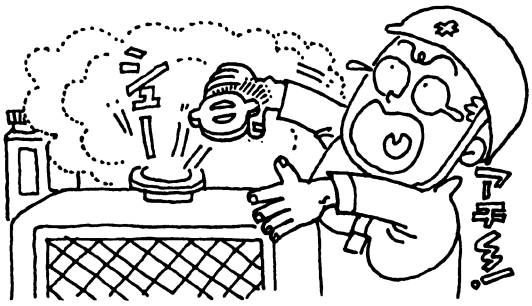
V012

⚠警告

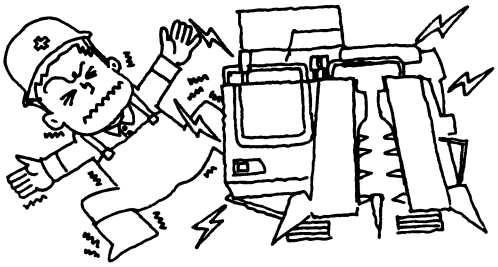
◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。

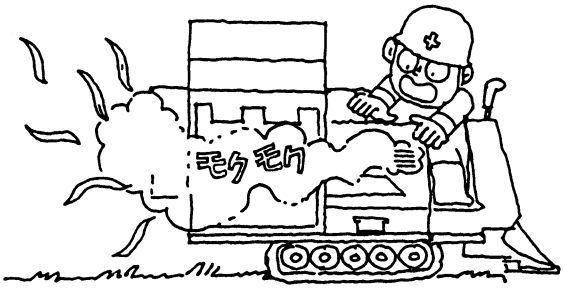
- ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。
- 冷却水の点検は，補助タンクで行う。

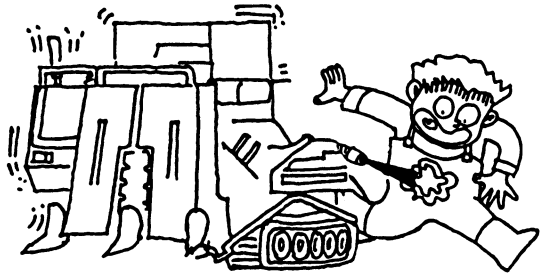
熱湯が吹きだし，火傷することがあります。



V016

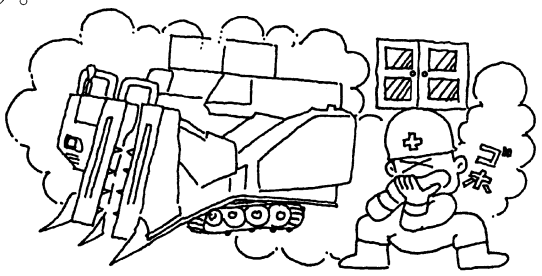
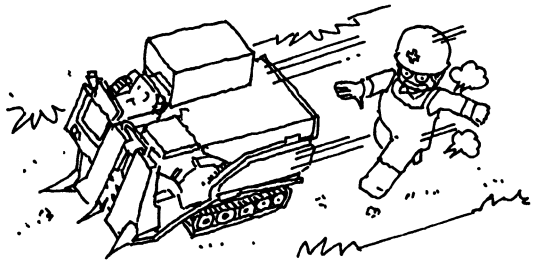
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライタなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して，傷害事故を引起こすことがあります。  V017
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮膚，衣服，物に付いたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときは，すぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは，医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。  V018
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ● バッテリは，指定されたバッテリを使用する。 ● ㊉，㊀を逆接続しない。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  V019

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ● クランプや固定金具のゆるみがないか点検する。	火災事故を引起こすことがあります。  V020
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ● ベルトカバー内のワラクズを取除く。	火災の原因となることがあります。  V021
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は，機械を動かす前に行ってください。	交通事故を引起こす原因となります。  V022
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば**「お買いあげ先」**で整備を受けてください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。  V013

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆ もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮膚に浸透し傷害の原因になります。 油が皮膚に浸入した場合,取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。  V023
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  V024
⚠注意 ◆排出オーガ［グレンタンク仕様］の作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行ってください。 ● 屋外では，電線などに引掛けない。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガ［グレンタンク仕様］の先端で電灯などを引掛けて，損害事故を起こすことがあります。  V025

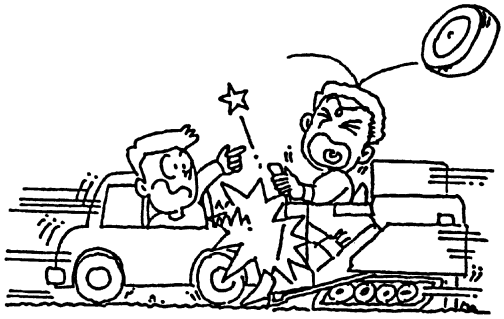
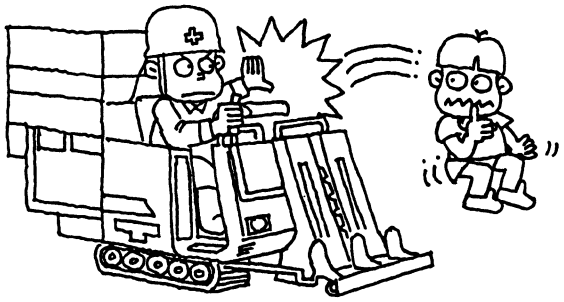
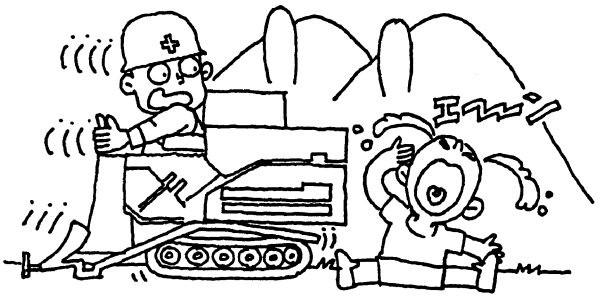
⚠エンジンを始動するときは……

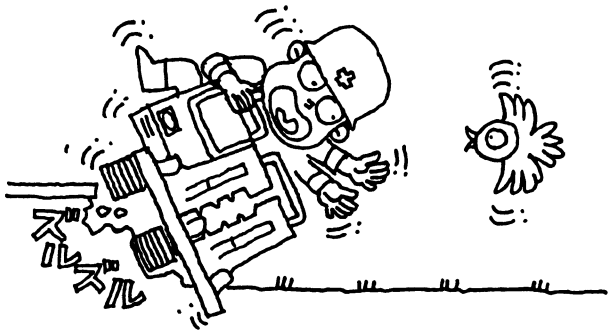
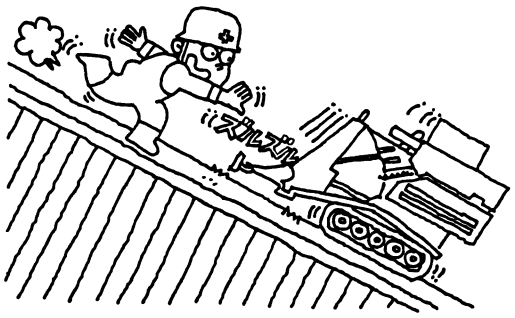
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害を起こしたり，死亡することがあります。  V014
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆ 変速レバーを《N》《中立》にしてください。 ◆ 脱こく・刈取クラッチを《切》にしてください。 ◆ 取外したカバーなどは，すべて取付けてください。 ● 変速レバーが《N》《中立》になっているか手で動かして確認する。 ● 周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V026
⚠警告 ◆始動は，運転席の座席に座って行ってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V027
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，変速レバーを《N》《中立》，脱こく・刈取クラッチを《切》にして行ってください。	急に発進したりして，思わぬ事故の原因となります。  V028

⚠路上走行をするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ● 夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消す。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V029
⚠警告 ◆人や物を乗せないでください。 ◆走行時は，補助モミ受台［ホッパ仕様］，ナローガイド，排出オーガ［グレンタンク仕様］を収納し，刈取スライドを右セット［2条型］にしてください。 ◆ ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ● 子供等，人や物を機械にのせない。 ● 荷物は別の自動車（運搬車）などで運ぶ。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V030
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけてください。 ◆ 脱こく・刈取クラッチが《切》になっていることを確認してください。 ◆ 低速で発進してください。 ● 急発進，急ブレーキ，急旋回しない。 ● 前後，左右の確認をし，わき見運転はしない。	傷害事故を引起こす原因となります。  V031
⚠注意 ◆路上走行するときは刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は取外してください。 刈取部先端を30cm程度上げます。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V032

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ● 対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。 ● 軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。 ● 雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行する。 ● 凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。  V033
⚠警告 ◆坂道の途中で，走行クラッチペダルを踏込んだり急激に主変速（無段変速）レバーを操作しないでください。 ●坂の手前でいったん減速して，登り降りする。 ●坂道での旋回は低速で行う。 ●急傾斜地を走行しない。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。  V034
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむをえず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで歯止めをしてください。 ●刈取部は下げておく。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取る。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。  V035
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線等の無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。  V036

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆自動車は積載量を超えない車で，荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車は，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を《**１速**》か《**後進**》に入れ，タイヤに歯止めをする。

◆アユミは強度，幅，長さ，（荷台高さの4倍以上），すべり止め，フックのあるものを使ってください。

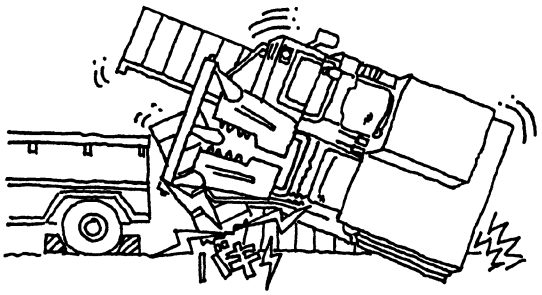
- アユミの幅はクローラ幅に合ったものを使う。

⚠警告

◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行にまっすぐにかけてください。

- 荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認する。

アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。



V037

⚠警告

◆ホッパおよびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，変速は低速で行ってください。

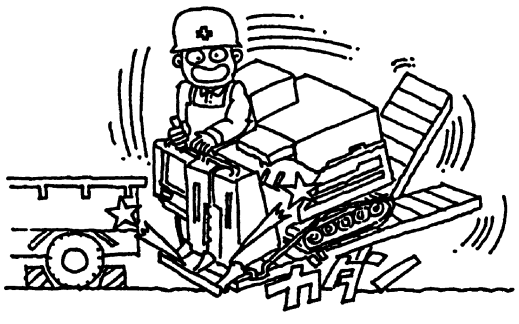
- 補助者立会誘導のもとに行う。機械の周囲に子供など，人を近づけない。

◆［**方向自動仕様**］は自動スイッチを「**切**」にしてください。

- こぎ深さ自動スイッチも「**切**」にする。

◆刈取スライドを右セットにしてください［**2条型**］。

万一のときに逃げることができなくなり，傷害事故の原因となります。



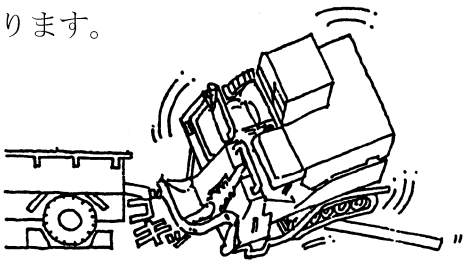
V038

⚠警告

◆アユミの上では進路変更や変速操作をしないでください。

- 機械をアユミに対してまっすぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，途中で機械を止める必要がないようにする。

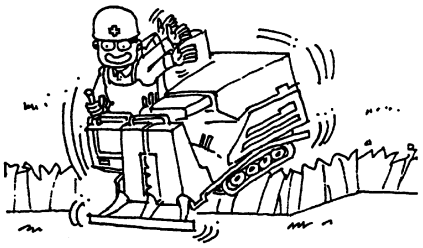
急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。



V039

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使ってください。 ● ホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出して行う。 ● 機械から降りて行う。 ● アユミ上では進路変更しない。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。  V040
⚠警告 ◆あぜ越えは，変速を《**低速**》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ● 機械から降りて行う。 ● あぜがくずれないことを確認して行う。	転倒事故を引起こすことがあります。  V041
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ● エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチを入れるときは，ホーンで合図する。 ◆ 作業時の旋回は低速で行ってください。 ● 旋回するときは周囲を確認し，低速で行う。 ● 機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。  V042
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆ 手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。 ● 手袋は使用しない。 ● 供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ● カッタ切ワラがたまったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ● 手こぎ作業は走行を停止して刈取クラッチを《**切**》にして行う。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。  V043

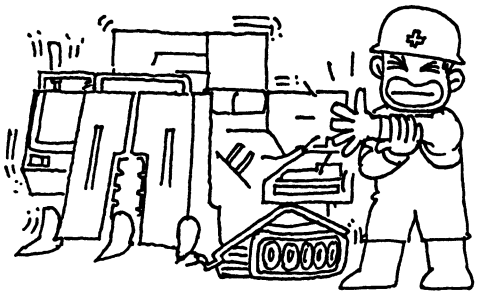
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆詰まり等の除去や，ノッタのひも交換［**ノッタ仕様**］をする時は，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

- 脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。
- エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行う。
- こぎ胴部を開いたときは，《**ロック**》位置まで持ち上げる。

傷害事故を引起こすことがあります。



V044

⚠警告

◆補助者は，作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

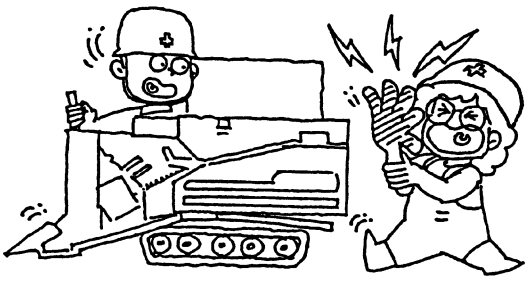
◆補助者は，機械に近づく時運転者に合図をして，確認を取ってください。

◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こくクラッチ操作をしてください。

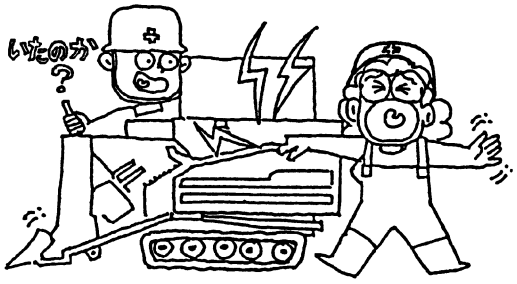
- カッタでの事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておく。
- エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけない。
- 補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておく。
- 作業中は，機械に人を近づけない。
- モミ袋を交換するときは機械を止めて行う。［**ホッパ仕様**］
- 運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をする。
- 特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には，作業中は近づかない。
- ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さない。

運転者と補助者は，常に「合図」し合いながら作業する。

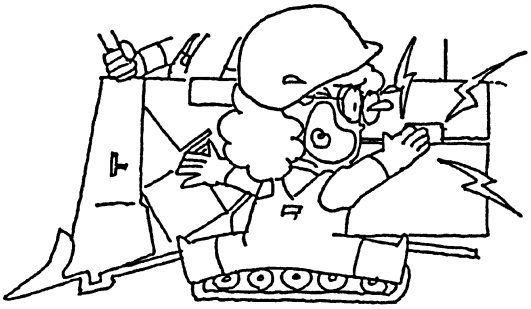
傷害事故を引起こすことがあります。



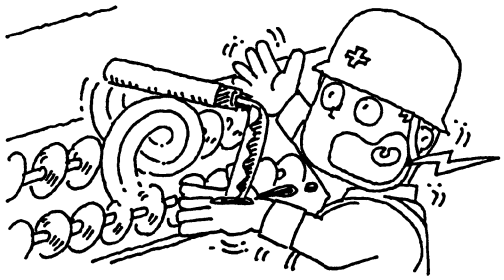
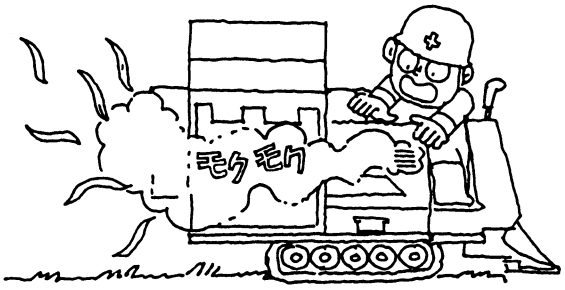
V045



V046

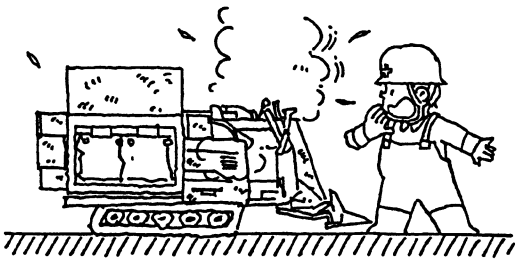
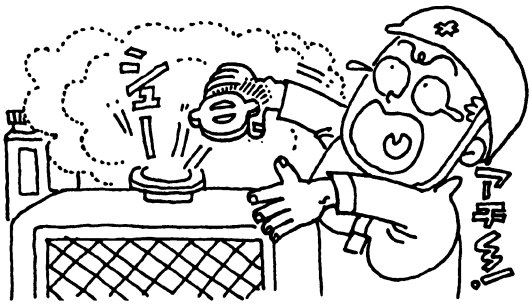
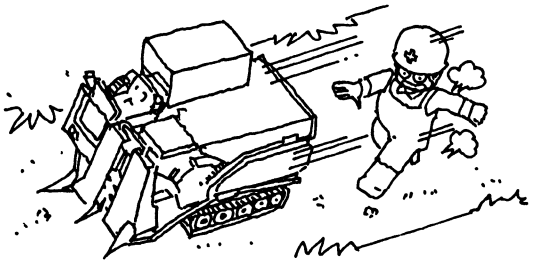


V047

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ● カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしない。カッタのカバーを開閉するときは，エンジンを停止する。 ● カッタをオープンしたときは，ストッパをかける。	カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。  V048
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ● エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止める。 ● 手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしない。	マフラの排気で火災になることがあります。  V049
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズがたまった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。  V021
⚠注意 ◆排出オーガ［**グレンタンク仕様**］の排出口やホッパ［**ホッパ仕様**］のシャッタ内には手を入れないでください。 ◆ グレンタンク仕様の場合排出オーガの操作は周囲を確認してから行ってください。 ● 走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認する。	ラセンに巻込まれたり，シャッタ［**ホッパ仕様**］に手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガ［**グレンタンク仕様**］が周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。  V050  V051

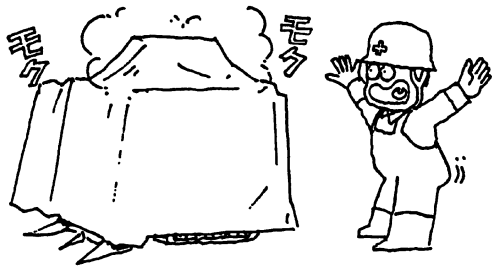
⚠1 日の作業が終わったら……

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ● 高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除する。	火災の原因となることがあります。  V052
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ● ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ● 冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけてください。 ● 副変速レバーを《**低速**》に入れ,駐車ブレーキをかける。 ● スタータスイッチからキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。  V027
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。  V053

⚠長期格納するときは……

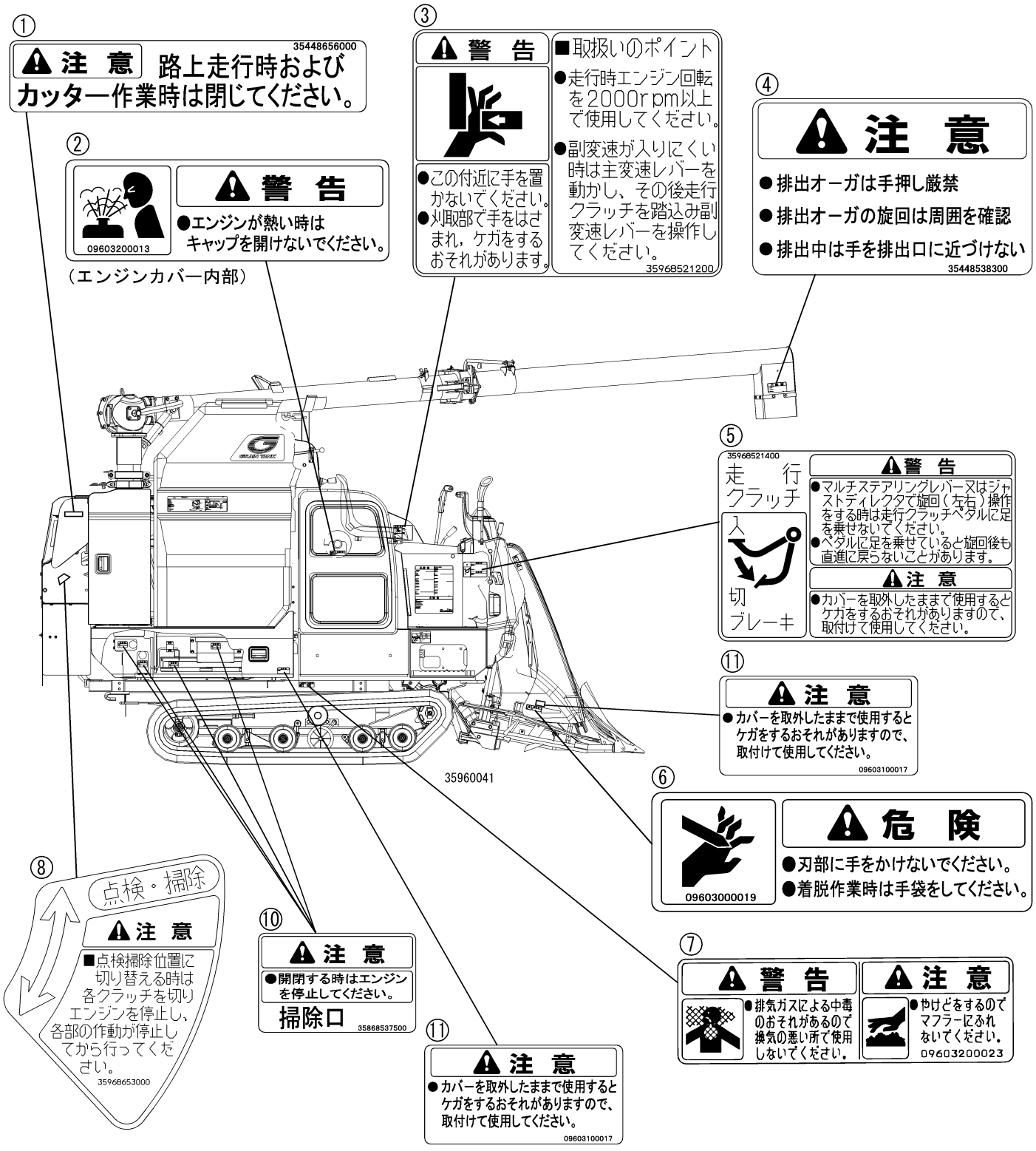
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ● １ケ月に１回程度補充電をする。 ◆ 燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。  V053
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて歯止めをしてください。 ● 副変速を《**低速**》に入れ，クローラに歯止めをする。 ● スタータスイッチよりキーを抜取っておく。	機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。  V055
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ● １年ごとに定期点検・整備を「**お買いあげ先**」で，純正部品を使用して行って，各部の保安を確保してください。  V054	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。



㉙ ［２１８型を除く］

⚠ 注 意
●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。
取扱のポイント　折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。
35638656200

⑨

⚠ 注 意 35968525100
●こぎ胴部を開閉する時はエンジンを停止してください。
●こぎ胴部で手や体をはさまれて，ケガをするおそれがあります。
●こぎ胴部を開閉する時は人を近づけないでください。
●こぎ胴部の開閉はゆっくり行なってください。

⑩

⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

⑪

⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑮

⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015

⑰

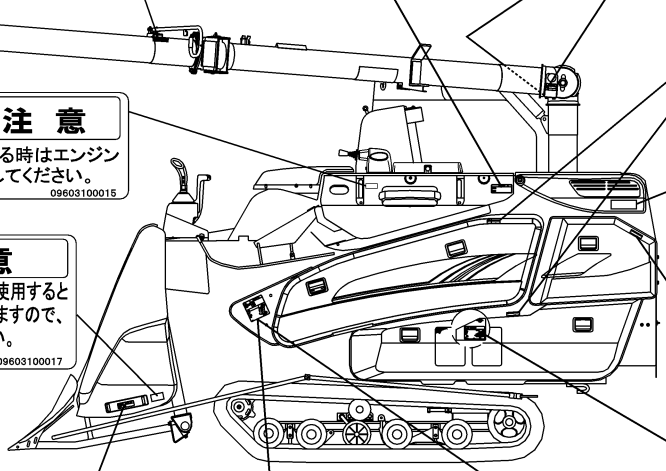
⚠ 危 険
● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。
35518658000

⑪

⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑪

⚠ 注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017



35960042a

⑥

⚠ 危 険
●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。
09603000019

⑫ ［２条型のみ］

⚠ 警 告
○わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
○手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

手こぎ作業取扱要領
手こぎ作業をする時は、入口ガイドを矢印の方向に上げてください。
入口ガイド
入口レール
35968527700

⑬

⚠ 注 意
■フィン調節時は、各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

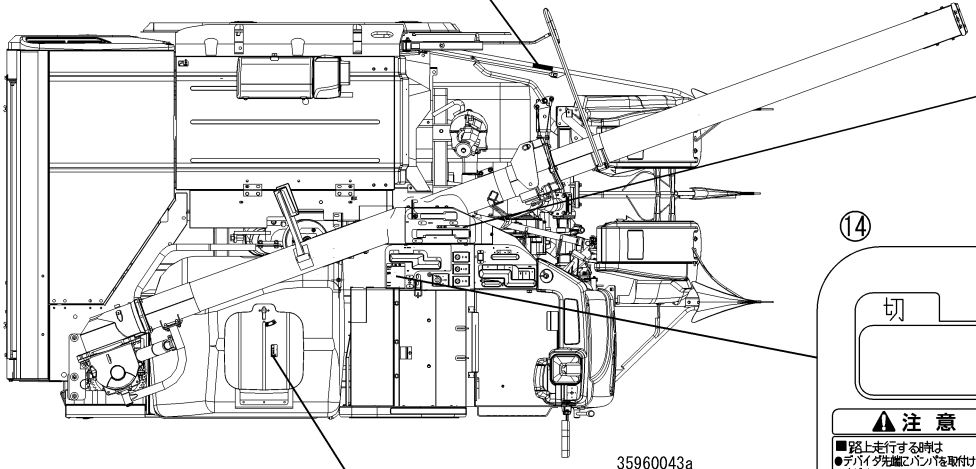
フィン調節
1. チョウナットを外し、点検蓋を外します。
2. 作物の条件によりフィン調節レバーで下記の方向に調節します。
「閉」方向調節
● 選別が悪い時。
● 小枝梗が多い時。
「開」方向調節
● 機外飛散が多い時。● 脱ぷが多い時。
フィン調節レバー　チョウナット　点検蓋　閉　開　稲・麦標準
35968528700

㉛ ［３条型のみ］

⚠ 警 告
●ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
●手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。
35878524000

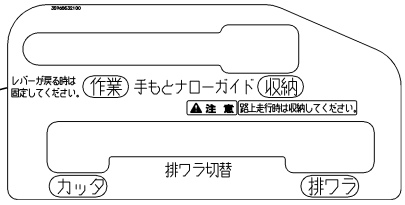
⑳ ［２１８型のみ］

⚠ 注 意 路上走行時は、収納してください。
09603100024

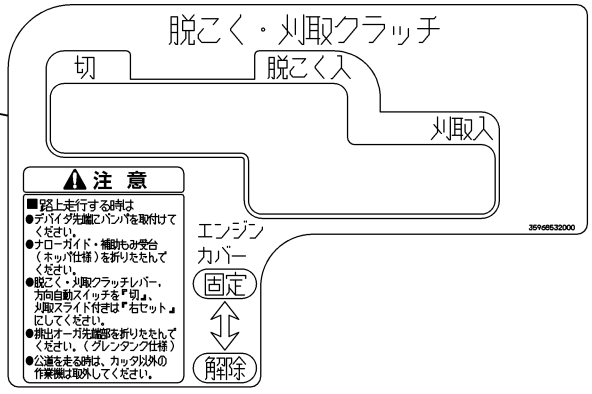


35960043a

㉗ ［２１８型を除く］

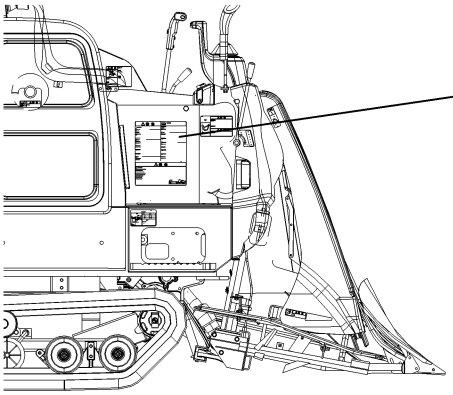


⑭



⑮

⚠ 注 意
●開閉する時はエンジンを停止してください。
09603100015



35960041

⑯

⚠警　告

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に

- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- 変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で

- 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- 緊急停止が必要なときは、クラッチペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
- 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『もみ』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止

- 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。

- 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■停止する時は

- 平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- 機械から離れるときはキーを抜いてください。
また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給

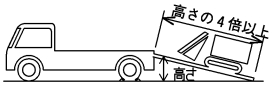
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
- 刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックしてください。
- 火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- 燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

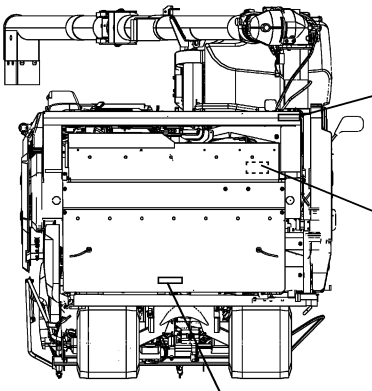
35968521500

⚠警　告

■自動車への積込み・積降ろしをする時は

●平坦な硬い場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
●積込む前にホッパ，およびグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
●アユミの長さは、自動車荷台高さの4倍以上のものを使用し、自動車の後輪に歯止めをしてください。
●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒することがあります。
●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から積降ろすときは後進で、運転席から降りて低速で行なってください。
●ノッタ仕様の場合は、積込むときは後進で、積降ろすときは前進で行ってください。
●積込み・積降ろしは、副変速レバー《低速》の位置で行なってください。
●積込む場合、マルチステアリングレバーを《上る》に操作して，刈取部を上げてください。積込みが終わったら、刈取部を一杯下げてください。





35960044a

⑰

⚠危　険

- カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
- 回転中は，カバーの中に手を入れないでください。

35518658000

⑱

⚠注　意

1．カッタをオープンした時は、カッタを固定させるためロッドで確実にロックしてください。
2．カッタの刃に触れると手、指を切る恐れがあるので、刃に触れないでください。

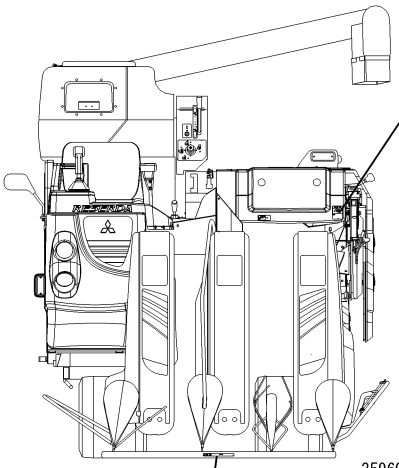
35728592000

（カッタをオープンした内側）

⑲

⚠注　意　回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。

09603100020



35960049a

㉑

⚠ 警 告

●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

09603200034

㉒

⚠ 注 意 路上走行時は装着してください。

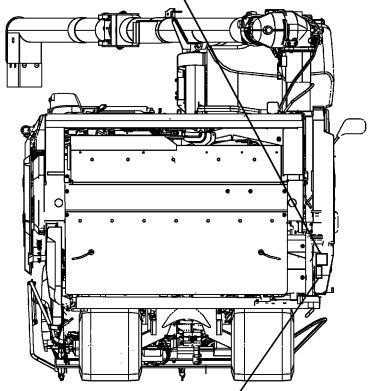
09603100023

⑪

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017



35960044a

⑪

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

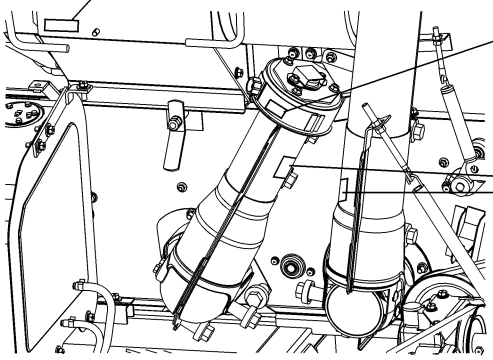
09603100017

⑮

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015



35960145

㉓

⚠ 警 告

火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000

㉕

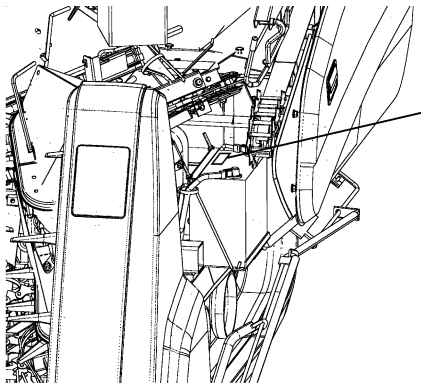
⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100



35960048

㉖

火気厳禁メガネ着用こども禁止 硫酸注意説明書熟読爆発注意

⚠ 危険

- 水素ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
- 充電は風通しのよいところで行う。(充電時火気厳禁)
  ショートやスパークをさせない。
- バッテリー液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
  液がついたらすぐに多量の水で洗い、目の場合は医師の治療を受ける。
- バッテリー液注入済(横倒し厳禁 液漏れ注意)
- 急速充電厳禁 ● 開封厳禁(密封タイプ)

09603000020

密封タイプ

㉓

警 告

火気厳禁

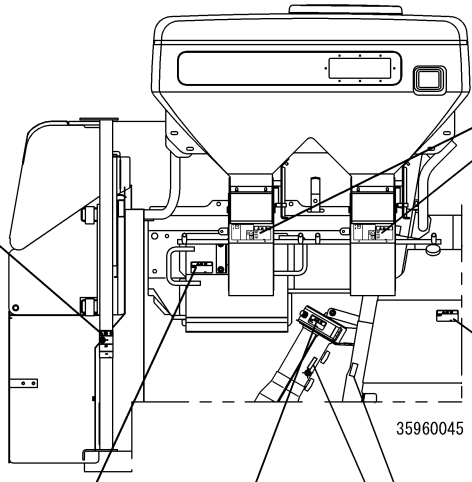
●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

3587854200O

ホッパ仕様

A



35960045

㉔

注 意

●樋口の中に手を入れないでください。
●シャッタレバーで、手をたたかれないようにしてください。

35448531200

⑪

注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑪

注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

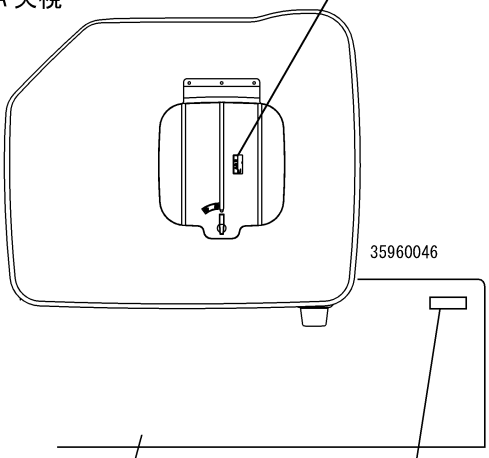
⑮

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

A 矢視



35960046

補助モミ受台

㉕

注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

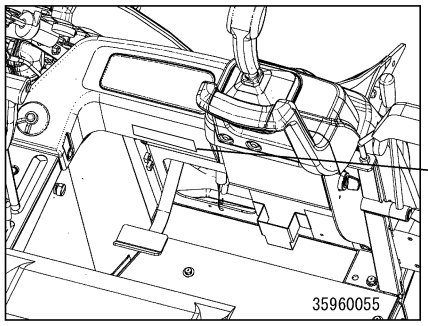
掃 除 口

35868527100

㉘

35448528100

注 意 路上走行時は収納
刈取作業時は乗らないでください。



35960055

㉚

警 告

●中立《N》位置でも動く場合がありますので、**機械から離れる時**は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ**エンジンを停止**してください。

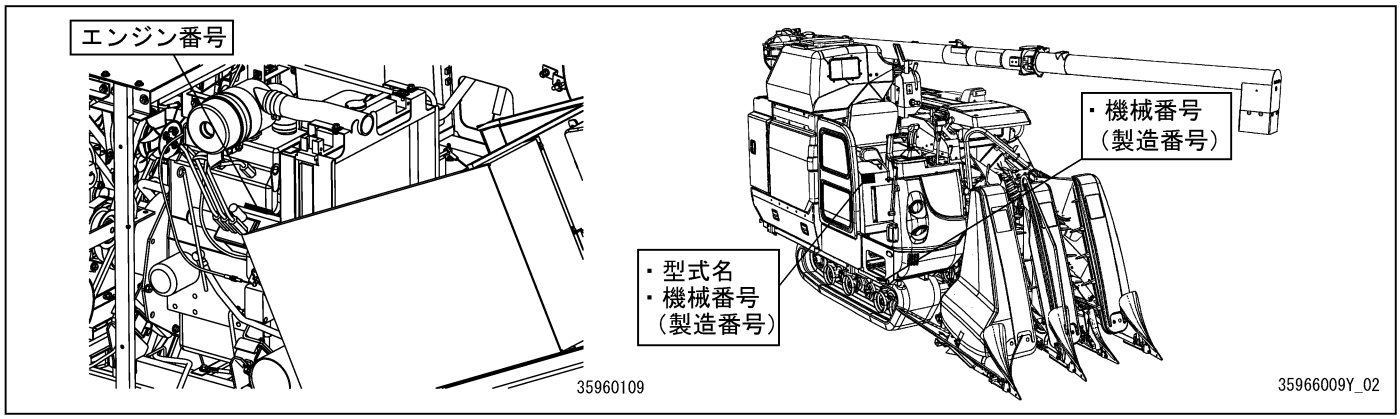
09603200052

No.	部品名称	部品番号	備　考
①	チュウイマーク	3544 8656 000	共通1枚
②	ケイコクラベルラジエータ	0960 3200 013	共通1枚
③	ケイコクラベル	3596 8512 200	219/221型 ： 1枚
④	チュウイラベル	3544 8538 300	グレンタンク仕様 1枚
⑤	トリアツカイマーク	3596 8521 400	共通1枚
⑥	キケンラベルカリハ	0960 3000 019	共通2枚
⑦	ケイコクラベルハイガス	0960 3200 023	共通1枚
⑧	チュウイラベル	3596 8653 000	共通1枚
⑨	チュウイラベル	3596 8525 100	共通1枚
⑩	チュウイラベル	3586 8537 500	グレンタンク仕様 6枚
⑪	チュウイラベルカバー	0960 3100 017	グレンタンク仕様 8枚 ホッパ仕様 7枚
⑫	ケイコクマークチェン	3596 8527 700	2条型のみ
⑬	トリアツカイマーク	3596 8528 700	共通1枚
⑭	トリアツカイマーク	3596 8532 000	共通1枚
⑮	チュウイラベルカイヘイ	0960 3100 015	グレンタンク仕様 3枚 ホッパ仕様 2枚
⑯	ケイコクラベル	3596 8521 500	共通1枚
⑰	キケンラベルコギドウ	3551 8658 000	共通1枚
⑱	チュウイマーク	3572 8592 000	共通1枚
⑲	チュウイラベルカッタカバー	0960 3100 020	共通1枚
⑳	チュウイラベル	0960 3100 024	２１８型のみ　1枚
㉑	ケイコクラベルコギドウ	0960 3200 034	共通1枚
㉒	チュウイラベルバンパC	0960 3100 023	共通1枚
㉓	ケイコクラベル(ケイユ)	3587 8542 000	グレンタンク仕様 1枚 ホッパ仕様 1枚
㉔	チュウイマーク	3544 8531 200	ホッパ仕様 2枚
㉕	チュウイラベル	3586 8527 100	グレンタンク仕様 2枚 ホッパ仕様 2枚
㉖	チュウイラベルシールバッテリ	0960 3000 020	共通1枚
㉗	トリアツカイマーク	3596 8532 100	２１８型を除く　1枚
㉘	チュウイマーク	3544 8528 100	ホッパ仕様 1枚
㉙	チュウイラベル	3553 8556 200	二段折れオーガ仕様 1枚
㉚	ケイコクラベルストップ	0960 3200 052	共通　1枚
㉛	ケイコクラベルチェン	3587 8524 000	3条型のみ

ご使用まえに

1. 保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，**「お買いあげ先」**にご相談ください。その際**「型式名」・「機械番号（製造番号）」**と**「エンジン番号」**をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○仕様］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。
・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

［3 条型 ］

型式名	仕様／区分	エンジン S3L721Ps	エンジン S3L723Ps	HST	クローラ 標準クローラ330mm	クローラ 湿田クローラ380mm	集中注油	防塵カバー	緊急エンジン停止スイッチ	ブレーキ旋回	可動転輪	マルチステアリング	負荷モニタ	籾充填モニタ	ニューコンポアップ	左ナローガイド手元操作	ニューツインハーモニー	強制かき込み	倒伏刈スイッチ	リフトシャット	刈高さポジションコントロール	撥水揺動	揺動スライドオープン	グレンタンクサイドオープン	二段折れオーガ	ジャストディレクタ	自動化 方向自動	自動化 こぎ深さ自動	自動化 選別自動層厚感知	自動化 オーガ自動旋回・収納	送じん量自動調節	グレンタンク600L収穀	ディスクカッタ 17枚刃	ディスクカッタ 33枚刃
三菱VS321	FGKC	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	FGAKC	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	FGAKCB	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	FGYKC	○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	FGYAKC	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGKC	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	SGKCB	○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○
	SGYKC	○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	SGAKC	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGAKCB	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	SGYAKC	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
三菱VS323	FGKC		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	FGAKC		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	FGAKCB		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	FGYKC		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	FGYAKC		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGKC		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	SGKCB		○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		○
	SGYKC		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	SGAKC		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGAKCB		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	SGYAKC		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

A＝方向自動　　C＝ 17 枚刃カッタ付　　CB＝ 33 枚刃カッタ付
Y＝湿田クローラ・380㎜
K＝こぎ深さ自動　G＝グレンタンク　　S＝撥水揺動

[2 条型]

型式名	仕様 / 区分	エンジン S3L7 19Ps	エンジン S3L7 21Ps	エンジン L3E 18Ps	HST	クローラ 標準クローラ 330mm	クローラ 湿田クローラ 380mm	集中注油	防塵カバー	緊急エンジン停止スイッチ	ブレーキ旋回	可動転輪	マルチステアリング	負荷モニタ	籾充填モニタ	ニューコンポアップ	左ナローガイド手元操作	ニューツインハーモニー	強制かき込み	倒伏刈スイッチ	リフトシャット	刈高さポジションコントロール	刈高さセットプレート	撥水揺動	揺動スライドオープン	グレンタンクサイドオープン	一体型オーガ	二段折れオーガ	ジャストディレクタ	自動化 方向自動	自動化 こぎ深さ自動	自動化 選別自動層厚感知	自動化 オーガ自動旋回・収納	自動化 送じん量自動調節	収穀部 グレンタンク600L収穀	収穀部 ホッパ200L収穀	ディスクカッタ 17枚刃	ディスクカッタ 33枚刃
三菱VM218G	FGKC			○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○							○		○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	FGKCB			○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○							○		○	○	○		○		○	○	○	○	○			○
	SGKC			○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
	SGYKC			○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○		○	
三菱VM219	FKC	○			○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		○	○		○		○	○	
	FYKC	○			○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		○	○		○		○	○	
	FAKC	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○		○		○	○	
	FAKCB	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○		○		○		○
	FYAKC	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○		○		○	○	
三菱VM219G	FGKC	○			○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	FGAKC	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	FGAKCB	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	FGYKC	○			○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	FGYAKC	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGKC	○			○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	SGKCB	○			○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○		○
	SGYKC	○			○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	SGAKC	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGAKCB	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	SGYAKC	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
三菱VM221	FKC		○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		○	○		○		○	○	
	FYKC		○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○		○	○		○		○	○	
	FAKC		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○		○		○	○	
	FAKCB		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○		○		○		○
	FYAKC		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○		○		○	○	
三菱VM221G	FGKC		○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	FGAKC		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	FGAKCB		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	FGYKC		○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	FGYAKC		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGKC		○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	SGKCB		○		○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○		○
	SGYKC		○		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
	SGAKC		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	SGAKCB		○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
	SGYAKC		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

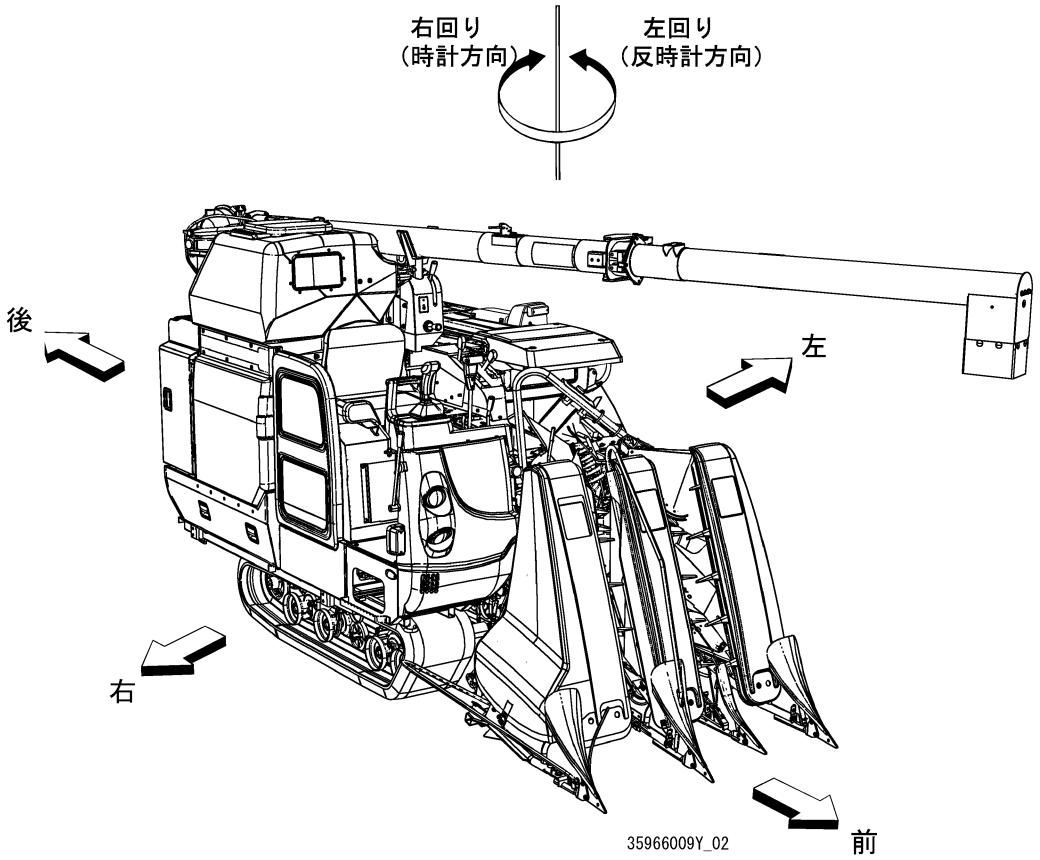
A＝方向自動　　C＝ 17 枚刃カッタ付　　CB＝ 33 枚刃カッタ付

Y＝湿田クローラ・380mm

K＝こぎ深さ自動　G＝グレンタンク　　S＝撥水揺動

３．用語について

⑴ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は，図示のとおりです。



⑵ **形式別表示**

・この取扱説明書は，グレンタンク仕様を基本に説明してあります。グレンタンク仕様機と取扱いかたが異なる場合は，その都度［**ホッパ仕様**］等で記載して追加説明しています。

型式名(仕様)	本文表示
323型	［3条型］
321型	
221型	［2条型］
219型	
218型	
グレンタンク仕様	［グレンタンク仕様］
ホッパ仕様	［ホッパ仕様］

⑶ **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 …… 安全上重要な事項を，3 段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・取扱いのポイント …… 機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは，**「小型特殊自動車」**に該当し，道路運送車両法に適合していますので公道走行ができます。

1. 小型特殊自動車の届出

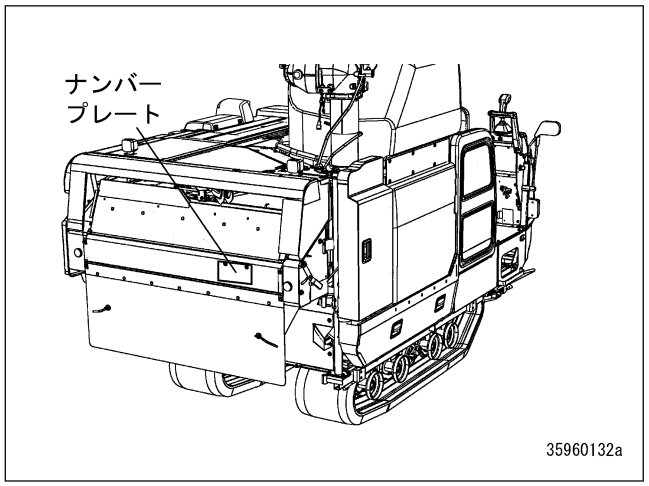
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町･村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは**「市（町・村）役所」**または**「お買いあげ先」**に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など(**「お買いあげ先」**で準備します)を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

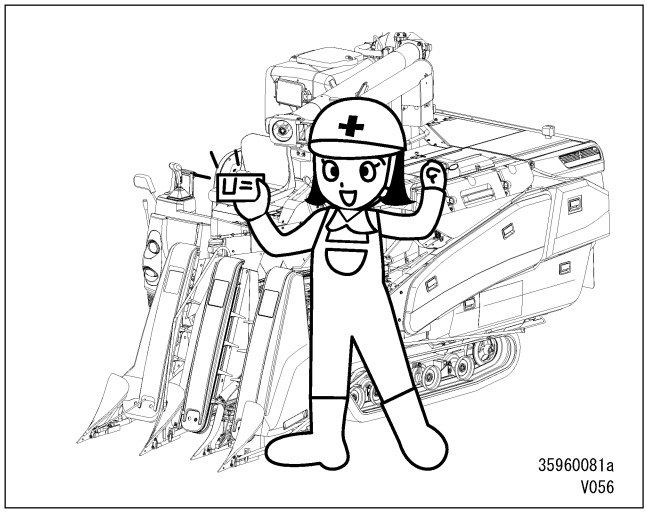
ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 運転免許

公道を走行するときは，**「小型特殊自動車」**の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ **「小型特殊自動車」**の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全 長	4.7m 以下
	全 幅	1.7m 以下
	全 高	2.0 m以下 （注１）
最 高 速 度		15km ／ h 以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）ただし，キャビンを除いた部分の高さが 2.0m 以下のものは 2.8m 以下。

❸ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

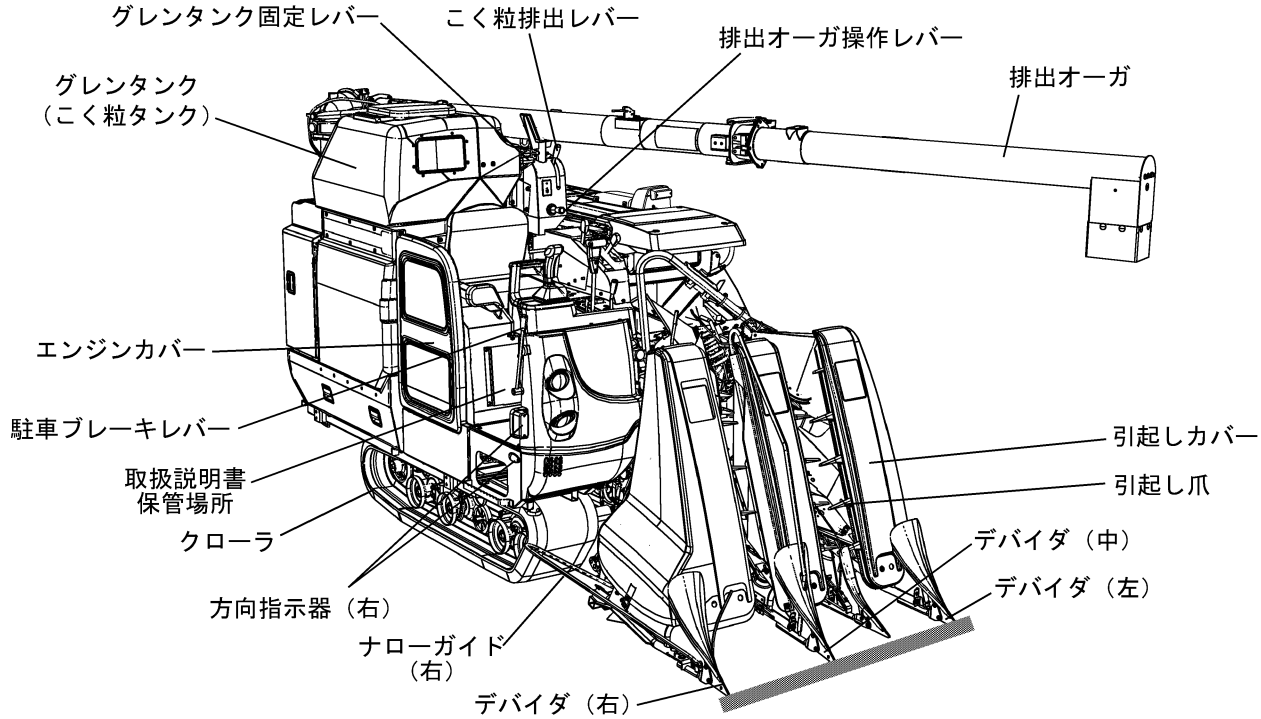
❹ 任意保険のお勧め

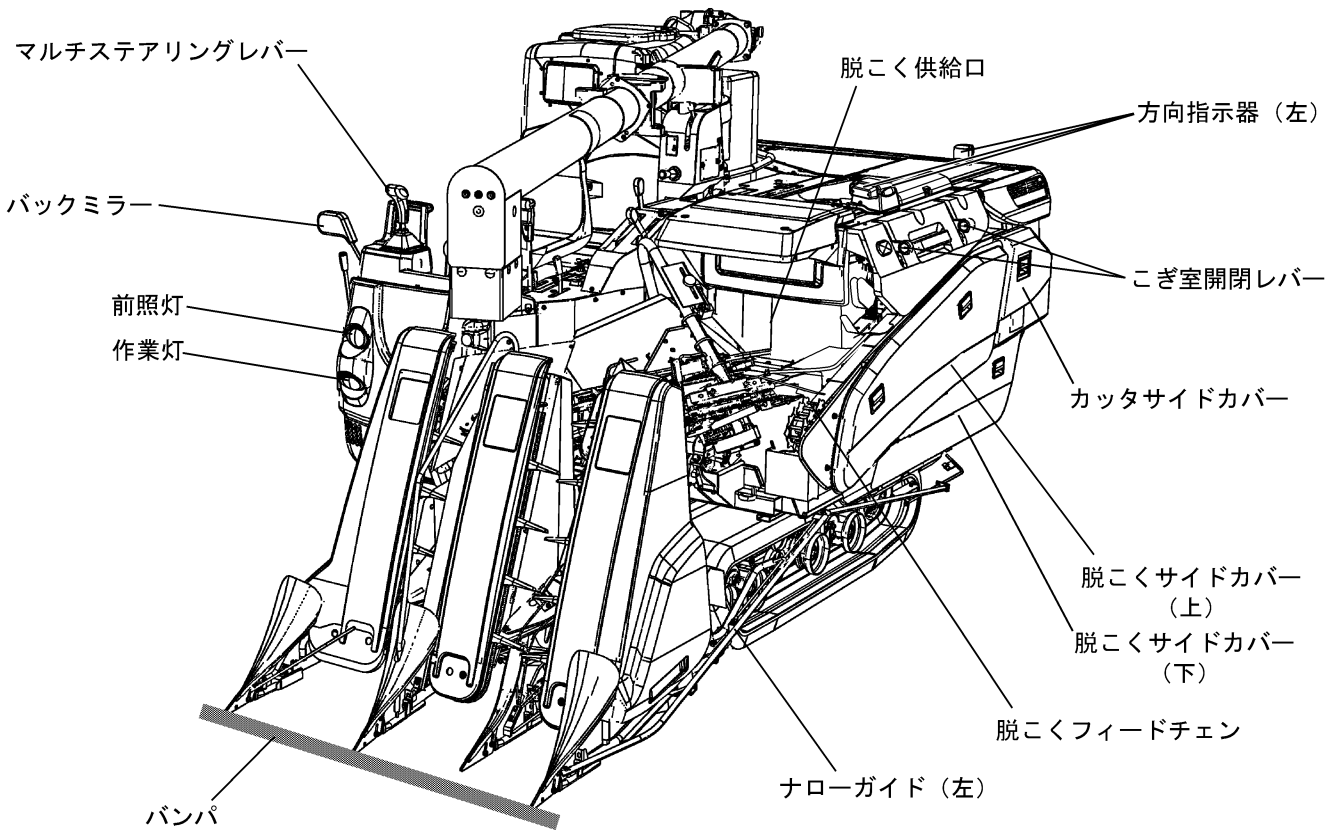
万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

1. 各部の名称

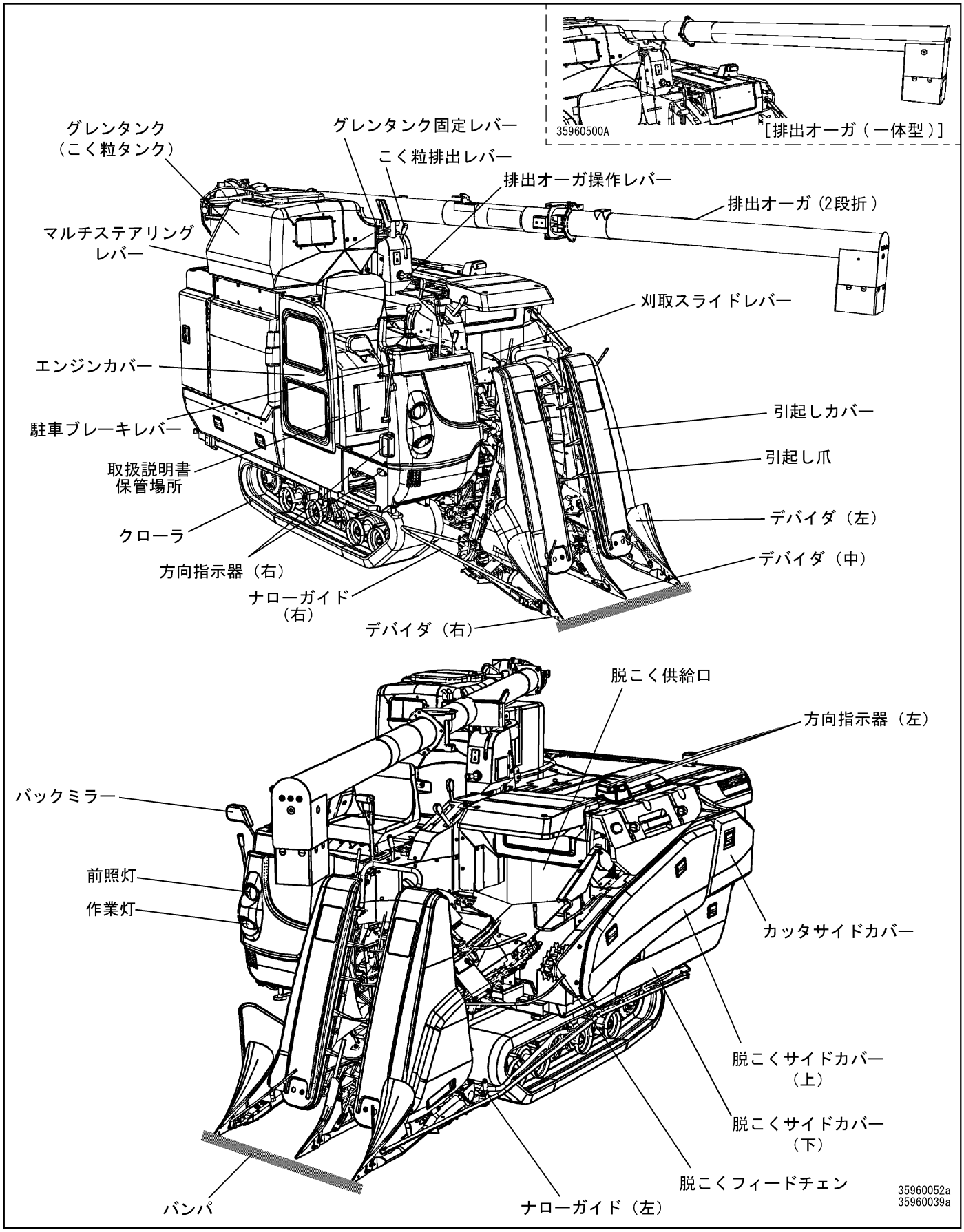
1．3条型 グレンタンク仕様



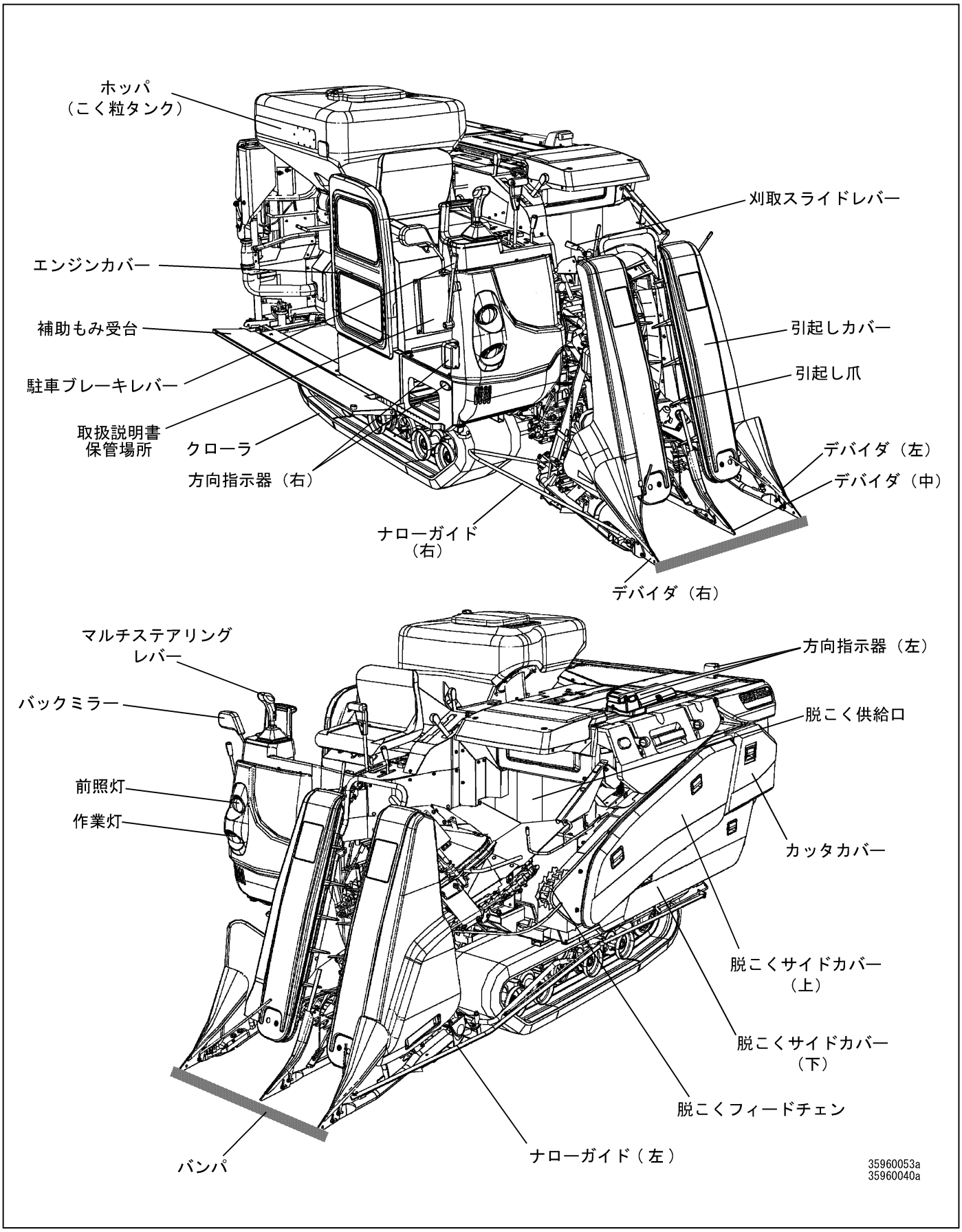


35966009Y_02
35966006Y_01

２．２条型 グレンタンク仕様

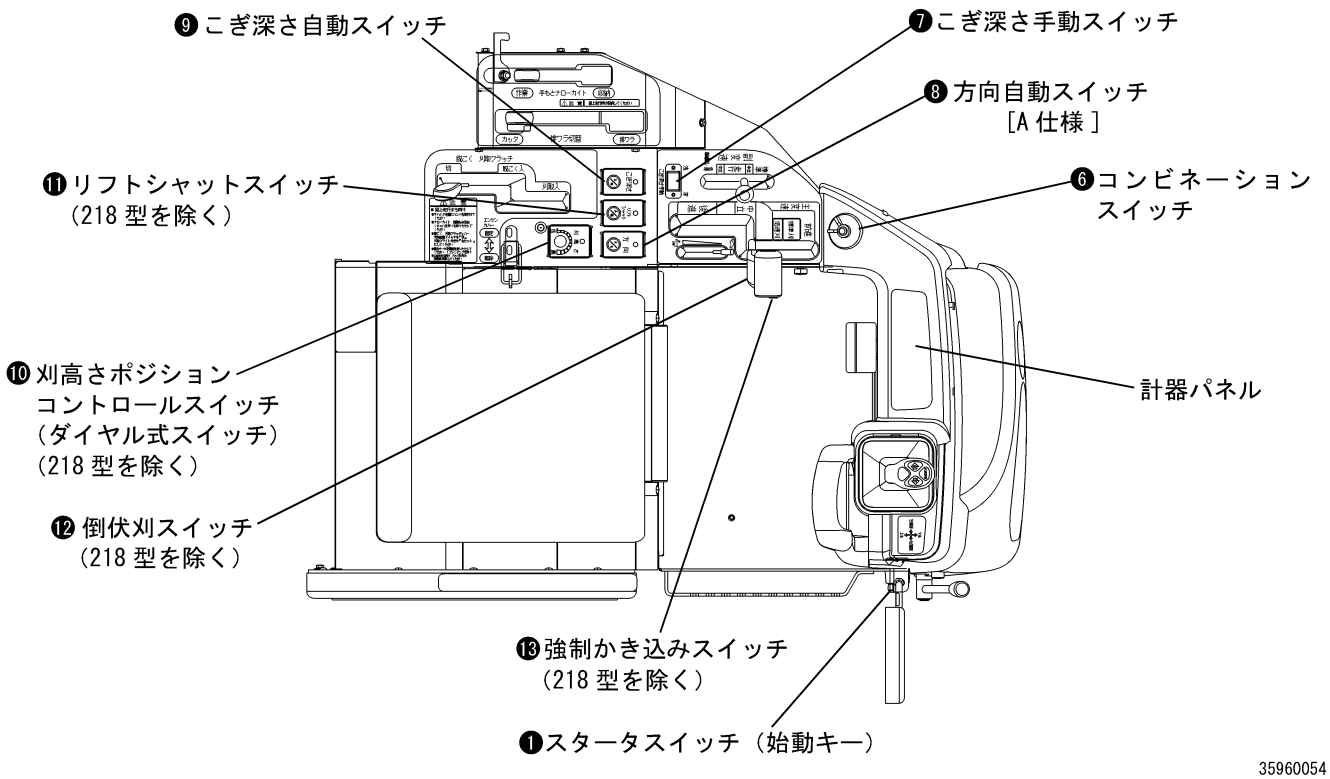


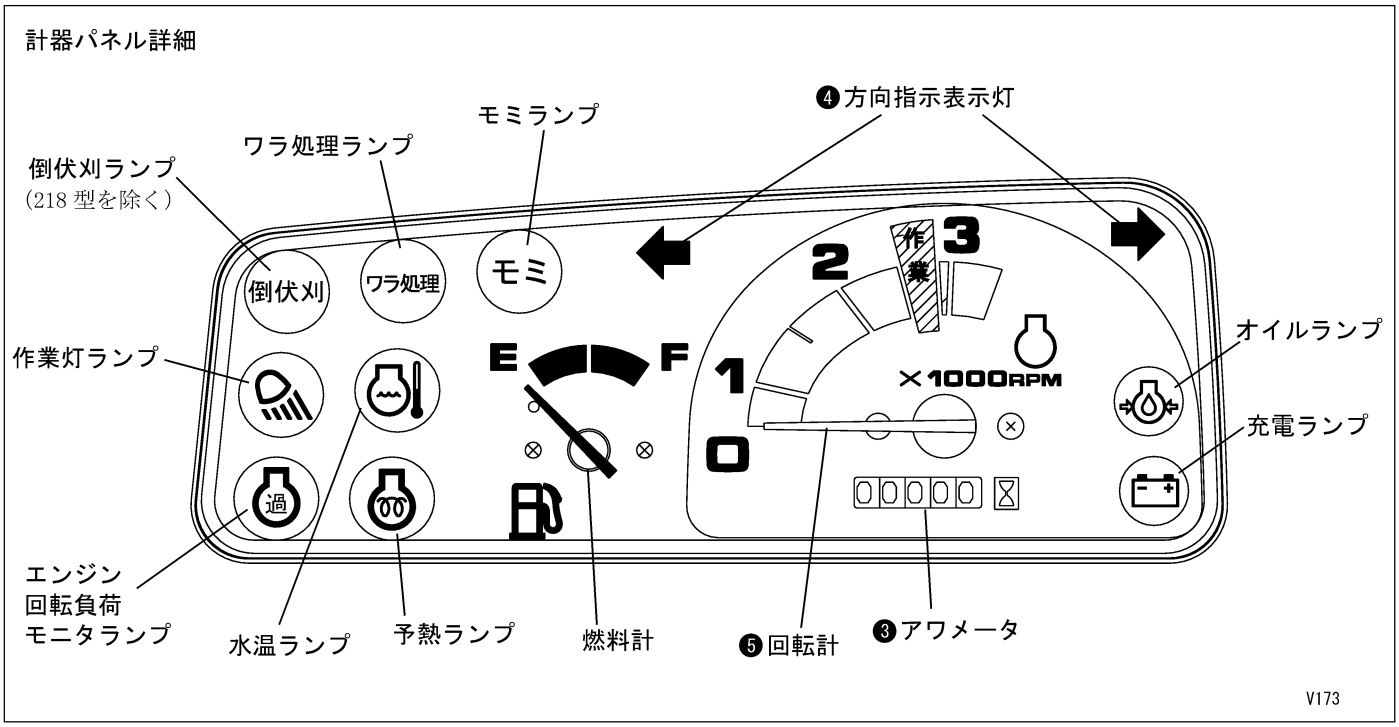
3. 2条型 ホッパ仕様

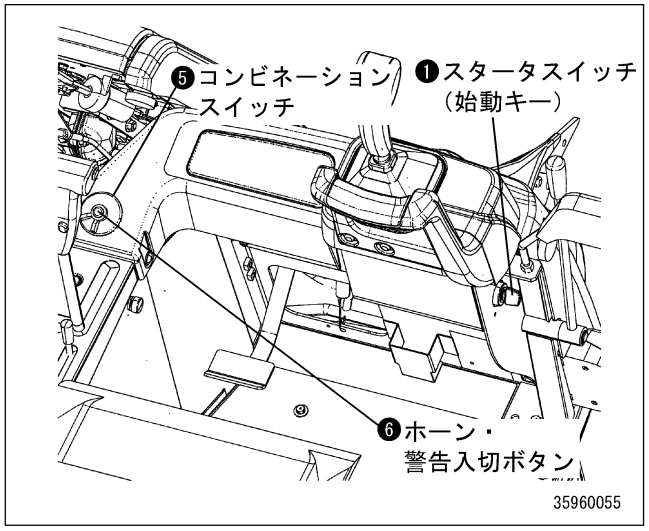

ホッパ
（こく粒タンク）
刈取スライドレバー
エンジンカバー
補助もみ受台
引起しカバー
駐車ブレーキレバー
引起し爪
取扱説明書
保管場所
クローラ
デバイダ（左）
方向指示器（右）
デバイダ（中）
ナローガイド
（右）
デバイダ（右）
マルチステアリング
レバー
方向指示器（左）
バックミラー
脱こく供給口
前照灯
作業灯
カッタカバー
脱こくサイドカバー
（上）
脱こくサイドカバー
（下）
脱こくフィードチェン
ナローガイド（左）
バンパ
35960053a
35960040a

２．運転装置の取扱い

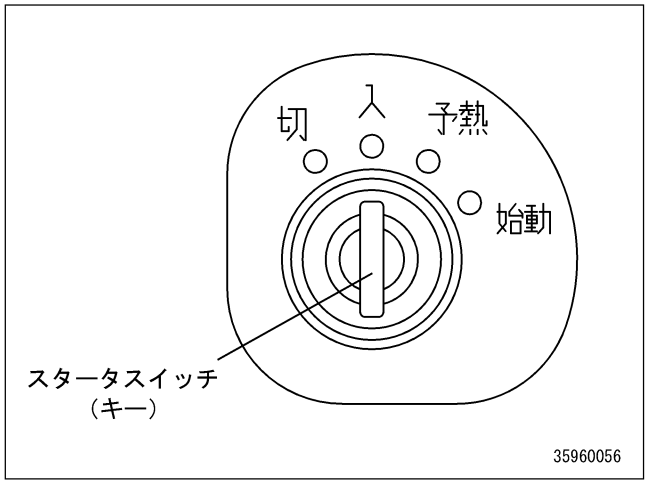
１．スイッチ・計器関係







❶ スタータスイッチ（始動キー）



《切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを**《切》**にするとエンジンが停止します。

《入》（運転）……電源入（運転中）

《予熱》……エンジンの燃焼室内が予熱されます。

手を放せば自動的に**《入》**位置に戻ります。

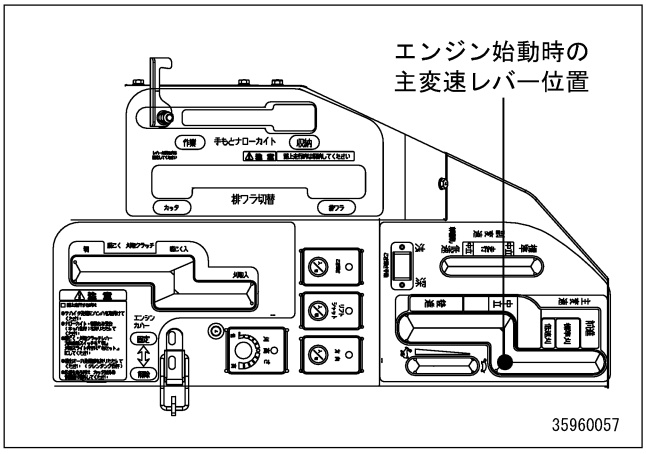
《始動》……エンジン始動

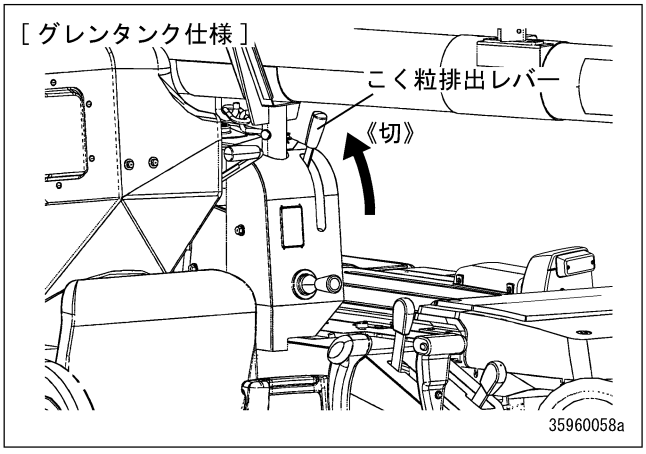
スタータスイッチを**《始動》**位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に**《入》**位置に戻ります。

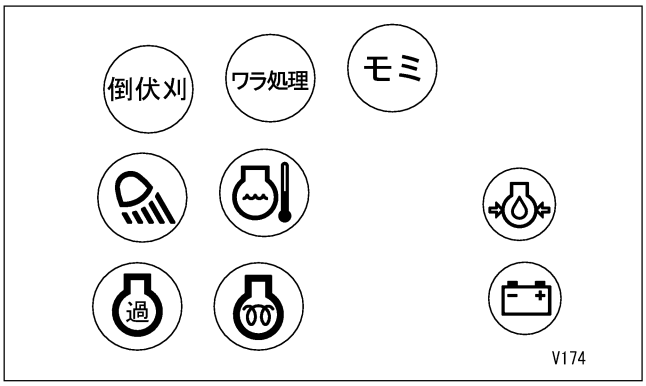
取扱いのポイント

- 寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスタータスイッチを《予熱》位置（この時予熱ランプが点灯します）で約６秒予熱したあと《始動》位置にしてください。
- 脱こく・クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。（走行クラッチペダルを踏込むと主変速レバーは《中立》になります。）





❷ 警報ランプ（インジケータランプ）



(1) 予熱ランプ



スタータスイッチを《**予熱**》または《**始動**》位置にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンを予熱します。

(2) 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中に水温ランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）**
- **冷却水温度が下がり，ランプが消灯し警報ブザーが鳴り止んだら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン等のラジエータ吸気部・エンジンファンベルトの張り，エンジンオイル量，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**
  （［手入れのしかた］の項を参照してください。）

(3) オイルランプ



エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると点灯し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（［エンジンオイルの点検，交換］の項参照）オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

(4) 充電ランプ



エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。(139 ページ)**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

(5) モミ処理ランプ



刈取り作業中，ホッパおよびグレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，満杯時に赤点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止しホッパおよびグレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **警報ブザーはパネルのホーン・警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。**
- **警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けるとエンジンが停止します。**
- **グレンタンク仕様は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込みエンジン始動したのち，モミ排出場所まで移動し，グレンタンク内のモミを排出してください。**
- **ホッパ仕様は，ホッパ内のモミを袋に排出してから，エンジンを始動してください。**

(6) ワラ処理ランプ



排ワラチェン部およびフィードチェン部に詰まりが発生，または排ワラ切替カバーがオープンの状態であるとランプが点灯し，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。また，排ワラ切替カバーをカッタ・排ワラ作業状態にしてください。**
- **脱こく・刈取クラッチレバー（［グレンタンク仕様］は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込むとエンジンの再始動ができます。**

(7) エンジン回転負荷モニタ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅したら，主変速レバーで走行速度を下げ，エンジンの負荷を軽くします。

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジン負荷を軽くするとブザーは鳴り止みます。**

(8) 倒伏刈ランプ



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《入》にすると，倒伏刈ランプが点灯し刈取部の速度が通常より速くなります。

搬送部に異常が発生すると，ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **通常の刈取で刈取部速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》にしても，それ以上速くはなりません。**

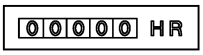
(9) 作業灯ランプ



スタータスイッチを《入》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

- **路上走行時は，作業灯を消灯します。**

❸ アワメータ

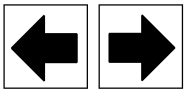


エンジン稼動時間の積算時間を表示します。

取扱いのポイント

- **定期点検整備はアワメータ表示時間を基準に行ってください。**

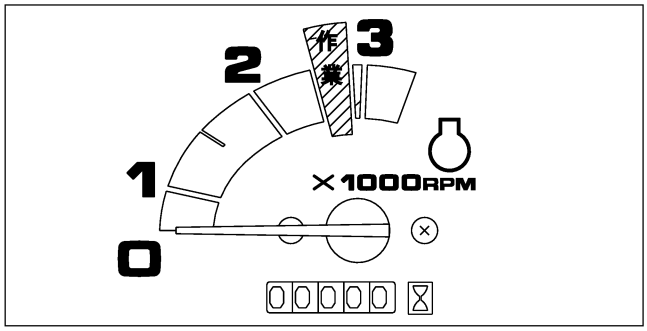
❹ 方向指示表示灯



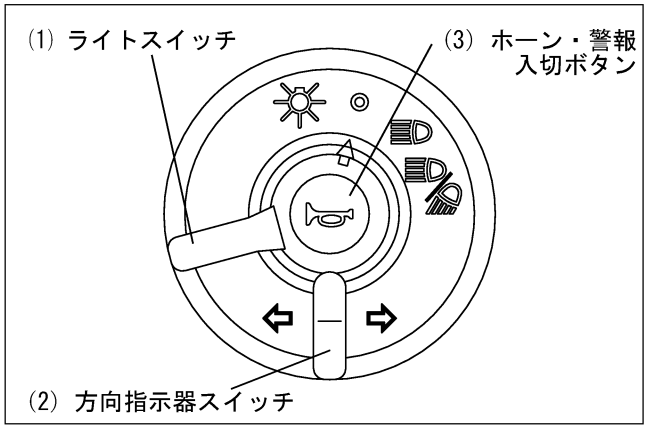
・方向指示器スイッチを操作すると点滅します。

❺ 回転計

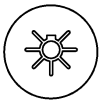
エンジンの１分間の回転数を表示します。



❻ コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

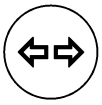


《 ◎ 》……消灯

《  》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《  》……回転計の照明が点灯し，前照灯および作業灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ



右折，左折のときに使用します。

(3) ホーン・警報入切ボタン



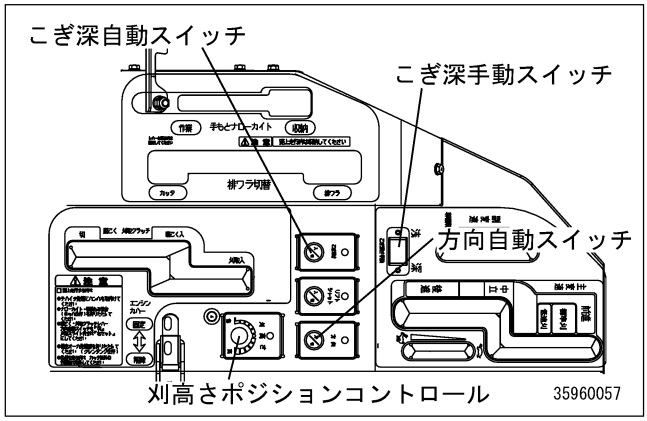
・スタータスイッチを《入》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミセンサ（満杯）で，警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。下記の方法で警報を解除してください。

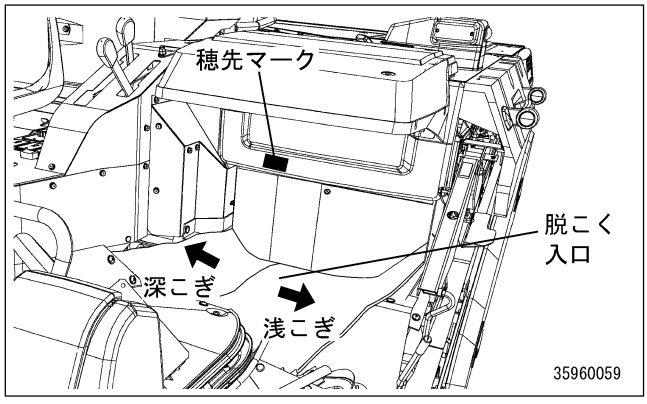
警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」する
・ワラ処理ランプ点灯・点滅 ・倒伏刈ランプ点滅	脱こく・刈取スイッチを《切》位置にしてスタータスイッチを《切》にする。
・エンジン回転負荷モニタ（ランプ）点滅	走行速度を下げる



❼ こぎ深さ手動スイッチ

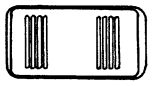
作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。

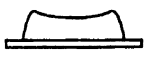
脱こく入口の「穂先マーク」位置に作物の穂先がくるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。



こぎ深手動スイッチ

浅　　深　《浅こぎ》《深こぎ》


35960026


35960015

《深》（深こぎ）……こぎ深さが深い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

《浅》（浅こぎ）……こぎ深さが浅い位置に移動し，スイッチから手を離すと任意の位置に固定されます。

❽ 方向自動スイッチ［Ａ仕様］

方向自動を使用するときは，スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，66 ～ 67 ページ参照）

❾ こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《入》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「入」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。（詳細は，65 ～ 66 ページ参照）

❿ 刈高さポジションコントロールスイッチ（ダイヤル式スイッチ）（２１８型を除く）

スタータスイッチ《入》位置にすると，ランプが点灯し刈高さポジションコントロールが《入》になります。

点灯状態から再びダイヤルを押すとランプが消灯し，刈高さポジションコントロールは働きません。

・刈高さポジションコントロールは刈取部を機体に対して一定の高さに保つ機能です。

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する「刈高さ位置」を設定することができます。

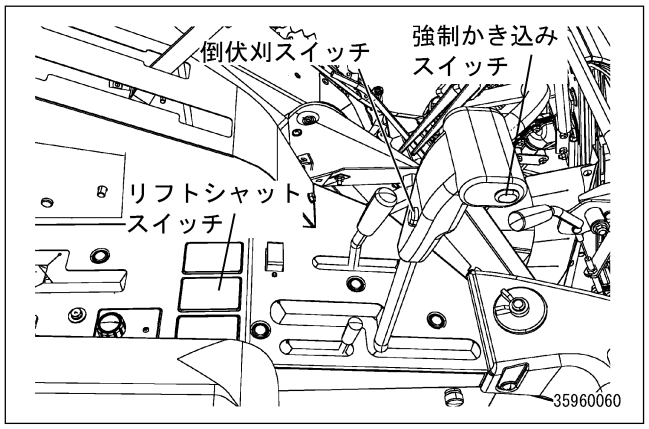
・刈高さダイヤルは，通常《標準》（●マーク）位置で使用します。（詳細は，68 ページ参照）

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは，スイッチを押して《切》で使用します。（モニタランプを消灯してください）
- ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れ等がないか確認してください。

⓫ リフトシャットスイッチ（２１８型を除く）

刈取部を上げると刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチの《入》《切》操作でリフトシャットの《入》《切》の切替を行います。



⓬ 倒伏刈スイッチ（２１８型を除く）

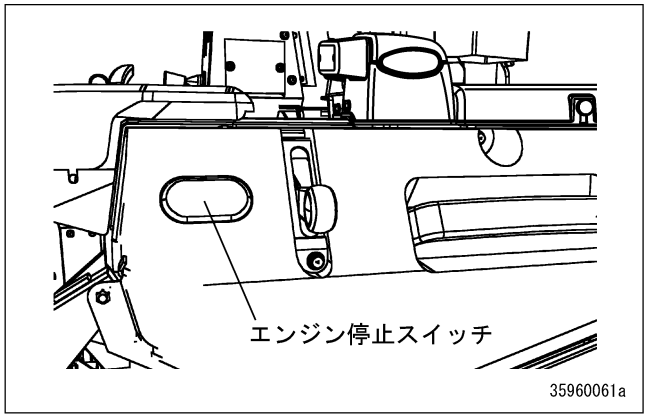
倒伏刈取作業などで，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルの倒伏刈ランプが点灯します。（詳細は 56 ページ）

⓭ 強制かき込みスイッチ（２１８型を除く）

脱こく・刈取クラッチレバーが《刈取　入》位置のとき，走行停止状態，リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。（詳細は 56 ページ）

⓮ エンジン停止スイッチ

手こぎ作業時等の万一のトラブル時にこのスイッチを押すと，エンジンが停止します。

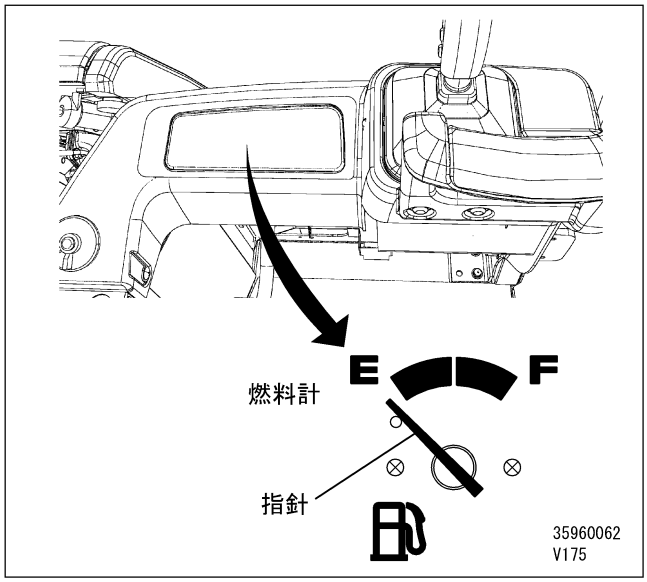


取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止した時は，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリ放電の原因になります。
- エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

⓯ 燃料計

燃料の残量を指針の位置で示します。《F》が満量（25L）を示し，指針が《E》に近づくにつれて燃料が減っていくことを表示します。



取扱いのポイント

- 指針が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。

⑯ 油圧固定スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

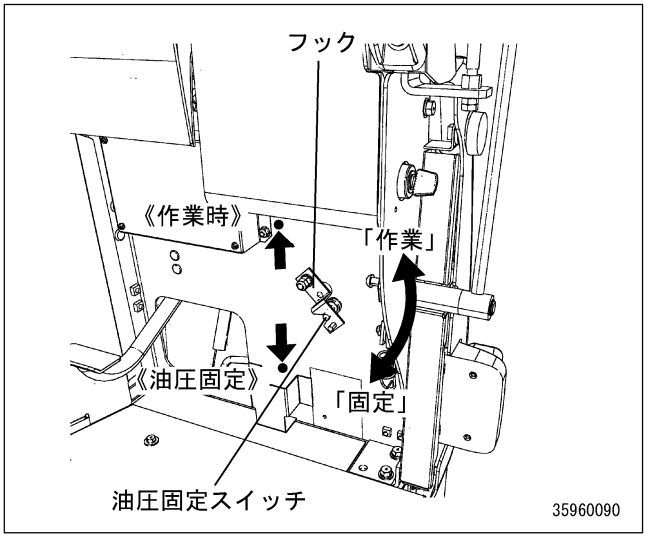
◆刈取部を上げて，その下で整備等するときは，エンジンを停止し，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にし，油圧固定スイッチにフックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。

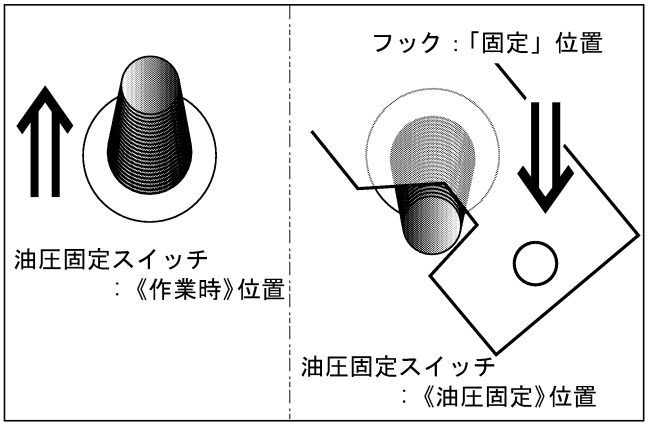
◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

刈取部の**「上げ」・「下げ」**を固定します。

・**《油圧固定》**位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。
路上を走行するときは，**《油圧固定》**位置で使用します。**《油圧固定》**位置にしたときは，フックを「固定」位置にしてください。

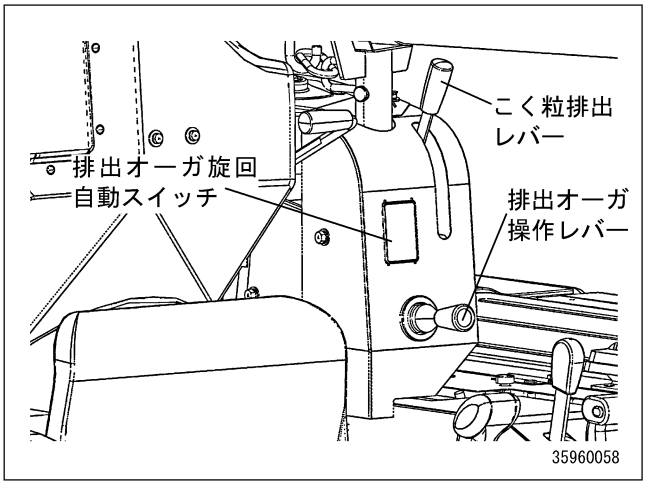
・作業時には，油圧固定スイッチを**《作業時》**の位置で使用します。





⑰ 排出オーガ旋回自動スイッチ

［グレンタンク仕様］



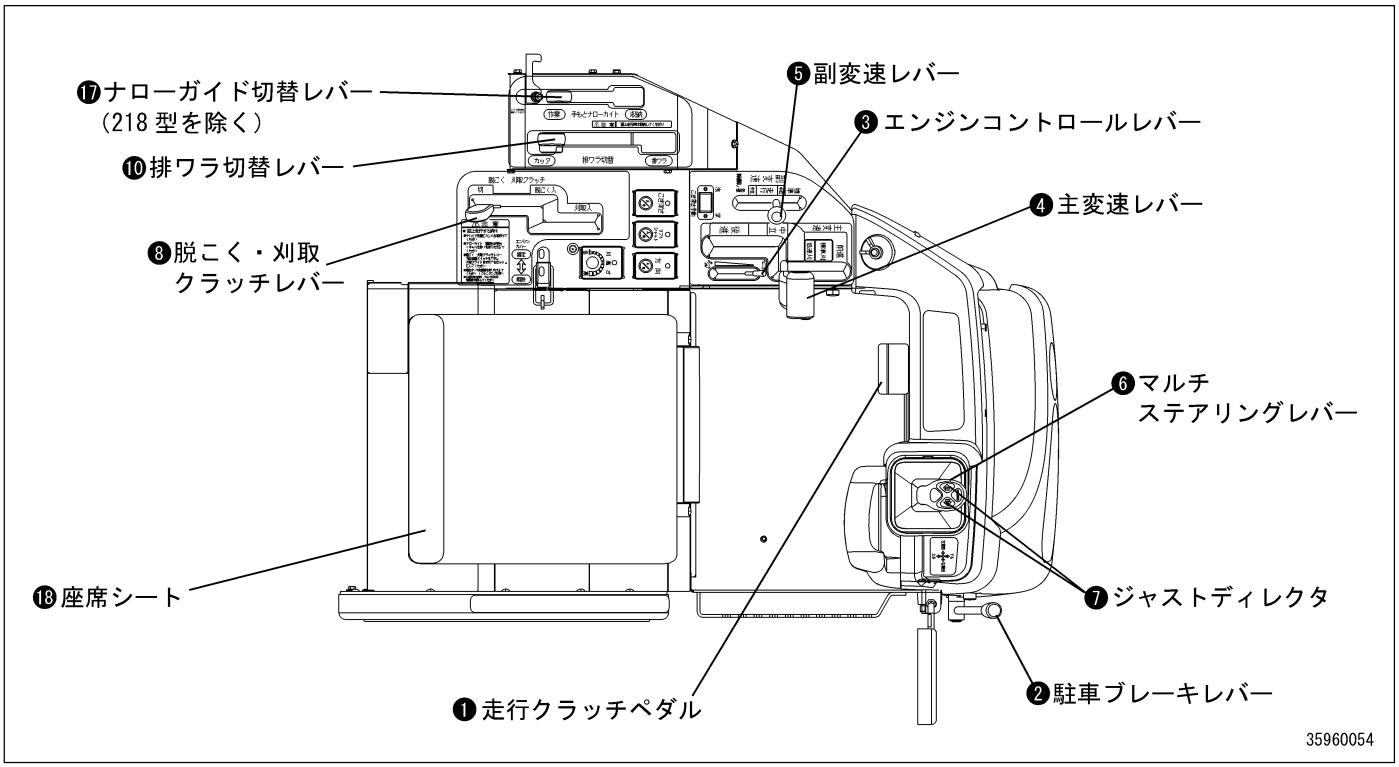
・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが機体後方まで，自動的に旋回します。

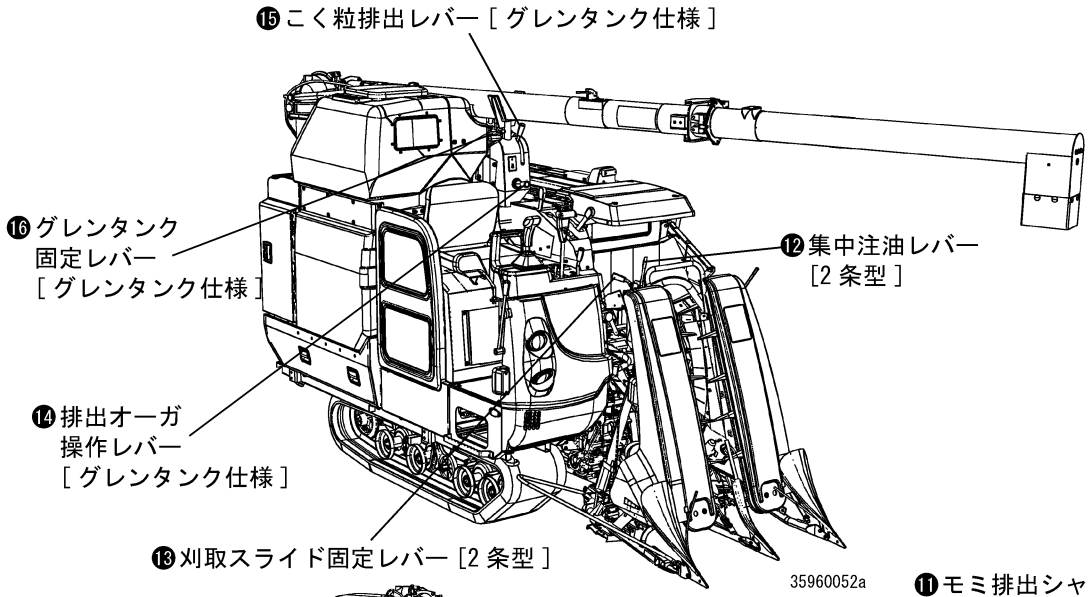
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

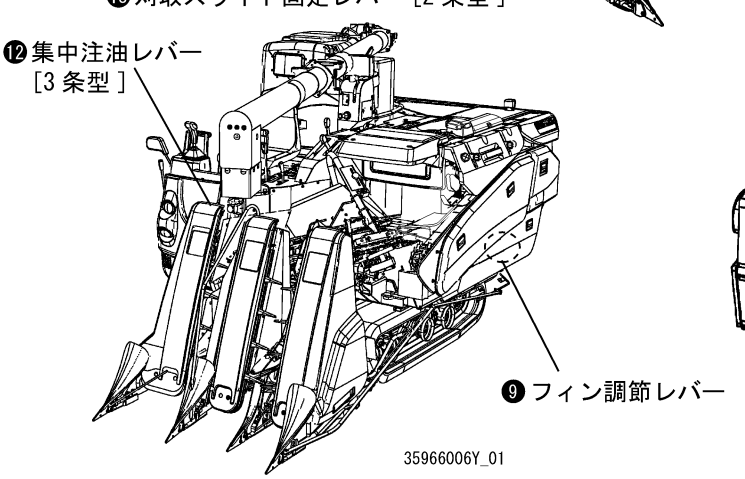
取扱いのポイント

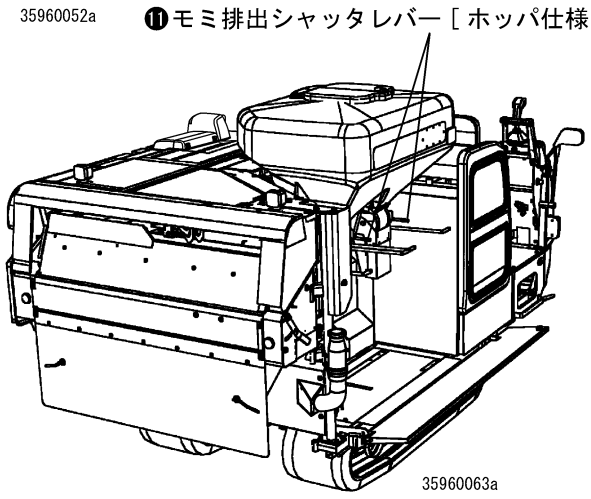
- スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れがないか，確認してください。
- 旋回自動および収納が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。

2．ペダル・レバー関係


⓱ナローガイド切替レバー
（218 型を除く）
⓾排ワラ切替レバー
❽脱こく・刈取
クラッチレバー
⓲座席シート
❺副変速レバー
❸エンジンコントロールレバー
❹主変速レバー
❻マルチ
ステアリングレバー
❼ジャストディレクタ
❷駐車ブレーキレバー
❶走行クラッチペダル
35960054


⓯こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］
⓰グレンタンク
固定レバー
［グレンタンク仕様］
⓬集中注油レバー
［2 条型］
⓮排出オーガ
操作レバー
［グレンタンク仕様］
⓭刈取スライド固定レバー［2 条型］
35960052a


⓬集中注油レバー
［3 条型］
❾フィン調節レバー
35966006Y_01

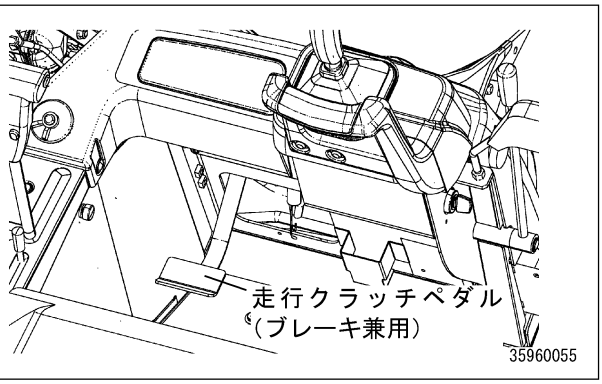

⓫モミ排出シャッタレバー［ホッパ仕様］
35960063a

❶ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ 走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろし等アユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。

◆ 走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動，停止（ブレーキ），副変速レバーの操作に使用します。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

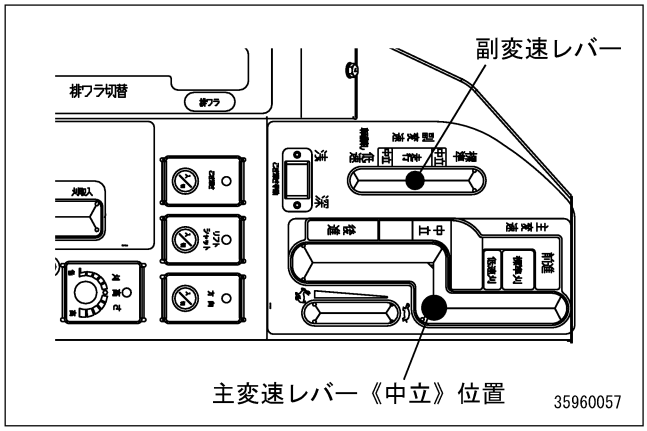
・エンジンを始動するときは走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。**

⑵ **機械の停止（ブレーキ）に使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻りトランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。



⑶ **機械の副変速レバーの操作に使用します。**

・副変速レバーを操作する時は，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

- **主変速レバーは走行クラッチペダルを踏まないで操作します。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**

❷ 駐車ブレーキレバー

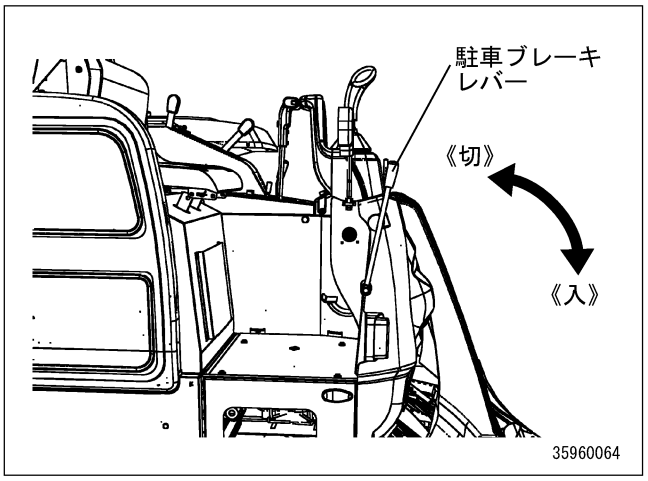
⚠警告　傷害事故防止のために

◆ 坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「歯止め」をしてください。

◆ 駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。

・駐車ブレーキレバーを前方（《**入**》方向）に倒すと駐車ブレーキがかかります。

・駐車ブレーキレバーは主変速レバーと連動していますので，運転席から降りて，機械の停止操作を行う時にも使用します。



取扱いのポイント

● 駐車ブレーキレバーを《入》方向に倒すと主変速レバーが《中立》位置に戻りますので，再発進する時は駐車ブレーキレバーを《切》にしてから，主変速レバーを操作してください。

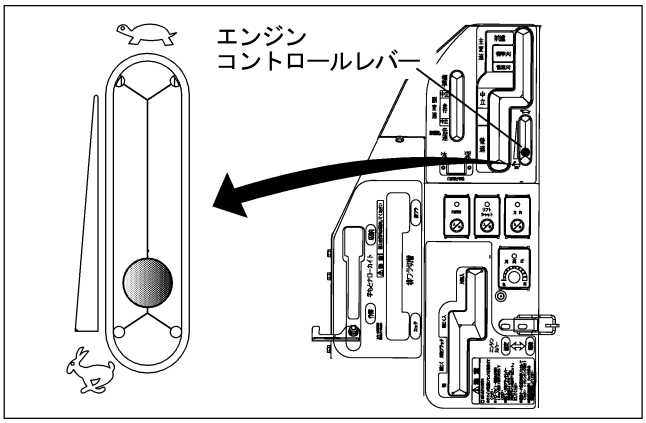
❸ エンジンコントロールレバー

エンジン回転をコントロールするレバーです。

・「**始動**」の時は……エンジンコントロールレバーを手前に引き，《🐇》（**高速**）の位置にしてエンジンを始動します。

・「**作業**」の時は……適正回転数になるよう回転計の指針を合わせます。

・「**停止**」の時は……《🐢》（**低速**）の位置にしてエンジンを停止します。



取扱いのポイント

● 走行時および，マルチステアリングレバーを操作する時は，エンジン回転「2000rpm 以上」で使用してください。それ以下で使用すると正常に作動しないことがあります。

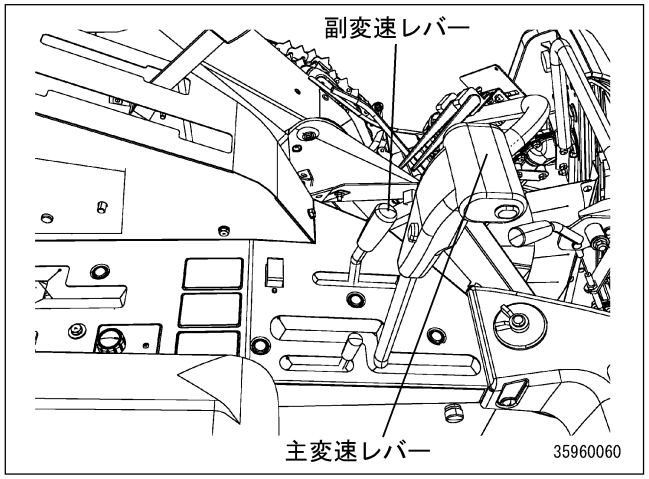
❹ 主変速レバー

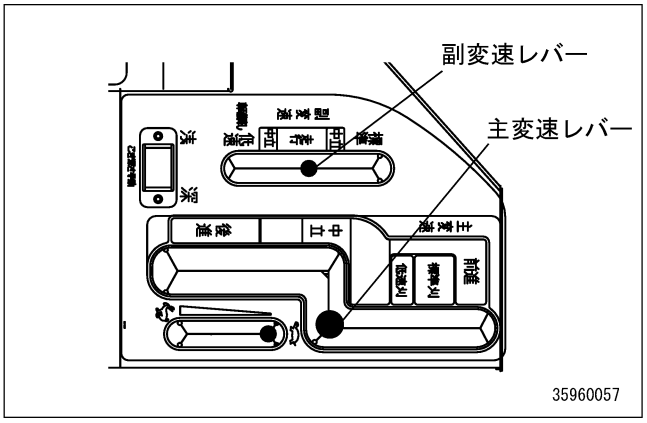
⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆機械から離れる時は，《中立》(N) でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。
- ◆走行中，主変速レバーを急激に増減速操作しないでください。
- ◆前後進の切替えは，機械が停止してから行ってください。
- ◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。**《前進》・《後進》**いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

・走行クラッチペダルを踏むと，主変速レバーは**《中立》**位置に戻ります。





作業内容	副変速	主変速
積込み, あぜ越え	低速	［中立］から［前進・低速］
積降ろし		［中立］から［後進・低速］
路上, ほ場走行(前進)	低速 標準 走行	［中立］から発進し，その場の状況に応じ順次 速度を上げる。
路上, ほ場走行(後進)	低速　標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
倒伏刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
集中注油	中立	［中立］から［標準刈］

❺ 副変速レバー

作業目的や刈取り条件により**《低速》**，**《標準》**（**中速**），**《走行》**（**高速**）の３段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを**《中立》**にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは**《低速》**位置で行います。

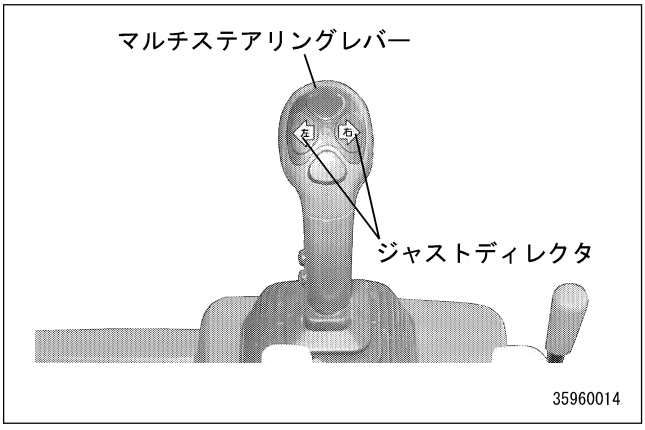
・刈取り作業は，**《標準》**位置で行います。**《走行》**および**《低速》**位置での刈取り作業はできません。

・見通しが良く平坦な道路では**《走行》**位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は**《低速》**または**《標準》**で走行します。

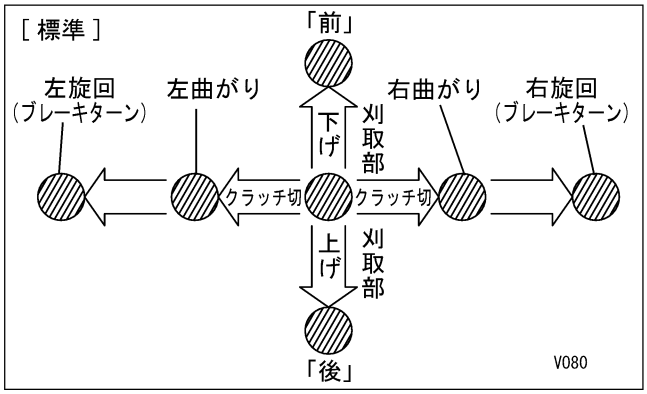
❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。また，急旋回はしないでください。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・1本のレバー操作により，左右操作で「旋回」，前後操作で刈取部の「上げ」「下げ」ができます。
・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回操作（方向修正）時に走行クラッチペダルに足を乗せないでください。ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。
◆自動車等への積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

・ジャストディレクタ《右》を押すと右方向に，《左》を押すと左方向に進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。
・自動車等への積込み・積降ろし，あぜ越え，路上走行等刈取り以外の作業では使用しません。

取扱いのポイント

●ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。
●ジャストディレクタは旋回力が小さいので，旋回には使用できません。

❽ 脱こく・刈取クラッチレバー

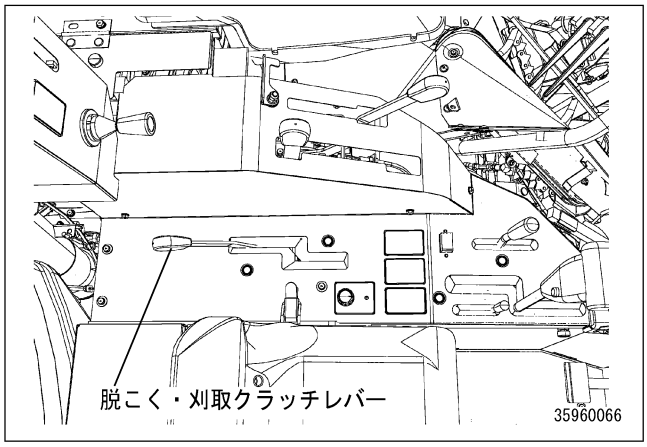
⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく・刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆エンジンを始動する場合は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。

・脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく　入》位置にすると脱こく部が作動します。

・脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取　入》位置にすると，脱こく部に連動して刈取部が作動します。また脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にすると，刈取部と脱こく部が停止します。



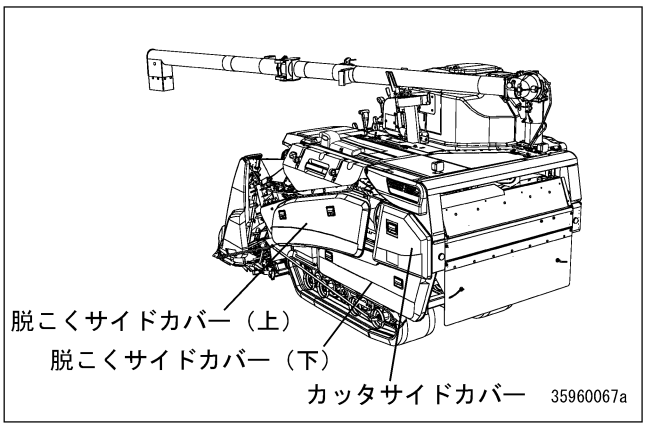
取扱いのポイント

- 刈取り作業を行うとき，回転計の「色別表示」（作業範囲）以下では《入》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。
- 刈取・脱こく運転中，走行クラッチペダルを踏むと，走行は停止し，同時に刈取部とフィードチェンも停止します。（脱こく部は止まりません）
- 脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）が《入》位置にある時はエンジンは始動できません。
- エンジンを始動する時は，脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。

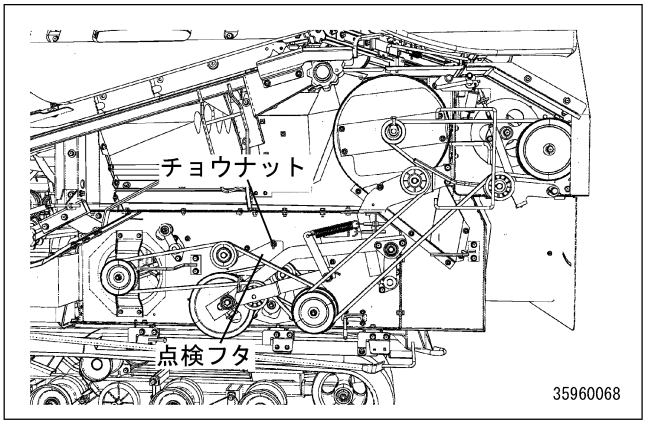
❾ フィン（選別量）調節レバー

作物や刈取りの条件により，モミに枝梗の付着や稈切れ混入が多い場合や収穫量が少ない場合に調節するレバーです。

⑴ 脱こくサイドカバー（上），カッタサイドカバー，脱こくサイドカバー（下）を外します。



⑵ チョウナットを外し，点検フタを外します。



取扱いのポイント

- レバーを操作する時は，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで脱こく部を空運転してからエンジン停止し，行ってください。
- シーズン途中や格納前にも作動をスムーズにするために，時々同じ方法でレバーを操作してください。

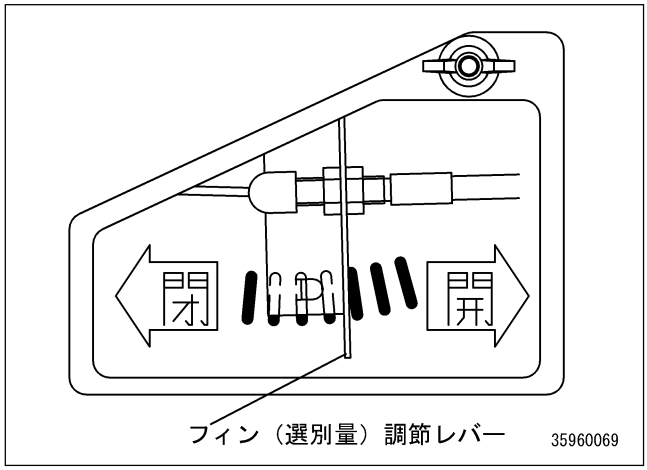
(3) 作物の条件により下記を参考にしてフィン調節レバーで調節します。

「閉」方向調節

・選別が悪い時。　・小枝梗が多い時。

「開」方向調節

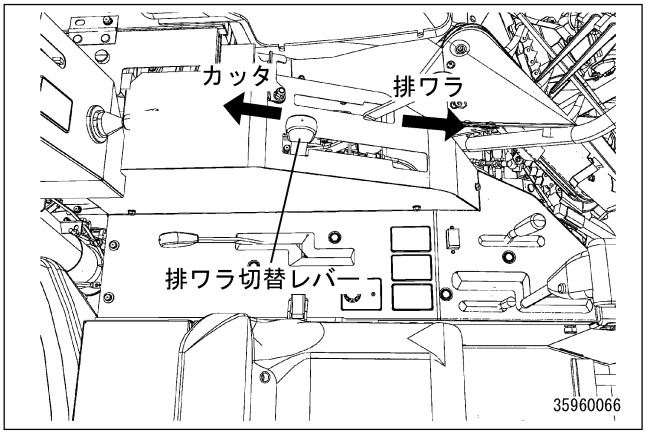
・ロスが多い時。　・脱ぷが多い時。

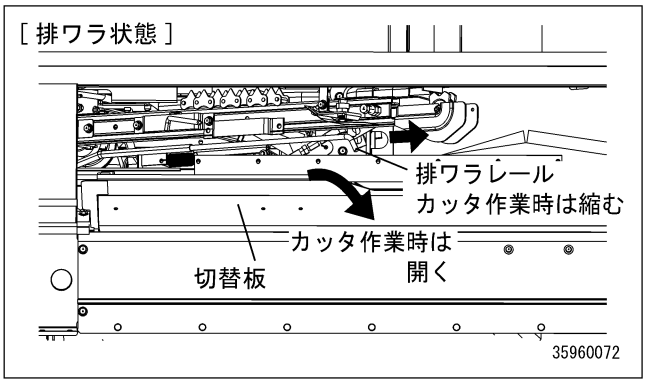


(4) 調節後は点検フタ，脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーを取付けてください。

⑩ 排ワラ切替レバー

排ワラ作業またはカッタ作業の切替えをするレバーです。レバーを切替えると，切替板と排ワラレールが同時に切替わります。



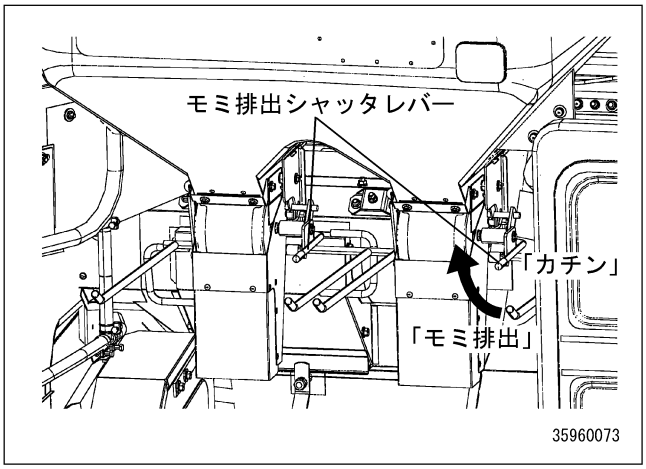


⑪ モミ排出シャッタレバー [ホッパ仕様]

⚠注意

◆ 樋口の中に手を入れないでください。

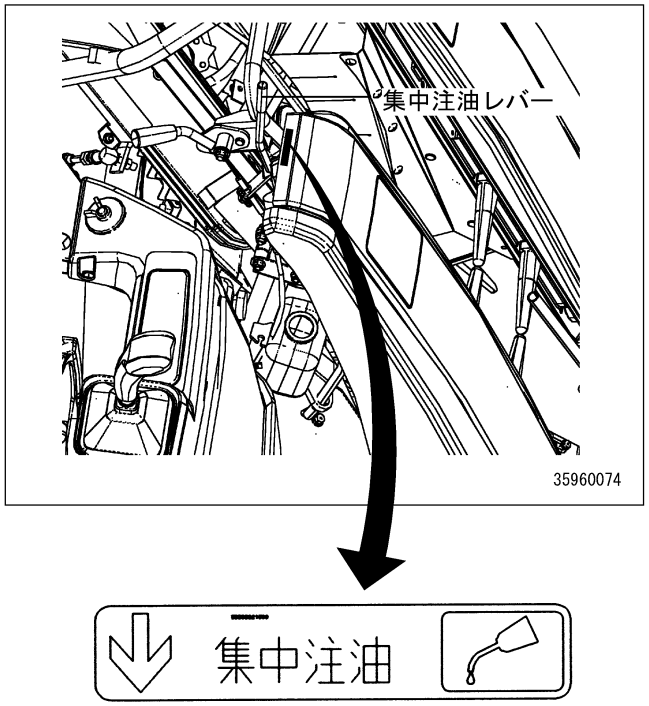
・モミを排出状態にセットするレバーです。モミ排出シャッタレバーを**「カチン」**と音がするまで引き上げて**「モミ排出状態」**にセットします。



⑫ 集中注油レバー

刈取部に集中注油するレバーです。

[3 条型] は脱こくフィードチェン部および排ワラチェン部にも注油します。



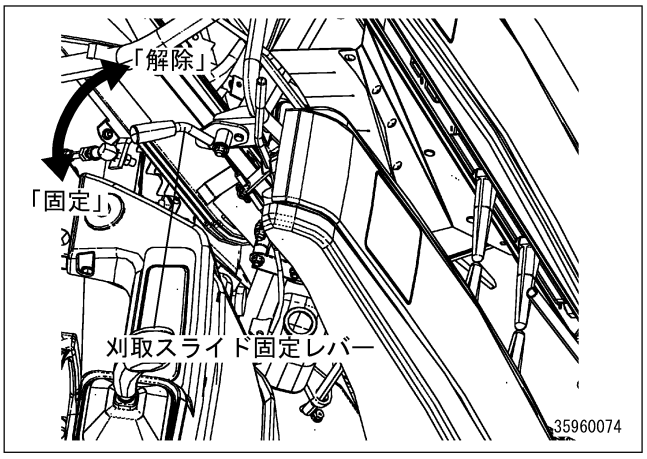
⑬ 刈取スライド固定レバー [2 条型]

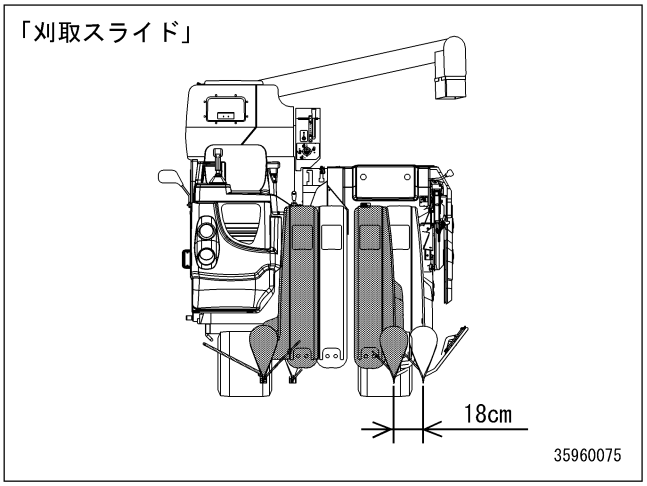
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を動かす（スライドさせる）時には，刈取部を上げエンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にして，フックをかけてください。

刈取スライド固定レバーを持ち上げて，ロック（固定）を《解除》することにより刈取部を手動で横移動させるレバーです。

移動させた後は刈取スライド固定レバーで刈取部が《固定》（ロック）されていることを確認します。

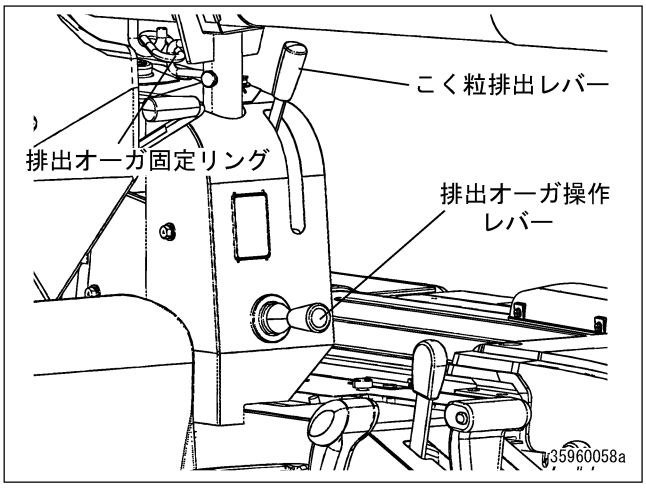




取扱いのポイント

- 刈取スライドは右端または左端で固定して使用します。
- 刈取スライドを作動させる時は，刈取部をデバイダ先端で 10 ～ 15cm 上げて行ってください。
- 刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。

⓮ 排出オーガ操作レバー［グレンタンク仕様］



⚠警告　傷害事故防止のために

◆排出オーガを旋回するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して排出オーガを《上げ》てから周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

◆排出オーガを上げたままでの移動および刈取り作業はしないでください。上げたままで走行すると，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

排出オーガを《上げ》，《下げ》および《左旋回》，《右旋回》させるレバーです。

⓯ こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限（黄色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かす時はフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。
- エンジンを始動する時，こく粒排出レバーが《入》位置にあると始動できません。

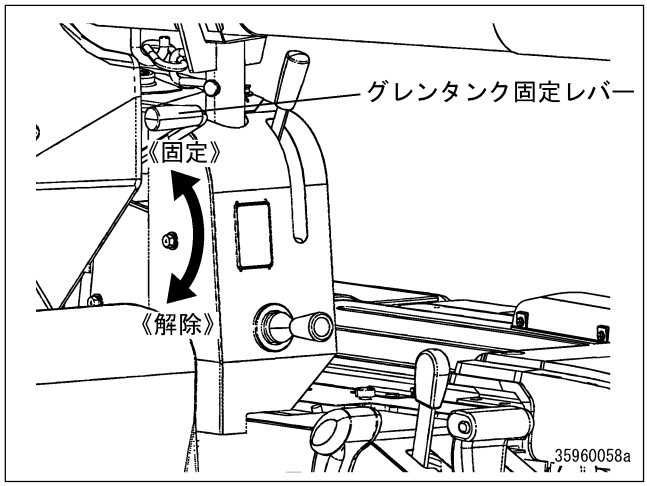
⑯ グレンタンク固定レバー［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆グレンタンク固定レバーを《解除》する時は，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
  タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。
- ◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されている事を確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

グレンタンク回動部を固定するレバーです。

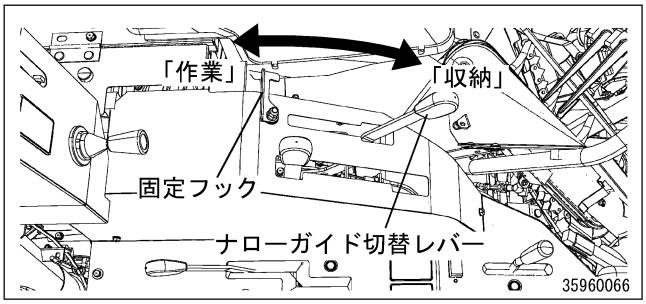
※グレンタンクの回動（オープン）は 101 ページ参照。

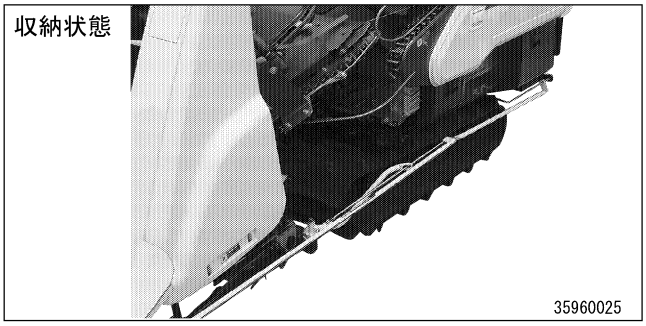


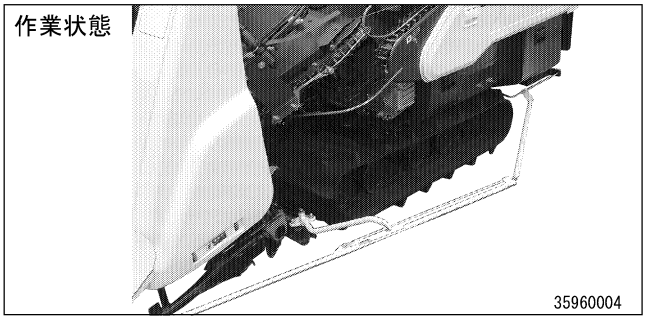
⑰ ナローガイド切替レバー（２１８型を除く）

左ナローガイドを運転席に座ったまま操作するレバーです。

作業時，ナローガイド切替レバーが**「収納」**側へ戻る場合は固定フックでレバーを固定します。



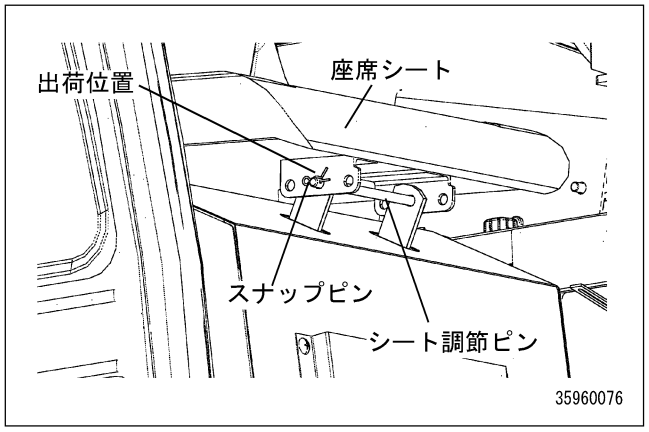




⑱ シート調節ピン

シートの前後位置がシート調節ピンで３段階に調節できます。

スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



⑲ 刈高さセットプレート（２１８型のみ）

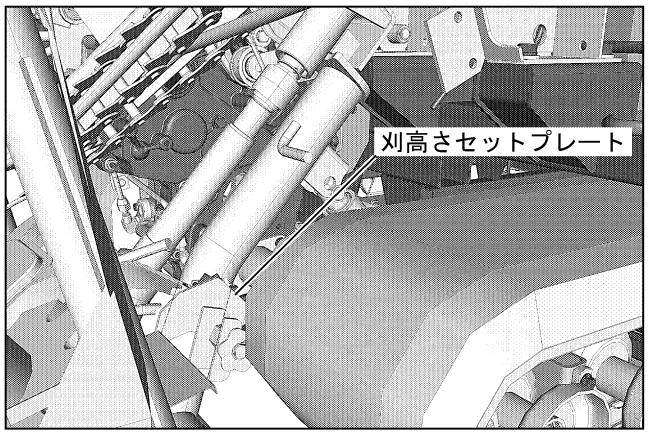
⚠警告 障害事故防止のために

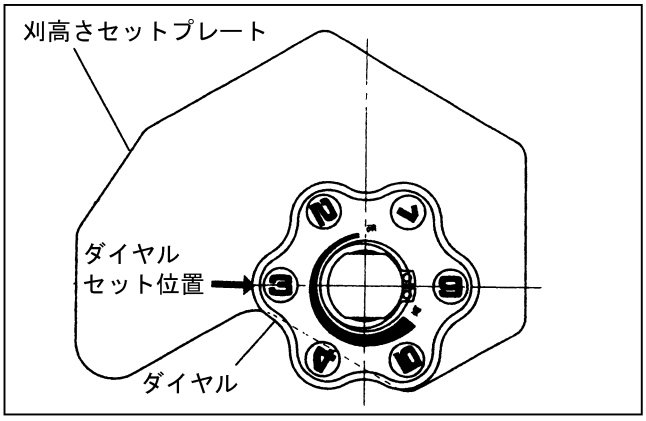
◆刈高さセットプレートを調整するときは，刈取部を上げた後，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にしてください。

◆作業機クラッチレバー，刈取クラッチレバーが《入》位置の状態では調整しないでください。

刈高さセットプレートは刈取部の最低刈高さを調整します。操作方法は，刈取部を上げてダイヤルを手で回動させて調整します。

・ダイヤルの数字が大きい方に回動させる程，刈高さが高くなります。





（参考値）

①	－１０ｍｍ （地表から）
②	１５ｍｍ （地表から）
③	４５ｍｍ （地表から）
④	７５ｍｍ （地表から）
⑤	１００ｍｍ （地表から）
⑥	１３０ｍｍ （地表から）

3. 電装関係

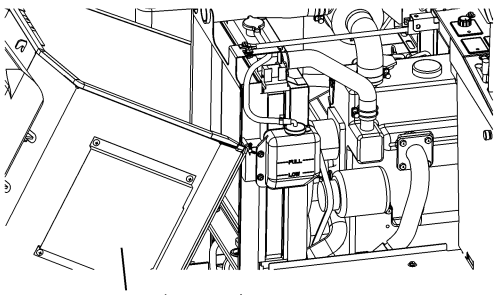
⚠警告　火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，同じ容量のヒューズを使用してください。針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズボックス・予熱ランプヒューズおよびメインヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズボックス・予熱ランプヒューズおよびメインヒューズの状態をチェックします。

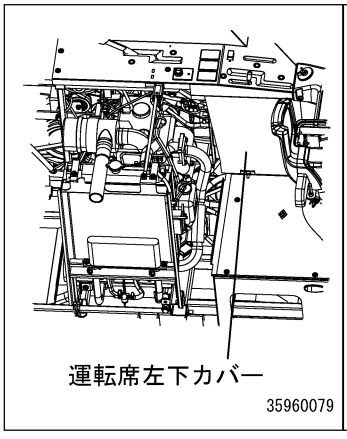
ヒューズボックス・予熱ランプヒューズおよびメインヒューズはエンジンカバーを開いて確認します。

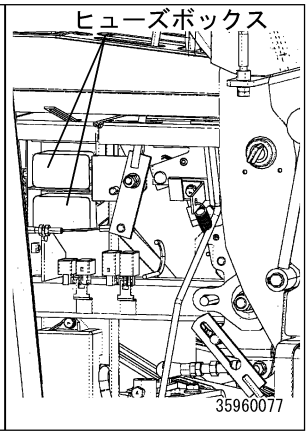


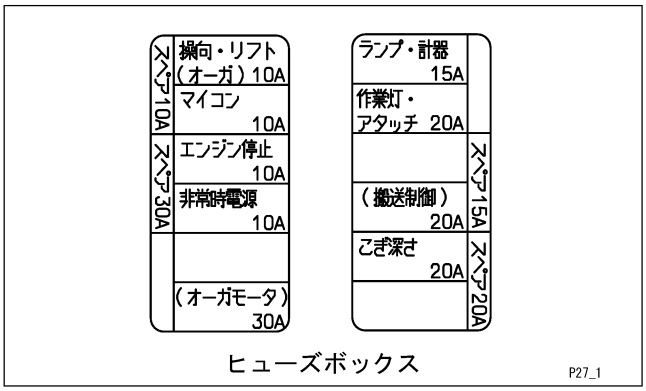
ヒューズボックス・予熱ランプヒューズおよびメインヒューズの点検交換が終わったら，エンジンカバーを閉じます。

❶ ヒューズボックス

(1) 運転席左下カバーを外すとヒューズボックスがあります。







(2) ヒューズの交換

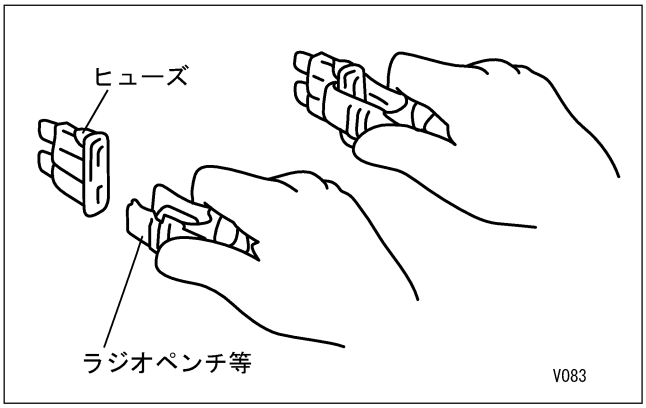
・ブレード（板）ヒューズの交換

ヒューズボックス内の各種ヒューズは，ブレードヒューズを使用しています。

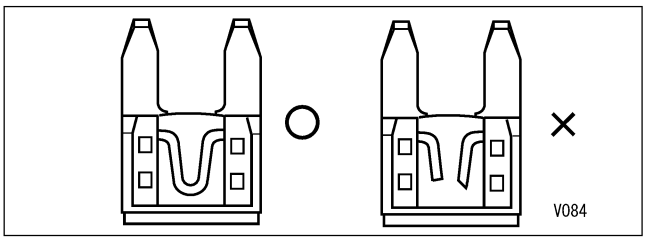
各ヒューズの該当する装置が作動しないときは，次のように処置してください。

① スタータスイッチを《切》 位置にします。

② ヒューズボックスの蓋を開き，ラジオペンチ等を使って，ヒューズを引抜きます。



③ ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



(3) ヒューズボックス内のヒューズの点検・交換が終わったら，運転席左下カバーを取付けてください。

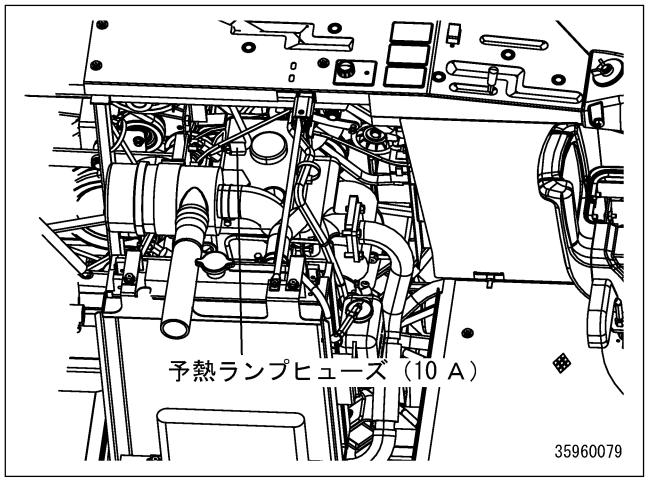
❷ 予熱ランプヒューズ

⚠警告　ヤケド防止のために

◆ 作業直後はエンジン部が高温になっています。予熱ランプヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

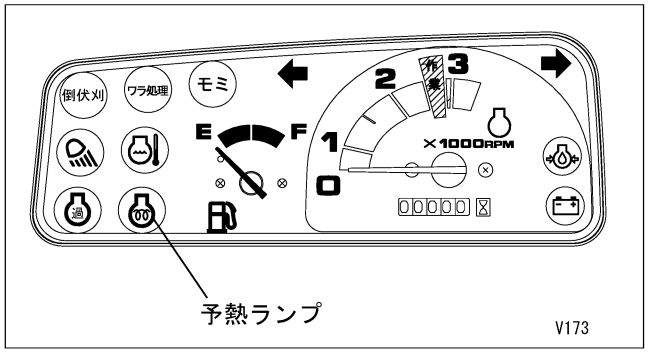
ヒューズボックスではなく，エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。

ケースの中に 10A のヒューズが入っています。



・予熱ランプヒューズ（10A）の交換

スタータスイッチを《始動》位置にしても予熱ランプが点灯しない時は，このヒューズを交換します。



⑴　スタータスイッチを《切》位置にします。

⑵　ケースを開きヒューズを引抜きます。

⑶　ヒューズが切れていれば，10A のヒューズと交換します。

取扱いのポイント

- 交換しても予熱ランプヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❸ メインヒューズ

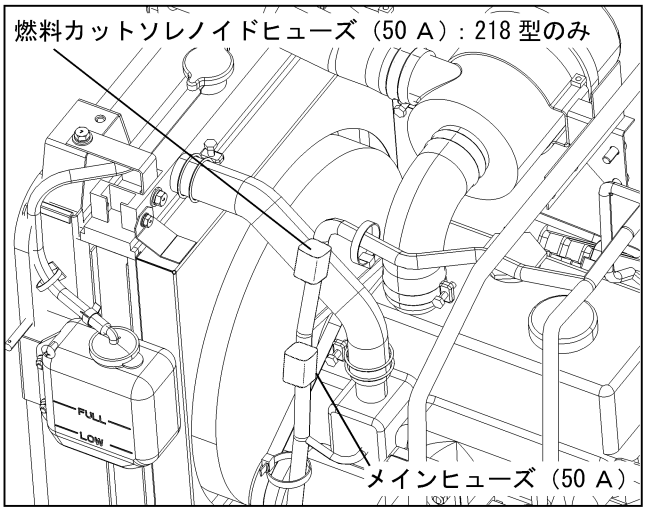
⚠警告　ヤケド防止のために

◆ 作業直後はエンジン部が高温になっています。メインヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

エンジンルーム内の電気配線に直接取付けてあります。全ての電気装置の安全装置となっていて，メインヒューズが切れると全ての電気装置が作動しなくなります。

エンジン前方部にメインヒューズがあります。

＊２１８型のみ燃料カットソレノイドがあります。



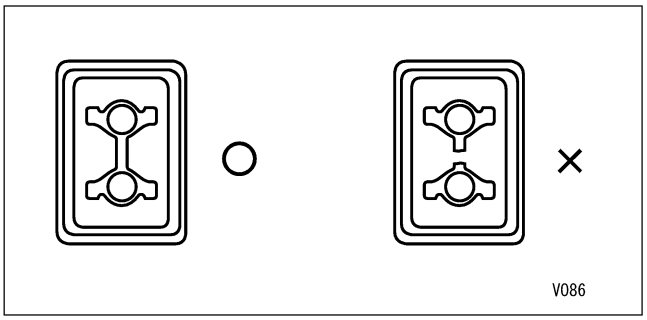
・メインヒューズの交換

⚠警告　火災防止のために

◆取付けてあるメインヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをメインヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

(1) バッテリ（－）端子を外します。

(2) メインヒューズが右図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。



取扱いのポイント

●交換してもメインヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

・ヒューズが溶断した場合，次の機能が作動不能になります。　　×：作動不能

影響の出る機能 / ヒューズの種類	エンジン始動	予熱ランプ	計器類のモニタランプ	前照灯	作業灯	ホーン・バックブザー	燃料計	方向指示器	マルチステアリング	ジャストディレクタ	こぎ深さ手動	こぎ深さ自動	刈取部上下	方向自動	搬送制御	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	エンジン停止	エンジン停止スイッチ	エンジン回転負荷モニタ
非常時電源（10A）	×																			
エンジン停止（10A）	×																			
ランプ・計器（15A）			×	×		×	×	×												
作業灯・アタッチ（20A）					×															
こぎ深さ（20A）											×	×								
操向・リフト・オーガ(10A)									×	×			×				×			
オーガモータ（30A）																×				
搬送制御（20A）															×					
マイコン（10A）			×			×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
予熱ランプヒューズ(10A)		×																		
メイン（50A）	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
燃料カットソレノイド(50A)	×																			

＊燃料カットソレノイドヒューズ（５０Ａ）は２１８型のみの装備です。

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

運転のしかた

1. 運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に**「運転まえの点検表」**を参考に点検してください。

⚠危険　ヤケドや火災防止のために

- ◆ エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
- ◆ 燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
- ◆ 燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
- ◆ 燃料タンクや燃料ホースの老化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆ 給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- ◆ ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。
- ◆ 点検整備などで取外したカバー類は，　すべて取付けてください。

「運転まえの点検表」

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー ラジエータフィン オイルクーラフィン	・エンジンカバーの内側にゴミがたまっていませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはありませんか。	・ゴミを取除く。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	92
マフラやエンジン回り，サイドカバー（上）（下）	・ワラクズはたまっていませんか。	・掃除をする。	—
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・損傷したものは交換。 ・汚れはきれいにする。 ・ボルトがゆるんでいれば増締めする。	—
油もれ	・各給油個所部に油もれがありませんか。	・給油，排油，検油栓がゆるんでいれば増締めする。 ・直らないときは，点検を受ける。	75〜91
燃料ホース	・損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ）や燃料もれがありませんか。	・ホースの交換。 ・継ぎ部をしっかり締める。	134
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理する。	95

点検個所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを外して軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。又は交換する。	92〜93
エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・オイルがオイルレベルゲージの上限，下限の間にありますか。	・エンジンオイルを規定量位置まで補給する。	78〜79
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに規定量位置まで補給する。	81〜82
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受ける。	―
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・燃料を補給する。 タンク容量：25L	77
脱こくフィードチェン	・スムーズに動きますか。	・注油する。	87，90
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	12 27〜29
方向指示器等の保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	12 27〜29
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「後進(R)」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	27〜29
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。 （エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常個所を調べ，処置する。	10〜12，61 156〜158
回転計	・正常に作動しますか。 （エンジン始動で）	・点検を受ける。	12
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部が上下しますか。	・点検を受ける。	20
チェン，ベルト，ワイヤクローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	135〜152

2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。

◆始動は座席に座って行ってください。

◆主変速レバー，副変速レバーが《中立》位置，脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）が《切》位置であることを確認してください。

- 機械の周囲から人を遠ざけてください。

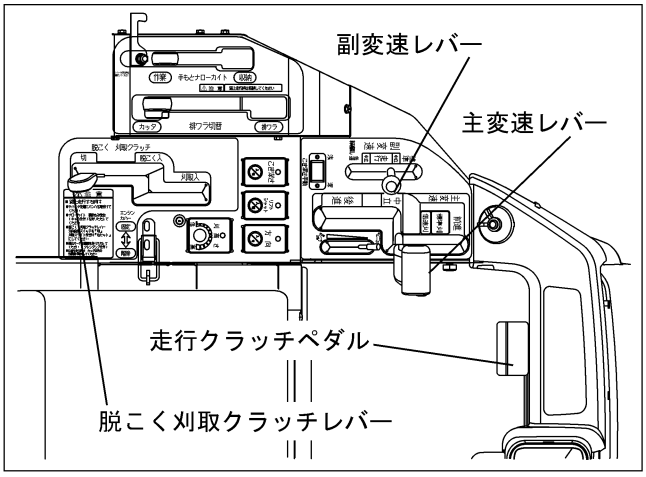
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバーを《中立》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして駐車ブレーキをかけて行ってください。

- 運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
- 外気温が「0℃以下」の時は暖機運転を 10 分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
- 空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

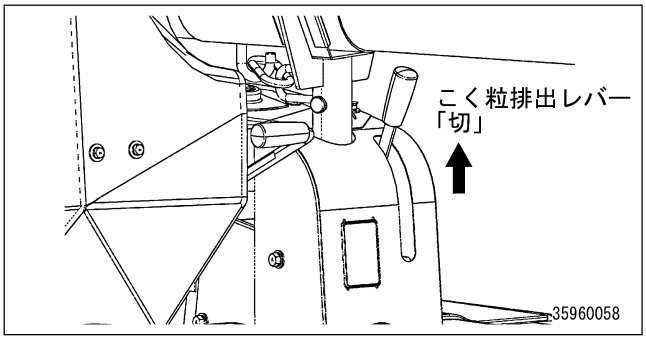
1．エンジン始動のしかた

❶ 体格に合わせシート調節ピンで着座位置を調節します。(26 ページ参照)

❷ 主変速レバー，副変速レバーを《**中立**》位置にします。

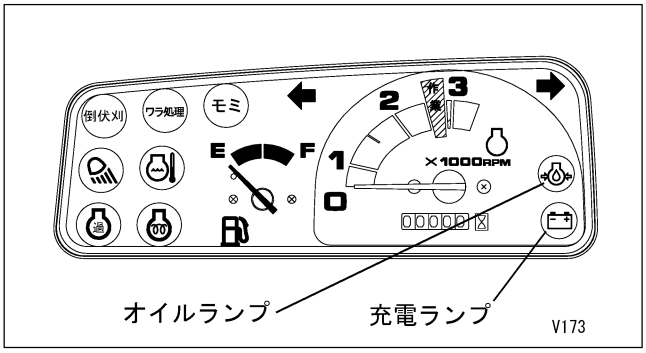


❸ 脱こく・刈取クラッチレバーが（[**グレンタンク仕様**] は更にこく粒排出レバー）が《**切**》位置にあることを確認します。



❹ エンジンコントロールレバーを《 》（**高速**）位置にセットします。

❺ スタータスイッチを《**入**》位置にし，オイル，充電ランプが点灯することを確認します。



❻ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《**始動**》位置（この時予熱ランプが点灯します）に回し，エンジンを始動します。

❼ 始動後駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を「**2000 回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- 寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスタータスイッチを《予熱》位置（この時予熱ランプが点灯します）で約６秒予熱したあと《始動》位置に回してください。
- 脱こく・刈取クラッチレバー（[グレンタンク仕様] は更にこく粒排出レバー）を《切》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。
- エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。
- スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。
  セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となります。

2. エンジン停止のしかた

❶ エンジンコントロールレバーを《🐢》（低速）にします。

❷ スタータスイッチを《切》位置にすると，エンジンが停止します。

3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ 走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
- ホッパおよびグレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 補助モミ受台 [ホッパ仕様] を収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんでオーガ固定リングをフックに掛け固定します。
  [グレンタンク仕様（２１８型を除く）]
- 排出オーガを「下セット」にし，オーガ固定リングをフックに掛け固定します。
  [グレンタンク仕様（２１８型のみ）]
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。[グレンタンク仕様]
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。[Ａ仕様]
- カッタ以外のアタッチメントを取外します。
- 刈取スライドを右スライドにし固定します。[2 条型]
- 防じんカバーを下げます。[A仕様]

◆ 運転者の他に子供等，人や物を機械にのせないでください。

◆ 公道走行は交通法規を守って運転してください。

◆ ヘルメットをかぶってください。

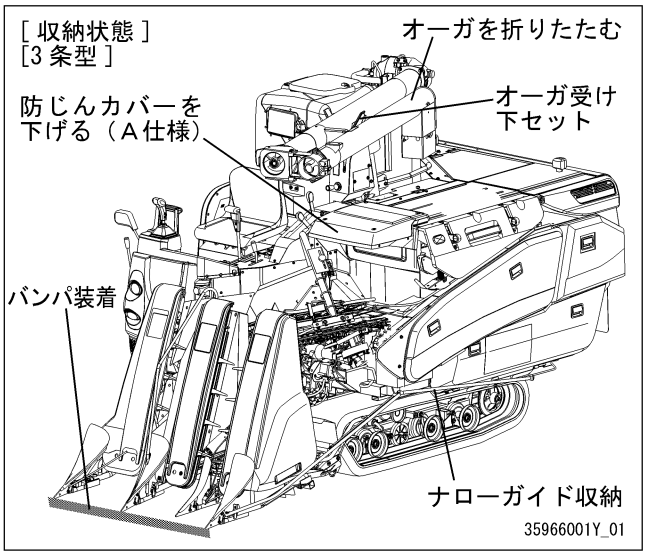
◆ 発進，停止および旋回する時は周囲を確認し速度を落としてください。

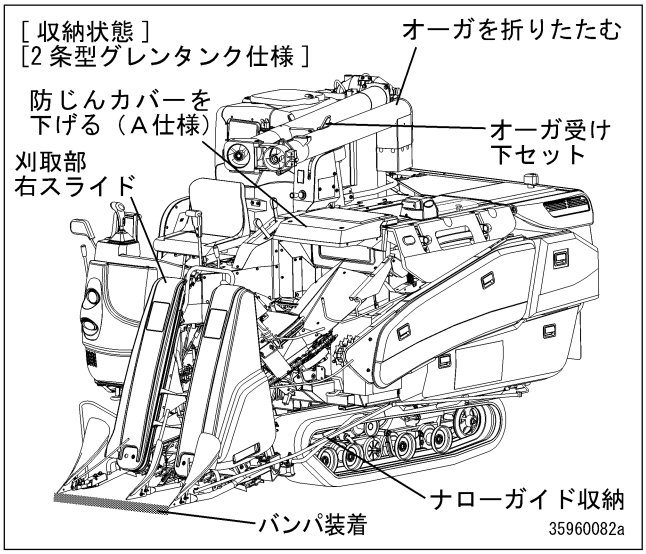
◆ 狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。

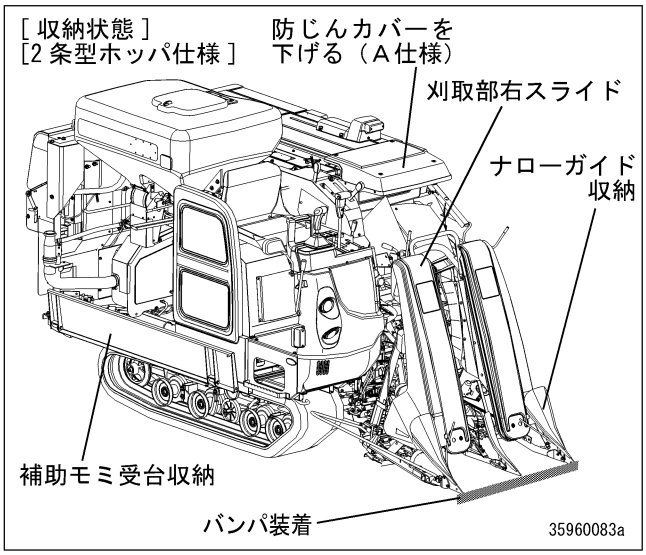
◆ 走行時に排出オーガ先端部を障害物等にあてないようにしてください。[グレンタンク仕様]

◆ あぜ越え，路上走行等ではジャストディレクタを使用しないでください。

❶ 走行するときは機械を**「収納状態」**にして**「安全な速度」**で走行します。







❷ 公道を走行するときは，カッタ以外の**アタッチメント（ノッタ等）**を取外します。

❸ 脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にし，方向自動スイッチ**[A 仕様]**を**《切》**にして，防じんカバー**[A 仕様]**を下げてからエンジンを始動します。

❹ エンジン回転を**「2000 回転」**以上にセットします。

❺ マルチステアリングレバーで刈取部先端を**「30cm」**程度上げ，油圧固定スイッチを**《油圧固定》**にし，フックをかけて刈取部を固定します。

❻ 走行する条件に合わせて副変速レバーを**《標準》**,**《走行》**または**《低速》**に入れ主変速レバーをゆっくり操作し適正な走行速度にします。

❼ 発進するときや作業開始するときはホーンで合図をします。

❽ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器の点灯で合図をします。

❾ 発進するときや作業開始の合図は，ホーン・警報入切ボタンで行います。

取扱いのポイント

●排出オーガ受のセット [グレンタンク仕様]

⚠注意

◆ 路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にしてください。

工場出荷時に排出オーガ受は**「下セット」**で出荷されています。**「上セット」**になっている場合は**「下セット」**にしてください。(42-A ページ参照)

2. 停車のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》《中立》，副変速レバーを《低速》に入れてください。

◆燃えやすいものの近くには，止めないでください。

◆機械から離れる時は平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し，スタータスイッチからキーを抜取ってください。

❶　主変速レバー，副変速レバーを《**中立**》にします。

❷　駐車ブレーキをかけます。

❸　エンジン回転を「**2000 回転**」程度にセットし，５分間程度空運転を行います。

❹　エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）にして，エンジンを停止します。

❺　副変速レバーを《**低速**》に入れます。

❻　駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ 自動車は積載重量を超えない車で荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに歯止めをしてください。

◆ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

- アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

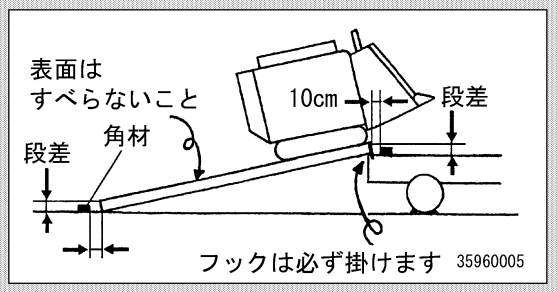
◆ 機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。

- ホッパ及びグレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取り付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 補助モミ受台［ホッパ仕様］を収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんでオーガ固定リングをフックに掛け固定します。
  ［グレンタンク仕様（218 型を除く）］
- 排出オーガを「下セット」にし，オーガ固定リングをフックに掛け固定します。
  ［グレンタンク仕様（218 型のみ）］
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。［グレンタンク仕様］
- 方向自動スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。［A 仕様］
- 刈取りスライドを右スライドにし固定します。［2 条型］
- 防じんカバーを下げます。［A 仕様］

◆ 積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

- アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆ アユミと路面および自動車の荷台との段差が 6cm 以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆ 自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・駐車ブレーキレバー
・ジャストディレクタ

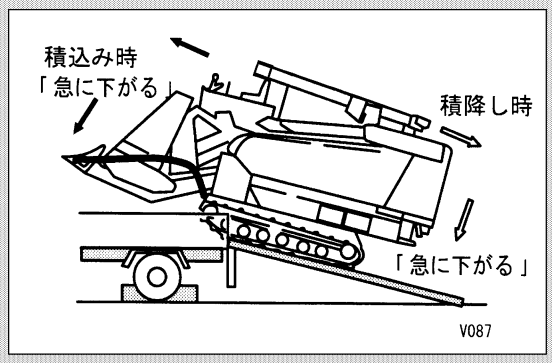
は，アユミの上では操作しないこと。

◆ 積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《低速》位置で行ってください。

◆ 機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆ 機械が自動車に乗る直前や降りる直後では，急に姿勢が変わることがありますの

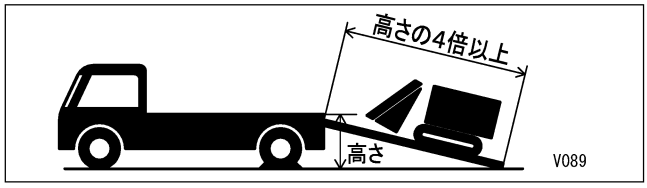
で，機械が自動車に乗って（降りて）から近づき，駐車ブレーキレバーを「入」れて，機械を停止させてください。



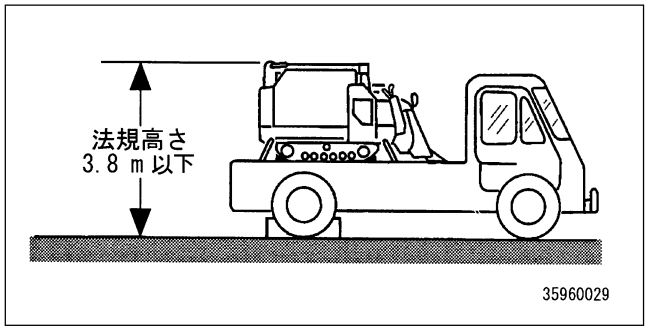
◆ 各カバーの固定が確実か確認してください。

◆ 積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1. 自動車・アユミについて



❶ 積載重量 1,500kg 以上の自動車で荷台から機械がはみ出さない車を使用します。



・トラックに積んだ場合，**「車両制限令」**により地上からの高さが 3.8 m以下に規制されています。
3.8 mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。

❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに**「歯止め」**をします。

❸ アユミは，機械の重量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。

アユミの基準

長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	50cm 以上
数量	２枚
強度	１枚が 1,000kg 以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に**「段差」**のないようにかけ，**「横ずれ」**したり，**「外れ」**たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドル等の操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2. 機械の積込み要領

❶ 刈取部を**「右スライド」[2 条型]** し，ナローガイド，補助モミ受台 **[ホッパ仕様]**，排出オーガ**[グレンタンク仕様]**を収納します。(収納状態)

❷ エンジンを始動します。

❸ エンジンコントロールレバーでエンジン回転を**「2000 回転」**程度にセットします。

❹ 刈取部をいっぱい上げます。

❺ 積込みは，主変速レバー**《前進》**の低速，副変速レバー**《低速》**で行います。

❻ 積降ろすときは，主変速レバー**《後進》**の低速，副変速レバー**《低速》**で行います。

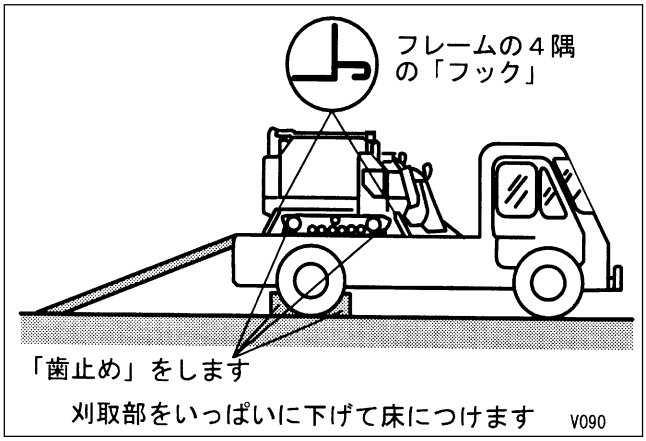
❼ 積込み・積降ろしは，機械に乗らないで行います。

❽ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更はしないようにします。

❾　補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❿　自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに**「歯止め」**をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４ヶ所のフックにロープまたはワイヤをかけて固定します。

⓫　刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは,いっぱいに下げ(深こぎ側)ておきます。



取扱いのポイント

- 2 条型は刈取部スライド装置を装備していますので，路上走行やトラック積込みの時，右スライドに固定してください。

5. ほ場への出入り

⚠警告　傷害事故防止のために

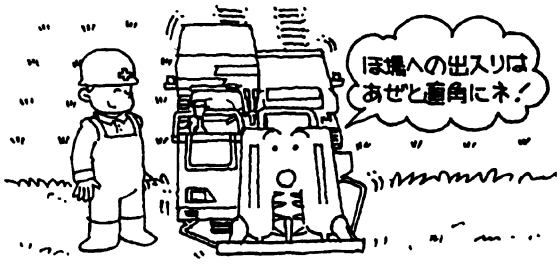
◆10cm 以上のあぜ，溝，10 度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。

- ホッパ及びグレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- バンパを取り付けます。
- ナローガイドを収納します。
- 補助モミ受台[ホッパ仕様]を収納します。
- 排出オーガを「下セット」にし，折りたたんでオーガ固定リングをフックに掛け固定します。
  [グレンタンク仕様（218 型を除く）]
- 排出オーガを「下セット」にし，オーガ固定リングをフックに掛け固定します。
  [グレンタンク仕様（218 型のみ）]
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。[グレンタンク仕様]
- 方向自動スイッチを《切》(ランプ消灯)にします。[A 仕様]
- 刈取りスライドを右スライドにし固定します。[2 条型]

◆ [A 仕様] は，方向自動スイッチを [切]（ランプ消灯）にしてください。

◆ あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

1. ほ場への出入りのしかた



❶　刈取部を上げ,エンジン回転を**「2000 回転」**程度にセットし,副変速レバーを**《低速》**位置,主変速レバーを**《前進》**の低速または**《後進》**の低速にしてあぜに直角に走行します。

❷　アユミを使用するときは,**「自動車への積込み・積降ろし」**の内容に従って行います。

作業のしかた

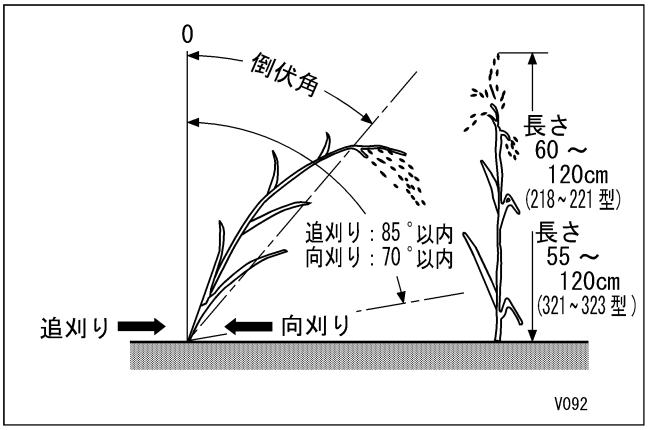
1. 作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1. 作物の条件について

❶ 作物の長さと倒れ

・長さ… 60~120cm まで刈取りできます。(218～221型)
　　55~120cm まで刈取りできます。(321～323型)
・倒れ（倒伏角）
　… 追刈り：85° 以内まで刈取りできます。
　　向刈り：70° 以内まで刈取りできます。



❷ 作物のぬれ

・ぬれた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。
・能率があがらない
・選別不良
・詰まりやすい
・乾燥処理時間の増加

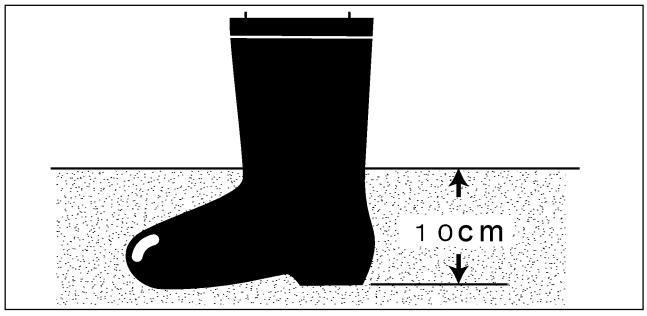
❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。
・こく稈が折れやすい
・刈取り・搬送部の詰まり
・脱こく部の詰まり

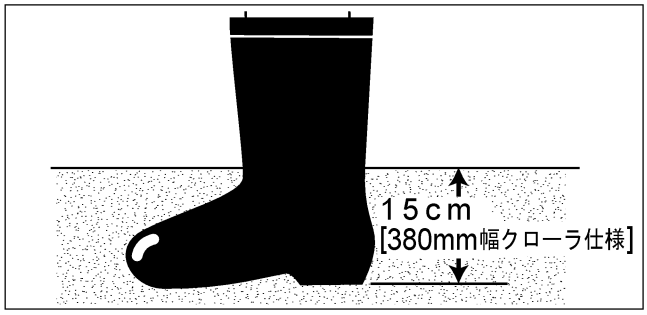
2. ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「10cm」**までは作業ができます。



・クローラ（オプション仕様）によっては，下記沈下量までは作業が出来ます。

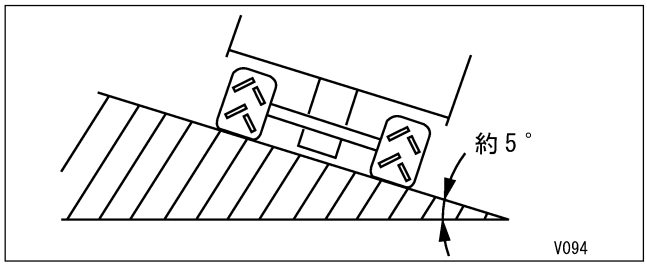


取扱いのポイント

- 一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５° 以上では作業できません。



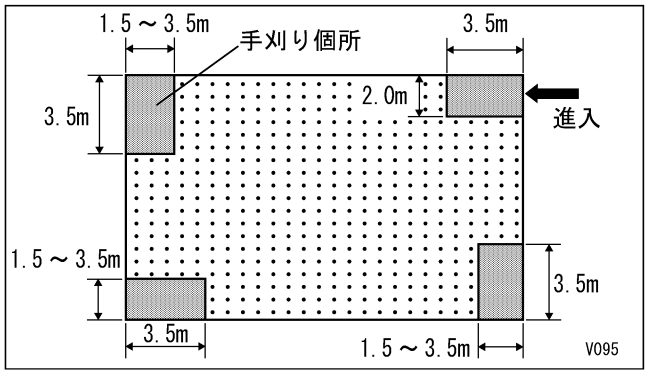
取扱いのポイント

- 適応範囲を越えての作業はできません。行わないでください。
- ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3. ほ場の準備

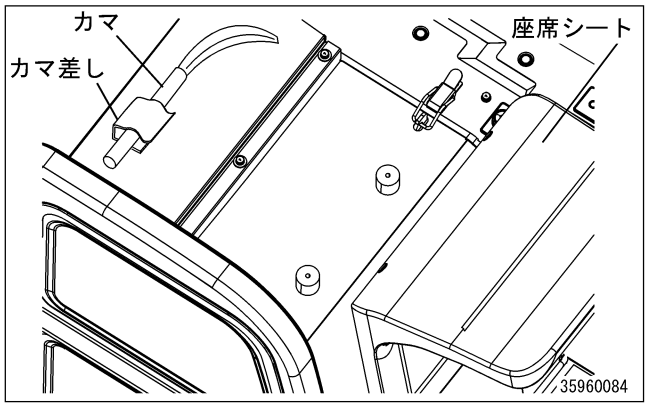
❶ 手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を「旋回できる程度」手刈りします。



・カマ差しは，座席シート後方にあります。

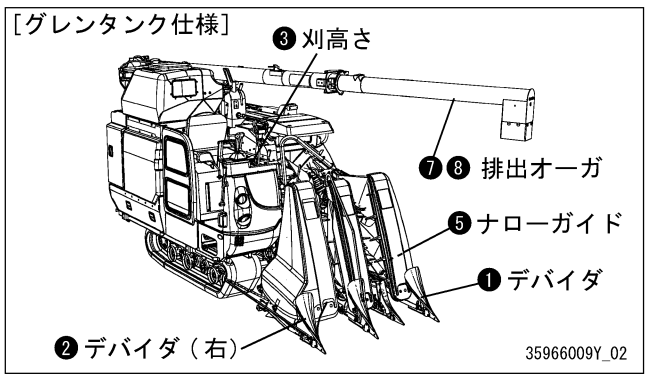
・カマは図のようにセットし，刃部に身体が触れないようにします。

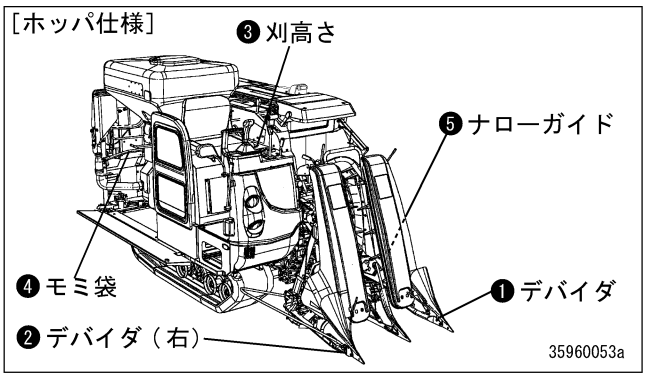


取扱いのポイント

- ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜぎわいっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。

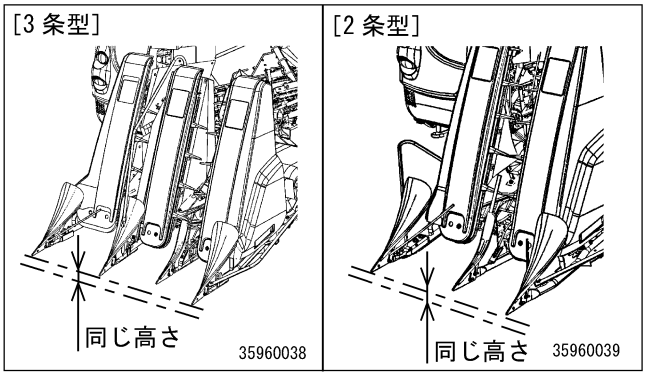
4. 機械の準備





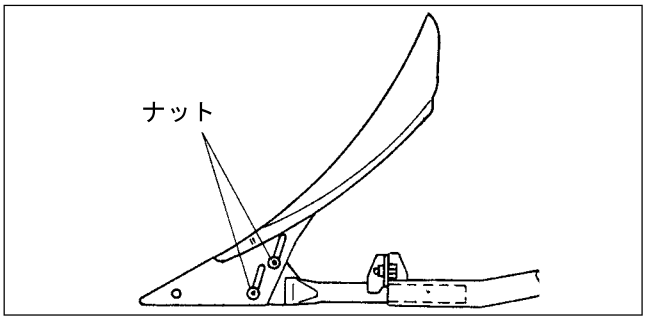
❶ デバイダの調整

(1) デバイダ先端の高さを全て同じにします。



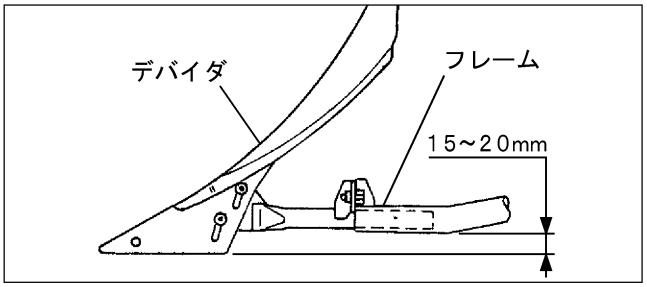
(2) 刈取部を下げた時，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合やデバイダ先端が地面より離れている場合はデバイダの取付け位置を調整します。

・取付ナットをゆるめ，長穴部で調整し確実に締付けます。



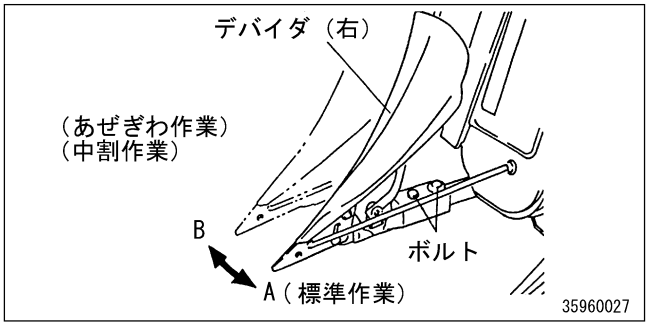
取扱いのポイント

- 湿田での作業時は，デバイダをフレームより「１５～２０mm」下げて作業してください。



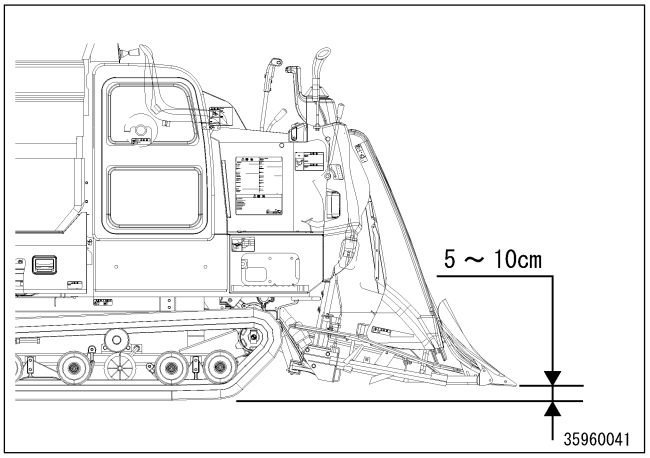
❷ デバイダ（右）の調整

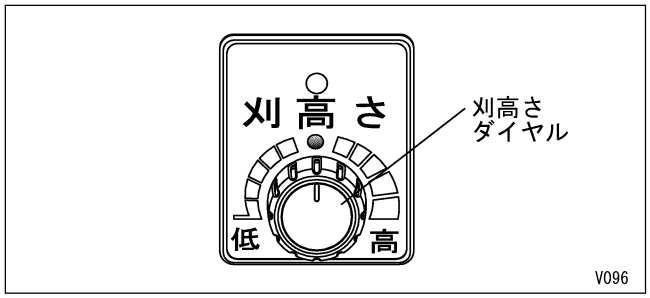
・デバイダ（右）は「**Ａ位置が標準**」です。
・中割作業やあぜぎわ作業をするときは，２本のボルトをゆるめてＢの位置にいっぱい拡げ，締付けて固定します。



❸-A 刈取り高さの調整（２１８型は除く）

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「５～１０cm」になるように刈高さダイヤルで調整します。(68 ページ 刈高さポジションコントロール参照)





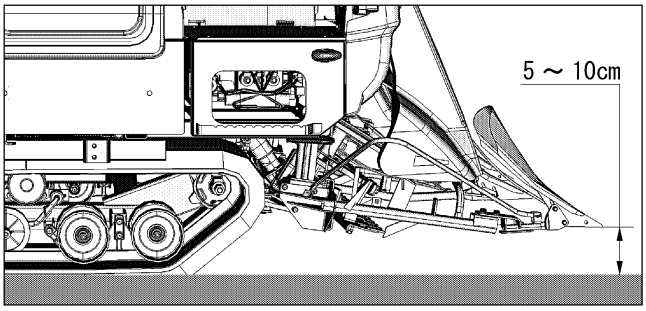
・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❸-B 刈取り高さの調整（２１８型のみ）

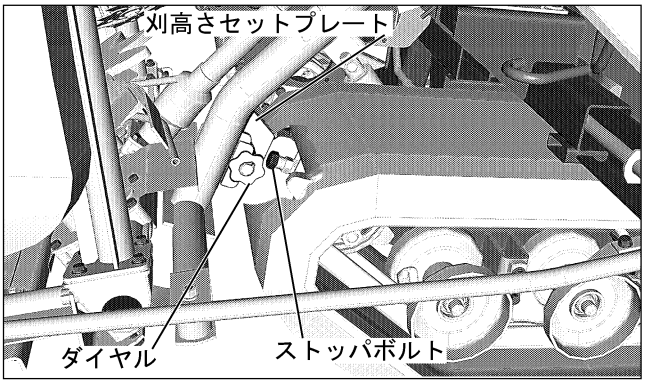
⚠警告　傷害事故防止のために

◆刈高さセットプレートを調整する時は，刈取部を上げた後，油圧固定レバーを《油圧固定》の位置にし，エンジンを停止してください。
◆脱こく・刈取クラッチレバーが《入》位置の状態では，作業しないでください。

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「５～１０cm」になるように刈高さセットプレートで調整します。
(26 ページ 刈高さセットプレート参照)



(1) エンジンを始動します。
(2) 刈取部を上げます。
(3) 油圧固定レバーを《**油圧固定**》にします。
(4) エンジンを停止します。
(5) ダイヤルを矢印の方向に手で回動させます。



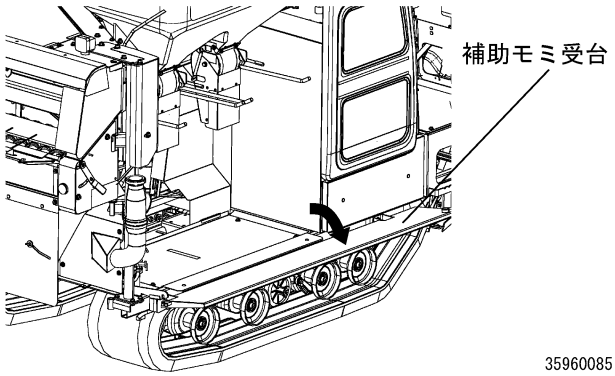
(6) エンジンを始動します。
(7) 油圧固定レバーを《**解除**》にします。
(8) 刈取部を下げ，刈高さを確認します。
・倒伏及び短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❹ モミ袋の取付け［ホッパ仕様］

⚠注意

◆シャッタを閉じるときは，モミ排出シャッタレバーで手をたたかれないようにしてください。

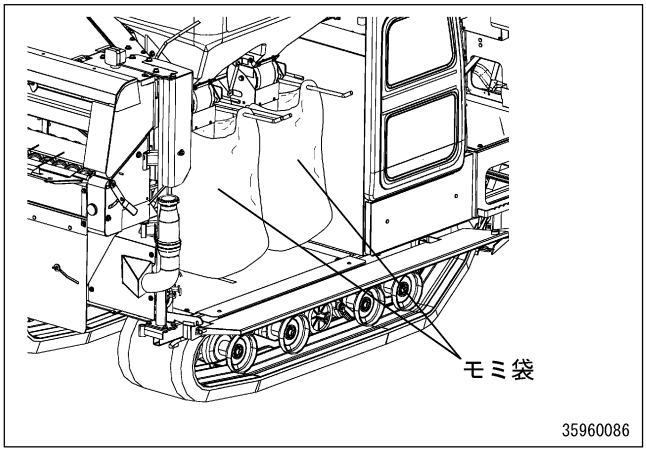
(1) 補助モミ受台を作業位置に開きます。



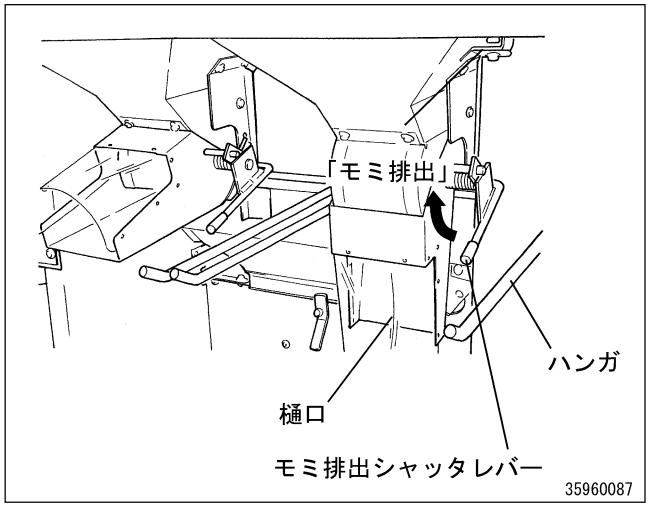
取扱いのポイント

- 回り刈りや中割り刈りを行う場合は補助モミ受台を収納してください。収納せずに作業を行うと作物やあぜにひっかかる恐れがあります。

(2) モミ袋のファスナを開き，1組のハンガに10枚程度のモミ袋をかけます。



(3) 1番外側のモミ袋は樋口に差込みモミ排出シャッタレバーを**「カチン」**と音がするまで引き上げて**「モミ排出状態」**にセットします。

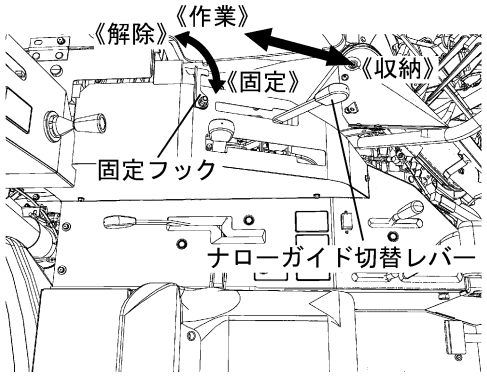


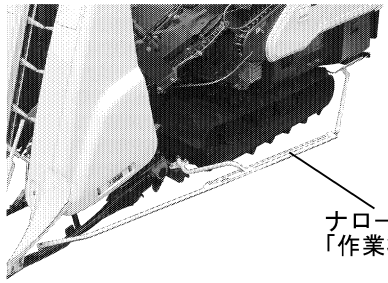
❺-A ナローガイドの調節（２１８型を除く）

・ナローガイド切替レバーを《作業》にすると，左ナローガイドが引出され，作業状態になります。

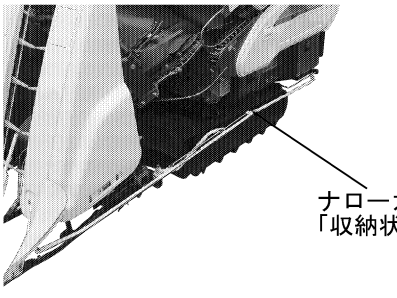
・通常，固定フックは《解除》の位置で作業します。

・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《固定》してください。



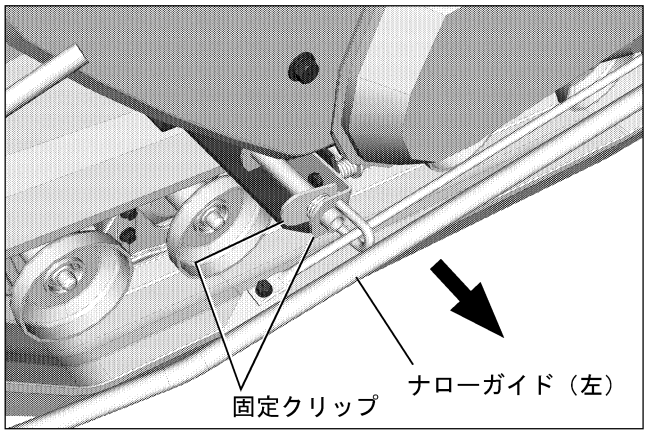


・右まわりあぜぎわ刈取など，障害物があるときは収納にします。



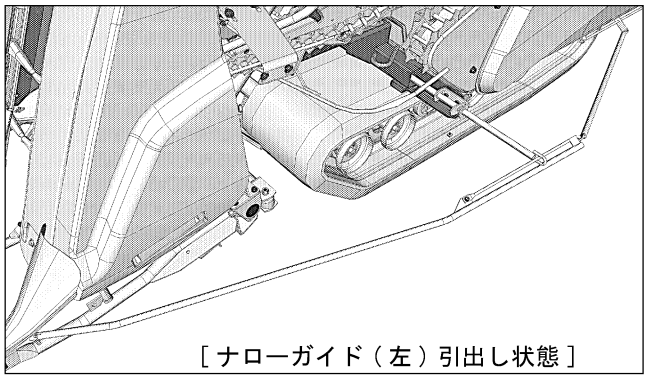
❺-B ナローガイドの調節（２１８型のみ）

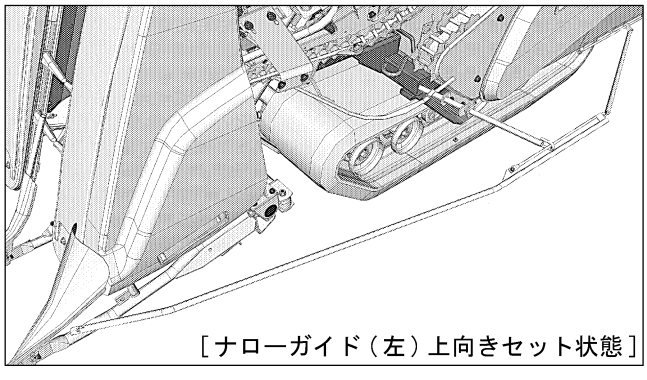
・ナローガイド（左）の固定クリップを指で強くつまんで，ナローガイドの固定を外した状態で，ナローガイド（左）を引き出し，作業状態にします。



取扱いのポイント

- 長稈材等で未刈稈が倒れこみ，脱こく供給口部の搬送に支障がある場合は「上向きセット」にして作業を行います。
- ナローガイドを引き出した状態で上に引き上げると，ナローガイドは上向きになったまま固定されます。（上向きセット）


［ナローガイド（左）引出し状態］


［ナローガイド（左）上向きセット状態］

❻ 排ワラ・切替えの調節

・作業に合わせて排ワラ・カッタの切替え調節を行います。(63 ～ 64 ページ参照)

❼ 排出オーガ受のセット［グレンタンク仕様］

⚠注意

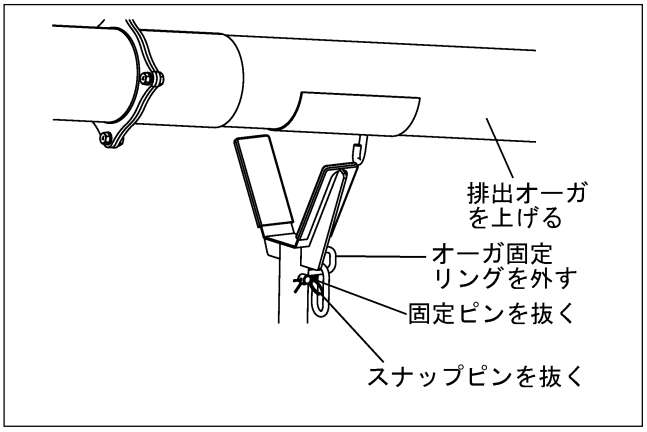
◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にして折りたたんでください。

工場出荷時に排出オーガ受は**「下セット」**で出荷されています。

(1) オーガ固定リングをフックから外し排出オーガを**《上げ》**ます。

(2) 排出オーガ受をとめている固定ピンからスナップピンを抜き，固定ピンを排出オーガ受から抜きます。

「出荷状態（下セット）」

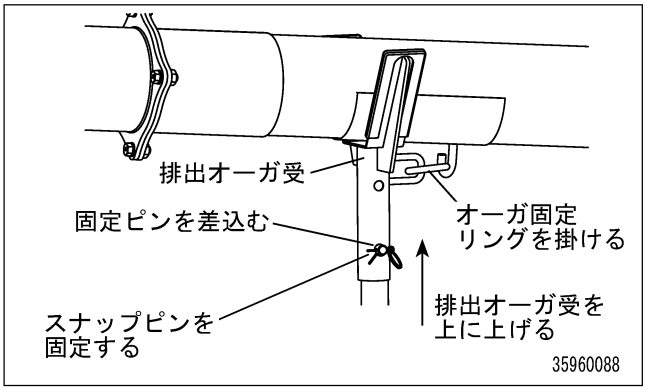


(3) 排出オーガ受**「上位置」**のセット穴に合わせます。

(4) 固定ピンを差込んで，スナップピンで止めます。

(5) 排出オーガを**《下げ》**フックにオーガ固定リングを掛けます。

「上位置セット」



❽ 排出オーガの延長
［グレンタンク仕様（２１８型を除く）］

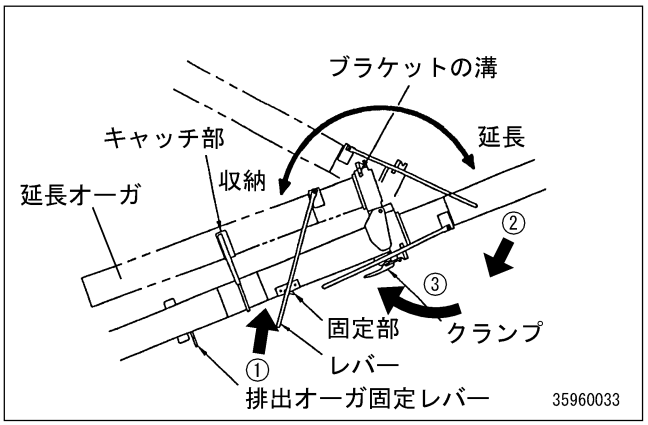
> ⚠注意 傷害事故防止のために
> ◆排出オーガの延長操作をする時は，平坦な場所に駐車し，エンジンを停止して，排出オーガが固定されていることを確認してください。
> ◆排出オーガを延長する時，オーガの内側に手を入れないでください。

「延長のしかた」

① レバーを固定部より外し，延長オーガを押し出します。

② レバーをブラケットの溝に差込み，オーガを右に回します。

③ 「延長状態」でクランプを掛け，「固定」します。



「折りたたみかた」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《入》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して排出オーガ固定レバーで固定して，「延長と逆順」に行います。

① クランプを「解除」し，レバーを押出して延長オーガを左に回します。

② レバーをブラケットの溝より外して手前に引いて，延長オーガをキャッチ部に入れ「収納状態」を確認します。

③ レバーを固定部に掛けて固定します。

2. 刈取り作業のしかた

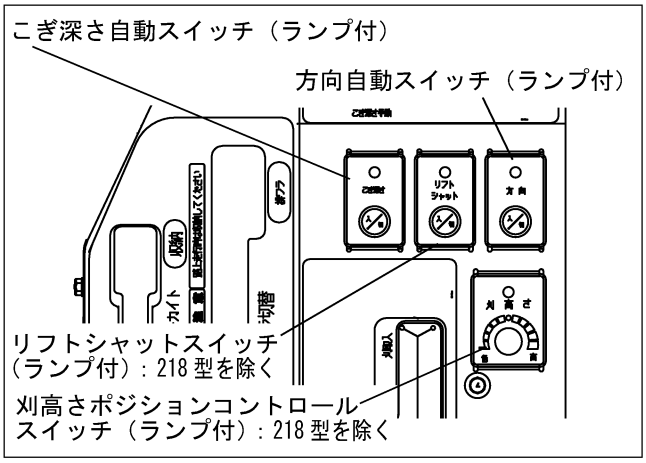
1. 刈取り操作の手順

各自動装置の取扱いは 自動装置について の項を参照します。

> ⚠警告 傷害事故防止のために
> ◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

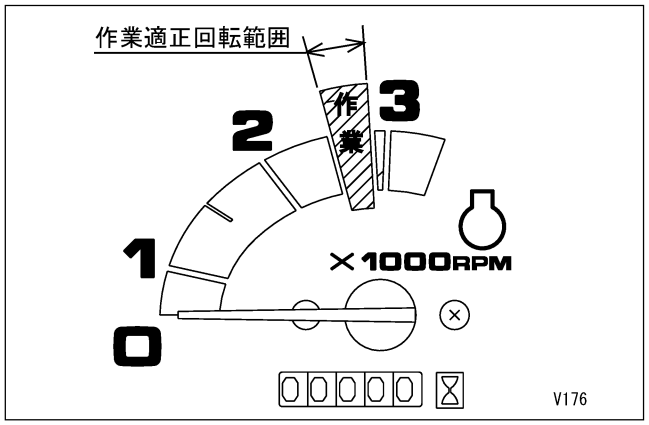
❷ こぎ深さ自動スイッチのランプが点灯していることを確認します。



❸ 刈取り条件に合わせ副変速レバーをセットします。（46 ページ参照）

❹ エンジン回転を調整します。

脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》位置に入れ，回転計の指針が**「作業適正回転範囲の上限」**になるように，エンジンコントロールレバーで調整します。



取扱いのポイント

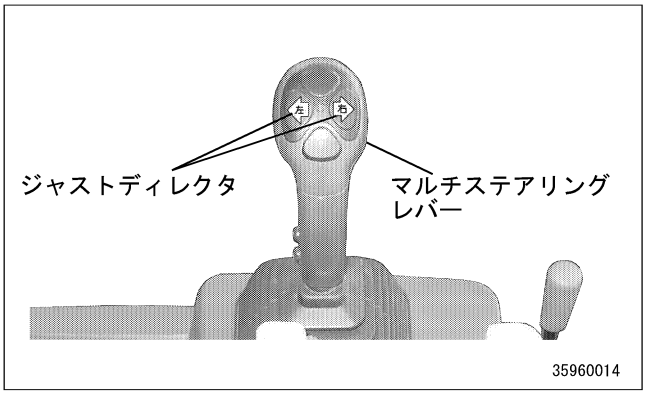
- 刈取り作業中は，「作業適正回転範囲」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジンコントロールレバーで作業速度を調整してください。
- 規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。
  走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します。

❺ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。（作業速度の選びかた 46 ページ参照）

❻ 方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

[A 仕様]

・方向自動制御を使用する場合は，**「方向自動制御の取扱い」**の項 66 ～ 67 ページを参照。

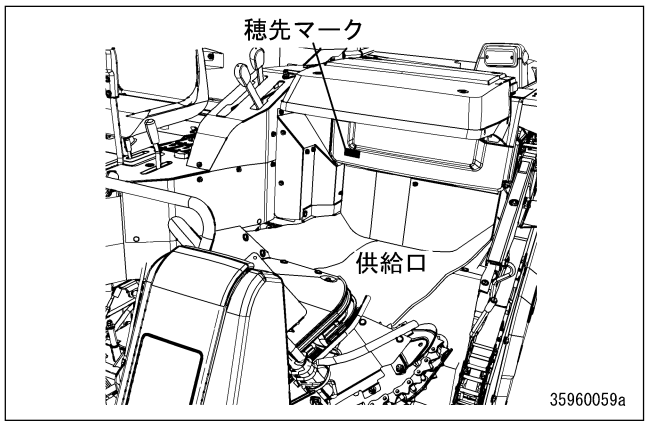


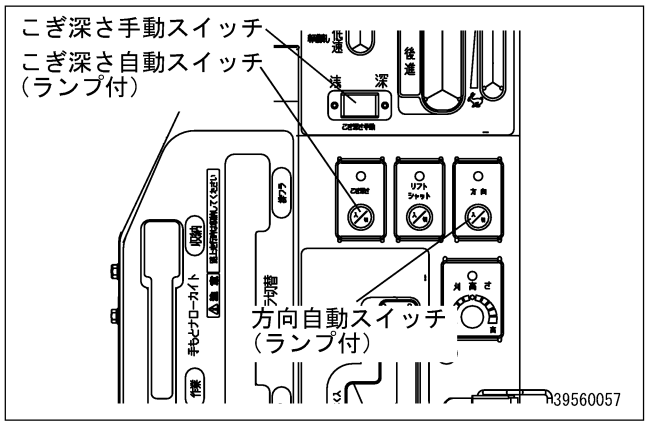
取扱いのポイント

- ジャストディレクタで方向修正を行うとスムーズに行えます。

❼ 適正こぎ深さの調整

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が**「穂先マーク」**の位置になるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。





取扱いのポイント

- こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項 65 ～ 66 ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。

❽ 作業中は，回転計の指針が，**「作業適正回転範囲内」**に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

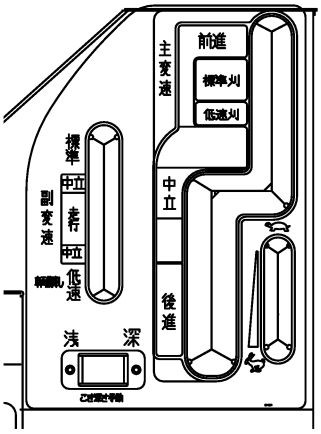
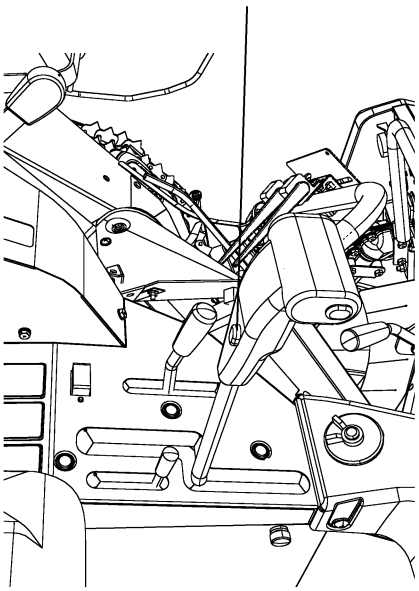
刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷ランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。（12 ページ参照）

取扱いのポイント

- エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報入切ボタンを押しても鳴り止みません。
  走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。

2. 作業速度の選びかた

・作業の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

No.	使用条件 (作物の状態)	変速レバー位置			
		副変速	倒 伏 スイッチ	主 変 速	各レバー略図
①	1.直立。 2.中倒伏の場合。	標 準	《切》	**「中立」**位置から発進してください。 標準刈取の範囲で刈取作業を行い，稈の搬送状態，およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。	 35960057
②	1.倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。	標 準	《入》		
③	1.全倒伏の場合。 2.周囲刈りで，低速作業をする場合。 3.稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。	標 準	《入》		
④	1.脱粒しやすい品種を刈取る場合。 2.倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。 3.根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。	標 準	《切》		倒伏刈スイッチ  35960060
⑤	1.④の2，3の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。	標 準	《入》		
⑥	1.路上走行 2.長距離の走行	走行	《切》		
⑦	1.積込み，積降ろし 2.あぜ越え	低速	《切》	**「中立」**から低速，エンジン2000回転程度	
⑧	1.集中注油	中立	《切》	**「中立」**から**「標準刈取」**	

3. 刈取部スライドの使い方 [2 条型]

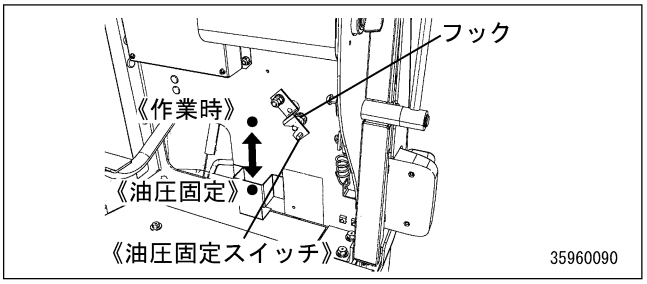
この装置は刈取部を左右に 18cm スライド（横移動）でき，刈取部を右側に移動することにより**「中割り刈り」**や**「あぜわき（左回り）刈り」**ができます。

> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆刈取部をスライドさせる時は，平坦な場所で行ってください。
>
> ◆刈取部をスライドさせた時は刈取スライド固定レバーで確実に《固定》してください。

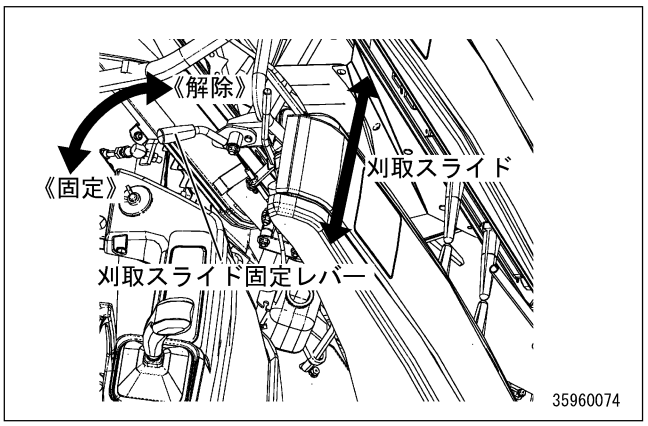
「刈取部スライド（横移動）のしかた」

❶ 駐車ブレーキをかけます。

❷ エンジンを始動し，刈取部をデバイダの先端で 10 ～ 15cm 程度上げて，油圧固定スイッチを**《油圧固定》**にし，フックをかけてエンジンを停止します。

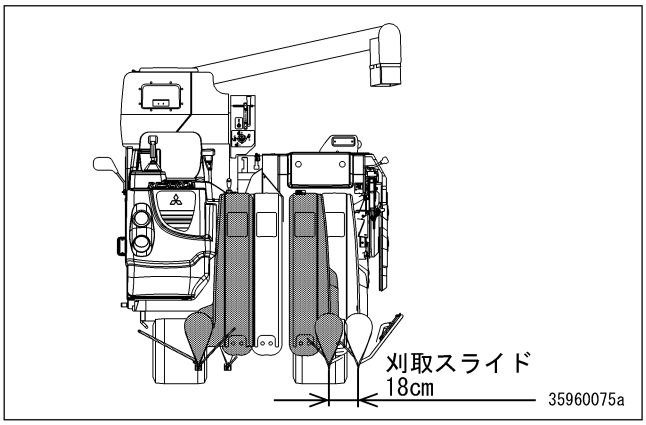


❸ 刈取スライド固定レバーを持ち上げると，刈取スライド固定レバーが**《解除》**方向に動き，刈取スライドの**《固定》**が外れます。
《解除》の状態で刈取部を左端または右端に手動でスライドさせます。



❹ 刈取部が右端または左端に移動したら刈取スライド固定レバーを離します。

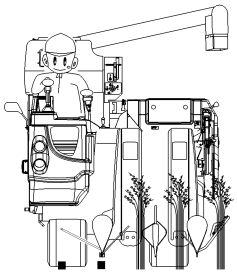
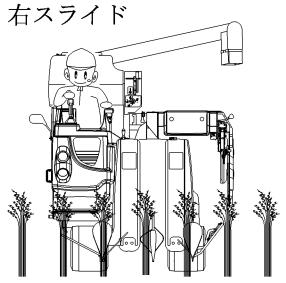
❺ 刈取スライド固定レバーが**《固定》**方向に動き，刈取スライドは自動的に固定されます。



取扱いのポイント

- 刈取スライドを作動させる前にこぎ深さ手動スイッチの《浅こぎ》側を押してこぎ深さを最も浅い位置にすると容易に動かすことができます。
- 刈取スライド固定レバーが《解除》しにくい時は，刈取部を少し揺らしてください。
- 刈取部が端に移動し，刈取スライド固定レバーが《固定》位置まで下がったことを確認してください。

「作業のしかた」

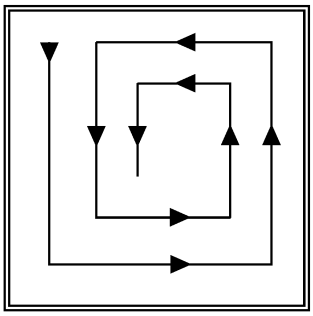
スライド位置	通常作業
左スライド（通常）  35960092	・通常の左回り刈り ・麦うね ・点検整備時
右スライド  35960091	・中割り ・あぜぎわ（左回り）刈り ・路上走行 ・トラック運搬

4. ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

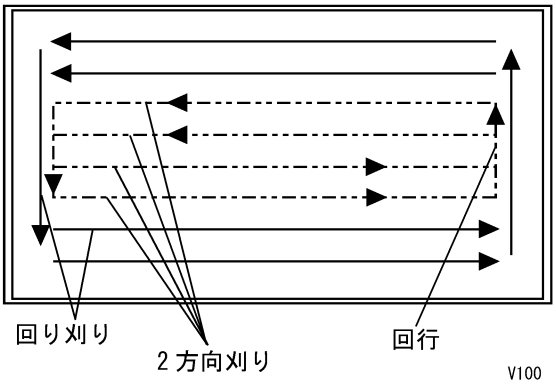
・このコンバインでの刈取りは，**「左回り刈り」**が基本です。
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

(1) 正方形に近いほ場



(2) 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

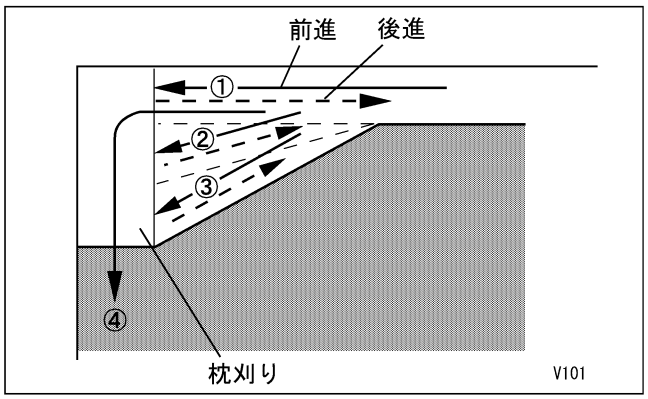


(3) あぜぎわ刈り

あぜの草等により，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

(4) コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

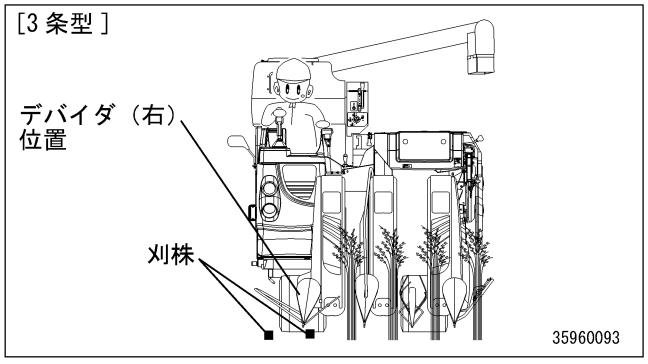


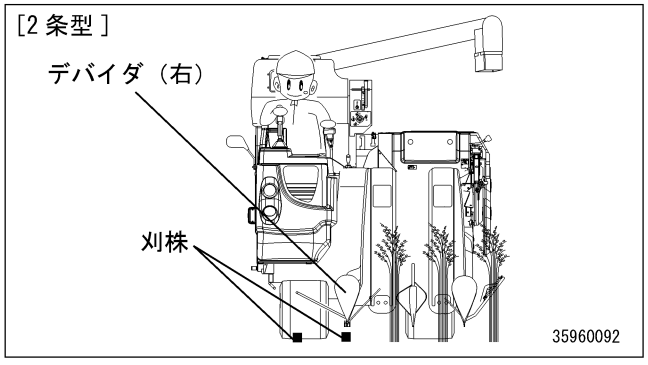
取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③ の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

(5) 条合わせ刈り

・デバイダ（右）を基準に**「左回り」**で刈残しのないように刈取りします。

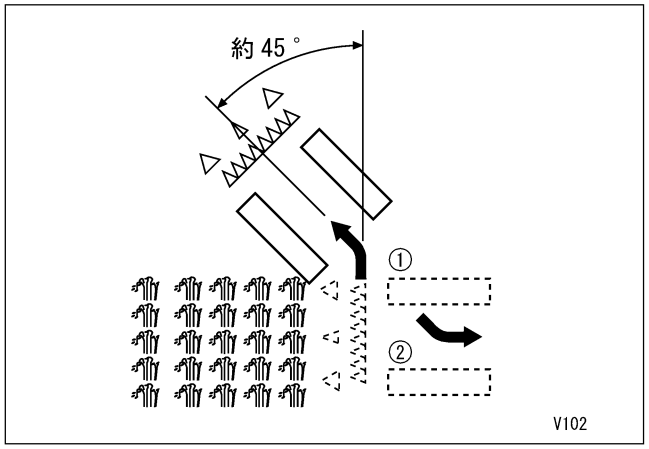




⑹ 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら，刈取部を 40cm 程度上げます。（デバイダでワラを引っ掛けない高さ）

1. 脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないで，エンジン回転はそのまま，連続作業の状態で旋回し，（湿田では大きく回ります。）左に「約 45° 」向きを変えて停止します。
2. 後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械がまっすぐになるように「条合わせ」をします。



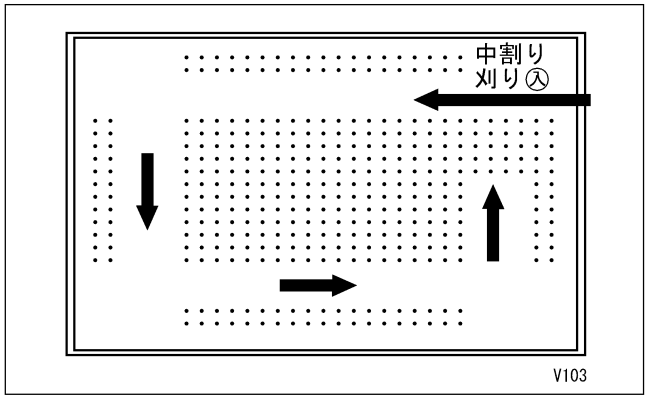
取扱いのポイント

- 旋回のときには，エンジン回転を下げたり，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

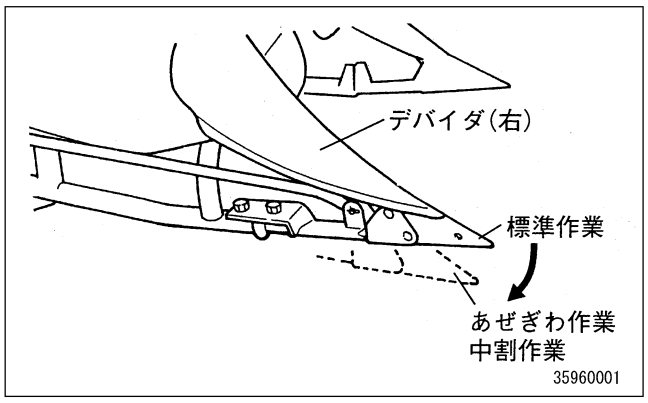
❷ 3 条型の中割り刈り

・あぜぎわ刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「中割り刈り」をします。

・中割り刈りは，「低速」で行います。



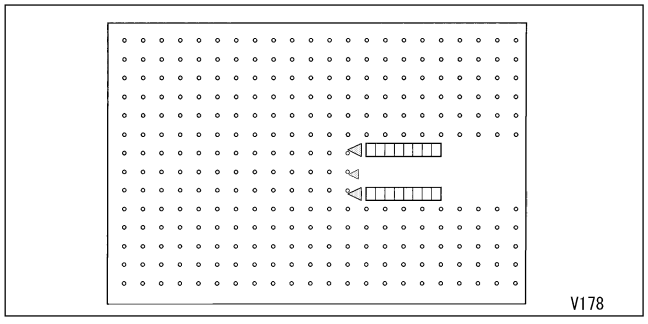
⑴ デバイダ（右）を，あぜぎわ作業，中割作業位置にセットします。



⑵ デバイダ（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ 2 条型の中割り刈り

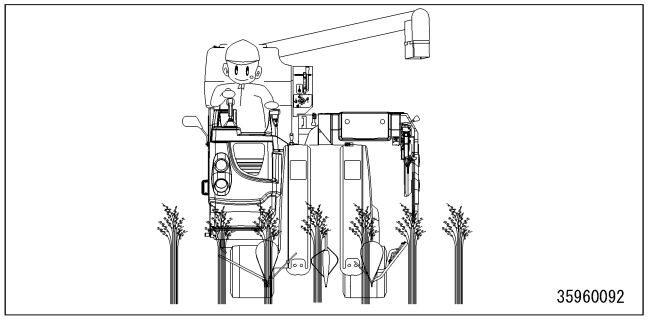
・広いほ場を能率良く刈取り作業を行う場合は「中割り刈り」をして分けて刈取ります。



⑴ 刈取部を「右スライド」させて固定します。

・補助モミ受台を折たたみます。［ホッパ仕様］

⑵ デバイダ（右）を刈取る株元の右側に合わせて刈取ります。



取扱いのポイント

- 倒伏した作物の，中割り刈りはさけてください。
- カッタ下部カバーを中割り位置にしてください。（P64 参照）

❹ 3条型のあぜぎわ刈り

(1) 回りのあぜが高く，あぜぎわまで植付けされているときは，あぜぎわ3条を残し**「中割り・左回り」**で刈取りをします。

(2) 残した3条を最後に**「右回り」**で刈取ります。

(3) あぜぎわを**「右回り刈り」**するときは,**「ナローガイド（左）」**を収納し,**「デバイダ（左）」**をあぜに突込まないようにします。

❺ 2条型のあぜぎわ刈り

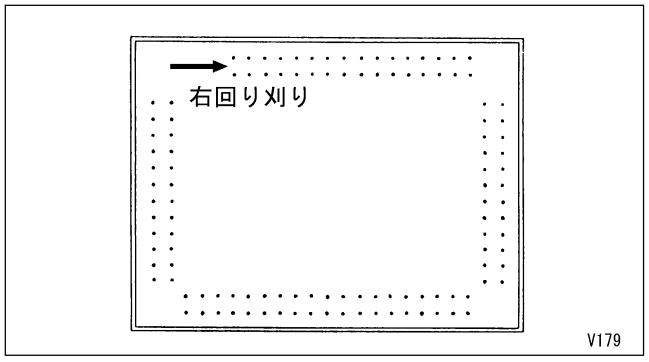
まわりのあぜが高く左回り刈りできない時，右回りであぜぎわを刈取ります。

(1) 刈取部を**「右スライド」**させ，あぜぎわの2条を残して**「中割刈り」**します。

(2) 中央部は刈取部を**「左スライド」**し**「左回り」**刈りします。

(3) 残した2条を最後に**「右回り」**で刈取ります。

(4) あぜぎわを**「右回り刈り」**するときは刈取部を**「左スライド」**させ,**「ナローガイド左」**を収納し**「デバイダ左」**をあぜに突っ込まないようにします。

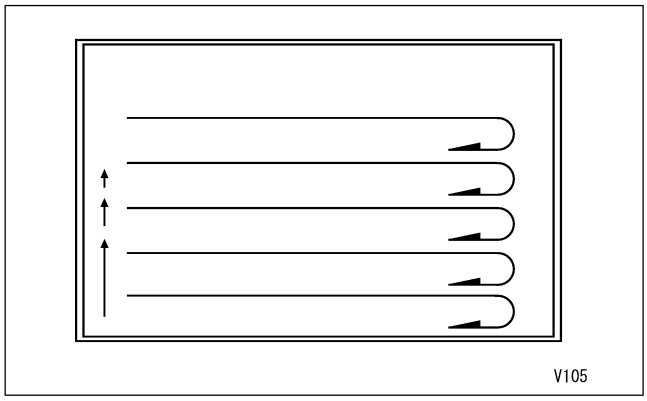


取扱いのポイント

- あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側2条を残して刈取り，最後に右回りで外側2条を刈取ります。
- あぜぎわ刈りの時は補助モミ受台を折りたたんでください。[ホッパ仕様]
- ナローガイドを収納してください。

❻ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて**「一方刈り」**を行います。



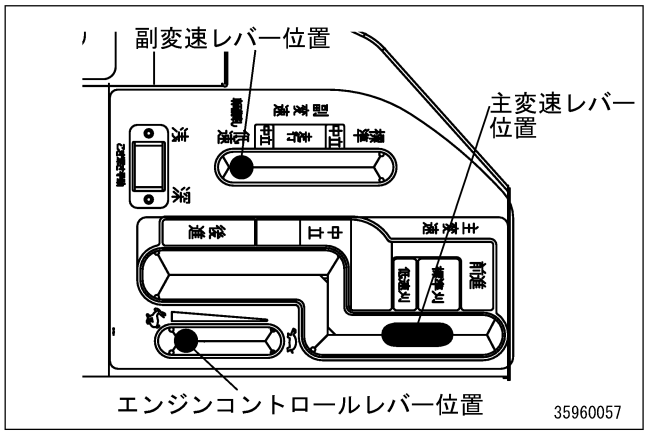
(1) **刈取り方向**

・倒伏した作物の刈取りは下および次ページの図表を参考にして行います。

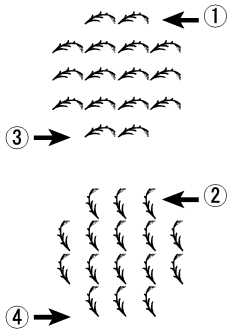
1. 中倒伏の場合は副変速**《標準》**で，倒伏している場所でのみ倒伏刈スイッチを**《ON》**にして刈取作業を行ってください。
2. 倒伏の場合は副変速**《低速》**で，倒伏刈スイッチは**《OFF》**で刈取作業を行ってください。
   ※中倒伏および倒伏とも，主変速レバーは，**《標準刈取》**の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。
3. ② 右倒伏刈りが困難なときは，**「④ 左倒伏刈りまたは･③追い刈り」**となるように**「一方刈り」**をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーが低速刈以下では搬送乱れが発生することがありますので，刈取り作業はしないでください。**

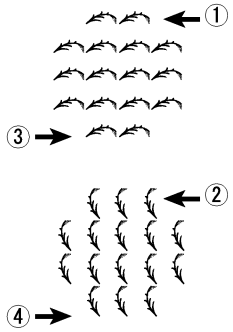


［方向自動を使用しないとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能
△ 走行速度を落として刈取り可能

［方向自動で刈取りするとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

⑵ スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

取扱いのポイント

- 倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。
- デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まり等の不具合につながることがあります。
- 倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。
- 倒伏した作物を刈取る際に，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業してください。

5. モミ袋の交換のしかた［ホッパ仕様］

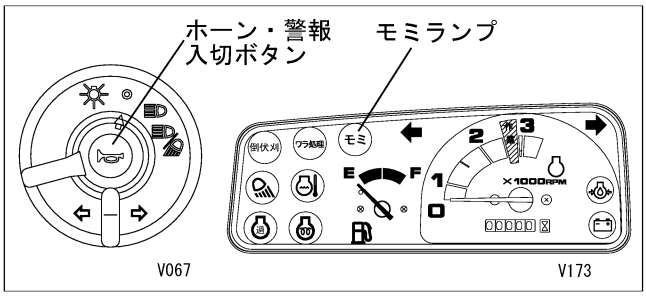
⚠注意

◆モミ袋の交換は機械を停止して行ってください。

❶ モミ袋の交換

(1) モミ袋が一杯になり，さらにホッパ内にこく粒がたまると，メインパネルのモミランプが点灯し，警報ブザーの「断続音」で警報します。

(2) 警報ブザーが鳴ったら，直ちにモミ袋を交換します。警報ブザーはコンビネーションスイッチのホーン・警報入切ボタンを押すと鳴りやみます。

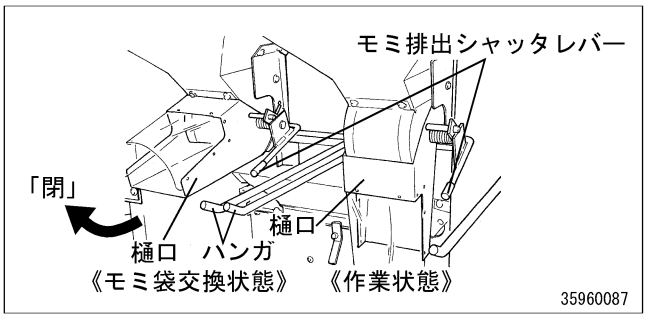


取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴った後もそのまま作業を続けますと，エンジンが停止します。
モミをモミ袋に排出し，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでエンジンの始動を行ってください。

❷ モミ排出シャッタ操作方法

モミ排出シャッタを「閉」にするには，樋口を手前に引き上げます。



6. こく粒の排出操作方法［グレンタンク仕様］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認して行ってください。

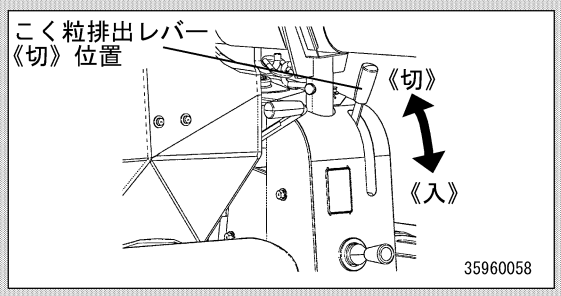
◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをする時は，グレンタンク内のこく粒を排出してください。

◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。

◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキレバーを《入》にして行ってください。

◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを《切》位置にしエンジンを停止してください。



◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングをフックに掛けて固定してから行ってください。

◆グレンタンク内にこく粒がある場合は傾斜地での移動はしないでください。

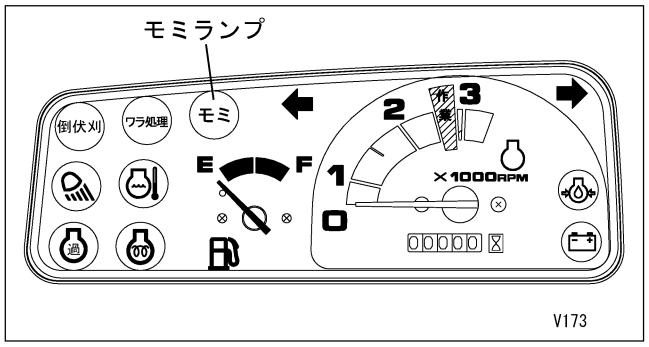
⚠注意

◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

❶ グレンタンクのモミ警報

(1) グレンタンクにこく粒が充満すると，モミランプの「点灯」と警報ブザーの「断続音」で警報します。

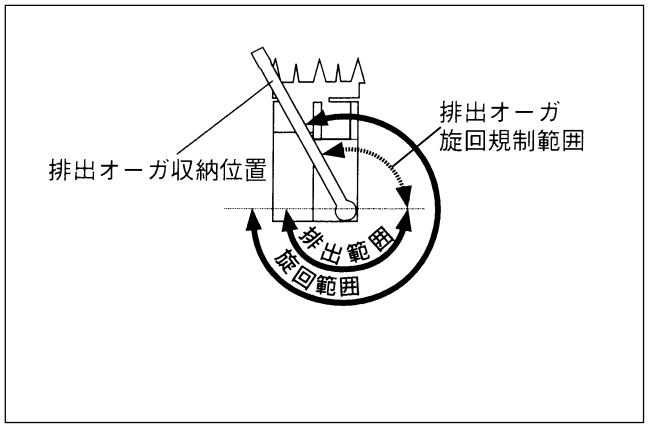
(2) 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報入切ボタンを押すと止まります。



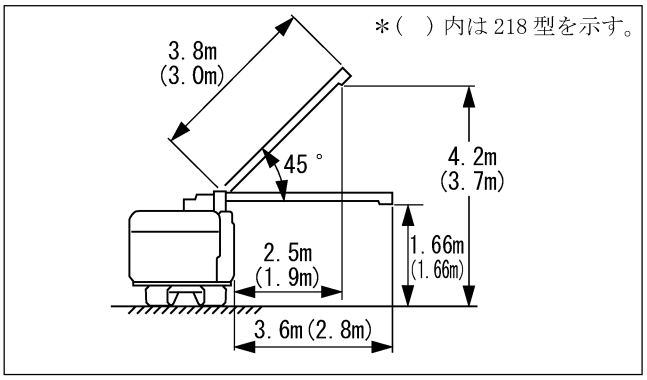
取扱いのポイント

- 警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けるとエンジンが停止します。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしないとエンジンの再始動ができません。

❷ こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《中立》位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

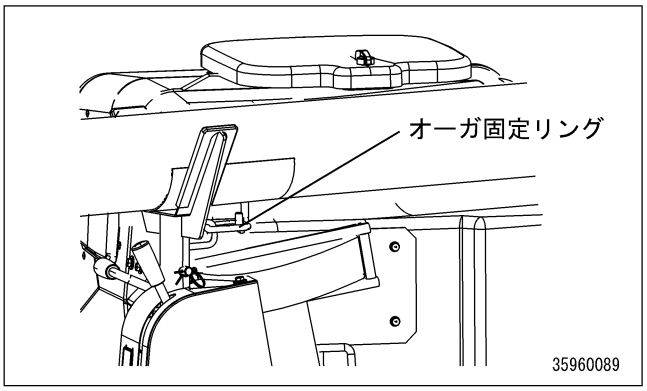


「排出オーガ高さと距離」



❸ こく粒排出操作手順

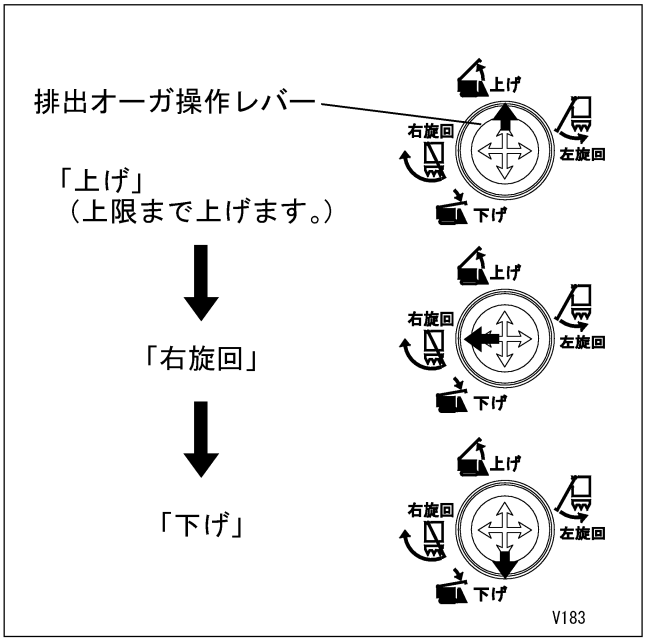
(1) 排出オーガ固定リングを外す。



(2) こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，「手動」と「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき

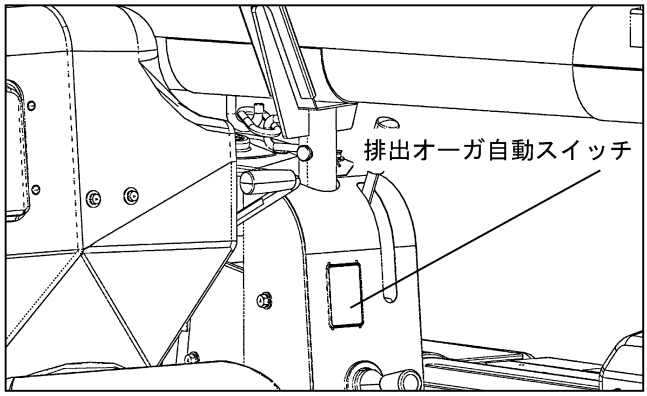


自動操作のとき ［排出時］

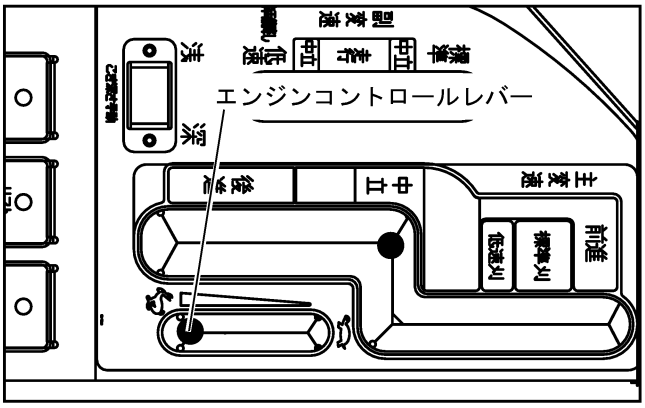
・排出オーガ自動スイッチを「押」す。

……自動旋回開始

→真後で停止→手動で高さを合わせる

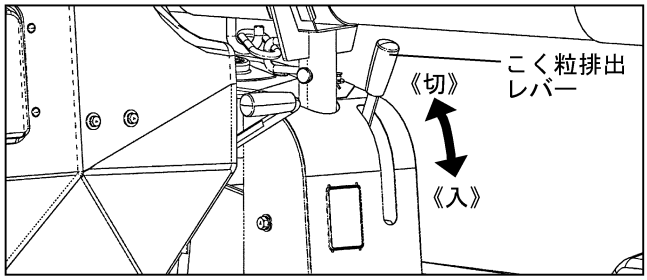


(3) エンジンコントロールレバーを「高速」セット



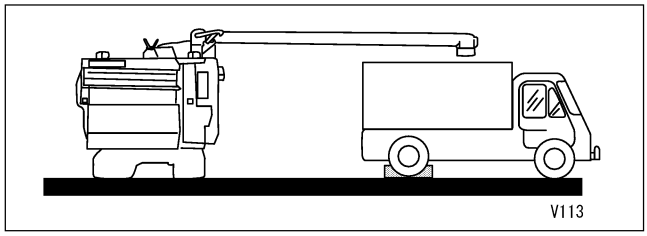
(4) こく粒排出レバーを「入」にする。

……こく粒排出開始



(5) こく粒排出レバーを「切」にする。

……こく粒排出終了



(6) エンジン回転を下げます。

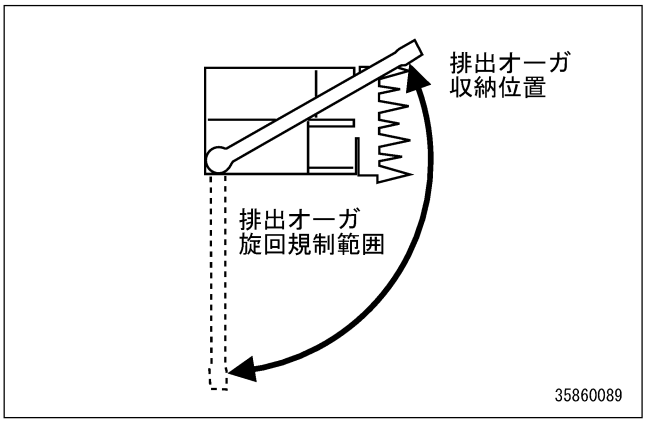
収納する場合,「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

(7) オーガ排出位置セットと逆の手順で収納します。

(8) 排出オーガの固定リングをかけます。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行ってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行ってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）しますので，旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガをいっぱい上げてから行ってください。
- 排出オーガ旋回規制範囲では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。
  また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



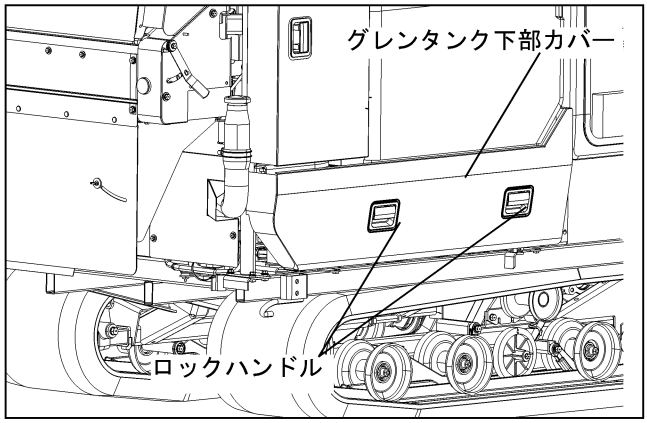
7. グレンタンク補助樋口の取扱い［グレンタンク仕様］

故障等により，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

⚠警告　傷害事故防止のために

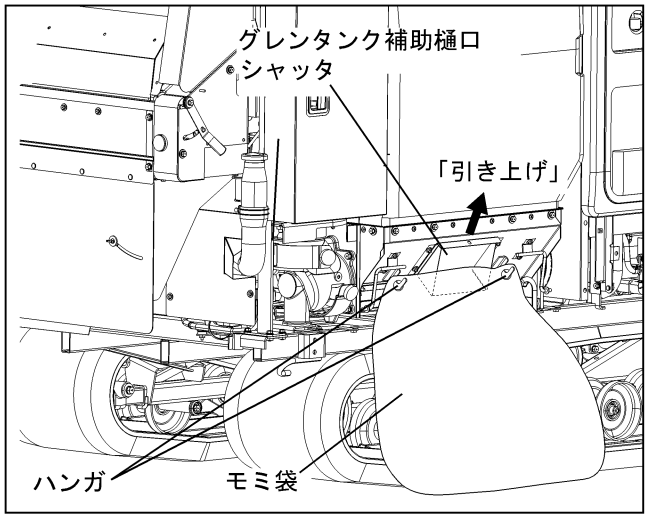
◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをする恐れがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーロックハンドルのロックを解除して，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付け，グレンタンク後部カバーを閉めます。

8. ニューツインハーモニー（２１８型は除く）

⚠警告　傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，フィードチェンが突然回転する恐れがあります。
脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてからエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆脱こく・刈取クラッチレバーが《脱こく入》位置でフィードチェンが回転しているときに脱こく・刈取クラッチレバーの《刈取 入》操作を行うと，刈取搬送がわずかの間作動する場合があります。
◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。
・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。

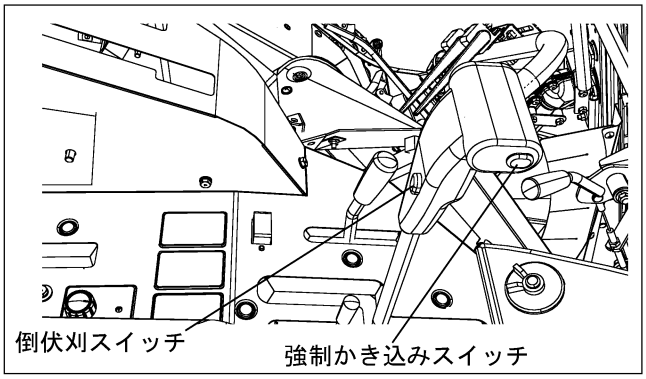
❶ 倒伏刈スイッチ

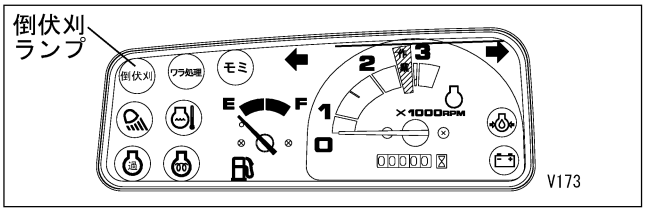
「入」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

「切」……再度押すと通常の状態に戻ります。

❷ 強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバー《刈取　入》位置のときに，走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。





取扱いのポイント

- 脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく　入》位置にしますと，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取　入》位置にしますと，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。（走行停止状態では刈取部および脱こくフィードチェン搬送は停止します）
- ほ場端等での刈り上げの際は，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。
- ほ場進入（機体前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取りすると，搬送がスムーズに行えます。

9. リフトシャットの取扱い（２１８型は除く）

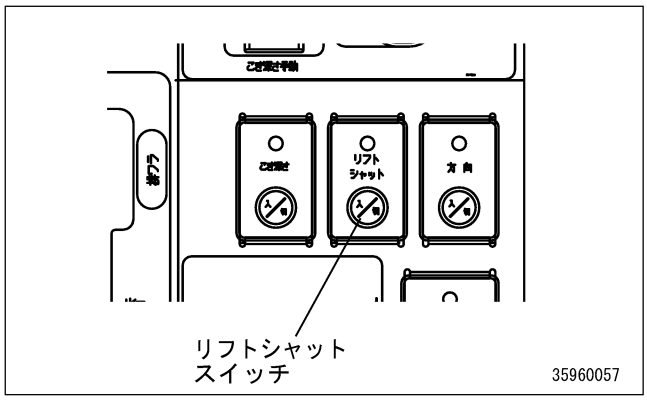
⚠警告　傷害事故防止のために

◆リフトシャット切替スイッチを《入》にして脱こく・刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押す時は，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャット切替スイッチを《入》にして刈取部を上げると，脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャット切替スイッチを《切》にすると，リフトシャットは機能せず，前処理の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく搬送部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《切》位置で使用します。

・手刈りのしていないほ場の回り刈り作業
・あぜ越え直後からの刈取り作業
・あぜぎわなどを高刈りする場合
・湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合

10. トルクリミッタの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

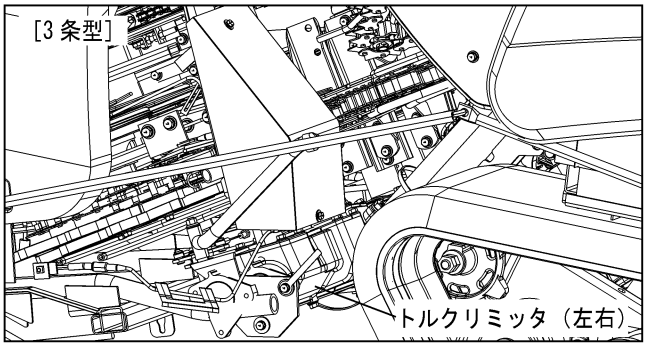
◆詰まり等の異常が発生した時に詰まったワラクズ等を取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジン停止して各部の回転が止まってから行ってください。

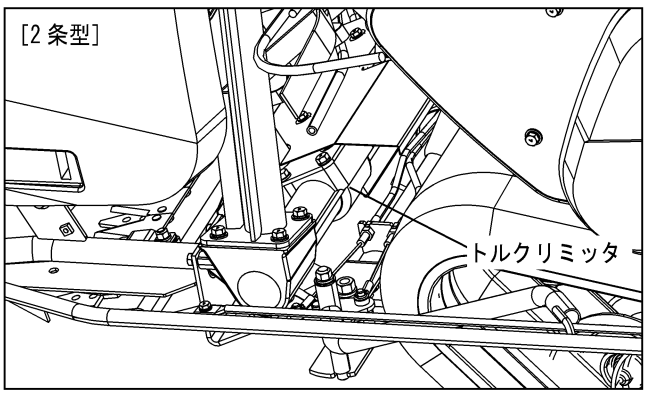
◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，油圧固定レバーをかけてください。さらに刈取部の下に「固定脚」等をかませて作業してください。

⚠注意

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に取外したカバーをすべて取付け，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生した時，機械の破損を未然に防ぐため，刈取部に**「トルクリミッタ」**が設けてあります。





❶ トルクリミッタの作動

	設置個所	トルクリミッタの作動
3条型	トルクリミッタケース（左右各1箇所）	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生した時
2条型	スターホイル（左）下部（スターホイルギヤケース内）	

❷ トルクリミッタの処置

(1) 作業中，刈取部および脱こく部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まり等）が発生した時は，**「トルクリミッタ」**が作動して搬送が停止します。

(2) ただちに作業を中止し，脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**位置にし，エンジンを停止します。

(3) エンジンを始動し，刈取部を上げ油圧固定スイッチを**《油圧固定》**位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部の下に**「固定脚」**をかませエンジンを停止します。詰まり個所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

(4) エンジンを始動し，主変速レバーを**《中立》**，副変速レバーを**《中立》**にし，エンジンコントロールレバーを**《🐢》(低速)**にし，脱こく・刈取クラッチレバーを**《刈取 入》**にします。主変速レバーを**《低速》**にし，搬送部が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

11. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 機械を走行しながらの手こぎ作業はしないでください。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にし，刈取部の作業停止を確認してから行ってください。
- 機械をワラクズの近くに止めないでください。(火災予防)

◆脱こく・刈取クラッチレバーは，周囲の人に合図してから《入》にしてください。

◆手こぎ作業するときは手袋を使用しないでください。

◆手こぎ作業は，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。

⚠注意

◆カッタの切ワラがたまったら作業を中断し，機械を移動するか，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

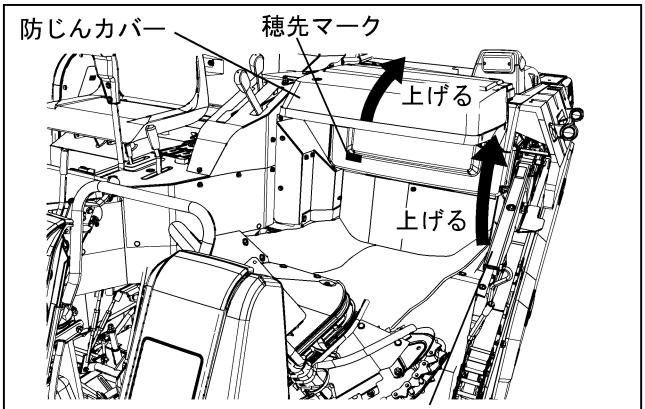
❶ 主変速レバーを《**中立**》にし，走行を停止し，駐車ブレーキをかけます。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「**深こぎ**」側に下げます。

❹ 防じんカバーを上方に開きます。[**A 仕様**]

❺ 入口ガイドを持ち上げます。([**2 条型**] のみ)



❻ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく 入**》にし，エンジン回転を「**作業適正回転範囲**」の上限にセットします。

❼ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

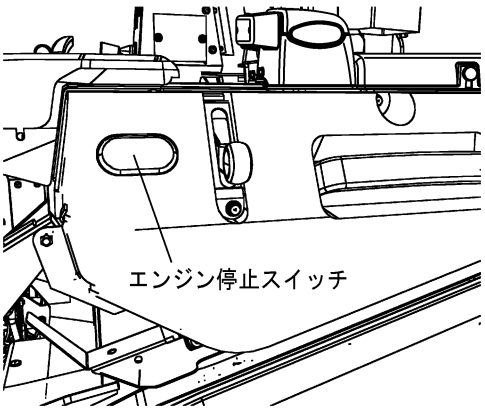
❽ 手こぎ作業が終わったら，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にして，入口ガイド([**2 条型**] のみ)，防じんカバー [**A 仕様**] を元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

- バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にすると，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
- 防じんカバー [A 仕様] を開いたままでこぎ胴部を開けると，防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。
- 脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》にすると，走行停止状態では前処理およびフィードチェン搬送は停止します。

12. エンジン停止スイッチの取扱い

このスイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中等に万一トラブルが発生したときは，このエンジン停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

- エンジン停止スイッチでエンジンを停止したときは，スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。
- エンジン停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。

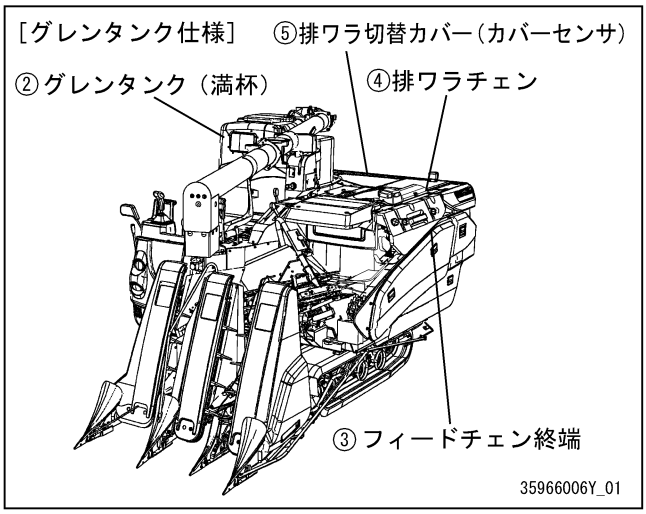
13. エンジン自動停止の取扱い

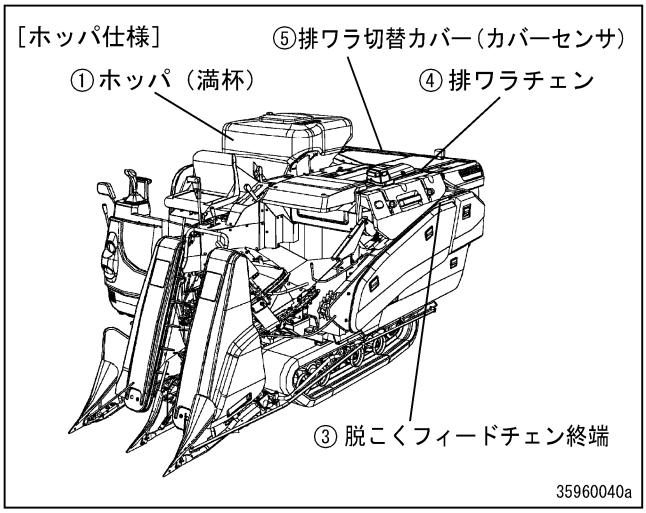
⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆詰まり等の異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。
- ◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，コンポアップ操作でこぎ胴部を持ち上げ，ストッパをかけてください。（103 ～ 104 ページ参照）
- ◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，カッタをオープンしてストッパをかけてから行ってください。（115 ～ 116 ページ参照）
- ◆詰まりを取除いた後の回転確認は全てのカバーを取付けて，こぎ胴部を閉め機械の周囲に人がいないことを確認した後，低速回転で確認を行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まり等）が発生したとき，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の個所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプまたはモミ処理ランプが点灯してエンジンが自動停止します。

① ホッパ（満杯）
② グレンタンク（満杯）
③ フィードチェン終端（詰まり）
④ 排ワラチェン（詰まり）
⑤ 排ワラ切替カバー（オープン）





❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にしてから詰まりを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，主変速レバーを《**中立**》（**前進側**）位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んでエンジンを始動します。エンジンコントロールレバーを《🐇》（**低速**）にし，刈取りクラッチレバーを《**入**》位置にして，主変速レバーを《**前進**》に操作し正常に回ることを確認してから作業を開始します。

14. 夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

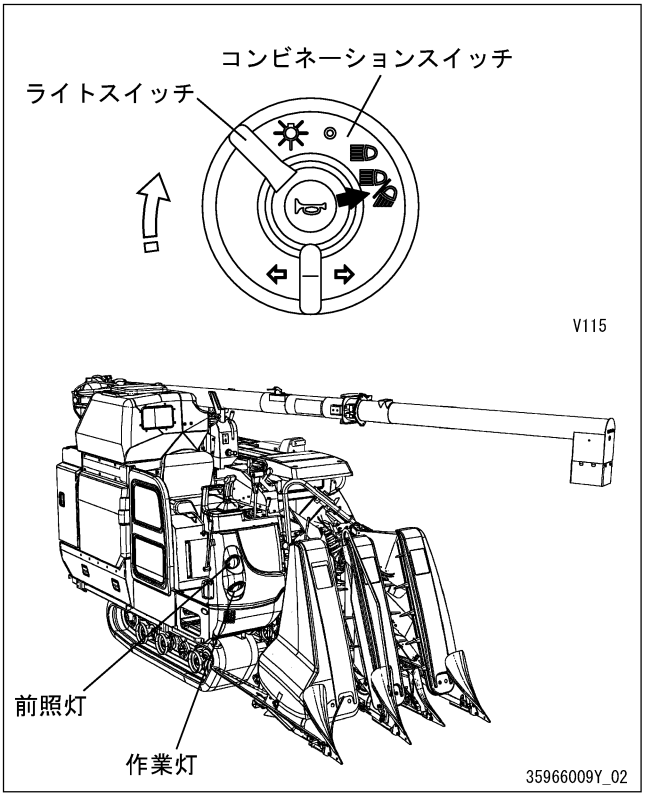
◆夜間作業を行うときは，前照灯，作業灯を点灯してください。

◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。

◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチで，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯し，２段回すと作業灯も点灯します。



取扱いのポイント

●アタッチメント部品（別売り）として，以下３点の作業灯を準備致しておりますのでご利用ください。

① オーガ先端部

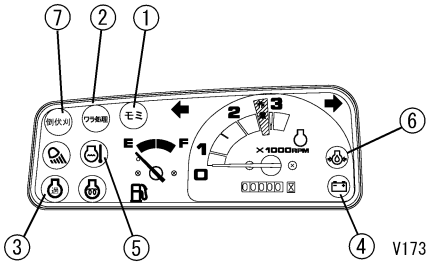
② 脱こく入口部

③ ホッパシャッタ部（ホッパ仕様）

15. 警報装置について

つぎの個所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常個所を確認して，つぎの処置を行います。

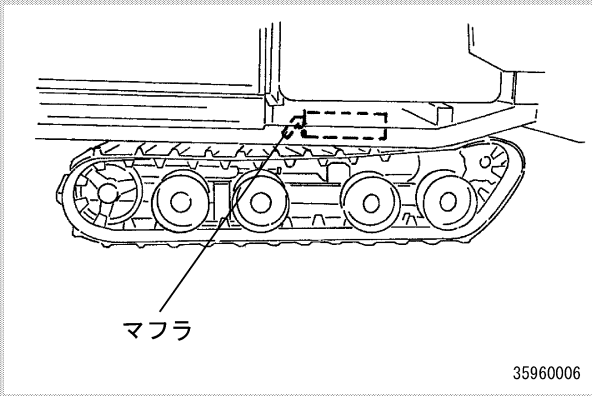


	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ブザー	エンジン			
①	モミ	満杯	点灯	断続音の断続	—	警報切入ボタン「押す」または脱こく・刈取クラッチレバー《切》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	11 52～54
				断続音の連続	ランプ点灯後60秒または20m走行後停止			
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《切》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	11 103～104
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	
		排ワラ切替板（オープン）					排ワラ切替板がオープンの状態です。切替板をカッタ，排ワラ作業状態にしてください。	116
		ノッタひも切れ	点滅		—		ノッタの結束ひもが切れているか、なくなっていますので点検します。	ノッタの取説参照
③	負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	—	走行速度を下げる	・走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	12,18
④	充電	充電不足	点灯	—	—	スタータスイッチ《切》	・スタータスイッチ《入》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジン止め，ファンベルト等を点検します。	11,139
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	「低速運転」中は断続	—	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	11,81 92,139
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	—	—	スタータスイッチ《切》	・スタータスイッチ《入》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	11,78
⑦	倒伏刈	刈取部またはフィードチェン部の詰まり	点滅	断続	停止	脱こく・刈取レバー《切》	・刈取部またはフィードチェン部にワラが詰まっていますので取除きます。 ・HST駆動モータ，HST回転センサの配線接続部の外れがないか点検してください。	11 59～60

16. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

◆機械をワラクズのたまった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。
◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**低速**》に入れて停止します。

❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油します。

取扱いのポイント

- 脱こく・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズ等がきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。
- 水洗いするときは，エンジンまわり，電気配線部，運転パネル部その他電装品および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

3. ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラ等の巻付きが発生，または異物が混入したときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタをオープンし，ストッパをかけてワラ等を取除いてください。

◆巻付き等を取除くときは，カマ等を使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

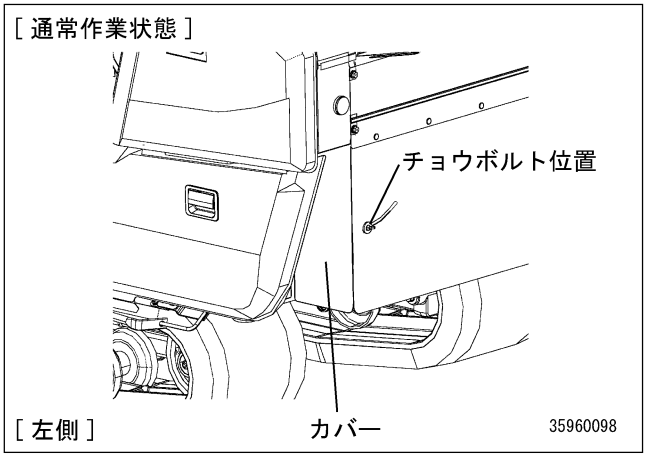
取扱いのポイント

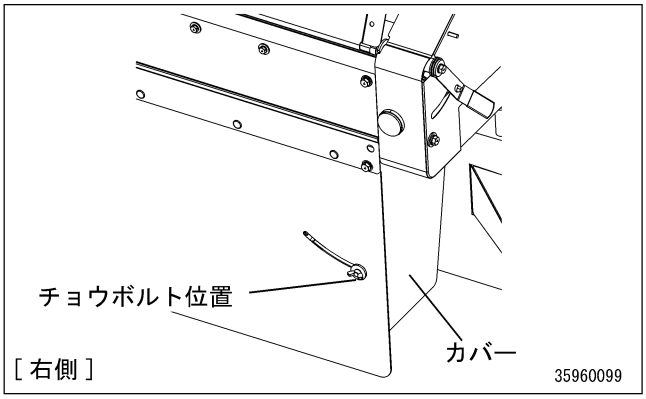
- 排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。
- 脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。
- 排ワラ切替レバーの操作が重くなってきた時は，エンジンを停止し，レール部に注油してください。(89 ページ参照)

1. カッタ作業

❶ 下部カバー（右）（左）を**「通常作業状態」**にセットします。

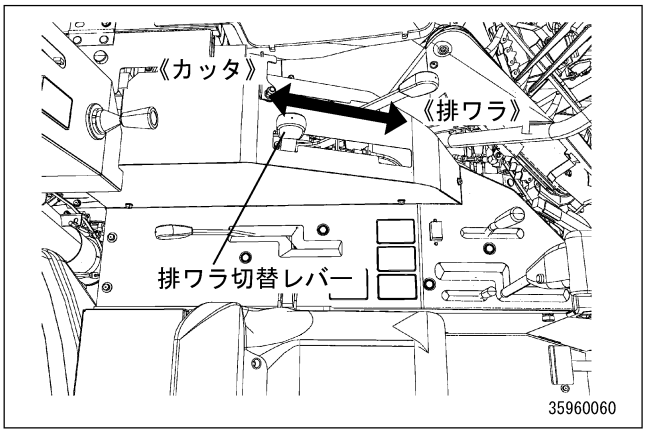
※工場出荷時は下部カバーが**「通常作業状態」**にセットしてあります。



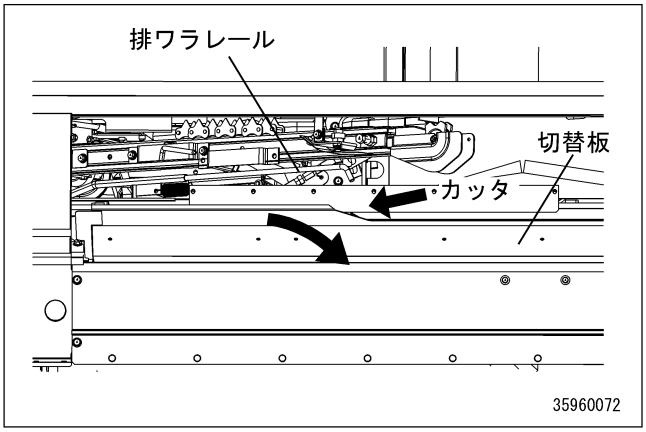


・各々のチョウボルトをゆるめて，カバーを開き（閉じ）チョウボルトを締めます。

❷ 排ワラ切替レバーを**《カッタ》**位置にします。



・排ワラレールが前方にスライドし，切替板が開いて，排ワラがカッタに入ります。



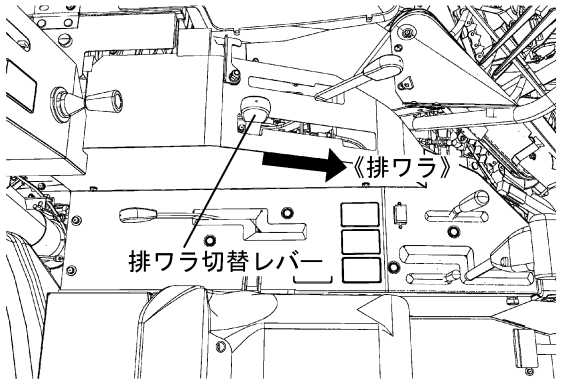
取扱いのポイント

- 刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行ってください。
- 倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50a（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。
- カッタの点検，掃除はカッタをオープンし，ストッパをかけてから行います。（オープンのしかたは，115 ～ 116 ページ参照）

2. 排ワラ作業

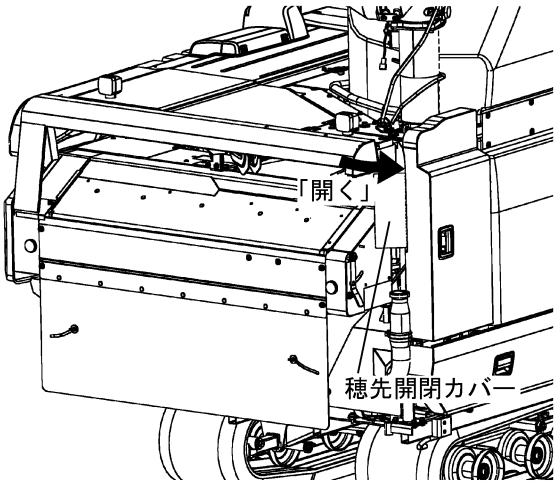
排ワラ作業には，① 脱こくされたワラをそのまま排出する作業，② 集稈（ドロッパ）作業，③ 結束（ノッタ）作業があります。

❶ 排ワラ切替レバーを《排ワラ》位置にします。



35960066

❷ 穂先開閉カバーを開きます。



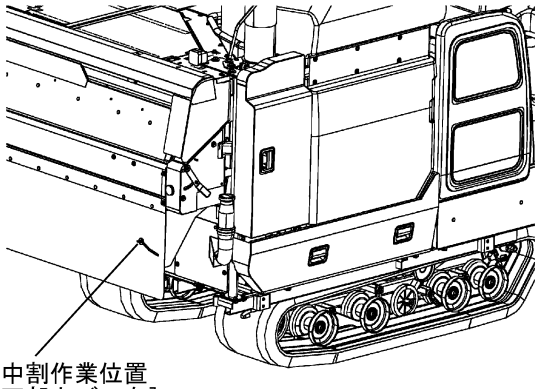
35960364a

取扱いのポイント

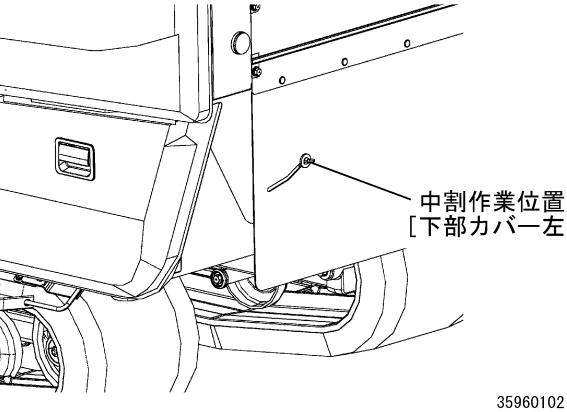
- ノッタおよびドロッパは別売です。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。

3. 中割り作業

下部カバー（右），（左）を中割り作業位置にして行ってください。



35960100



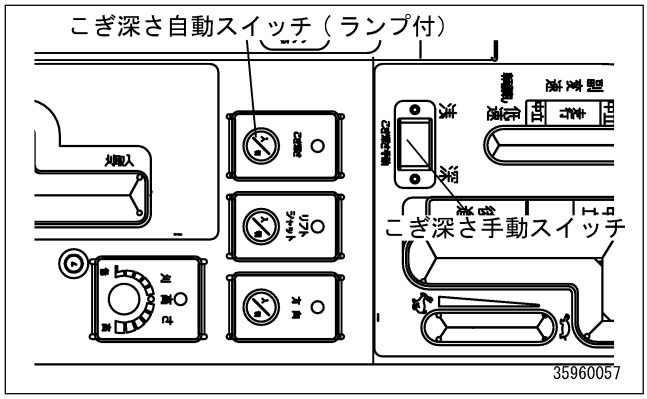
35960102

自動装置について

1. こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1. 運転装置

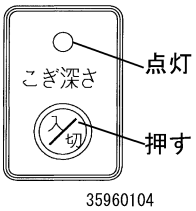


こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

・自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。

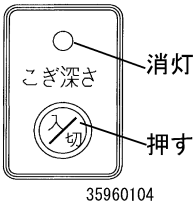
ただし，倒伏角 45° 以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除（**「切」**）してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶ こぎ深さ自動スイッチ



・「入」……

スタータスイッチを**「入」**にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。

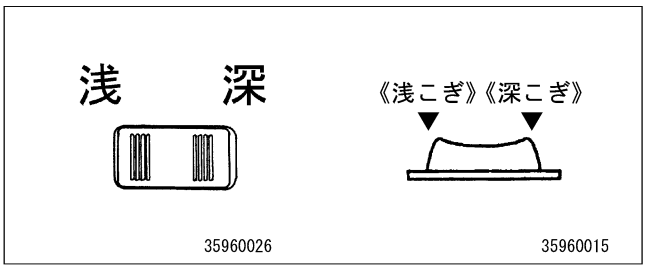


・「切」……

「入」の状態から再び押すと，ランプが消え，こぎ深さ自動制御は作動しません。

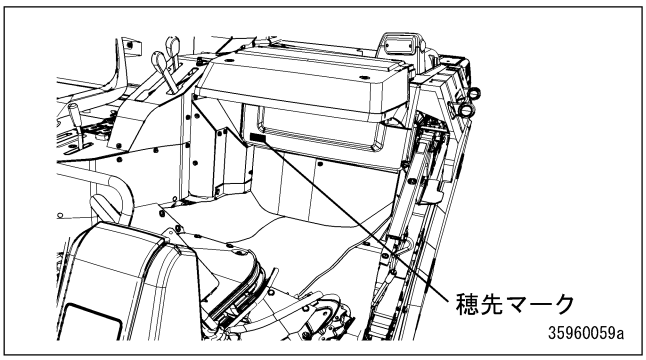
❷ こぎ深さ手動スイッチ

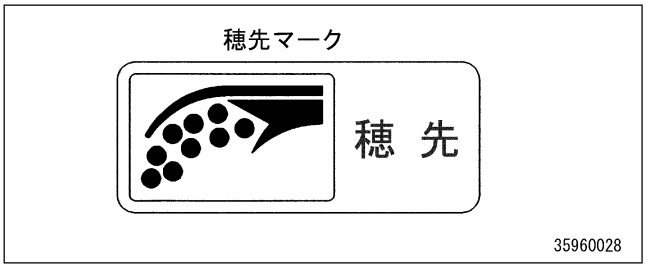
脱こく供給口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。



《深こぎ》……**《深こぎ》**側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……**《浅こぎ》**側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。





❸ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

●こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯しても，こぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2. こぎ深さセンサの調整

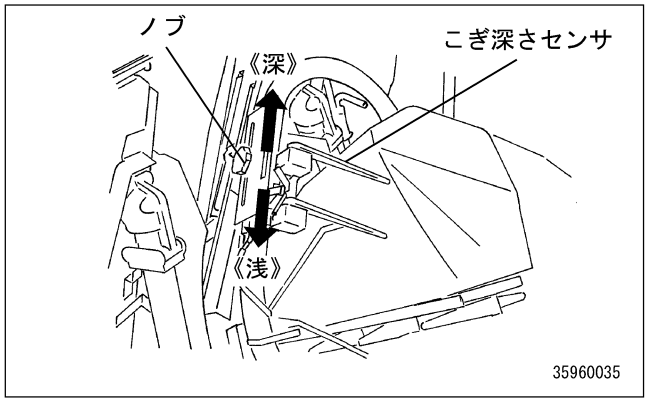
こぎ深さセンサは，工場からの出荷のときは**「標準」**（合わせマークの中央）の位置に調整してあります。

・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを**「深く」**したいときは，センサケースを**《深》**方向へ移動します。

こぎ深さを**「浅く」**したいときは，**《浅》**方向へ移動します。

・調整後は，ノブを確実に締めます。



3. こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを**「切」**（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

- **倒伏角 45° 以上の倒伏作物**
- **腐れ状態の作物**
- **雑草が多いとき**
- **作物の長さが極端に変動するとき**

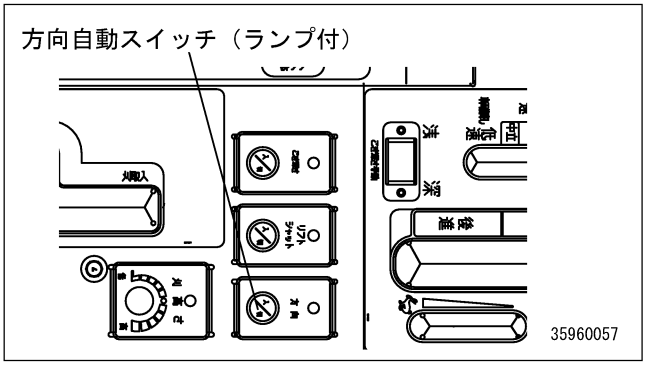
2. 方向自動制御［A仕様］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動走行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，自動制御は**「解除」**され，手動操作優先となります。

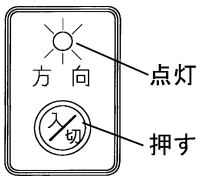
⚠注意

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1. 運転装置

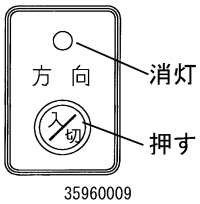


❶ 方向自動スイッチ



・**「入」**……

押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。



・**「切」**……

「入」の状態から再び押すと，ランプが消え，方向自動制御は作動しません。

❷ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

●方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2. 作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴ 方向自動スイッチを**「入」**（ランプ点灯）にします。

⑵ 機械が条列にまっすぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，**「手動優先」**で進路を変えることができます。

❸ 旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

この時に，方向自動スイッチを**「切」**にする必要はありません。

取扱いのポイント

●条合わせは機械が条列にまっすぐになるようにしてください。斜めになった時は，条外れすることがあります。

3. 方向自動制御の使えない条件

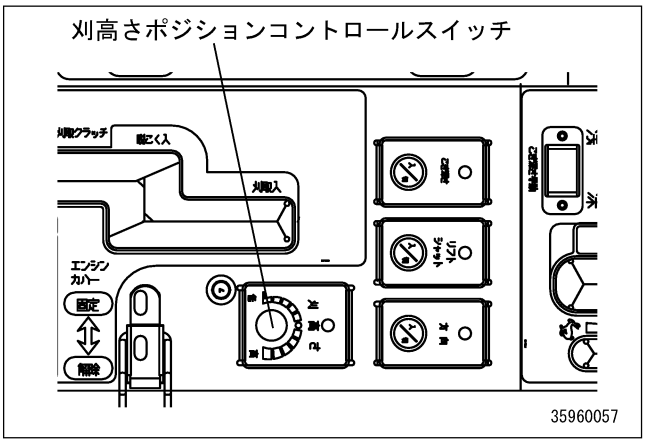
次の条件では,方向自動スイッチを**「切」**にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

・斜め刈り，横刈り，中割り
・あぜぎわ刈り
・雑草が多いとき
・バラまきほ場
・湿田
・条間および株間が極度に乱れているとき
・稈量が少ないとき
・欠株，孫株が多いとき
・植付条間が 28cm 未満の場合
・植付条間が 33cm を超える場合
・倒伏材は,**「作業のしかた」**の（50 ～ 60 ページ）を参照

3. 刈高さポジションコントロール

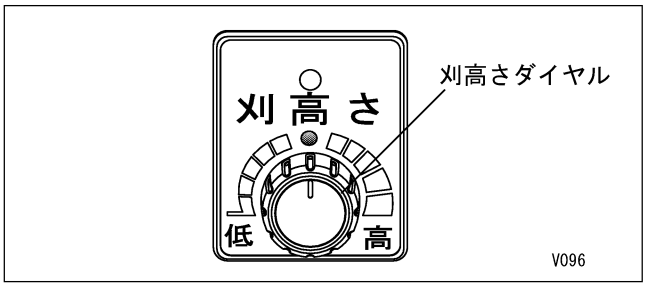
刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の高さを調節することができます。

1. 運転装置



❶ 刈高さポジションコントロールスイッチ

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの**「刈高さポジション」**を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常，《●》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，27 ～ 29 ページを参照します。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチ《切》のときは，刈高さポジションコントロールは使用できません。**
- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，刈高さコントロールを《切》で使用します。**

ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。

- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2. 自動での作業のしかた

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《低》の方向に，高く刈取るときは《高》の方向にダイヤルをセットします。

⑴ 刈高さダイヤルを《標準》位置にセットします。

⑵ 脱こく・刈取クラッチレバー《刈取 入》位置でマルチステアリングレバーを《下げ》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

⑴ 刈高さダイヤルを少し《低》側へ回します。

⑵ 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

⑴ 刈高さダイヤルを少し《高》側へ回します。

⑵ 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールランプが点灯しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》に操作しても，刈高さセット位置以下には下がりません。**

3. 手動での作業のしかた

刈高さダイヤル《切》で，ランプを**「消灯」**状態にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

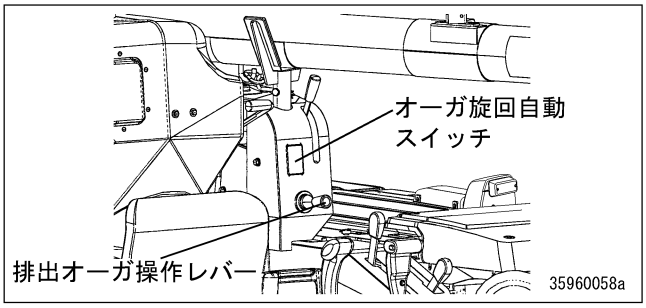
4. オーガ旋回自動制御
［グレンタンク仕様］

・排出オーガ旋回自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

⚠警告　傷害事故防止のために

- ◆排出オーガの運転操作は運転席から，周囲の安全をよく確認してから行ってください。
- ◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
- ◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
- ◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
- ◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ◆排出オーガ先端部にたまったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを「切」にして，エンジンを停止してください。
- ◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作レバーで排出オーガを操作してください。
- ◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，排出オーガ自動旋回スイッチ，排出オーガ操作レバーの何れかを操作して止めてください。
- ◆走行中に排出オーガを操作しないでください。こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで排出オーガを固定してから行ってください。

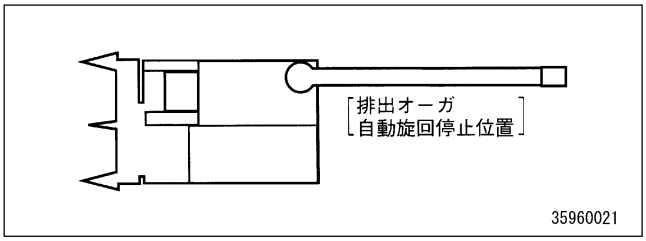
1. 運転装置



❶ オーガ旋回自動スイッチ

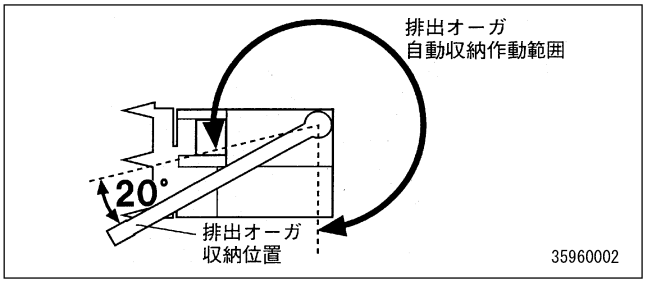


・「入」……押すとランプが点灯し，排出オーガは自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで旋回します。収納位置以外でスイッチを押すと，自動的に旋回収納します。自動収納後，ランプは消灯します。



取扱いのポイント

- ●自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。



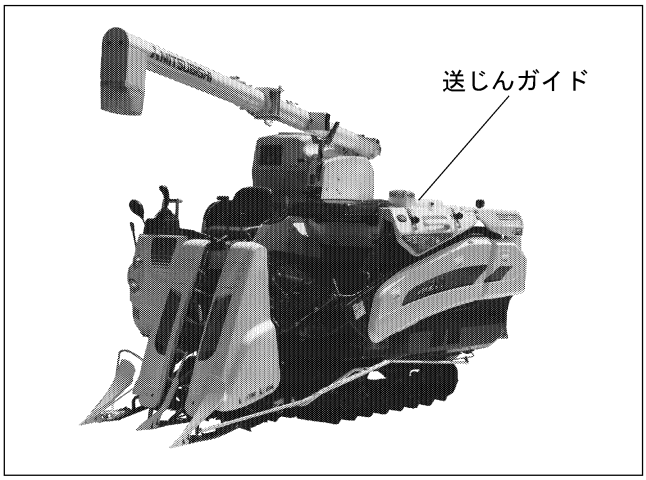
- ●自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを解除してから行ってください。
- ●スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。
- ●自動が故障のときは，排出オーガ操作レバーによって，手動で操作してください。

❷ ヒューズ

取扱い方は , 27 ～ 29 ページを参照します。

５．送じん量自動調節

・送じん量は《**標準**》位置で出荷しています。送じん量自動調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



取扱いのポイント

- ほ場や材料の条件に合せて，自動初期位置を変えることができます。
- モミに枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を手動調節することができます。

作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合	《多　い》
通常の刈取りの場合	《標　準》出荷位置
枝梗の付着が多い場合	《少ない》

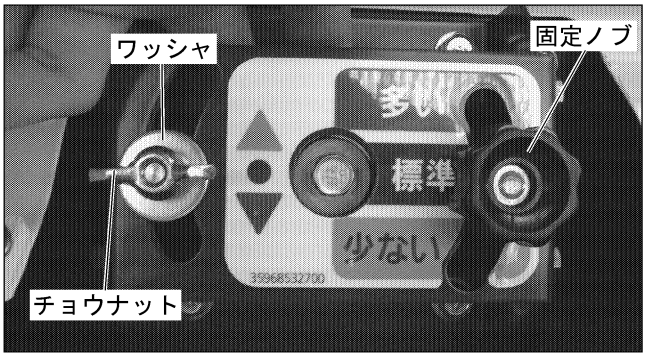
手動調節のしかた（送じんガイドの固定）

・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。

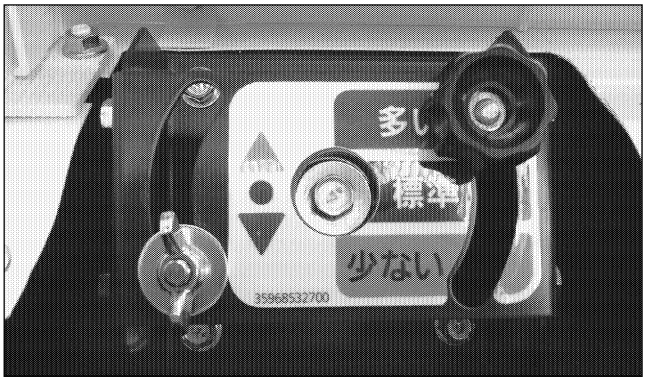
固定ノブを取外し，マーカーボルトを固定します。取外した側のボルトを付属品のチョウナットとワッシャで固定します。



送じん量調節位置を《**標準**》での固定位置



送じん量調節位置が《**多い**》のときの固定位置



送じん量調節位置が《**少ない**》のときの固定位置



手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ 点検・整備・掃除する時は平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回動が止まってから行ってください。
◆ 屋外でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。
◆ 取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

取扱いのポイント

●機械または部品等を破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処理について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは，
⑴ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
⑵ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
⑶ 廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買いあげ先」，または「産業廃棄物処理業者」等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1. 定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	300	400	500	600	格納時		
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●	●		●	●	●	●	●			78, 79
	エンジンオイルフィルタ	交換				●			●		●		●			80
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○										●		81, 82
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○	○						●			●			92, 93
	燃料フィルタ	点検・掃除・交換	○				○				●					93
	ラジエータ	点検・掃除	○	○		○								○		92
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○			○	○	○	○	●	○	○	●			☆ 139
	燃料ホース	点検・交換	○	● （110時間または2年毎で早い方）											燃料もれ点検	☆ 134
電装関係	バッテリ	点検・補給	○											○		95～100
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○										○	損傷の場合交換	☆ 95
	計器，スイッチ類	点検	○	○												9～15
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○			●				●						☆ 83, 84
	油圧オイルフィルタ	交換				●				●			●			☆ 83, 84
	油圧ホース	点検・交換	○												油もれ点検	☆ 134
	走行クラッチペダル・駐車ブレーキレバー	点検・調整	○			○	○		○	○	○	○	○			☆ 136
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●			●			☆ 82
	走行ベルト	点検・調整・交換	○			○				●			●	●		☆ 140
	脱こく・刈取りクラッチレバーおよびワイヤ	点検・調整・交換	○									● ワイヤ				☆ 137
	HSTオイルフィルタ	交換				●				●			●			☆ 83, 84
	クローラ	点検・調整	○	○												152
	ローラ，アイドラ	点検・調整・補給	○	作業後○		（グリスアップは50a（アール）作業毎，および格納時に行います。湿田作業をした場合は50aに満たなくても行います。）										87
	ブレーキシュー	交換	● （400時間または2年毎で早い方）													☆

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）												備考	参照ページ
			シーズン前	運転前	25	50	100	150	200	300	400	500	600	格納時		
刈取部	トルクリミッタケース[3条型] スターホイルギヤケースオイル[2条型]	点検・補給	○													86
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	●			☆ 145, 146
	株元搬送チェン（右）[3条型]	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●			●			☆ 147
	株元搬送チェン（左）[3条型]	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●			●			☆ 147
	こぎ深さ搬送チェン[3条型]	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●			●			☆ 148
	穂先搬送チェン, かき込み搬送チェン, 爪	点検・調整・交換	○	○	○	○	○		○	●	○		●			☆ 149, 150
	刈刃	点検・調整・交換	○	○		○	○		●		●		●	○		☆ 127～130
	集中注油タンク	点検・補給	○	○											エンジンオイル	90, 91
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○			●			●			☆ 137
脱こく部	脱こくギヤケース	点検・補給	○													84, 85
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給・交換	○			●				●						☆ 85
	脱こく入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆ 137
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆ 141
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆ 142
	排ワラ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆ 143
	搬送HST入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆ 144
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○		○	○		○	○	●	○	○			☆ 151
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○		○	○		○	○	●	○	○			☆ 151
	穂先排ワラベルト（突起付）	点検・調整・交換	○	○		○				●			●			☆ 143
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○											○		106
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○			○						●				☆ 134
	ワラ切カマ	点検・交換	○						●		●		●			131～133
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○									●		○		☆ 104, 105
	脱こく底板・こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○											○		107
	2番ラセンタッチ部	点検・掃除	○											○		106
カッタ部	カッタ刃	点検・交換	○	● （100時間ごと）												☆ 117～126
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○	○	○	○	○	●	○	○	●			☆ 142
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○													138
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○													88
	グレンタンク	点検・掃除	○											○		112
	こく粒排出ベルト	点検・調整・交換	○	○		○	○	○	○	●	○	○	●			☆ 138
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○	○	○	○	●	○	○	●			☆ 144
	縦ラセン筒上部, 下部	点検・掃除	○											○		113, 114

参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理）については**「お買いあげ先」**で行ってください。

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検」**および**「定期点検整備表」**に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。
・交換したオイルを廃却する時は，**「お買いあげ先」**に相談ください。

取扱いのポイント

●各給油個所には，指定オイルを規定量給油してください。
●廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。
●次表の容量は工場出荷時の数値です。
交換時は残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により容量を確認してください。
但し検油栓のない個所は全量交換してください。
●使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
●交換したオイルを，廃却する時は，「お買いあげ先」または，「産業廃棄物処理業者等」に相談して，所定規則に従って処理してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。
◆エンジンカバーを開いて点検等を行った後は，エンジンカバーを閉じて固定金具で固定してください。

⚠危険 ヤケドや火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料もれがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

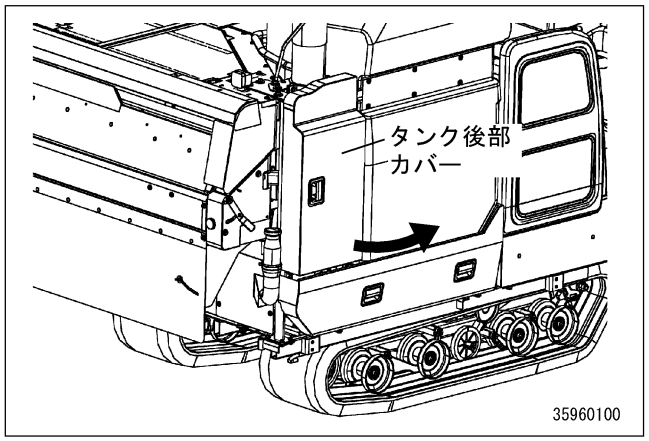
「給油・注油・給水表」

No.	個所	種類	種類		容量（L）			備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号	グレンタンク仕様	ホッパ仕様	218型	
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	—	—	25			JIS 2 号（−7.5℃まで） JIS 3 号（−20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼル車用エンジンオイル	CD級以上	10W−30	4.2		3.6	
③	ラジエータ（補助タンク含む）	冷却水（不凍液40〜45%含む）	—	—	3.9			北海道は，　不凍液割合45〜50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL−4以上	80W	5.7			
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL−4以上	10W−30	11			
⑥	トルクリミッタケース	ギヤオイル	GL−5以上	140	右側1.0 左側1.0			刈取搬送部左右各1ヶ［3条型］
⑦	スターホイルギヤケース	ギヤオイル	GL−5以上	140	0.25			［2条型］
⑧	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL−5以上	140	0.3	—	0.3	［グレンタンク仕様］
⑨	集中注油タンク	エンジンオイル			0.7			
⑩	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL−5以上	90	0.55		—	
⑪	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL−5以上	140	0.25		1.25	

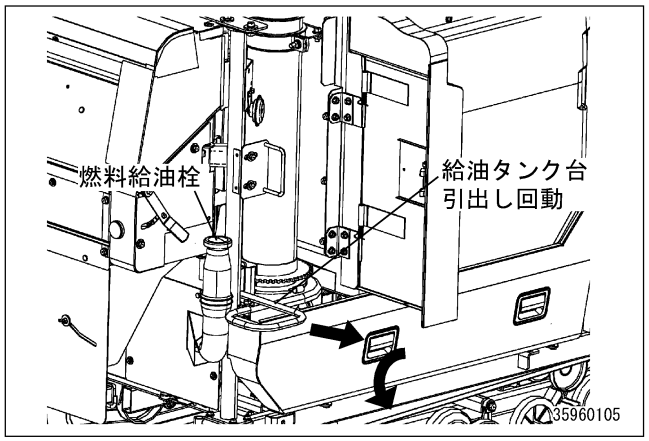
1. 燃料の補給

［グレンタンク仕様］

❶ タンク後部カバーを開けます。



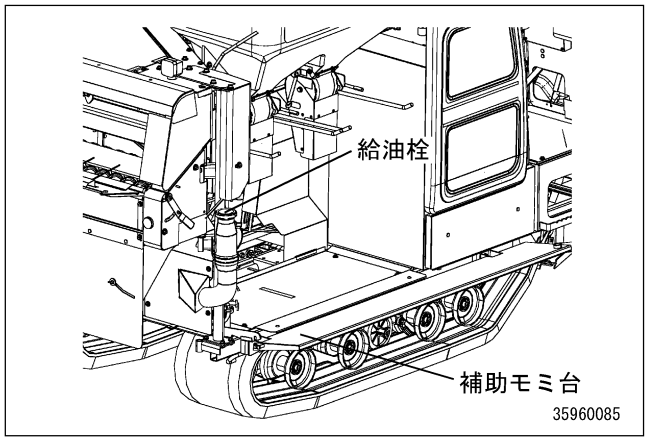
❷ 給油タンク台を引き出し向って左に回動して，補給用タンクの置き台として使用します。
燃料給油栓を外して，給油口から補給します。



❸ 燃料補給後は，元どおり給油タンク台を収納し，タンク後部カバーを閉じます。

［ホッパ仕様］

❶ 補助モミ台を補給用タンク置き場にし，燃料給油栓を外して，給油口から補給します。



・燃料……ディーゼル軽油
JIS ２号（－ 7.5℃まで）
JIS ３号（－ 20℃まで）
・タンク容量……25 L

取扱いのポイント

- 燃料はフィルタを通して，ゴミや水が混入しないように給油してください。
- 運転途中での燃料切れ，燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行ってください。（94 ページ参照）
- 燃料補給後は，給油栓を確実にしめて，タンク後部カバーを閉じてください。

2. エンジンオイルの点検・交換

❶ エンジンオイルの点検

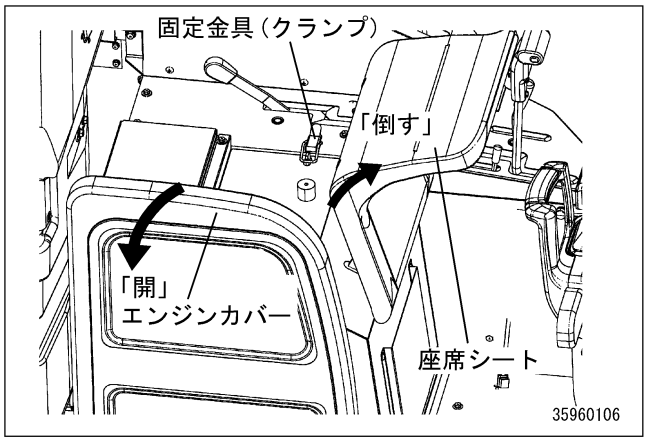
⑴ グレンタンク仕様はグレンタンクを回動（オープン）します。（101 ～ 102 ページ参照）

⑵ エンジンカバーを開きます。

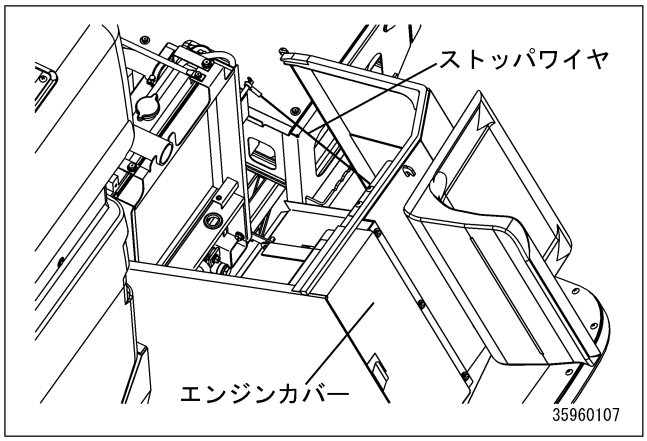
① 座席シートを前方へ倒します。

② 固定金具（クランプ）を外しエンジンカバーの固定を解除します。

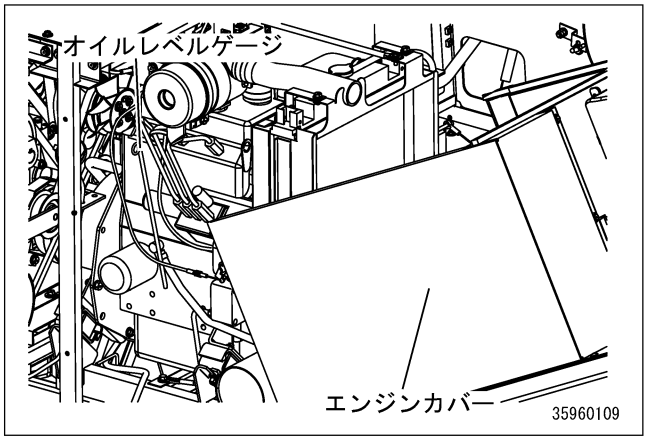
③ エンジンカバー端部を両手で持って，ゆっくり**「開」**方向に回動させます。

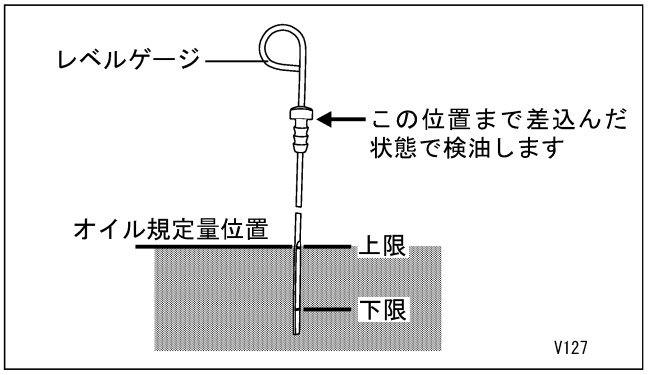


④ エンジンカバーが一定の位置まで開くと，ストッパワイヤによりそれ以上開かなくなります。



⑶ オイルレベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度一杯差し込んでから抜き，ゲージの上限と下限の間にオイルがある事を確認します。不足している時は，給油栓よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。さらに，油もれのないことも調べます。

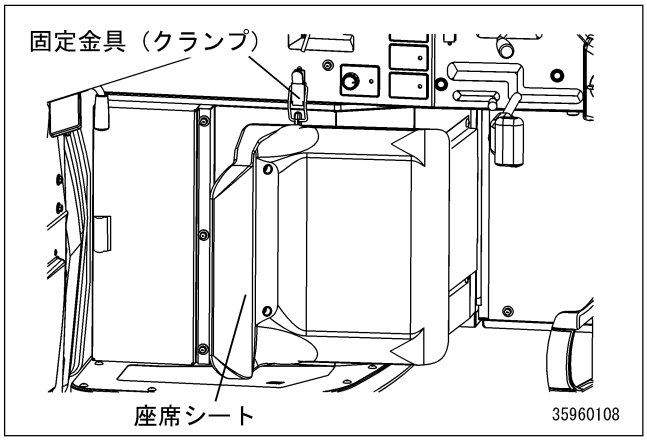




⑷ 点検後はエンジンカバーを閉じます。

① エンジンカバー端部を両手で持って持ち上げ閉じます。

② エンジンカバーを片手で押さえながら固定金具（クランプ）をロック（固定）します。



③ 座席シートを使用位置へもどします。

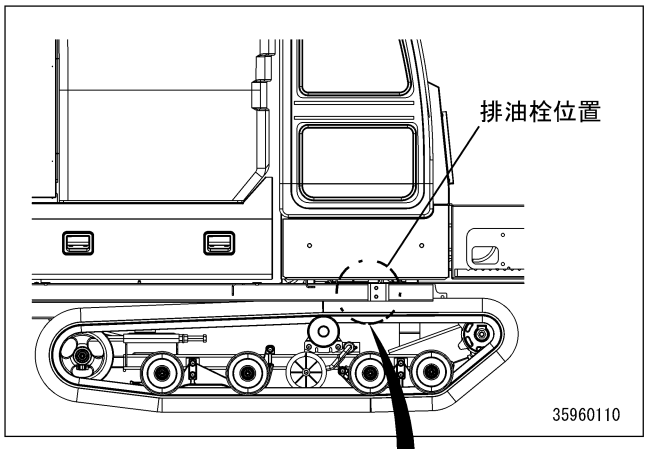
⑸ グレンタンク仕様はグレンタンクを元どおり閉じます。

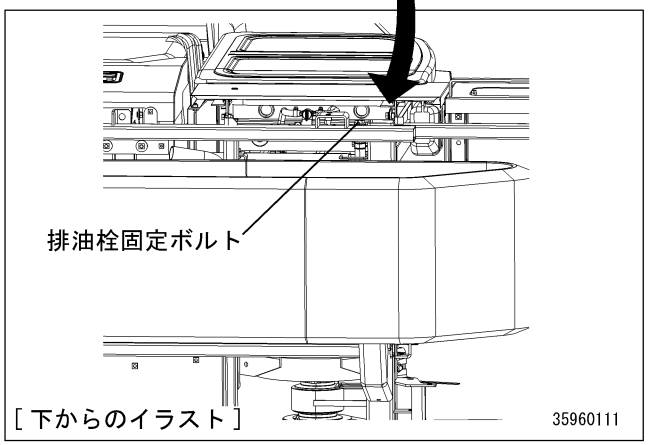
取扱いのポイント

- オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。
- 給油口からワラクズなどが入らないよう事前に周囲を掃除してください。
- 排油栓，給油栓，レベルゲージは確実に固定されていることを確認してください。
  また，エンジンカバーに固定金具（クランプ）をかけ，確実に閉じてください。

❷ エンジンオイルの交換

⑴ エンジンの給油栓を外し，排油栓固定ボルトを取外し，ホースを下向きにしてオイルを抜きます。





⑵ オイルを抜き終わったら排油栓を取付け，新しい**「ディーゼルエンジン用エンジンオイル」**を給油口よりオイルレベルゲージの刻み線上限（規定量位置）まで給油します。

- ディーゼルエンジン用エンジンオイル
  API・CD 級以上，SAE・10W － 30
- オイル量…… 4.2 L（218 型を除く）
  3.6 L（218 型のみ）

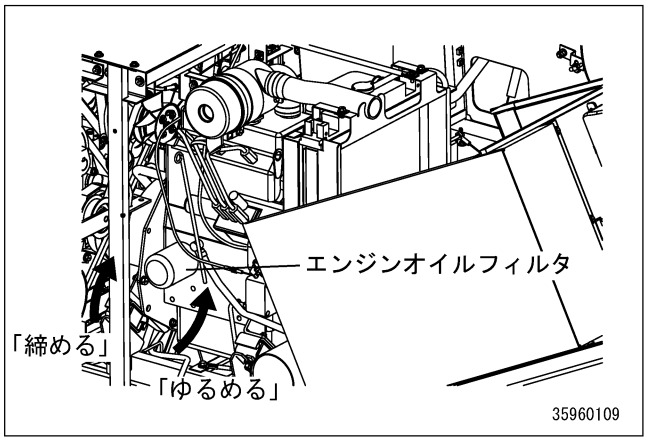
⑶ 給油口を取付けエンジンカバーを閉じてからエンジン始動しオイルインジケータランプが消えるまで低速回転で運転します。

取扱いのポイント

- エンジンオイルの交換時期は定期点検整備表に従ってください。

3. エンジンオイルフィルタの交換

❶ グレンタンク仕様は，グレンタンクを回動（オープン）します。（101 ～ 102 ページ参照）
エンジンカバーを開きます。



❷ エンジンオイルフィルタを**「ゆるめる」**方向に回して外します。

❸ 新しいフィルタと交換し**「締める」**方向に回して固定します。

❹ 交換後は元どおり，エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

- **オイルフィルタは「カートリッジタイプ」を使用していますので，購入のうえ交換します。**
- **オイルフィルタの交換は取外すための専用工具が必要です。「お買いあげ先」へお申し付けください。**
- **オイルフィルタを交換した時は，エンジンオイルフィルタの容量分オイル量が多く入るので，オイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足の時は規定量位置まで補給します。**

4. ラジエータ冷却水の点検・交換

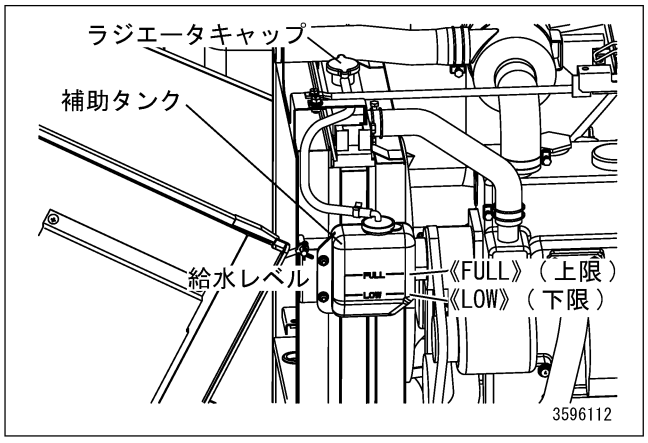
⚠警告　ヤケド防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「ヤケド」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，エンジンカバーを開き補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の中間」**にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

・ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

・補助タンクの**「給水レベルの上限と下限の中間」**位置まで給水します。

・冷却水……清水（水道水）

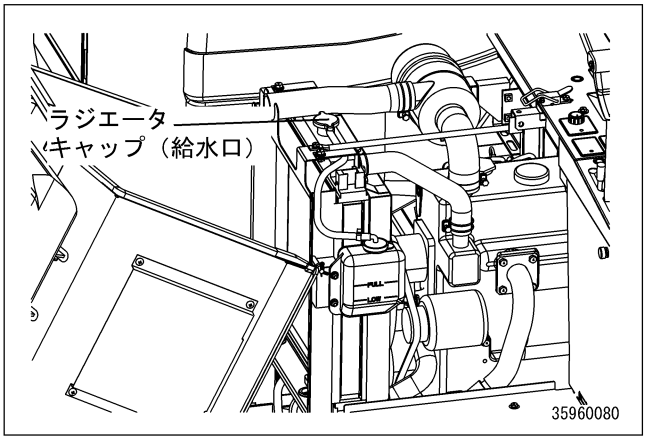
❸ 点検・交換後は元どおりラジエータキャップを閉めて，エンジンカバーを閉じます。

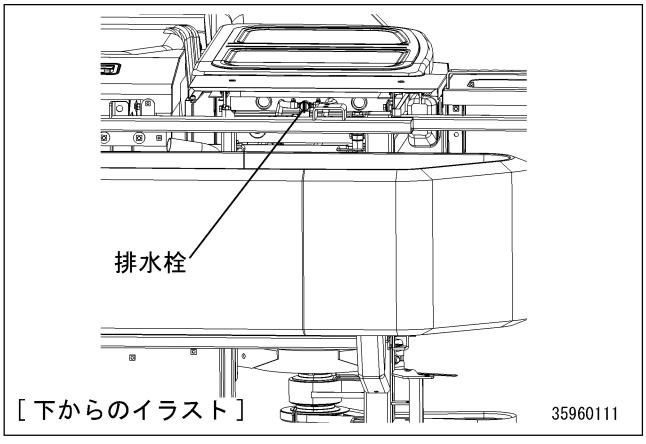
取扱いのポイント

- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出ます。**

❹ ラジエータ冷却水の交換

⑴ エンジンカバーを開き，ラジエータキャップを外し，ラジエータ下部の排水栓を外し排水口から排水します。





⑵ ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部に洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

⑶ 排水が終わったら排水栓を取付けます。

⑷ **不凍液の注入**

工場出荷のときは不凍液が注入され**「外気温度－25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，１年ごとに冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」(PT) を使用しますので「お買いあげ先」で交換してください。

⑸ ラジエータの給水口の口元一杯まで冷却水を給水したのちラジエータキャップを閉めます。

⑹ 補助タンクの給水レベルの上限と下限の中間位置まで給水します。

・エンジン冷却水系統内部の腐食を防止するため，冷却水に市販の防錆剤を添加して使用されるようおすすめします。

冷却水量・・・3.9L （補助タンク 0.5L 含む）

⑺ 交換作業が終わったらエンジンカバーを元どおり閉じます。

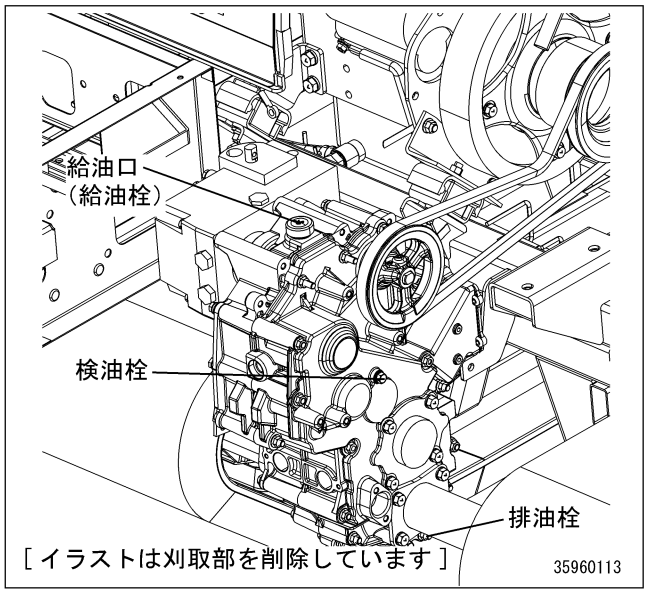
取扱いのポイント

●冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。

●不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」を行ってください。

5. トランスミッションケースのオイル点検・交換

・オイル交換は**「お買いあげ先」**にて行います。



❶ 点検

・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

❷ 交換

・ミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。

・給油するときは排油栓を締め，給油口より検油栓からオイルがでてくるまで給油します。

・ギヤオイル…API・GL －4 以上，SAE・80W

・オイル量…5.7 L

取扱いのポイント

●点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

●２条型の場合，刈取部を右スライドで固定し，こぎ深さを最も浅い位置にすると刈取部左側から点検，交換が容易に行えます。

6. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換

⚠警告　障害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部を下げ，排出オーガ［グレンタンク仕様］を収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

- **油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタを同時に交換を行います。**
- 油圧作動油量の点検，およびフィルタの交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。

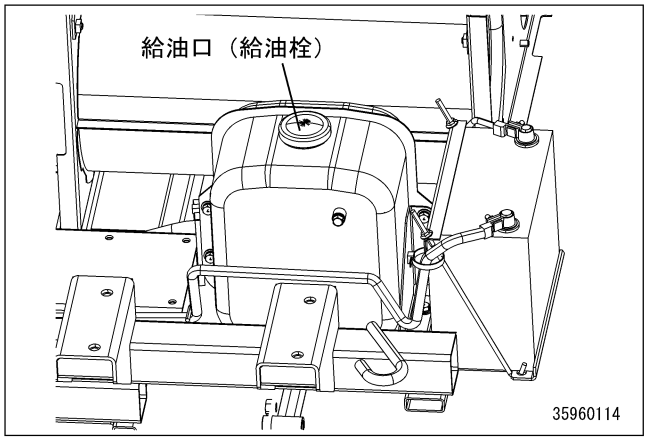
❶ 油圧作動油量の点検

- 脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
- 不足しているときは，給油口より補給します。

❷ 油圧作動油の交換

- **油圧作動油の交換と同時に，油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの交換を行います。**
- **油圧作動油…API・GL-4，SAE・10W-30**
- **オイル量…11.0L**

（10分程度運転後のオイル補充分を含む）

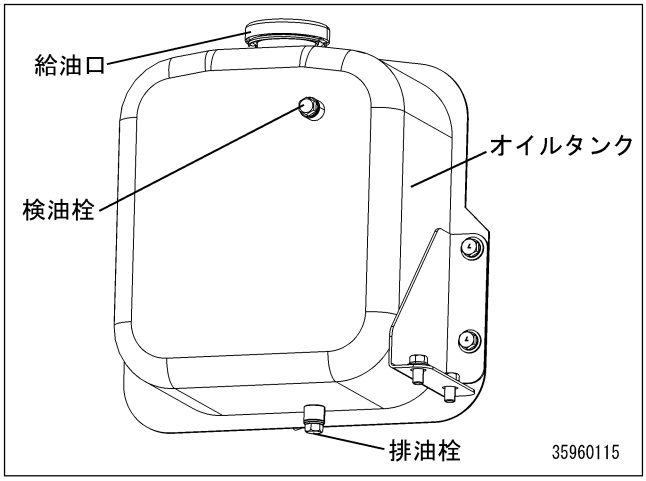


❸ 油圧作動油の抜取り要領

⑴ エンジンを始動し，刈取部を下げ，排出オーガを収納状態［**グレンタンク仕様**］にしてエンジンを停止します。

⑵ 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

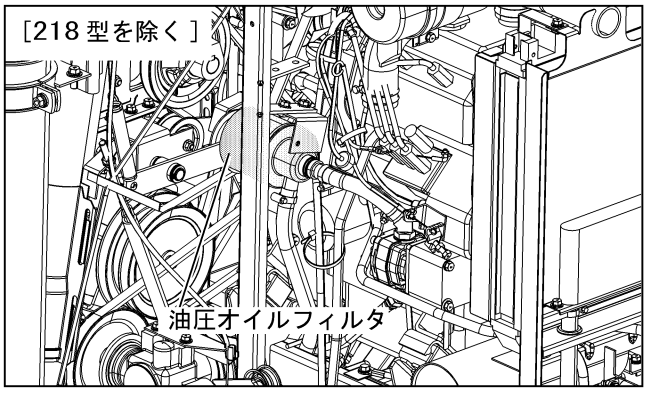
⑶ オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。

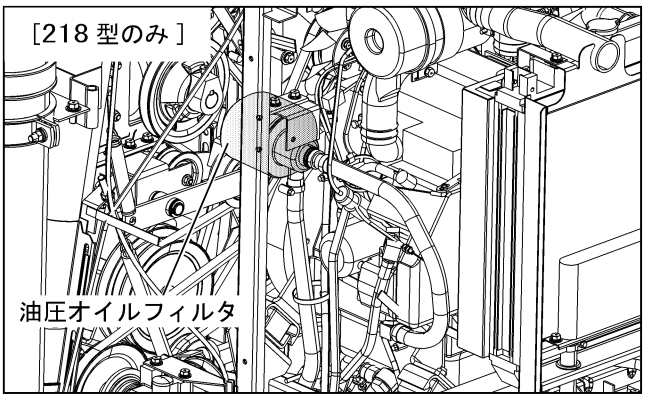


❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

⑴ 油圧作動油のオイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，購入のうえ交換します。

⑵ 油圧オイルフィルタは，運転席の左下側にあります。

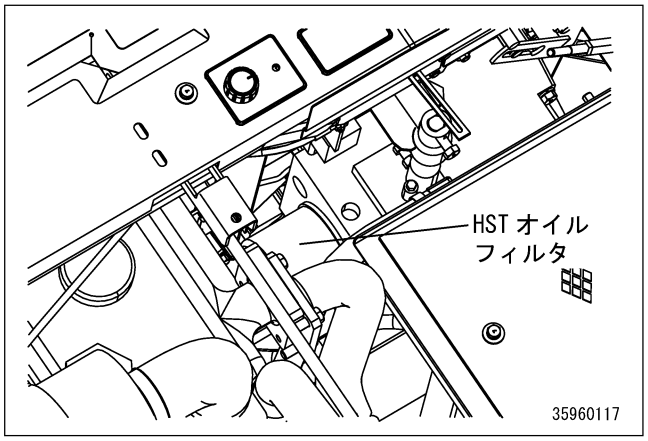




❺ HST オイルフィルタの取外し要領

⑴ HST オイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用しています。

⑵ HST オイルフィルタは，トランスミッションの右側に装着してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HST オイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除して，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

⑵ 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから 2/3 ～ 3/4 回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口の周辺をあらかじめ掃除して，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ オイルタンクの給油口より，タンク右側の検油栓からオイルが出るまで給油します。

⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で 10 分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

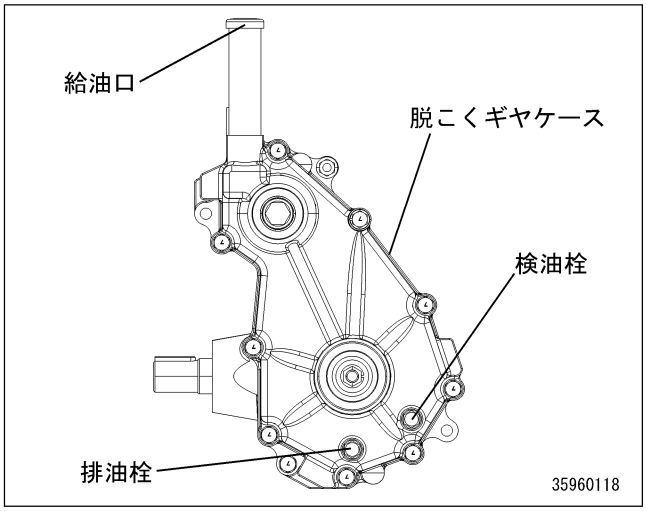
7-A. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換（218 型を除く）

オイルの点検・交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。

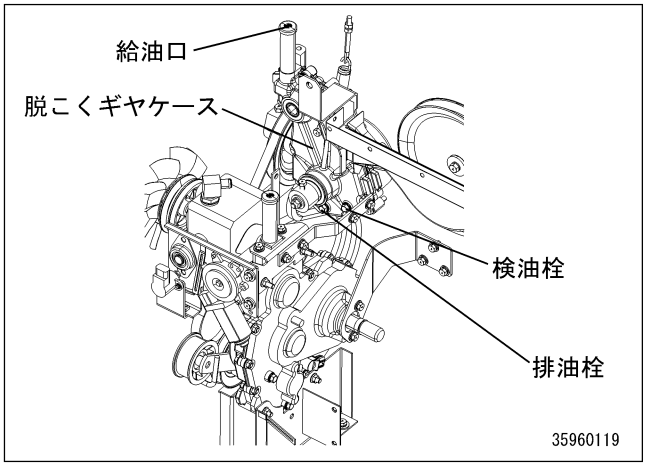
❶ 点検

・脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。



・脱こく入口板を外して給油口より補給します。



❷ 交換

・排油栓を外してオイルを抜き，検油栓からオイルが出てくるまで給油口より注油します。

・ギヤオイル…API・GL5 以上，SAE・140

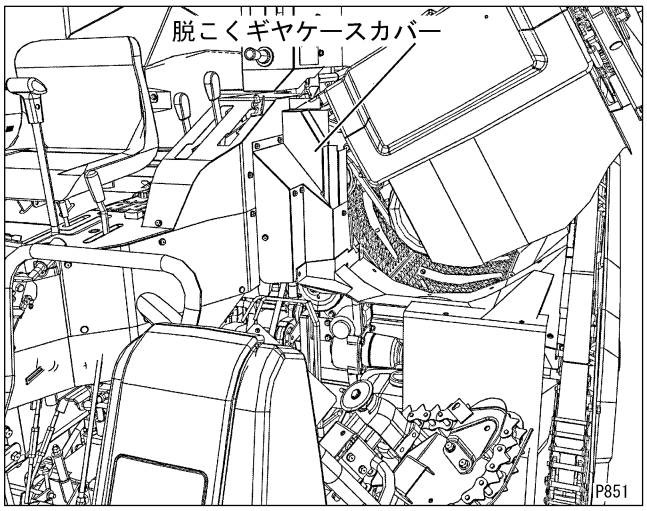
・オイル量…0.25 L

7-B. 脱こくギヤケースのオイル点検・交換（218 型のみ）

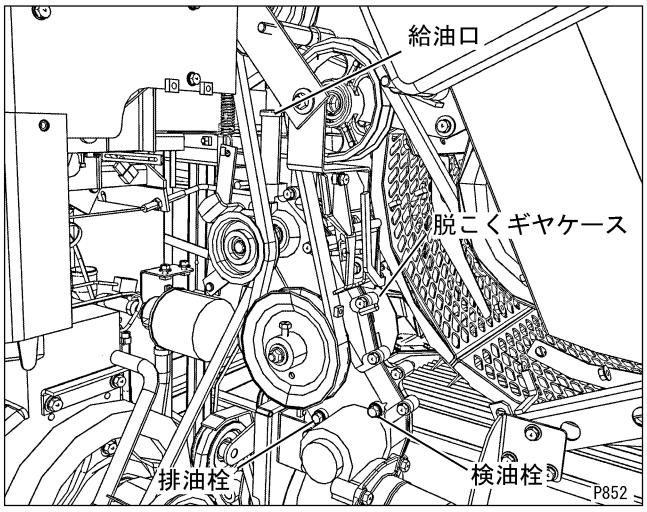
オイルの点検・交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。

❶ 点検

・脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。



・脱こくギヤケースカバーを外して給油口より補給します。



❷ 交換

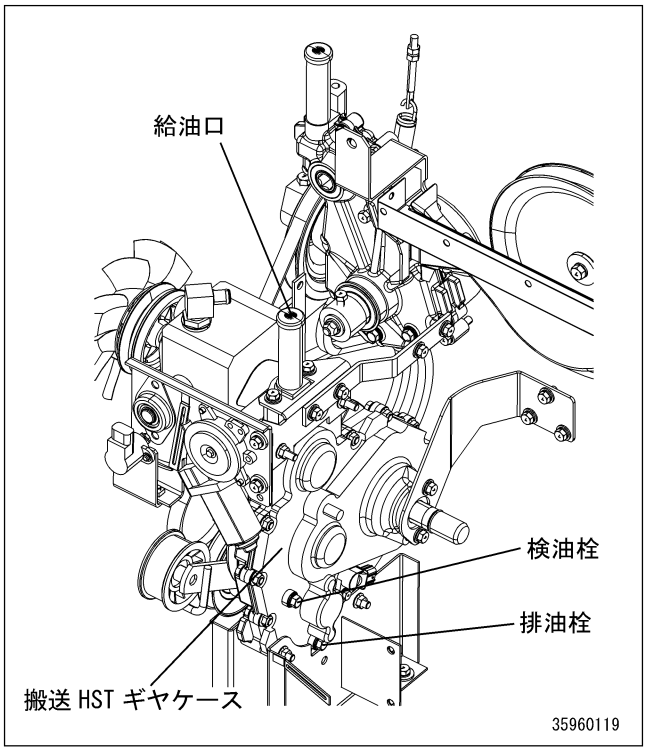
・排油栓を外してオイルを抜き，検油栓からオイルが出てくるまで給油口より注油します。
・ギヤオイル…API・GL5 以上，SAE・140
・オイル量…1.2 L

8. 搬送 HST ギヤケースのオイルの点検・交換（218 型を除く）

オイルの点検・交換は，**「お買いあげ先」**にて行います。

❶ 点検・補給・交換

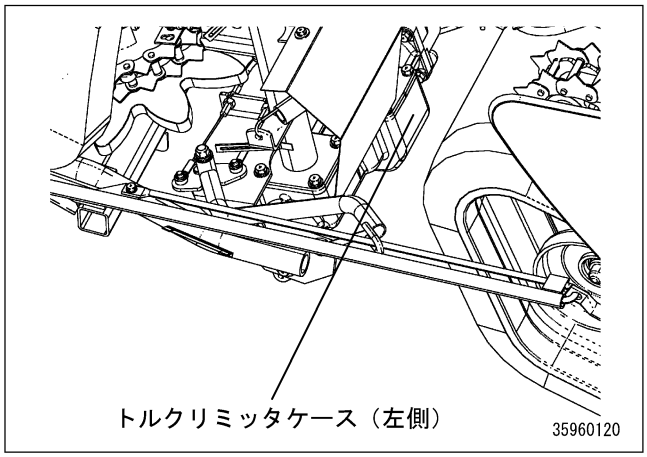
・搬送 HST ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。
・汚れがひどい時は交換します。

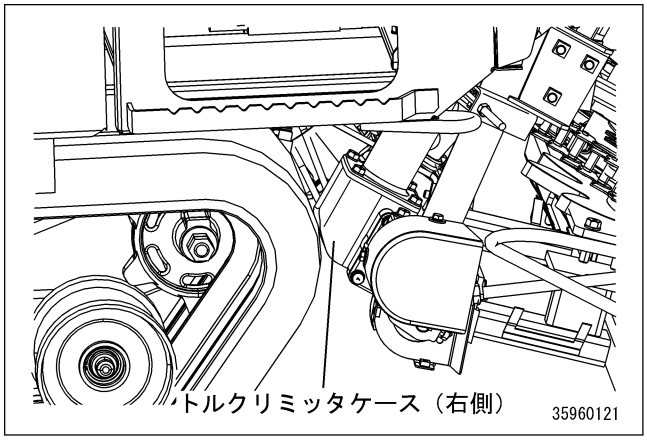


・ギヤオイル…API・GL5，SAE・90
・オイル量…0.55 L

9. トルクリミッタケース [3 条型]

・オイル交換は,「お買いあげ先」で行います。



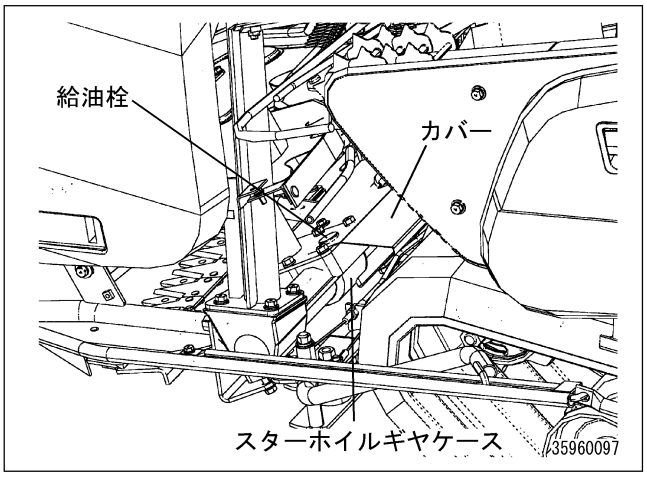


・刈取部左右にあるトルクリミッタケースの給油栓を外し給油口より給油します。

・ギヤオイル…API・GL －5 級以上，SAE・140
・オイル量……右側 1.0 L
　　左側 1.0 L

10. スターホイルギヤケース [2 条型]

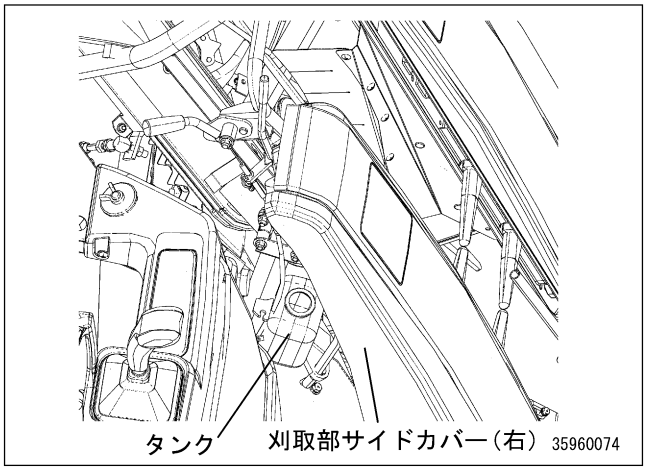
・オイル交換は,「お買いあげ先」で行います。



・刈取部左側のスターホイル下部にあるカバーを外しスターホイルギヤケースの給油栓を外して給油口より給油します。

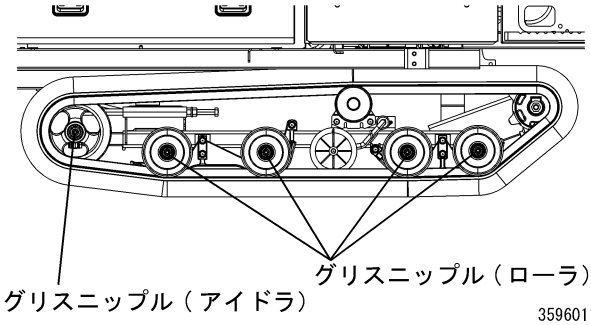
・ギヤオイル…API・GL －5 級以上，SAE・140
・オイル量……0.25 L

11. 集中注油タンク

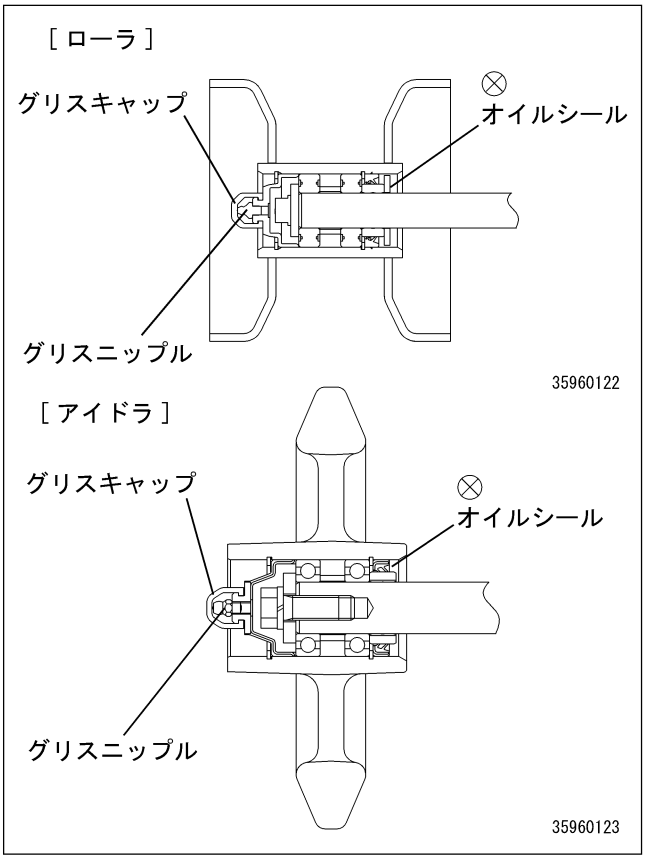


・刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。
・エンジンオイルを使用します。
・オイル量……0.7 L

12. ローラ，アイドラのグリスアップ



・各部のグリスアップは 50a（アール）作業毎，湿田作業直後および格納時に行います。
・グリスアップ個所は，[**ローラ**]8 ヶ所と [**アイドラ**]2 ヶ所です。



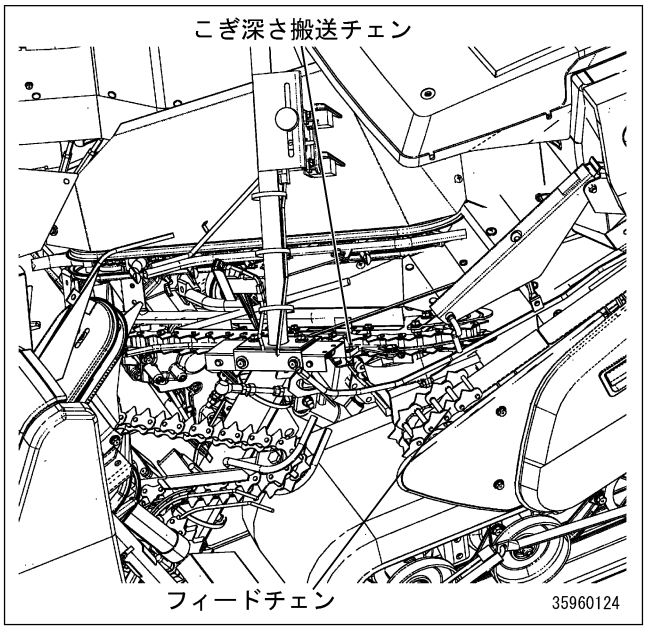
・グリスアップ個所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

13. こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンの注油

始業前および 20a（アール）刈取毎に「**油さし**」で行います。[**3 条型**] は集中注油機能を使って注油します。(90 ページ参照)

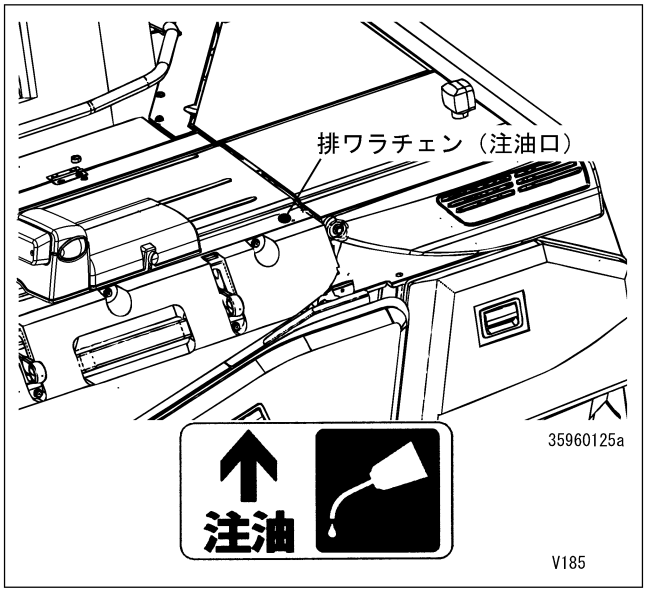
❶ こぎ深さ搬送チェン・脱こくフィードチェンに注油します。

❷ エンジンを始動し，脱こく・刈取クラッチを《**入**》にして，フィードチェン全体にオイルを行き渡らせます。



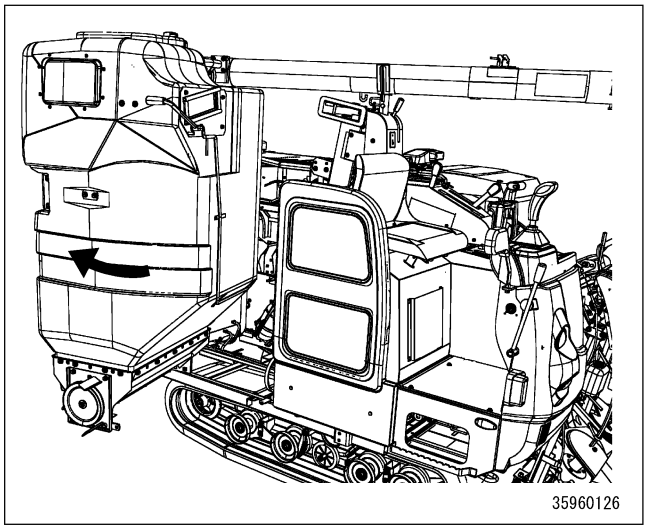
14. 排ワラチェンの注油

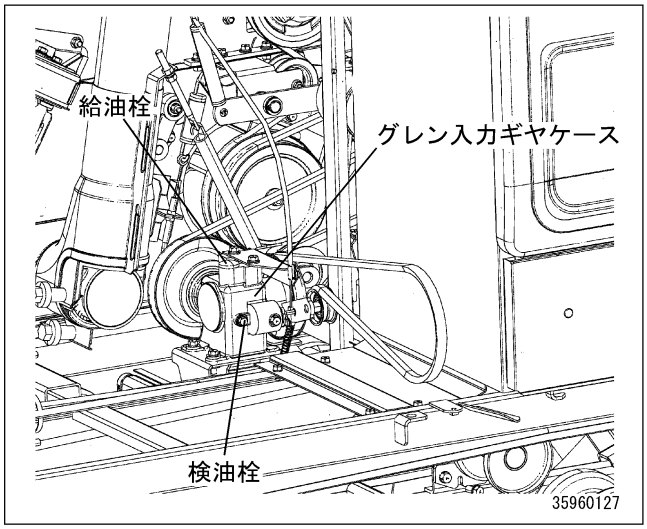
始業前および 20 アール刈取毎に「**油さし**」で注油口へ注油します。[**3 条型**] は集中注油機能を使って注油します。(90 ページ参照)



15. グレン入力ギヤケース
［グレンタンク仕様］

・オイル交換は**「お買いあげ先」**で行います。
グレンタンクを回動（オープン）します。
（101 ～ 102 ページ参照）





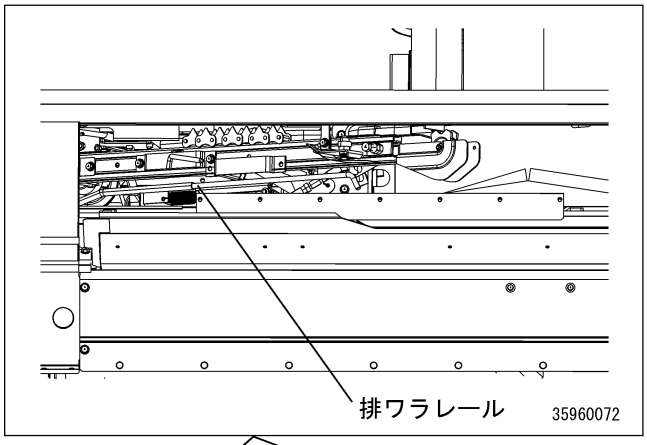
・検油栓を外し給油栓を外して注油します。検油栓部からオイルが出てきたら適量です。

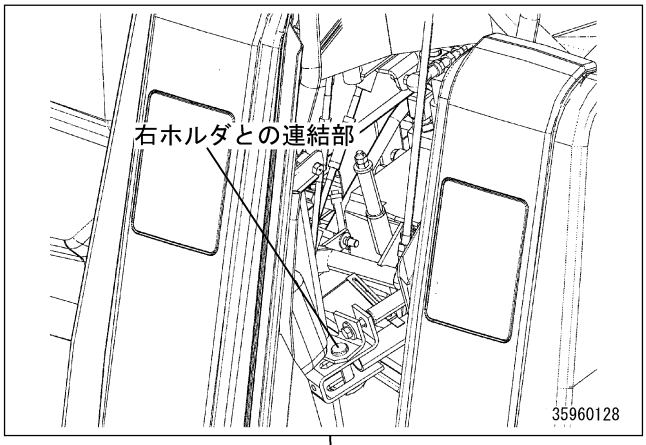
・ギヤオイル…API・GL － 5 級以上,
SAE・140

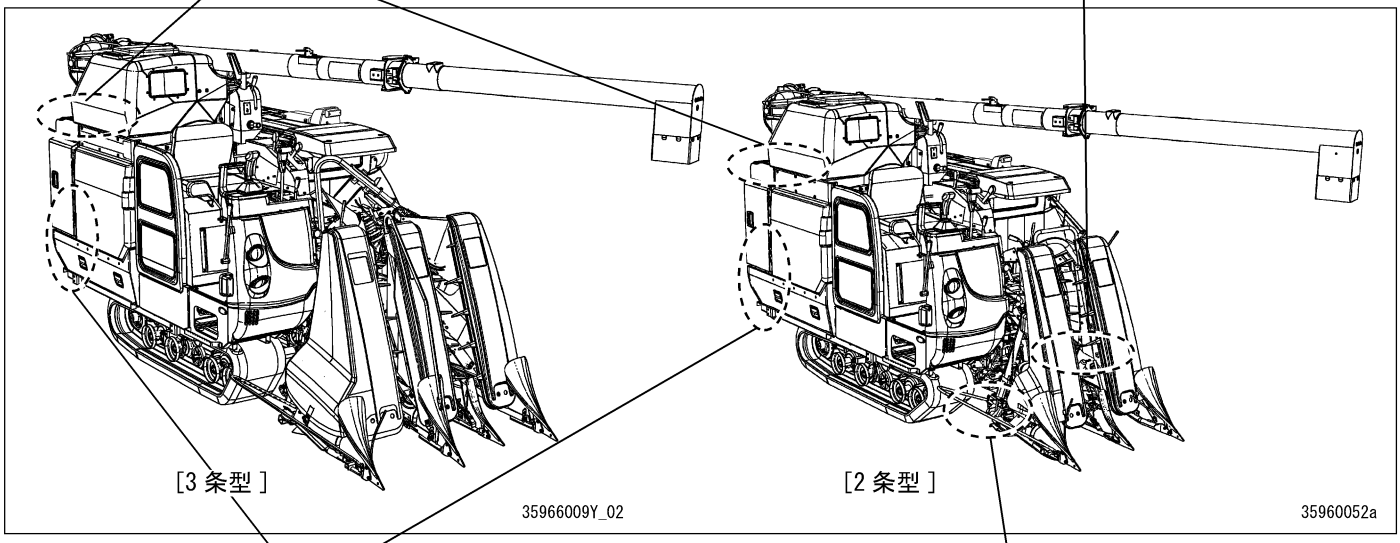
・オイル量……0.3 L

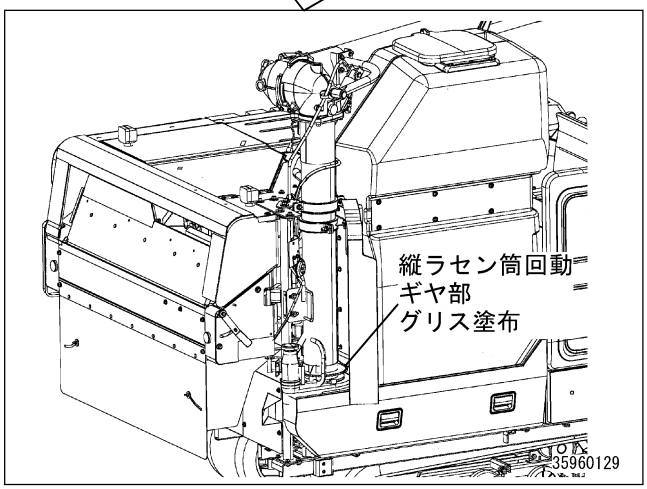
・グレンタンクを収納します。

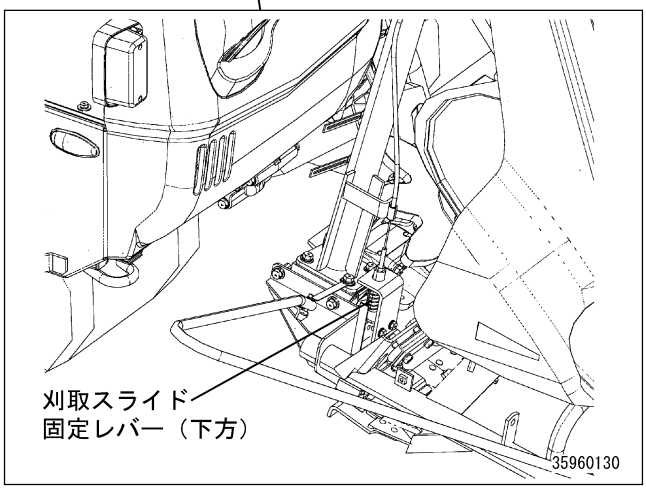
16. その他の注油個所











その他の注油箇所は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。縦ラセン筒回動ギヤ部以外の注油は**「油差し」**で注油します。

17. 集中注油の使いかた

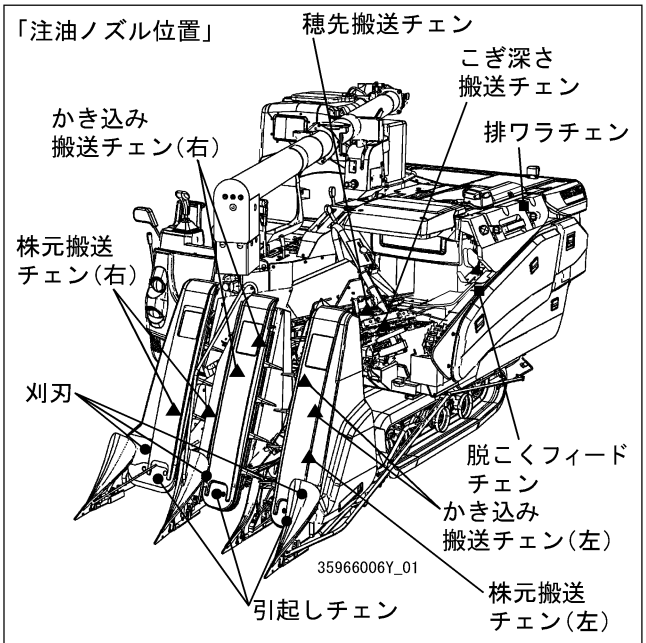
⚠警告　傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに歯止めをかけてください。

◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

[3 条型]

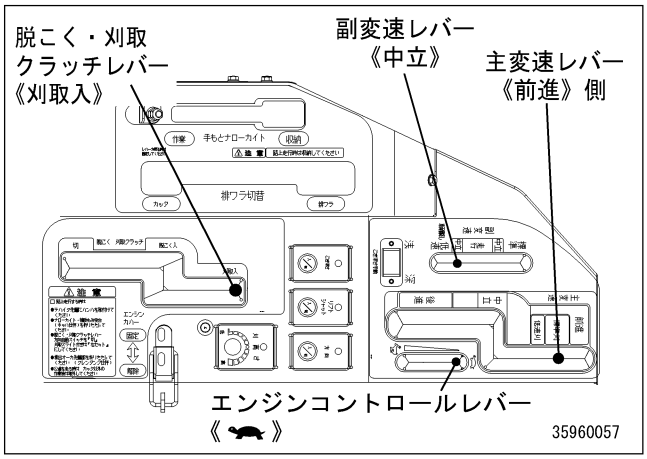
集中注油は切替バルブダイヤルで，(①刈取部の刈刃部，引起しチェン部の計 6 個所の注油ノズル，②穂先搬送チェン部，こぎ深さ搬送チェン部，かき込み搬送チェン部，株元搬送チェン部の計 9 個所の注油ノズル，③排ワラチェン，脱こくフィードチェンの計 2 個所の注油ノズル）注油個所を選び，集中注油レバーを操作するだけで注油します。



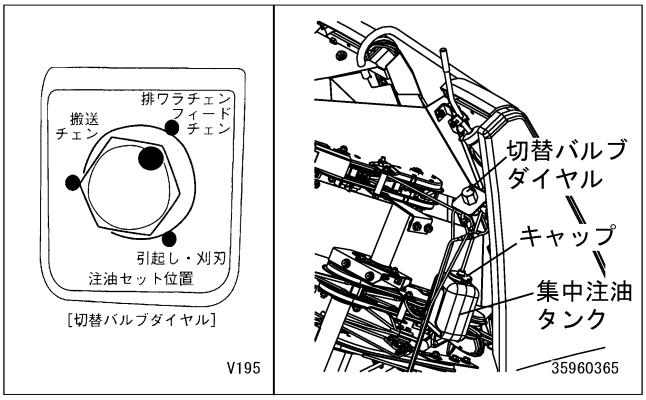
※ ● 部は切替バルブレバー《引起し・刈刃》位置の時に注油される個所を示す。
※ ▲ 部は切替バルブレバー《搬送チェン》位置の時に注油される個所を示す。
※ ■ 部は切替バルブレバー《排ワラチェン，フィードチェン》位置の時に注油される個所を示す。

「注油操作手順」

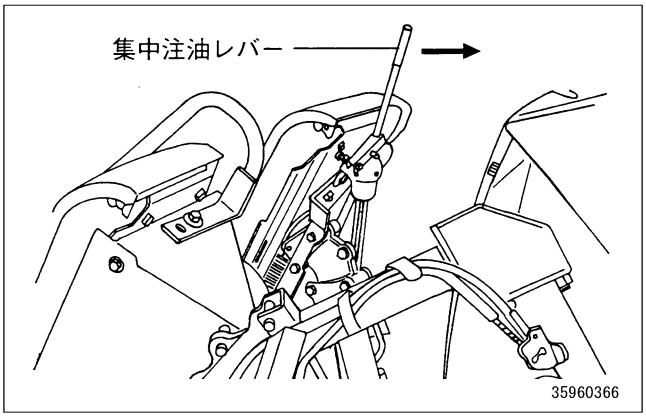
(1) エンジンを始動し，刈取部をいっぱい下げます。
(2) エンジン回転を低回転にします。
(3) 副変速レバーを《**中立**》にします。
(4) 脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取　入**》位置にし，刈取部を運転します。
(5) 主変速レバーを《**標準刈**》にセットします。



(6) 切替バルブダイヤルのマークを注油したい位置に合わせ切替えます。

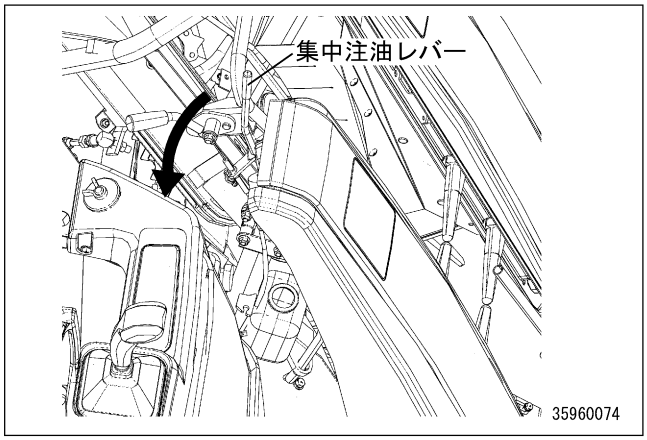


(7) 集中注油レバーを数回右側（矢印の方向）に引いて注油します。



［2 条型 ］

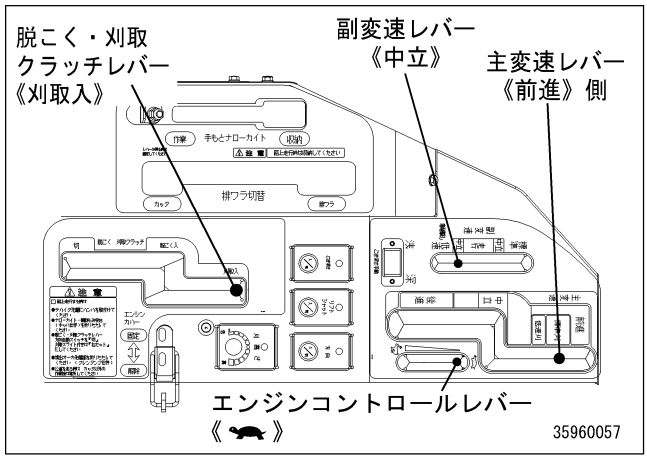
集中注油は注油レバーを操作するだけで，刈取部の刈刃，引起しチェン，搬送チェン部の注油ノズルからオイルが吐出し，注油ができます。



「注油操作手順」

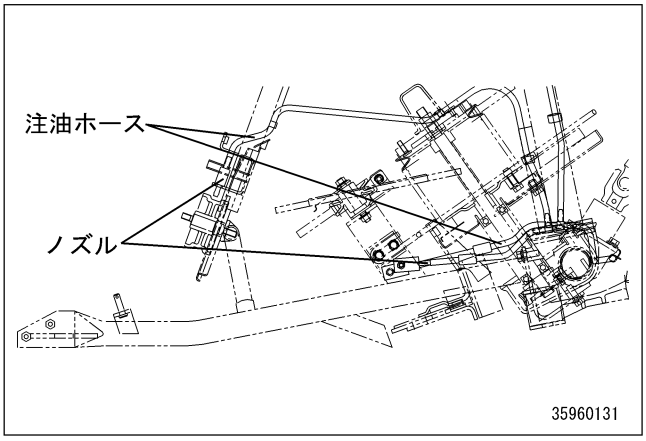
⑴ エンジンを始動し，刈取部をいっぱい下げます。

⑵ 副変速レバーは《**中立**》にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取　入**》にし，エンジンコントロールレバーを《🐢》（**低速**）主変速レバーを前進にして刈取部を運転します。



⑶ 注油レバーを「**数回押して**」注油します。

⑷ 注油後，さらに刈取部を 3 分間程度運転し，注油がゆきとどいたことを確認します。



取扱いのポイント

- 注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは拭き取ってください。
- ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので点検・掃除してください。（刈刃用ノズル）
- ノズルが詰まった場合は針などで詰まりを除去してください。
- 湿田作業で刈刃の上にたまった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースをカマ等で損傷しないようにしてください。
- 送油ホースの継ぎ部等からオイルがもれないか，点検確認してください。

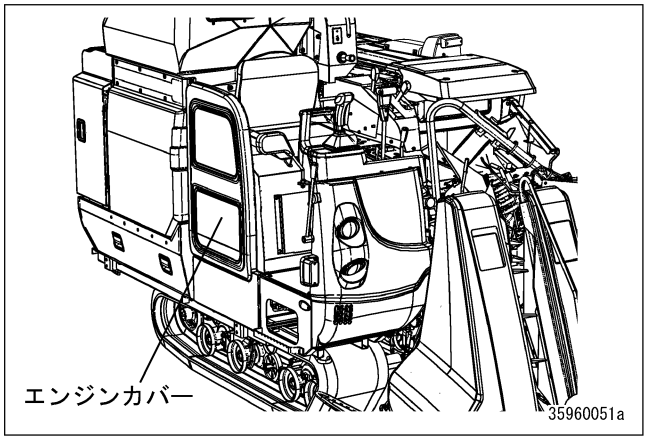
3. 各部の点検と掃除のしかた

1. ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除はエンジンを停止してから行ってください。
高温部が冷えてから作業をしてください。

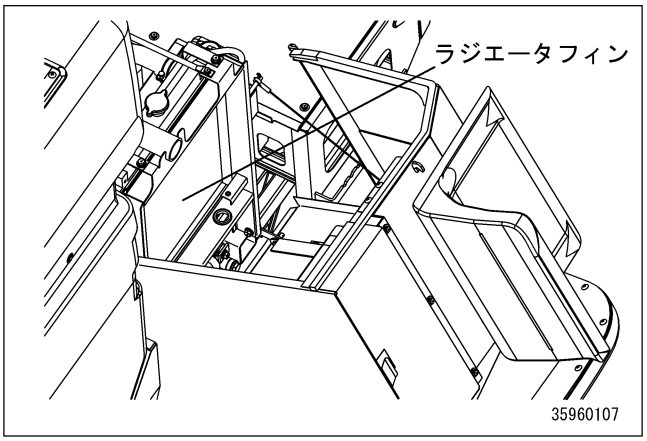
エンジンカバー，ラジエータフィンにゴミ等が目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが**「オーバーヒート」**する原因となります。



❶ エンジンカバーを開き内側を掃除します。

❷ エンジンカバーのゴミを，やわらかいブラシなどで掃き落とすか，コンプレッサでエアを吹き付けてゴミを取り除きます。

・ラジエータフィン部に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取り除きます。ノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形する恐れがあります。



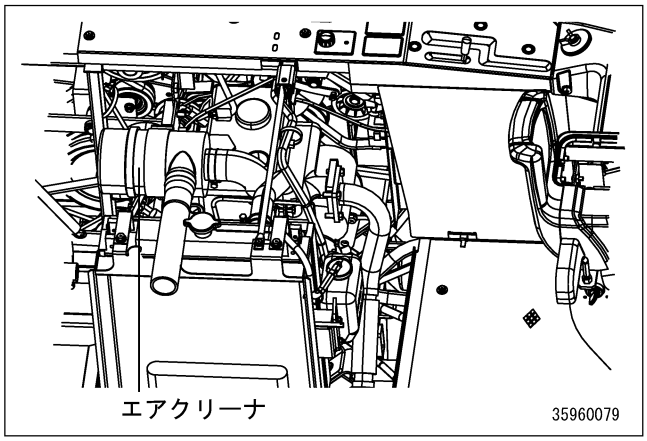
❸ エンジンカバーを元どおり閉じます。

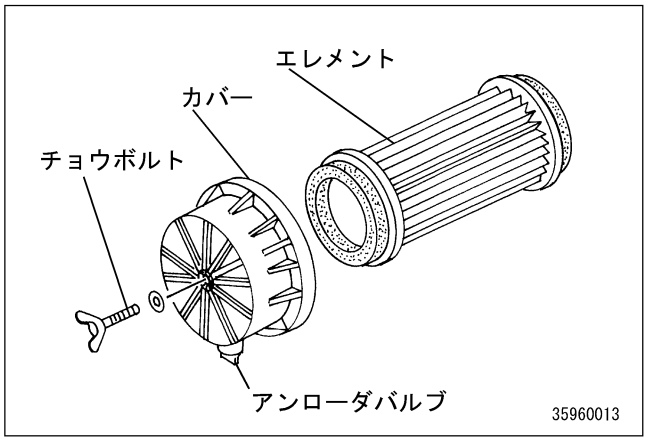
2. エアクリーナの掃除

・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶ エンジンカバーを開け，エアクリーナカバーのチョウボルトを外し，エレメントを取出します。

❷ エレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸ 取付けは，アンダーバルブが下向きになるようにセットして取付け，エアクリーナ室カバー（右）を閉じます。

❹ エンジンカバーを元どおり閉めます。

取扱いのポイント

- コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「7kg f/cm² 以下」で行ってください。

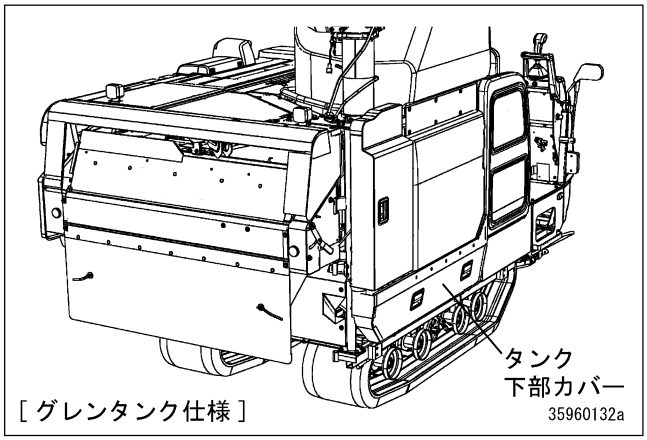
3. 燃料フィルタの掃除・交換

危険 火災防止のために

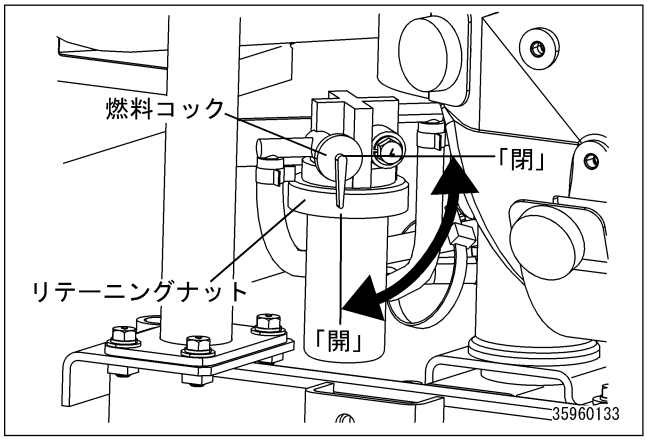
◆ 燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合，火災の原因となることがありますので交換してください。

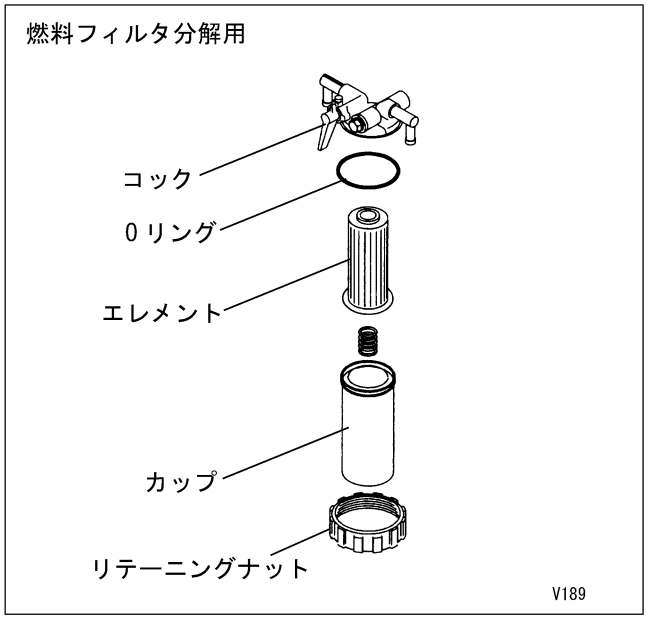
燃料フィルタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。

掃除はシーズン前に行い，交換は 250 時間毎にエレメントと 0 リングを「お買いあげ先」で交換します。



［グレンタンク仕様］





❶ グレンタンク仕様は，タンク下部カバーを外します。

❷ 燃料給油口下部にある燃料コックを「閉」の位置にしてリテーニングナットを外します。

❸ フィルタカップを外し，きれいな軽油で洗浄します。

❹ エレメントを取外し，洗浄または交換します。

❺ 0 リングに注意しながらエレメントとカップを取付け，リテーニングナットを締め付けます。

❻ 燃料コックを「開」の位置にしてエア抜き要領に従ってエア抜きを行います。(94 ページ参照)

❼ グレンタンク仕様は，タンク下部カバーを元どおり取付けます。

取扱いのポイント

- 燃料の中に，水やゴミ等が混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料は燃料タンク給油口のフィルタを通して給油してください。
- 燃料は雨水等がかからない場所に保管してください。

4. 燃料のエア抜きのしかた

運転中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

手順は次ページをご参照ください。

❺ 燃料フィルタのエア抜き用ボルト部から気泡のまじらない燃料が出てきたらボルトを締めます。

❻ エンジンコントロールレバーを《 》（**高速**）位置にして，スタータスイッチを《**始動**》にしてエンジンを始動します。

・始動しない場合は，もう一度❸項からの操作を行います。

❼ 作業後はカバー類を閉じてください。

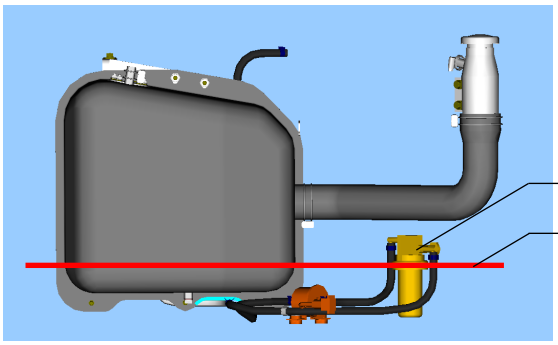
燃料のエア抜き方法（V220・321・323）VM218/219/221/VS321/323も同様

燃料のエア抜き方法

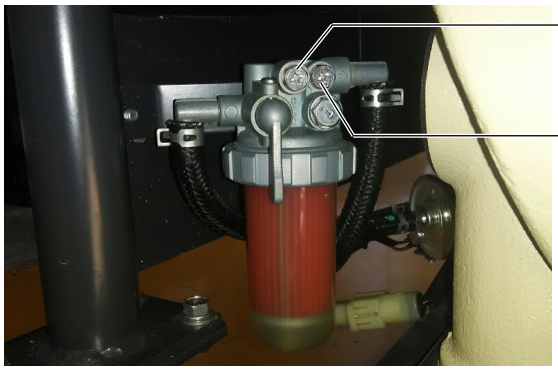
○運転中での燃料切れなどでエア抜きが必要な場合、従来のエア抜き方法では燃料フィルタ内の空気が完全に抜けないことがありますので、以下のエア抜き方法をお確かめ下さい。

エア抜き方法

①エア抜きをする際は、燃料満タンの状態で行います。
→燃料フィルタの位置が燃料タンク底面より約2割の位置に取付けされているので、燃料が少ないと空気が混入する可能性があります。



②燃料フィルタ上部の2つのスクリューの左側（燃料タンク~燃料フィルタまで）を緩めて、キー【OFF】で燃料フィルタ内に燃料が満たされるまで待ちます。



※コンバインの場合、燃料タンク→燃料フィルタ→燃料ポンプのためキーOFFでスクリュー左を緩めるだけでエア抜きできる。

③燃料フィルタ内に燃料が満たされたらスクリューを締めて終了です。

以上

5. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 ヤケドや火災防止のために

- ◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリ㊀コードをバッテリ㊀端子から外してください。
- ◆電気配線およびバッテリ㊉コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。
- ◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

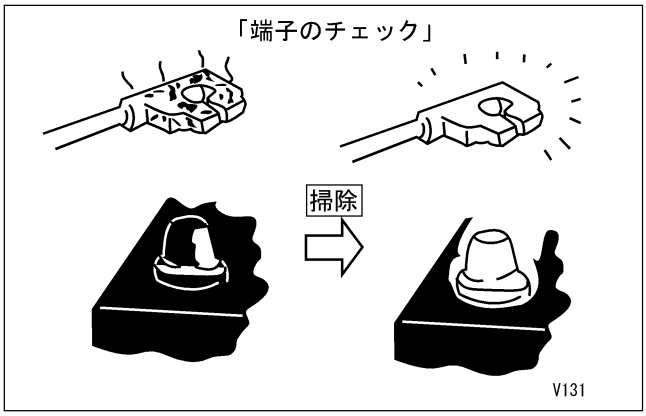
配線の端子部の**「ゆるみ」**や**「接続不良」**または配線が**「損傷」**していると電気部品の性能を損なうだけでなく，**「ショート（短絡）」**等することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

(1) エンジン，バッテリ，電気配線部にたまっている**「ワラやゴミ」**などは，**「火災」**の原因になりますので取除きます。

(2) バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が**「腐食」**することがあります。バッテリ端子が腐食すると，**「接触抵抗」**が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，**「定期的」**に汚れや腐食を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のために，グリースを塗ります。



6. バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水不要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は 97 ページの ❹ を参照してください。

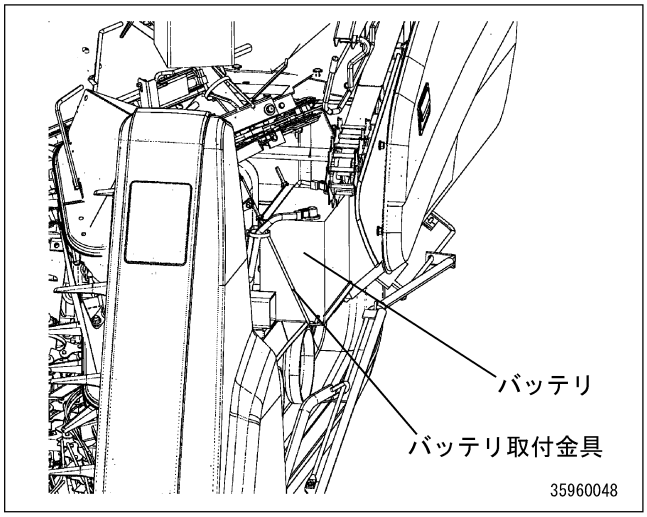
指定バッテリ……55B24R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

- ◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
- ◆バッテリを取外すときはバッテリ㊀コードを先にバッテリの㊀端子（アース側）から外し，次にバッテリ㊉コードを㊉端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ㊉コードを先にバッテリ㊉端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。
- ◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
- ◆㊉端子が機械に，接触しないようにしてください。
- ◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。
- ◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。
- ◆㊀端子を取付けたままで充電すると発電器や電気配線を焼損することがあります。
- ◆「水素ガス」が滞留しないよう風通しのよい場所で充電してください。
- ◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですのでこぼさないようにしてください。失明やヤケドをすることがあります。

◆ バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気で引火爆発のおそれがあります。
◆ ブースターケーブルを使用するときは接続前にエンジンを停止してください。
◆ ブースターケーブルは，100A 以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。

❶ バッテリの位置



❷ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと上下左右に動き，振動で電解槽やフタ等が摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

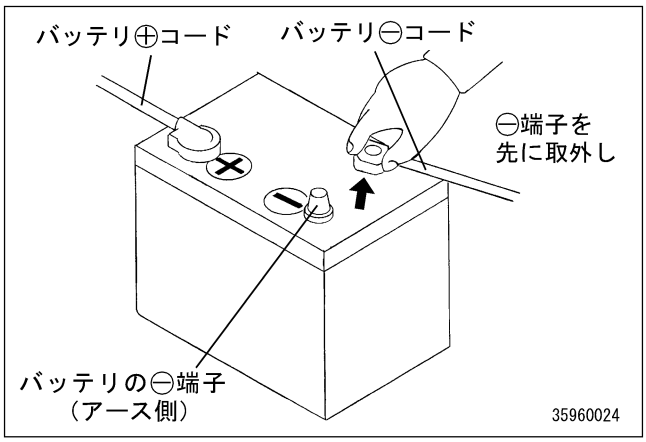
取付金具で，しっかり固定します。

取付金具等が腐食していれば修理または取替えます。

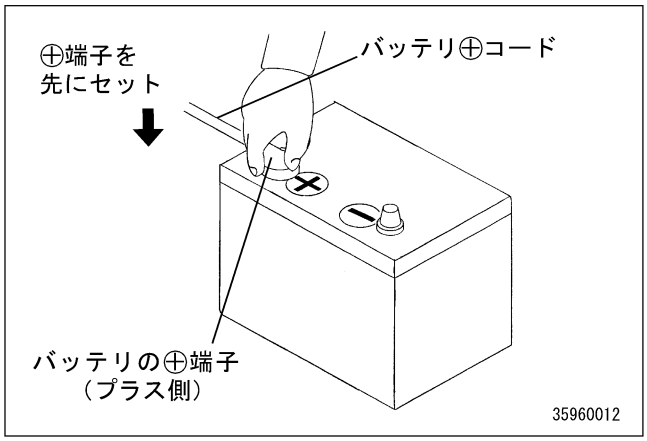
❸ バッテリ着脱時の注意

⑴ バッテリを**「着脱」**したり充電器で**「充電」**する時は，エンジン停止し，スタータスイッチから**「キー」**を抜取ります。

⑵ バッテリコードを端子から取外す時は**「⊖端子（アース側）」**を先に外します。



⑶ バッテリコードを端子にセットする時は**「⊕端子（プラス側）」**を先に取付けます。

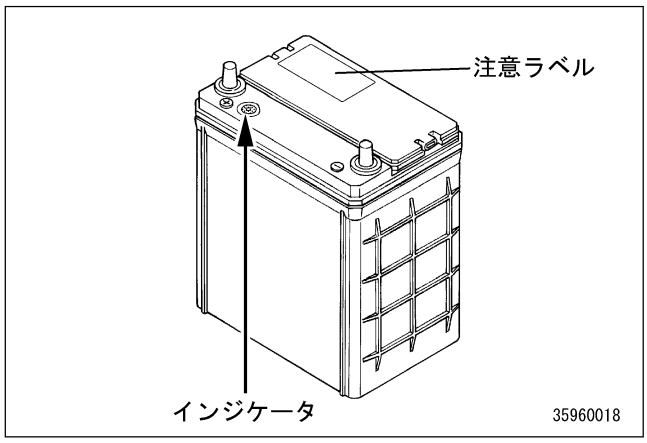


(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

❹ バッテリの状態点検と，異常時の処理

(1) バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。右表を参照し，処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



取扱いのポイント

- インジケータは真上から確認してください。

(2) バッテリが破損して液もれが発生しているときは，交換してください。

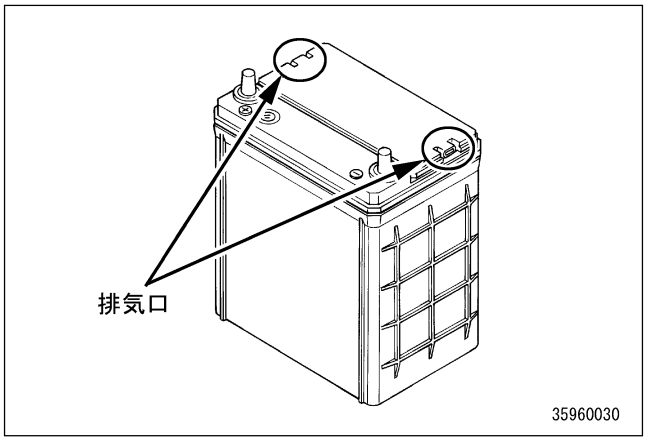
取扱いのポイント

- 液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

(3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- 排気口をふさぐと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリ内圧が上がり，破損する原因になります。



❺ 補充電・交換

⚠危険

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し・・・(－) 端子側（アース側）から外す。
・取付け・・・(－) 端子側（アース側）を最後に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)のもれにより，失明やヤケドをするおそれがあります。

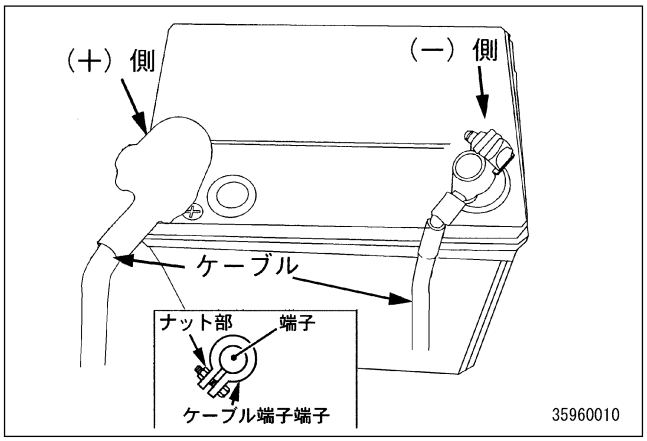
◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。(＋) と (－) が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により，失明やヤケドの原因となることがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1. バッテリを機体から取外します。
(1) ナットをゆるめてフックを外します。
(2) ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（－）側から取外してください。



取扱いのポイント

●バッテリを斜めにしたり，横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ，衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の（＋）側に，バッテリの（－）を充電器の（－）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3. 補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。
  バッテリ形式：55B24R
- バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。
- バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。

補水が必要なバッテリの場合
(補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。)

❻ 点検・補水

⚠危険

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。

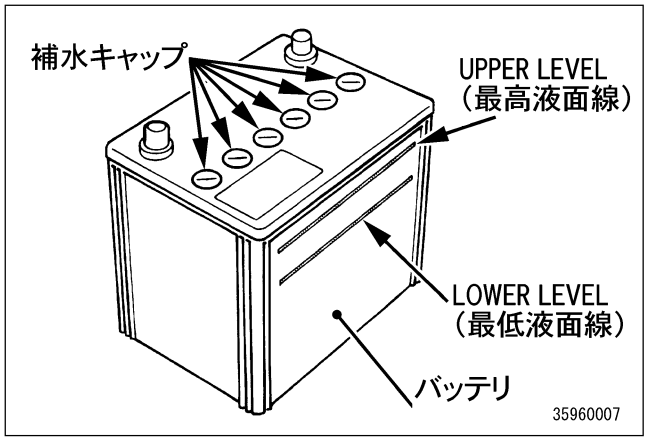
◆充電のとき,「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで,硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1. バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



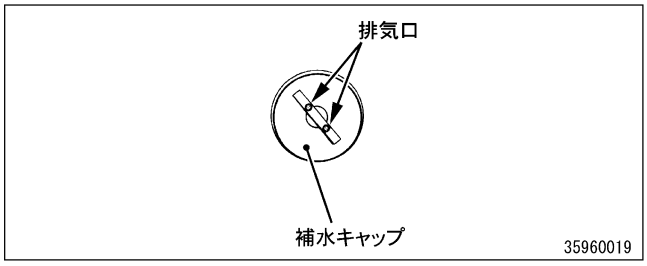
取扱いのポイント

- バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。
- バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスよりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



❼ 補充電

⚠危険

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。
引火爆発するおそれがあります。

1. 補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。
   また，充電は，バッテリの（＋）を充電器の(＋)側に，バッテリの(－)を充電器の(－)側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

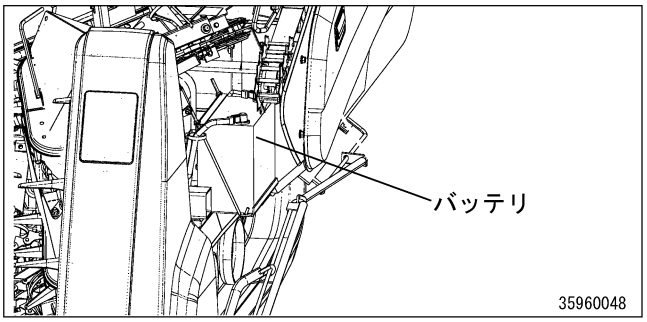
- 急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。

2. 補充電が終わると補水キャップを全て取付けてください。

❽ ブースタケーブルによるエンジン始動

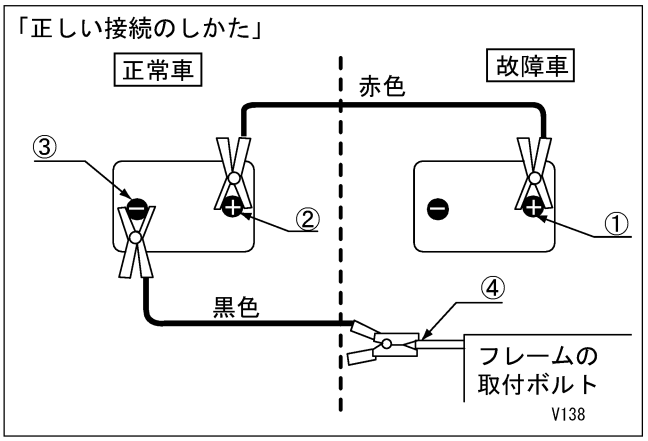
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V 仕様車）の良好なバッテリを電源として始動するため，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

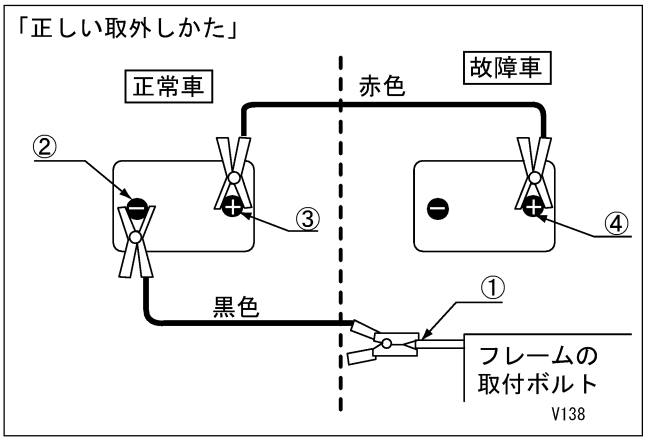


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付けボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



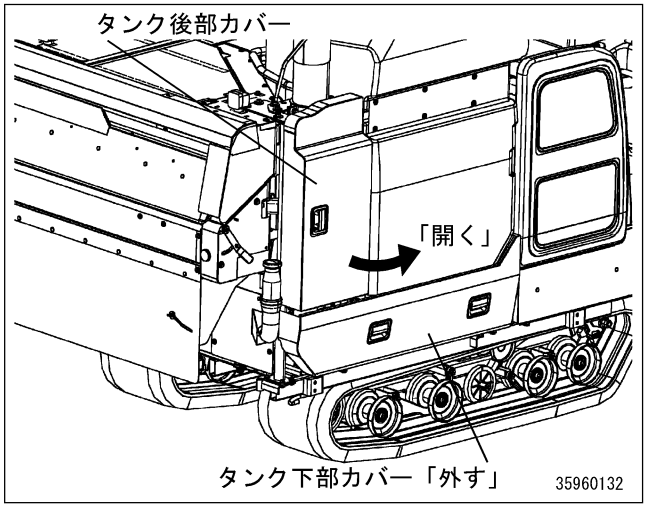
7. グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。
- ◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。
- ◆作業後カバーを取付けてください。

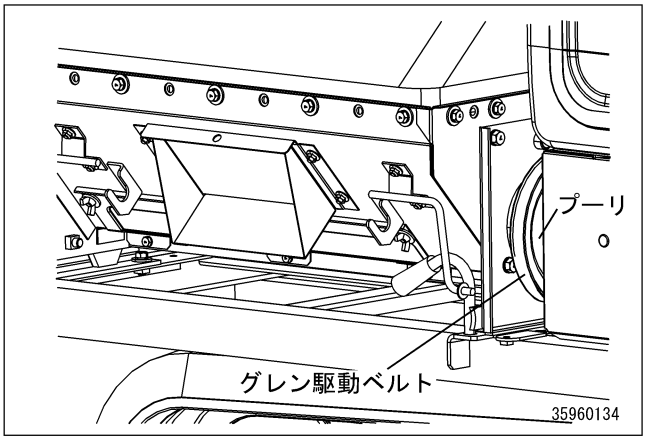
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して行います。

❶ タンク後部のカバーを開きます。

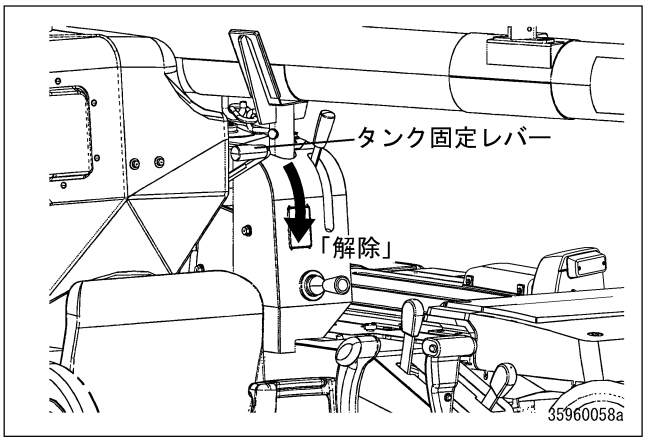


❷ タンク下部カバーを取外します。

❸ グレン駆動ベルトをプーリより外します。



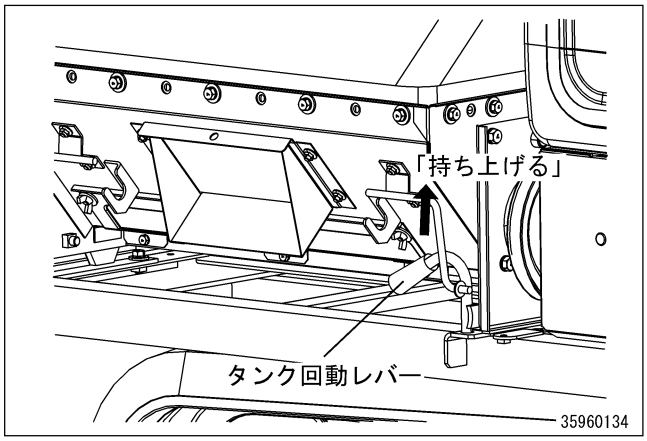
❹ タンク固定レバーを下方に回動してタンクの固定を「解除」します。

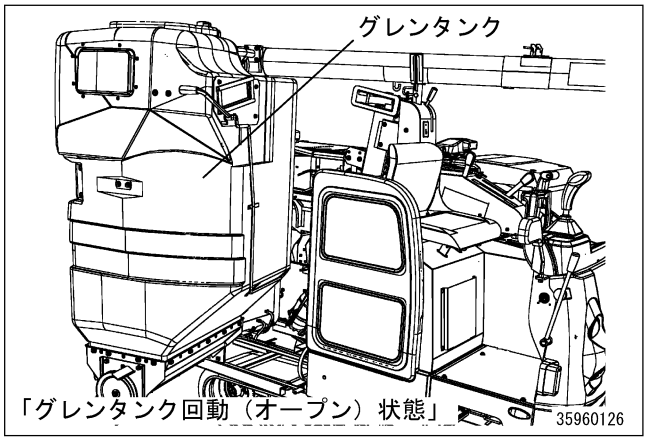


取扱いのポイント

- グレンタンクを回動するときは，取説の順序通りに行ってください。順序通り行わないとタンク後部カバーが，破損，変形する恐れがあります。

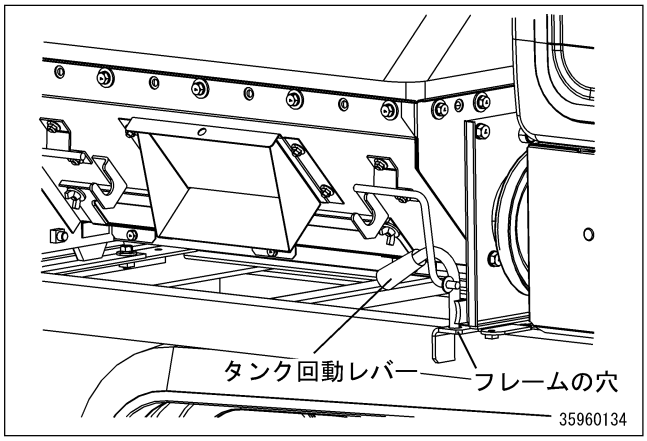
❺ タンク回動レバーを持上げながら，手前に引きタンクを回動します。





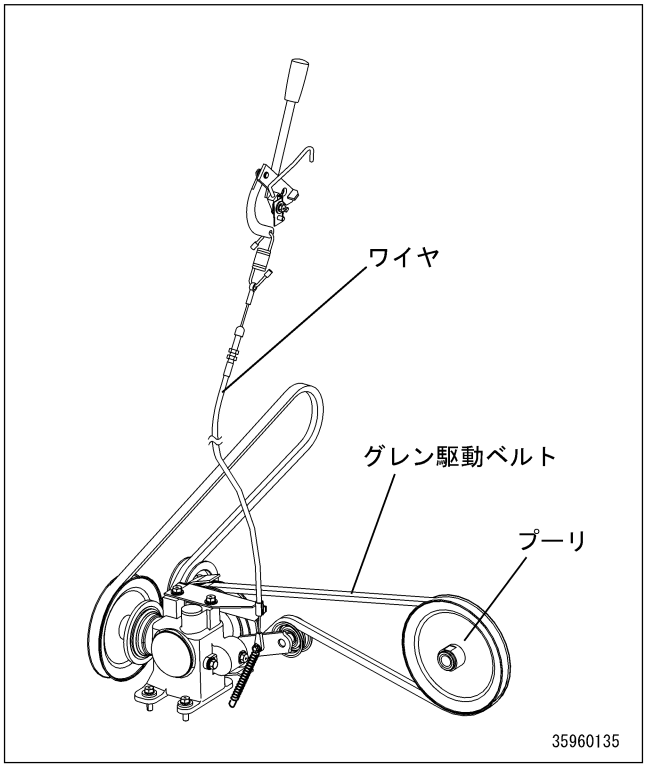
❻ 収納は逆の手順で行います。

❼ タンク収納は，タンクを戻すと途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当たり回動しなくなりますので，タンク回動レバーを持上げながらタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押込みます。



取扱いのポイント

- タンクの収納後はベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。



8. こぎ胴部の開きかた

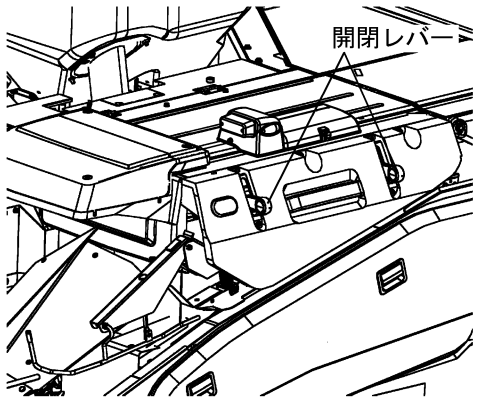
⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

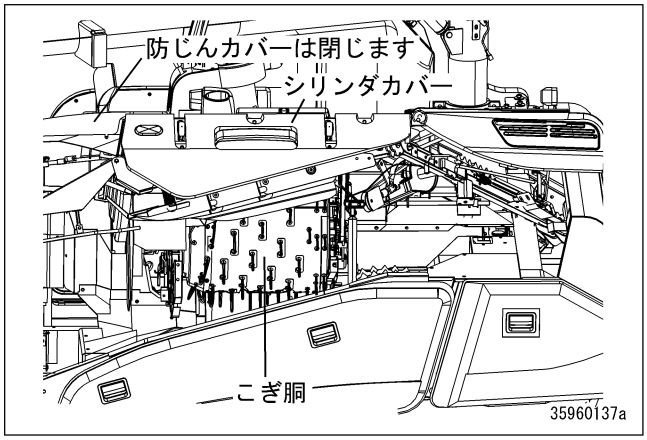
◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。

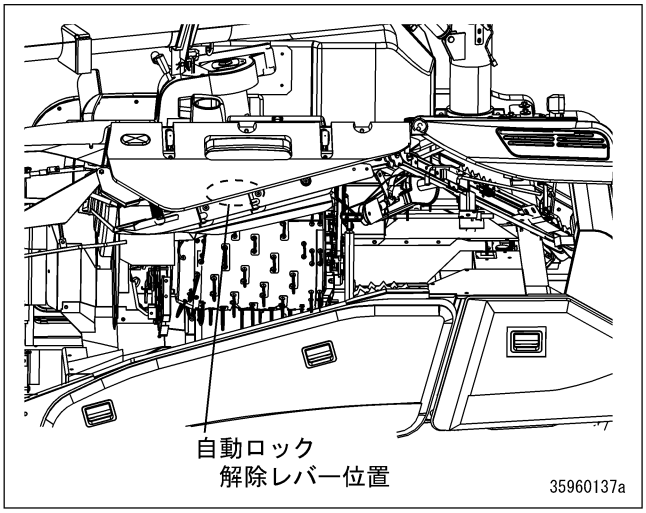
❶ ２本の開閉レバーを持上げ**「固定」**を解除します。

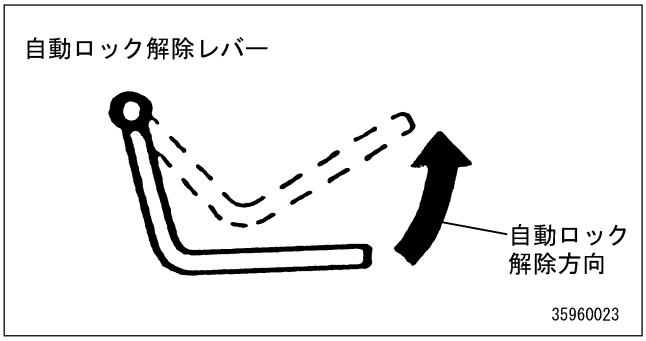


❷ シリンダカバーの端部を持ってこぎ胴部を持上げ，**「カチッ」**という音を確認してゆっくり手を離します。（こぎ胴部は自動的にロックされます）



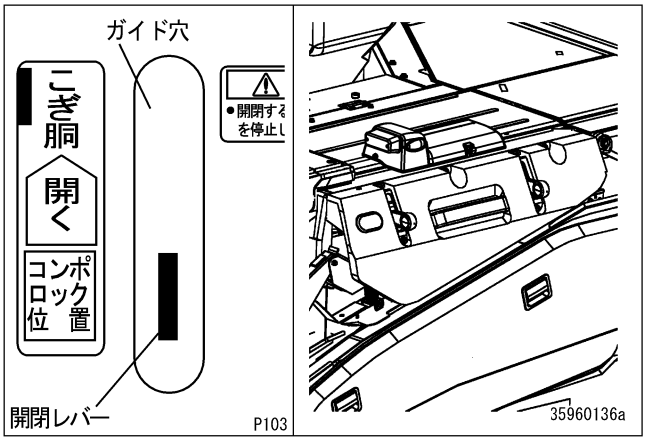
❸ こぎ胴部を閉める時は，シリンダカバー端部を持って，こぎ胴を一杯に持上げ，自動ロック解除レバーを矢印の方向に回動させてロックを解除してから，こぎ胴部をゆっくり下げます。





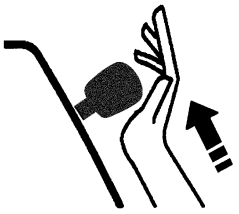
❹ こぎ胴部を，自動固定します。（開閉レバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください）

こぎ胴を閉めた時は，開閉レバー（2ヶ所）を必ず下にさげて**《コンポロック位置》**にあることを確認します。



取扱いのポイント

- 防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損するおそれがありますので防じんカバーを閉じてください。[A 仕様]
- レバーを開く方向に操作する時はレバーをにぎらず，手のひらで押し上げてください。



35960034

9. 脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

- ◆脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは互いに声をかけあい，安全を確認してから行ってください。
- ◆こぎ胴部は自動ロック位置まで確実に持上げてください。
- ◆作業後は，取外したカバー類は取付けてください。

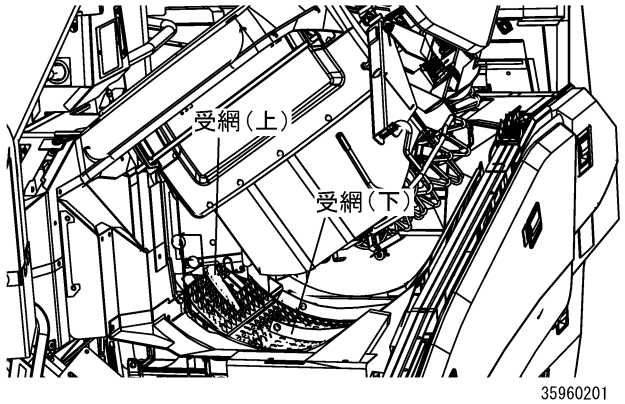
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

❶「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

⑴ こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。

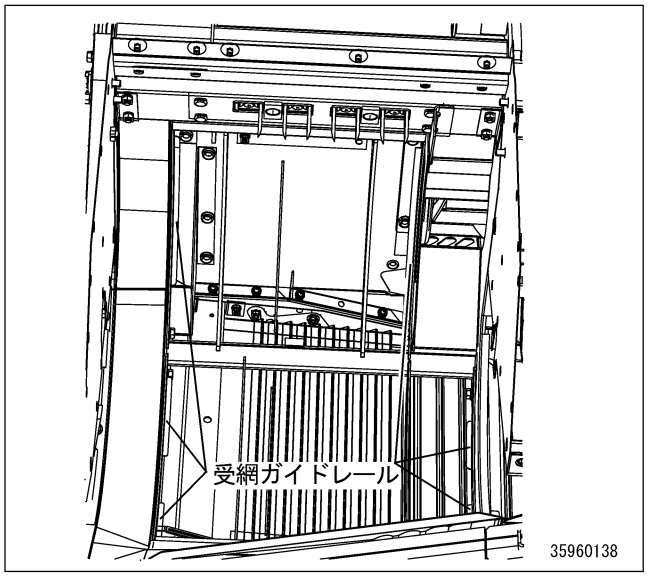
⑵ 受網（上）を外します。

⑶ 受網（下）を外します。

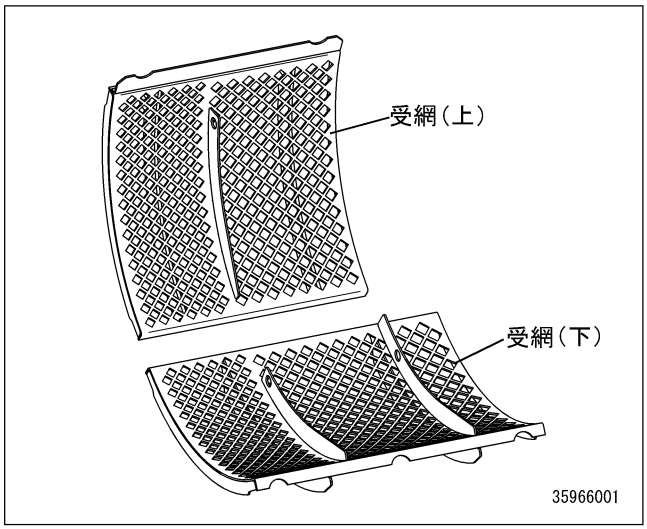


35960201

⑷ 受網（上）・（下）を取付ける前に受網ガイドレール（6 個所）のクズを取除きます。



⑸ 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。



⑹ こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

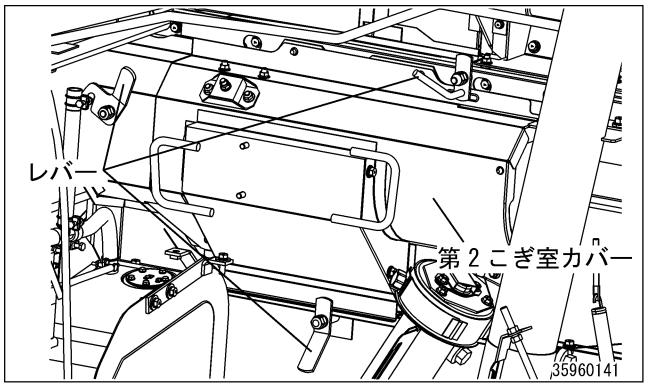
取扱いのポイント

- 長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。
- 受網ストッパおよび受網ガイドレール（6 個所）にこく粒やワラクズがたまったまま受網をセットするとこぎ歯に接当する場合がありますので掃除してください。

❷ 第２こぎ室の掃除

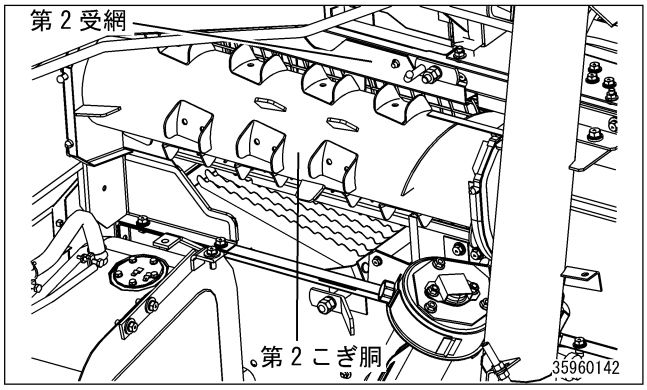
⑴ ・「グレンタンク仕様」はグレンタンクを回動してください。(101 ページ参照)
・「ホッパ仕様」はハンガを外してください。

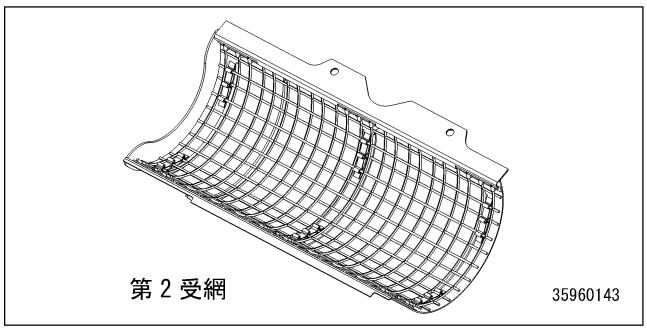
⑵ 3 個のレバーを回し，第 2 こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



⑶ 第２受網は，受網の上側から第 2 こぎ胴を回すようにして，取外します。

⑷ 第２受網取付けは，逆の手順で取付けます。





⑸ 第２こぎ胴カバーを取付けます。

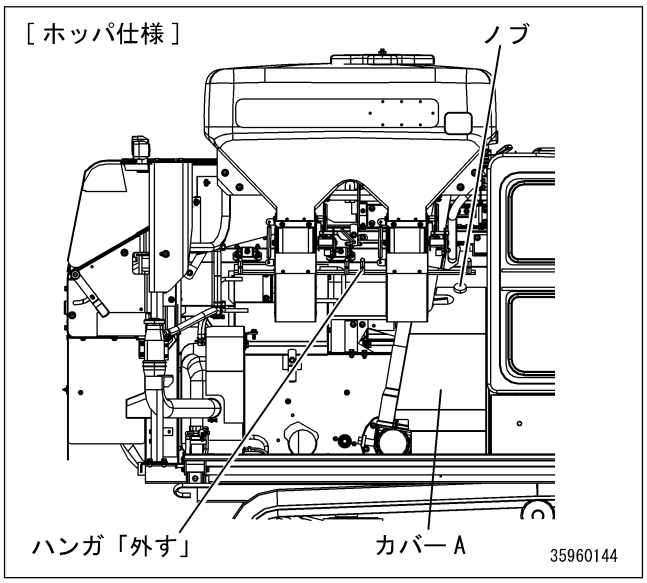
⑹ ・「グレンタンク仕様」はグレンタンクを閉じます。(101 ページ参照)
・「ホッパ仕様」はハンガを取付けます。

取扱いのポイント

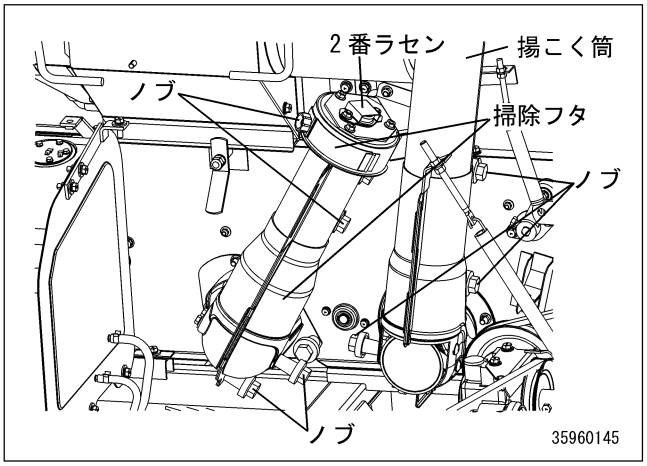
- 長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。

❸ 揚こくラセン部・2 番ラセン部の掃除

⑴ ・「グレンタンク仕様」はグレンタンクを回動してください。(101 ページ参照)
・「ホッパ仕様」はハンガを上に引き上げて外してください。次にノブをゆるめて外し，カバー A を外します。



⑵ ノブを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。



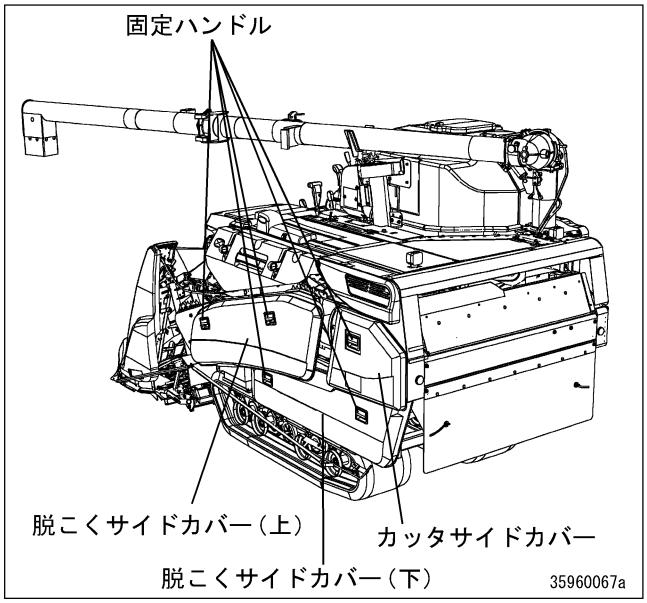
⑶ ・「グレンタンク仕様」はグレンタンクを閉じます。(101 ページ参照)
・「ホッパ仕様」はカバー A をノブで取付けてハンガを取付けます。

取扱いのポイント

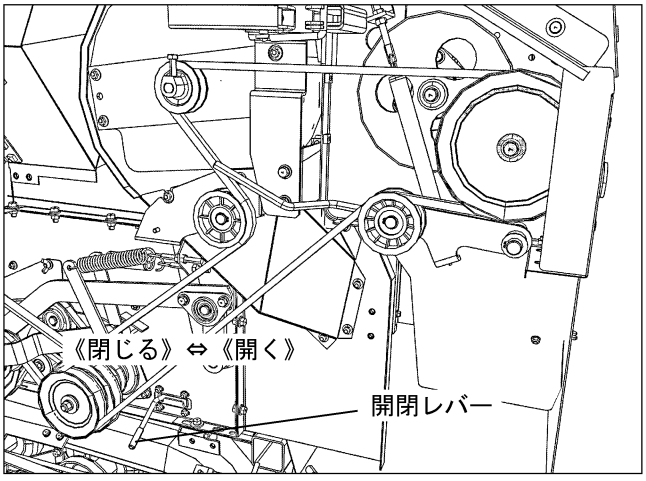
- ノブの頭が六角になっていますので取外す時はスパナを使用してください。
  取付け時にノブをスパナで強く締めつけると破損の原因となりますので手で締め付けてください。

❹ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除

⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。



⑵ 開閉レバーを《開く》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。



⑶ 掃除後は開閉レバーを《閉じる》位置に戻します。

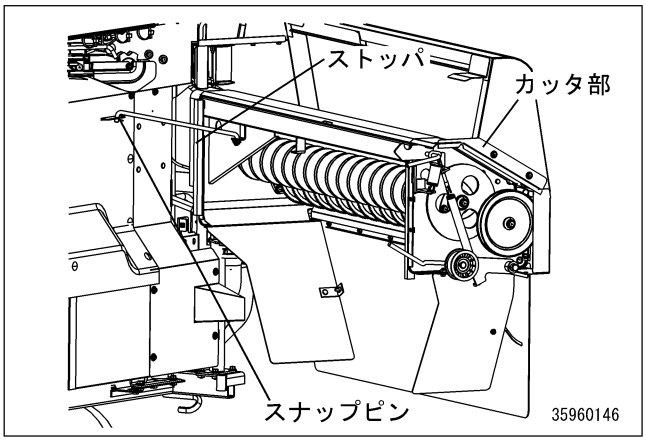
⑷ 脱こくサイドカバー（上）（下）カッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

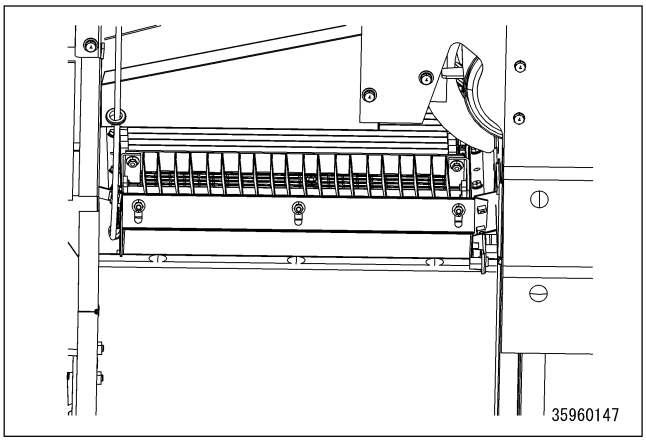
- 掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いているとこく粒がもれます。

❺ 排じん室の掃除

⑴ カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。（115 ページ参照）



⑵ 排じん室のワラクズ等を掃除します。



⑶ カッタを閉じます。（115 ページ参照）

10. 揺動流板の掃除

⚠注意 傷害事故防止のために

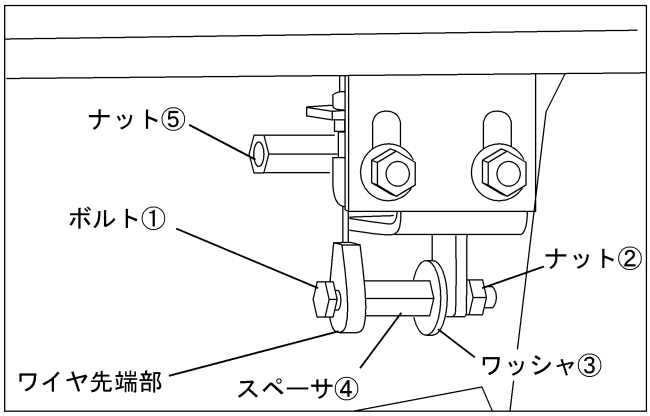
◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

❶ 揺動流板の取外しかた

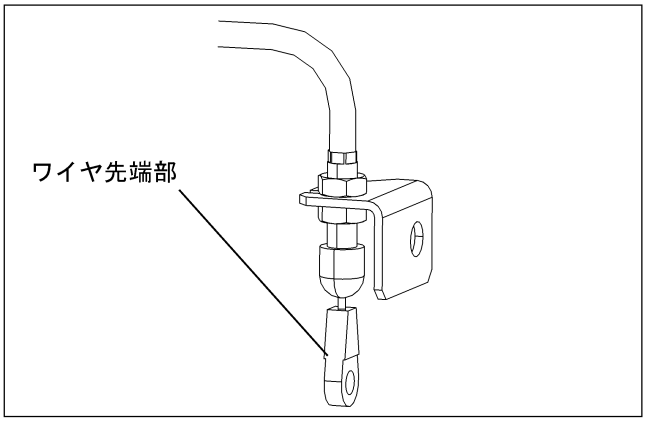
⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。(107 ページ参照)

⑵ カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。(115 ～ 116 ページ参照)

⑶ ワイヤ固定部よりボルト①とナット②を外して，ワッシャ③，スペーサ④を外した後ナット⑤を外し，ワイヤ先端部を取り外します。

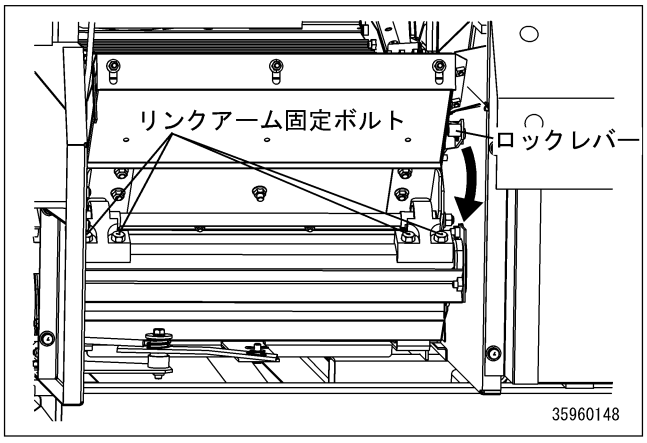


⑷ ワイヤを取り外します。



⑸ 揺動流板を取外します。

① 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外します。

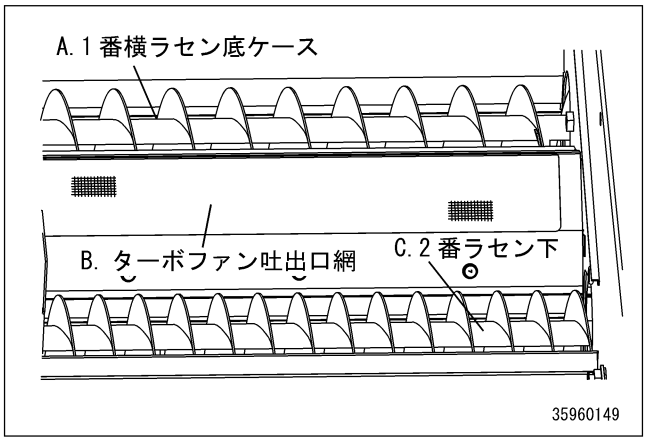


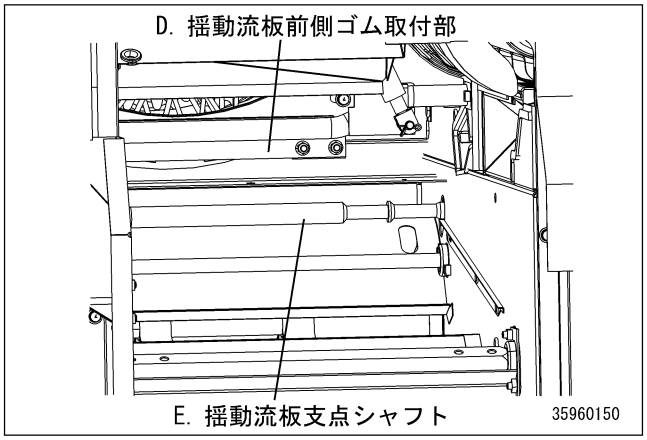
② 揺動流板後部右側のロックレバーを矢印の方向に回動させます。

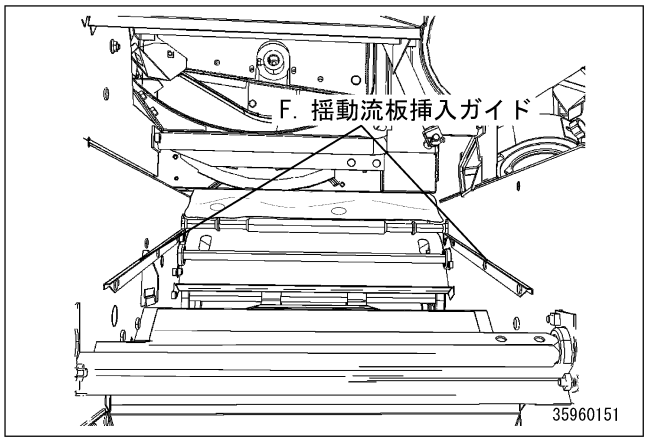
③ 揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。

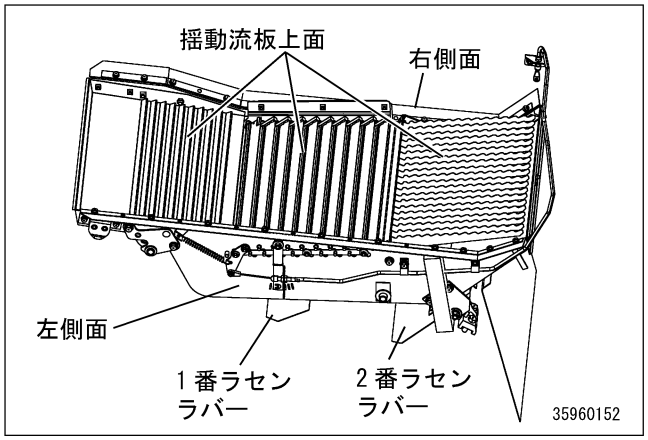
❷ 揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を取外した後の脱こく内部Ａ～Ｆと揺動流板上面および左右側面を掃除します。



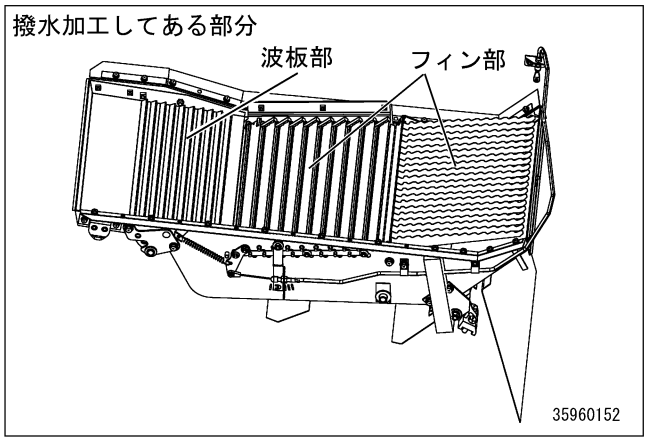






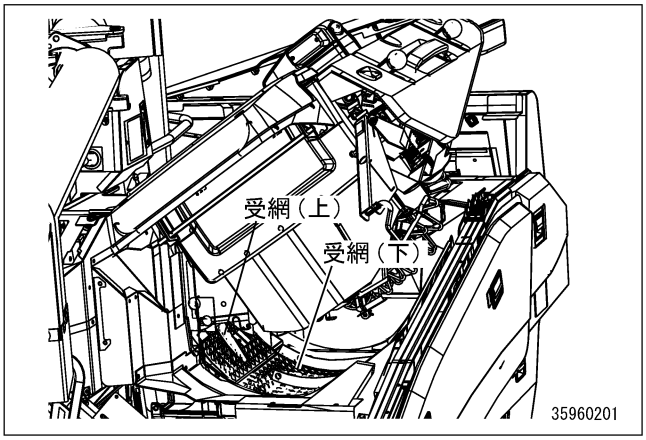
取扱いのポイント

- S仕様において，使用条件により部分的に撥水塗料がはがれる場合がありますが，極端な機能低下とはなりませんので継続してご使用ください。
  尚，撥水塗料が全体的にはがれた場合が交換の目安となります。

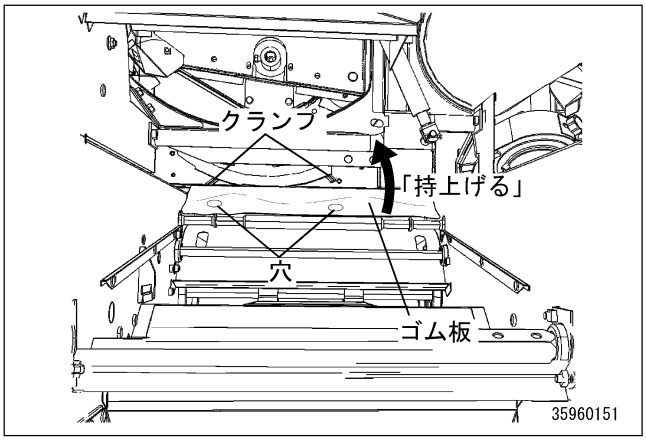


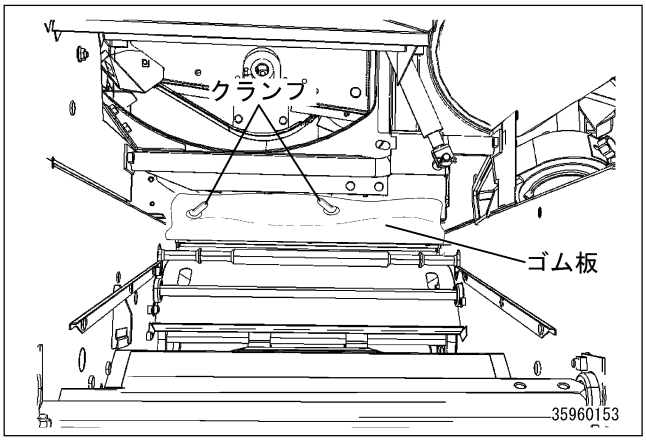
❸ 揺動流板の取付けかた（2人作業）

(1) 脱こく部を開いた状態にし，受網（上）（下）を外します。



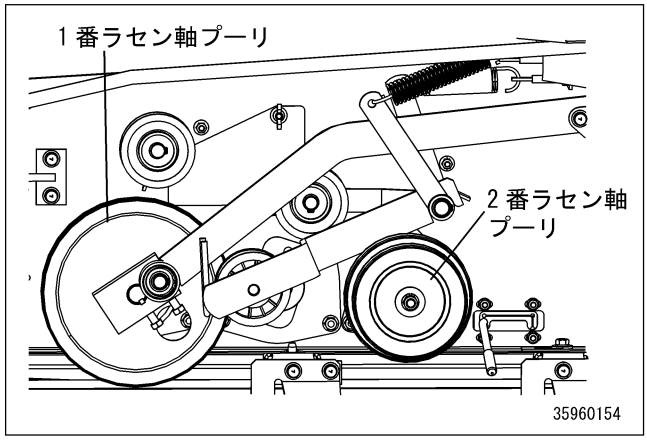
(2) 揺動流板前方のゴム板を持上げてゴム板の穴にクランプを通して固定します。(揺動流板の噛込みを防ぐため)





⑶ 揺動流板を組付けます。

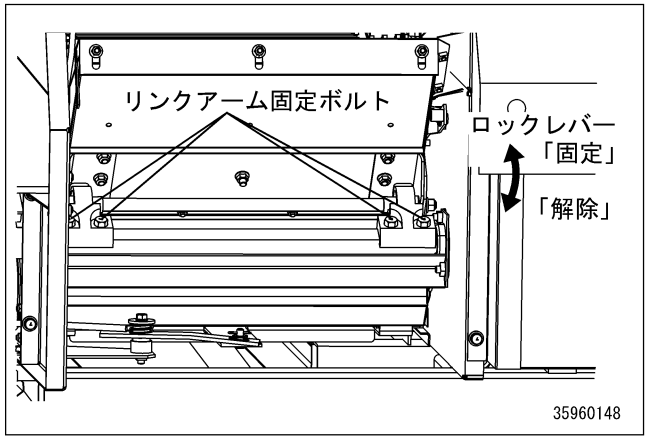
① 揺動流板後方右側のロックレバーを「解除」位置にし，1番ラセン軸（1番軸）のプーリを下図の位置になるように回します。



② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のローラをのせ，少しずつ押込んでいきます。

取扱いのポイント

●揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押し込んでください。（ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押し付けてください）



③ 1番ラセン軸のプーリを回し揺動流板を奥（セット位置）まで送ります。

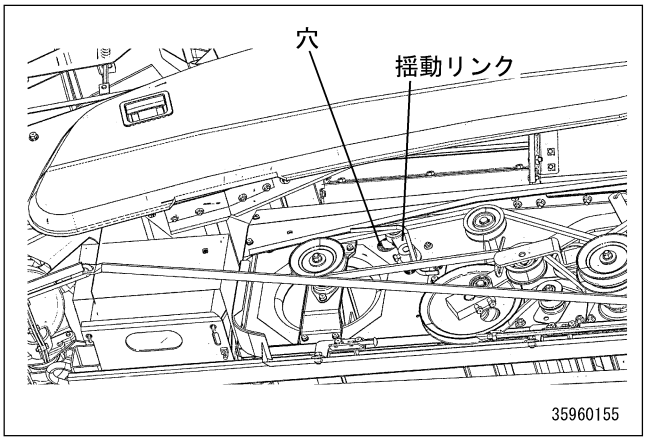
④ リンクアーム固定ボルトをはめ込みます。

⑤ ロックレバーを「固定」位置にします。

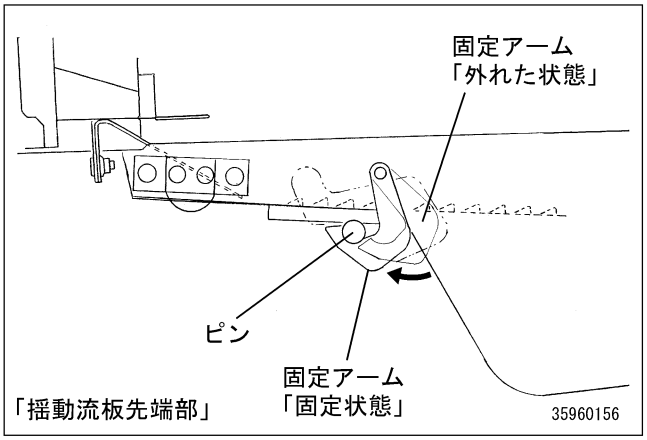
取扱いのポイント

●揺動流板がセット（固定）されていない時は，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがありロック（固定）しません。
この状態の時は再度セットし直してください。（①から）

⑥ 揺動リンクの穴から内部をのぞきます。
（揺動流板の固定アームが見えます）



⑦ 固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。



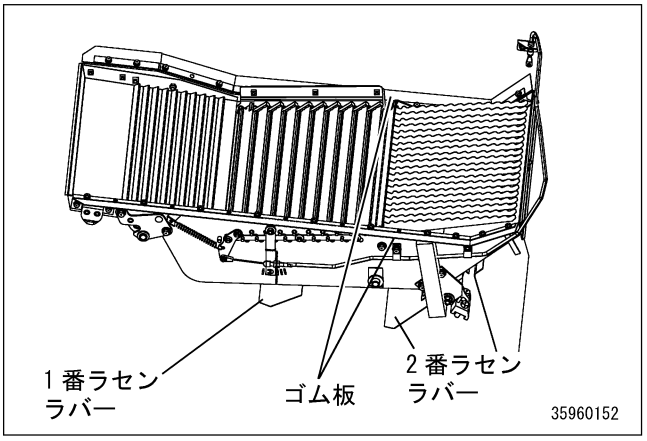
⑧ 右側も同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。（グレン仕様はタンクオープンし，ホッパ仕様は揚こく筒前側のカバーを取外して確認します）

取扱いのポイント

●固定アームがピンから外れている場合は再度セットし直してください。（①から）

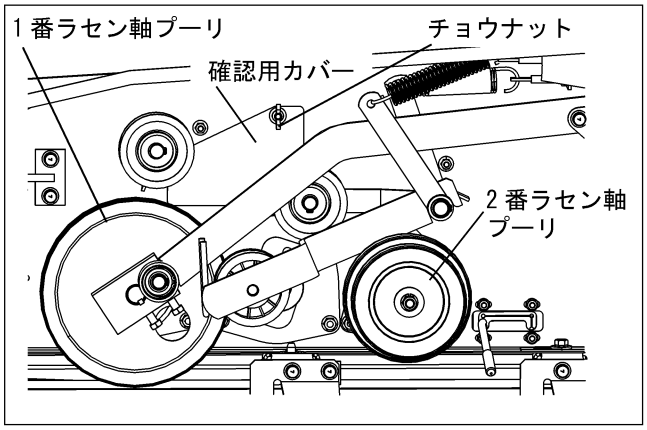
●揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。

⑨ 揺動粒板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。



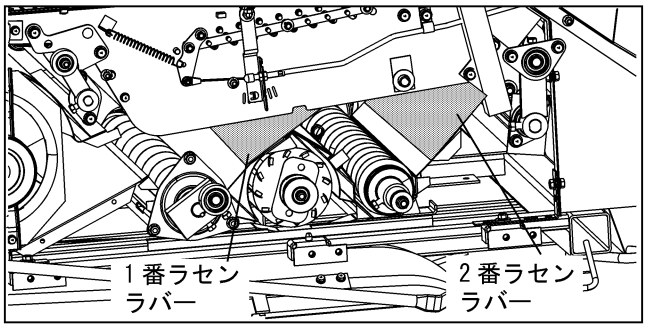
⑩ 揺動流板下部の１番ラセンラバーが折曲がっていないことを確認します。

1) チョウナットを外し，確認用のカバーを外します。



2) 目視でラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていた場合は，ドライバなどを使用し曲がりを直します。
（１番ラセンの斜面部に収まっているか確認する。）

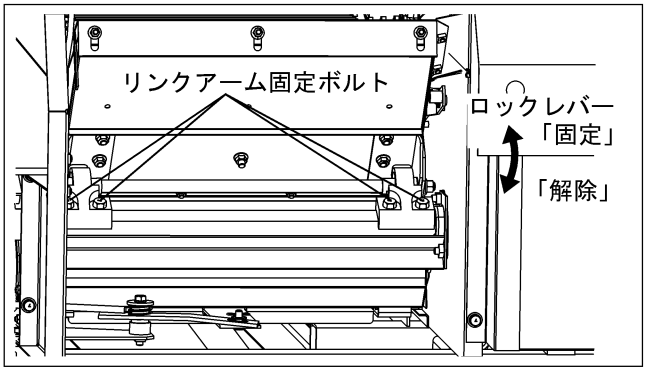
3) 揺動流板後部からみて２番ラセンラバーが２番ラセンの斜面部に収まっているか確認し，収まっていない場合は，手で押し込んでください。



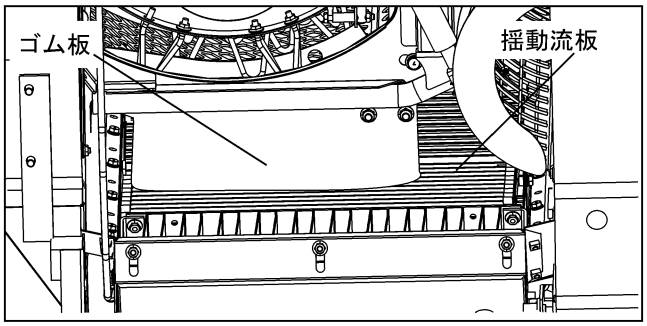
取扱いのポイント

●ゴム板，ラバーは正常に組まないとこく粒もれの原因となります。

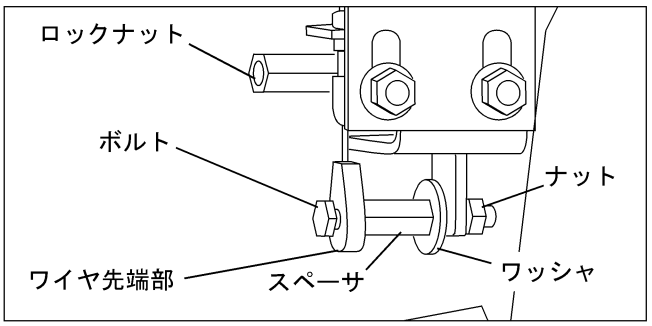
⑪ 揺動後部のリンク部の固定ボルト左右各２ヶを締め付けます。



⑫ (2) で固定したゴム板をクランプから外し揺動流板の上にのせます。



⑬ ワイヤ固定部を取付けます。



⑭ カッタ部，こぎ胴部を元どおり閉じて，取外していたカバー類を取付けます。

11. グレンタンク部の掃除

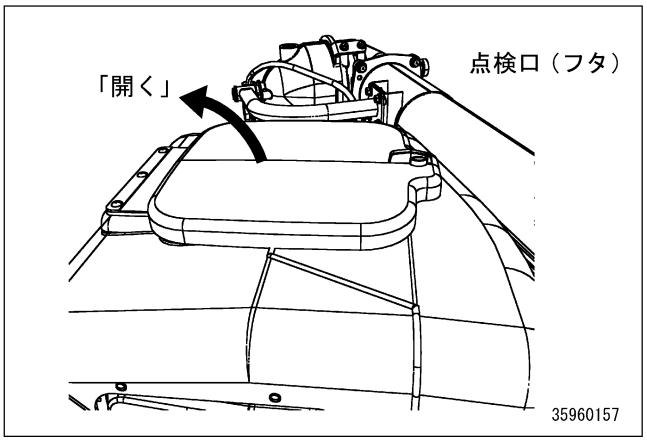
⚠警告 傷害事故防止のために

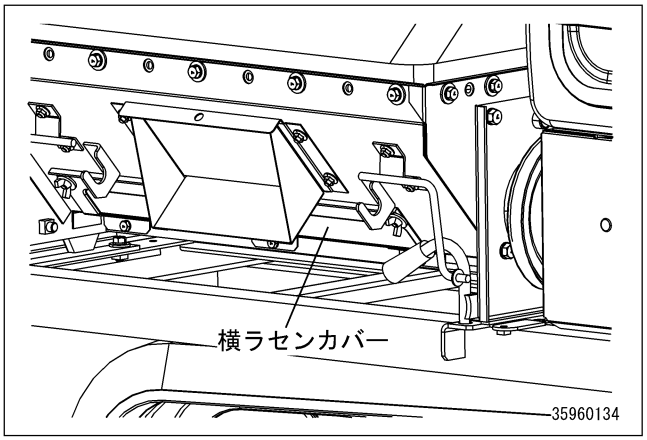
◆グレンタンクの掃除をする時は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し各部の動きが止まってから行ってください。

◆作業後カバーを取付けてください。

❶ グレンタンク内の掃除

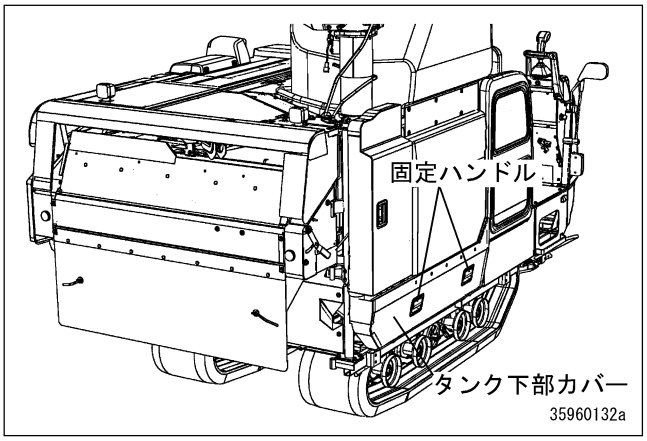
グレンタンク上部の点検口を開き内部を確認し，必要によりホウキ等でホコリを払い，取出しは横ラセンカバーを開いて行います。



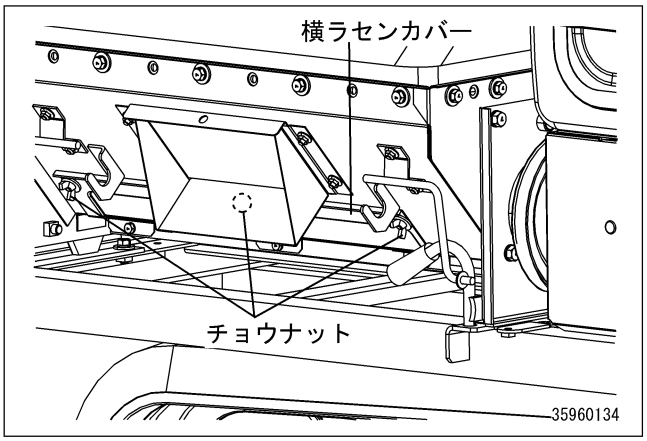


❷ 横ラセン部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーの固定ハンドルを引きカバーを取外します。



⑵ チョウナット（3ヶ）をゆるめて外し，横ラセンカバーを開いて掃除します。

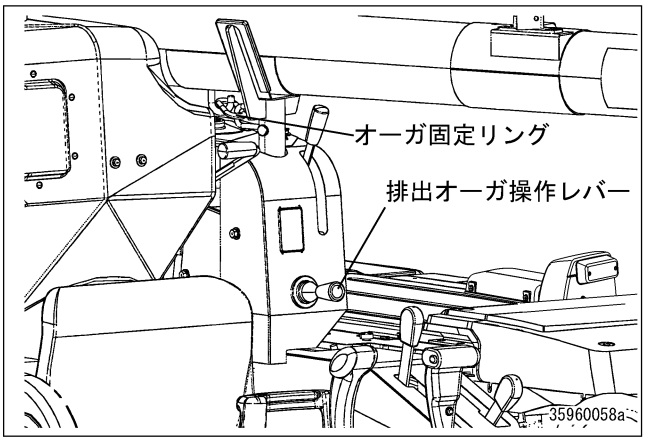


⑶ 掃除後は，横ラセンカバーを閉めグレンタンク下部カバーを取付けます。

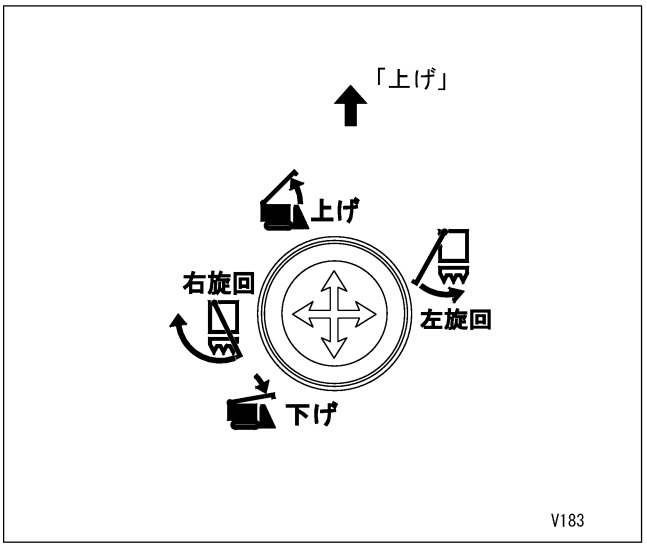
❸ 縦ラセン筒上部の掃除

⑴ エンジンを始動します。

⑵ オーガ固定リングを外します。



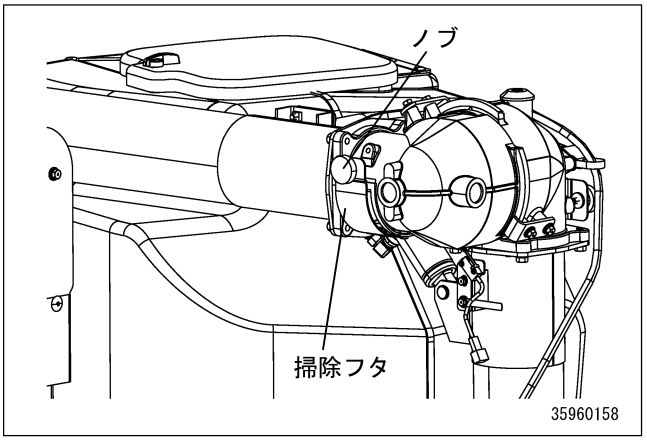
⑶ 排出オーガ操作レバーでオーガを上げます。

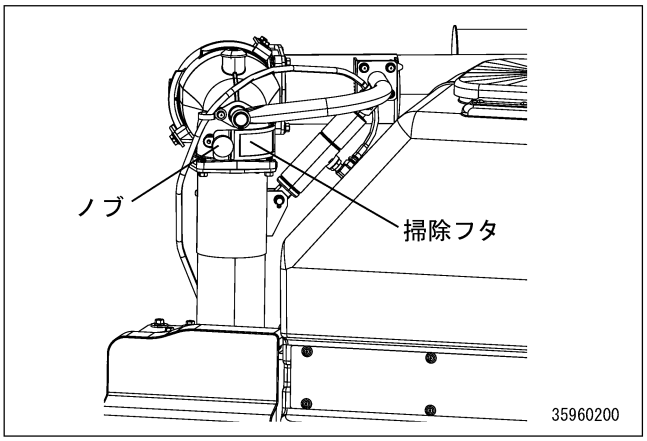


⑷ エンジンを停止します。

⑸ 上部ラセン掃除フタ（2ヶ所）のノブをゆるめてフタを開きます。

⑹ 内部を掃除します。



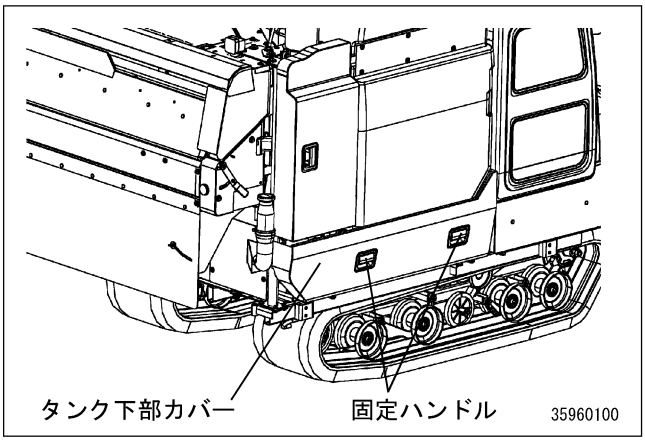


⑺ 掃除を終わったら掃除フタを閉めエンジンを始動し，オーガを収納します。

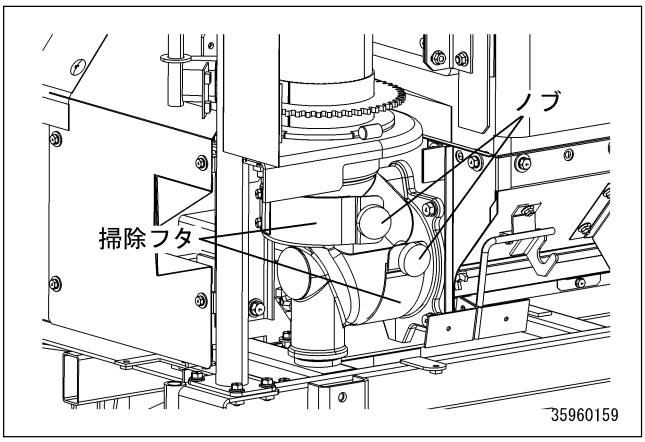
⑻ オーガ固定リングを掛けます。

❹ 縦ラセン筒下部の掃除

⑴ 固定ハンドルを引き上げ，グレンタンクの下部カバーを取外します。



⑵ ノブ（2ヶ）をゆるめ縦ラセン下部の掃除フタ（2個所）を開いて，掃除します。



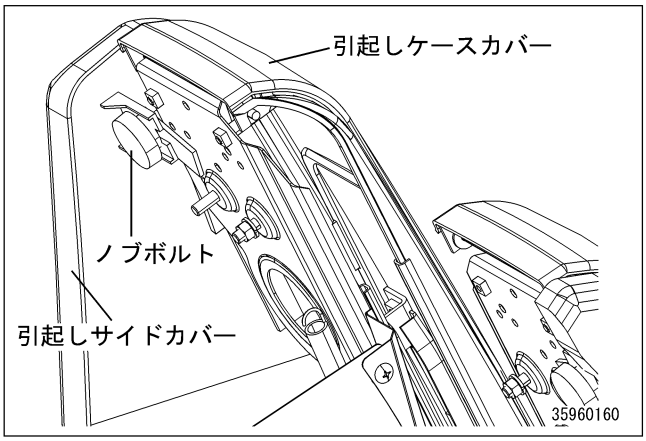
⑶ 掃除後は，掃除フタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

取扱いのポイント

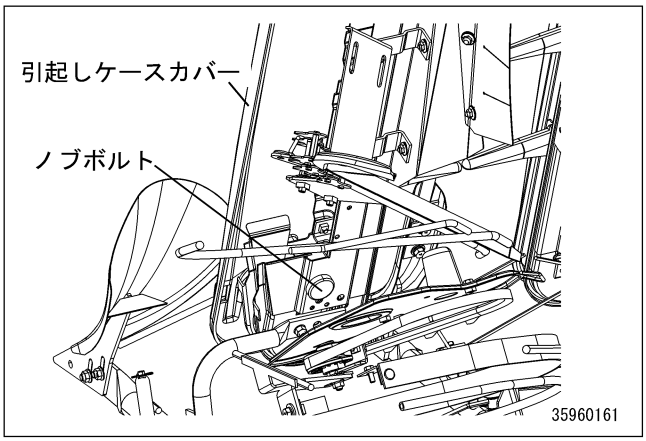
- **各掃除フタ（カバー）はこく粒のかみ込み等によるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。**

12. 引起しケースカバーの外しかた

❶ 引起しケースの上方のノブボルトをゆるめて外し，引起しサイドカバーを上方に引き取外します。



❷ 引起しケースの下方のノブボルトを外し，引起しケースカバーを上方に引き取外します。



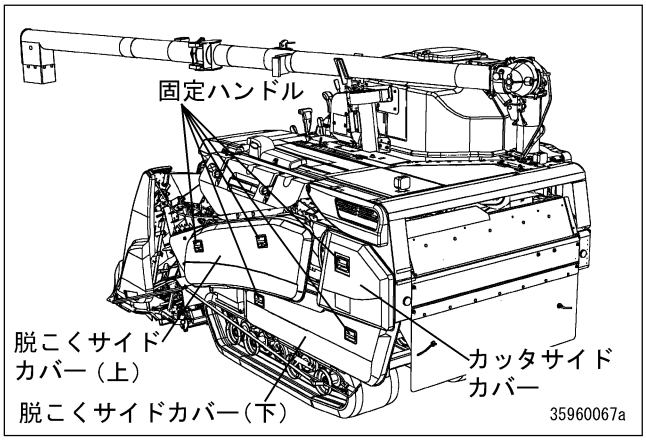
❸ 掃除等の作業後カバーを取付けてください。

13. カッタ部開閉のしかた

⚠危険 傷害事故防止のために

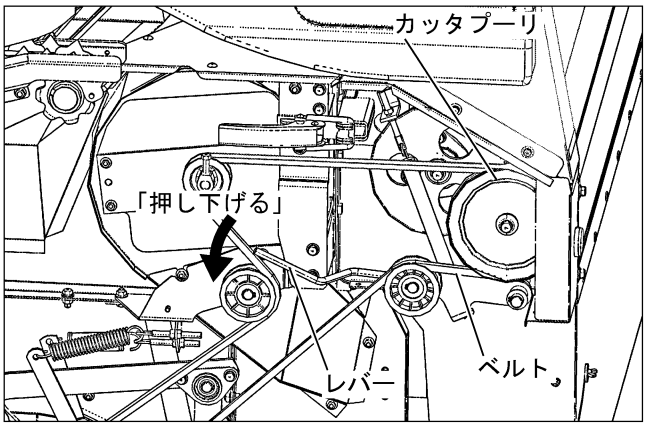
- ◆ カッタをオープンする時は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
- ◆ カッタをオープンして点検作業等をする時は，ストッパをかけ，固定状態にしてください。
  ストッパを固定状態にしないとカッタが回動して障害事故を起こすことがあります。
- ◆ カッタをオープンした時はカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 固定ハンドルを持上げて脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



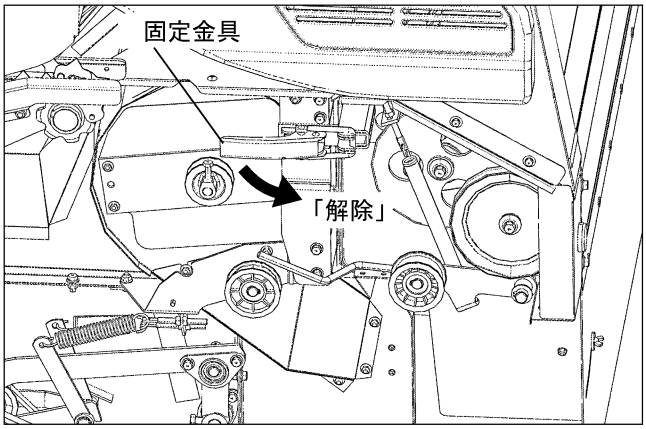
❷ レバーを押し下げ，ベルトの張りを解除します。

❸ ベルトをカッタプーリより外します。

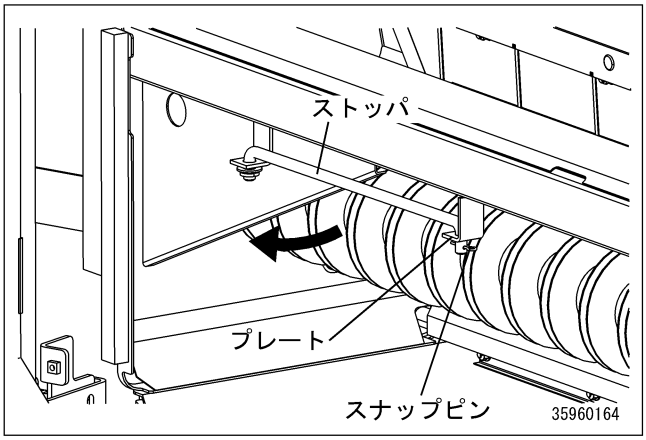


❹ 固定金具の握りを引き上げ固定（ロック）を解除します。

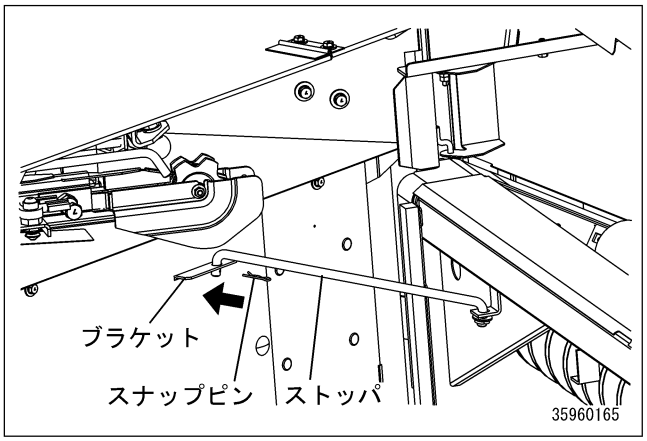
❺ カッタフレームを少し上方へ持上げながら，後方へオープンします。



❻ カッタについているストッパのスナップピンを外し，プレートから外して矢印の方向に回動させます。



❼ ストッパ先端をブラケットの穴に入れ，スナップピンを差込み固定状態にします。



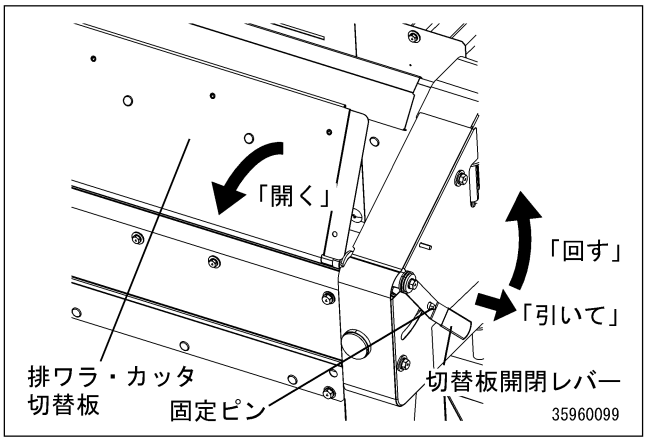
❽ カッタを閉じる時は，逆の手順で行います。(❼ →❶ の手順)

❾ 切替板の開閉

⚠危険 傷害事故防止のために

◆切替板開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

切替板開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替板を倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認します。



・確認後は逆の手順で元どおりにします。

4. 各部の点検と部品交換のしかた

・各部の点検および部品交換は「お買いあげ先」で行ってください。

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

◆カッタをオープンする時は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。

◆カッタをオープンしてカッタ刃組品の取外し，分解をする時はストッパを固定状態にして行ってください。

◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用して２人作業で合図をし合って行ってください。

◆ノコ刃を交換する時は，刃に「あて布」を被せてください。
ノコ刃軸，カキコミ軸のナットをゆるめる時は，メガネレンチ等で確実に固定してください。

◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。

❶ カッタ刃組品の取外し

カッタ刃組品の取外しを行う場合にはⒶとⒷの２とおりの方法があります。

Ⓐ「カッタ部をオープンしカッタ前面より行う方法」

・ノッタ等，カッタ部後方に作業機が装着されている場合

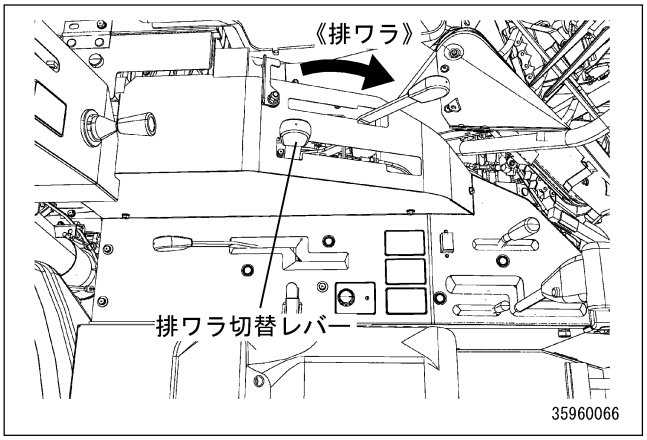
Ⓑ「カッタ部後方より行う方法」

・カッタ後部方に作業機が装着されていない場合

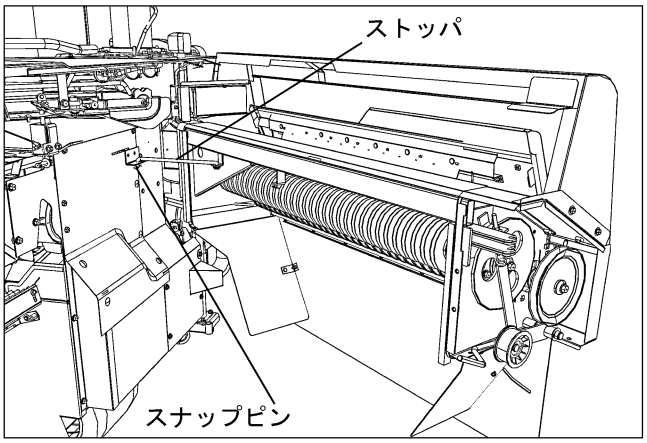
Ⓐ「カッタ部をオープンしカッタ前面より行う方法」の場合

ノコ刃軸の交換のしかた

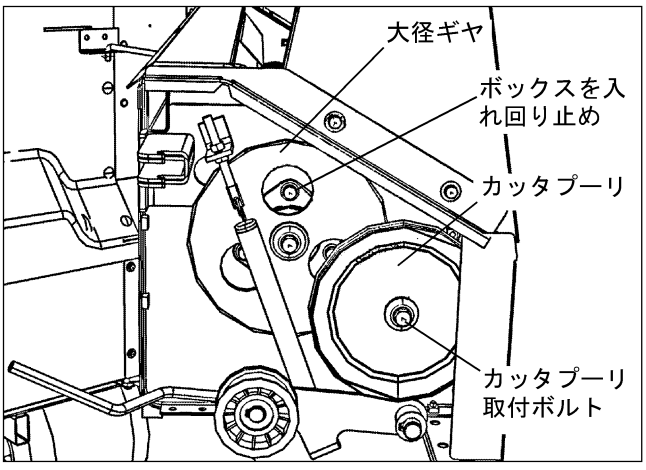
⑴ カッタ・排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



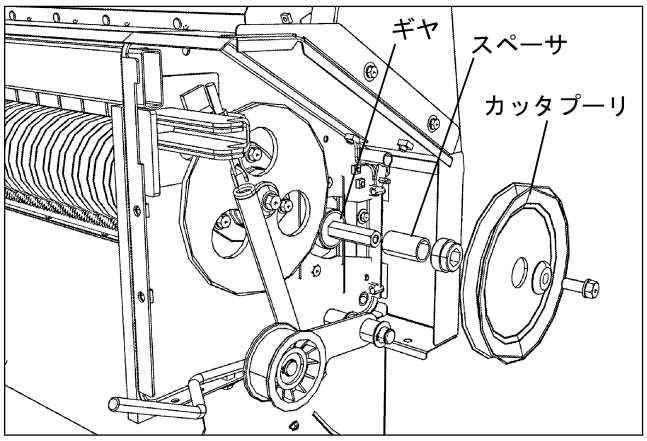
⑵ カッタをオープンしストッパをかけスナップピンで固定します。



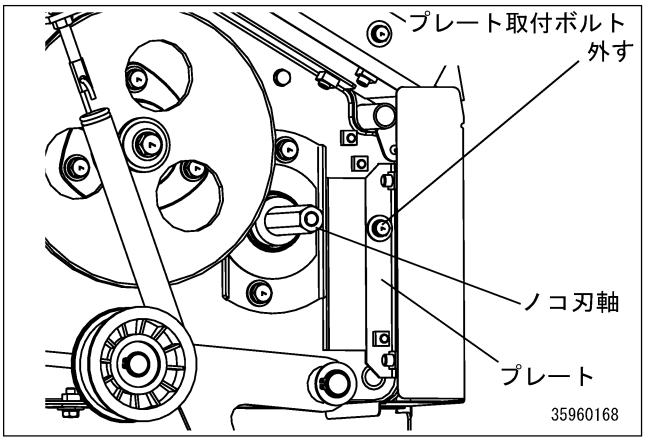
⑶ 大径ギヤの穴にM8用ボックスを入れ，軸を固定し，カッタプーリ取付ボルトをゆるめます。



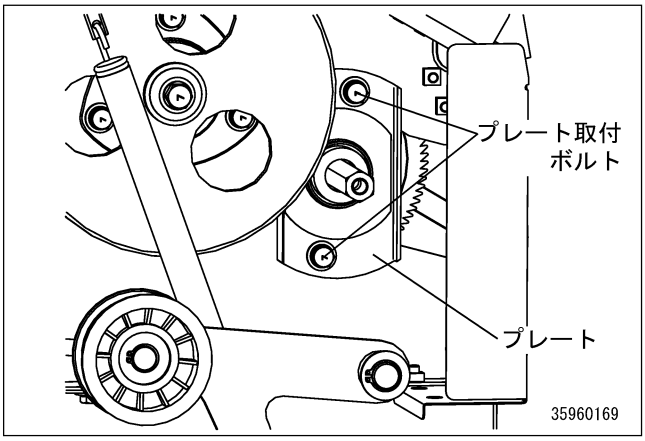
⑷　カッタプーリ，スペーサとギヤを外します。



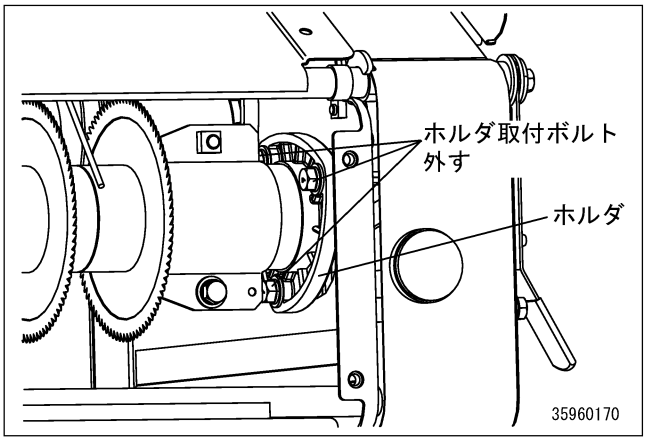
⑸　ノコ刃軸後方のプレートを外します。



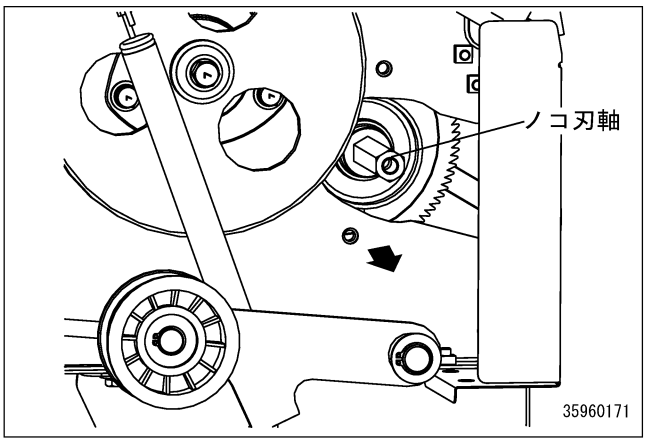
⑹　ノコ刃軸支持部のプレートを外します。



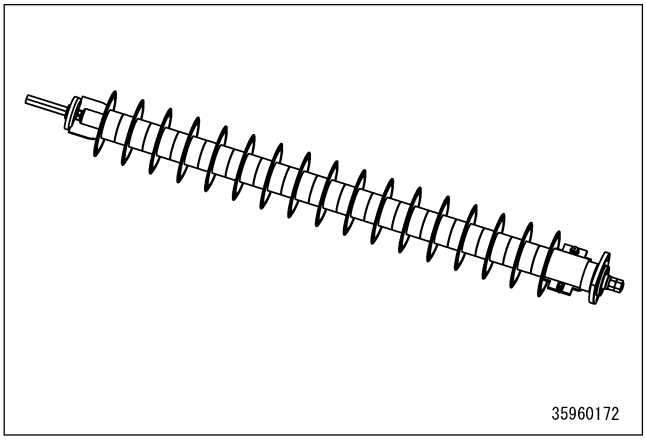
⑺　カッタ右側のノコ刃軸支持部のホルダを外します。（イラストは，背面カバーを外した状態です。）



⑻　ノコ刃軸を左方向にいったん引き出し，下方から抜き出します。

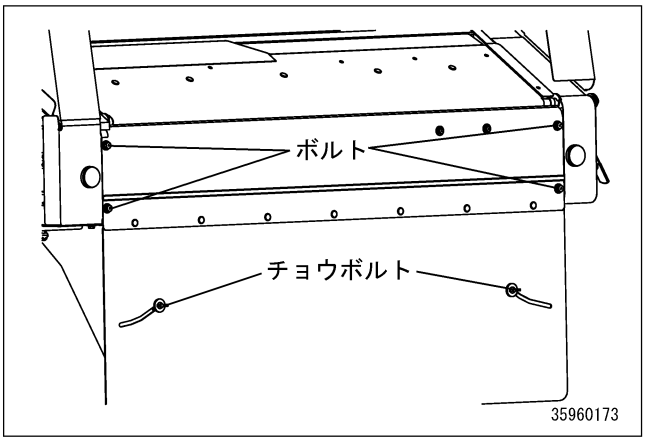


・外したノコ刃軸組立品

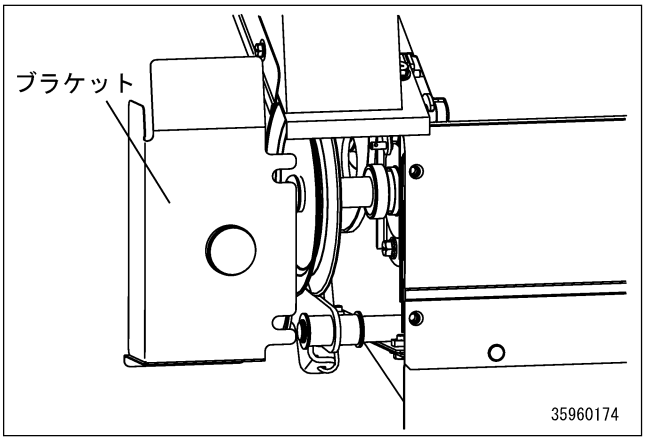


Ⓑ「カッタ部後方より行う方法」場合

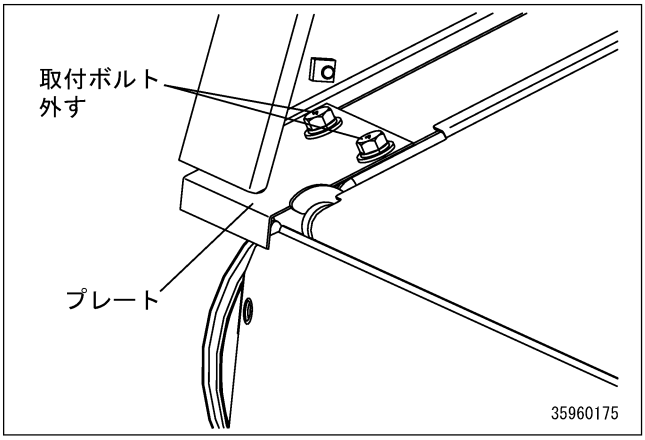
⑴　カッタ背面のボルト４個，チョウボルト２個を外します。



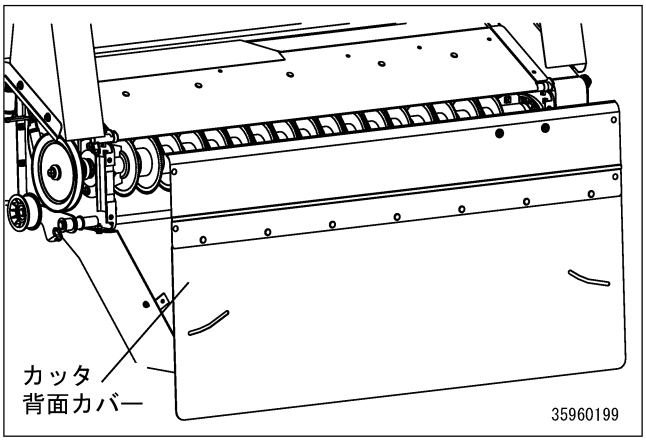
⑵　カッタ左下のブラケットを外します。



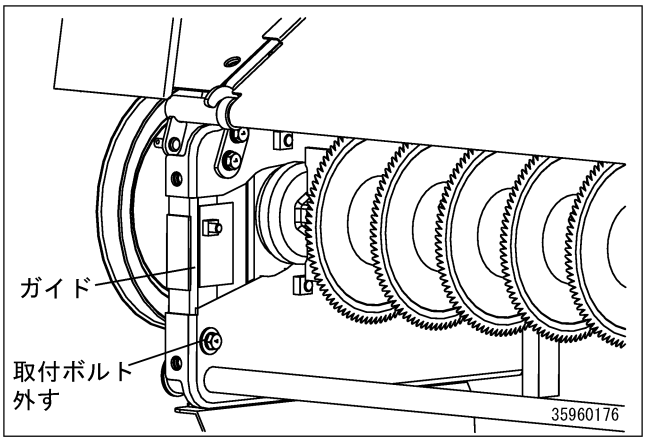
⑶　カッタ左上のプレートを外します。

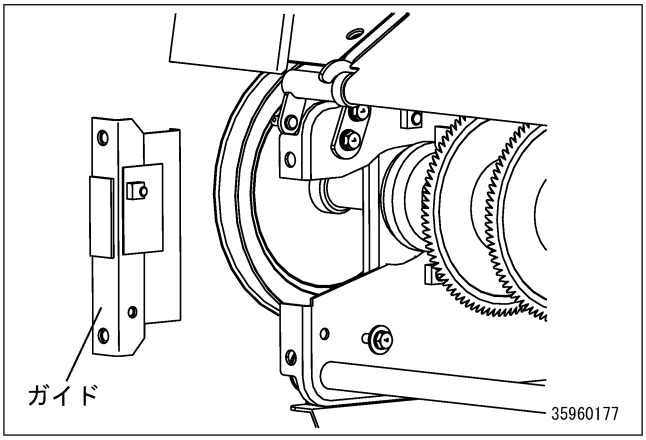


⑷　カッタの背面カバーを持上げる様にして，取外します。

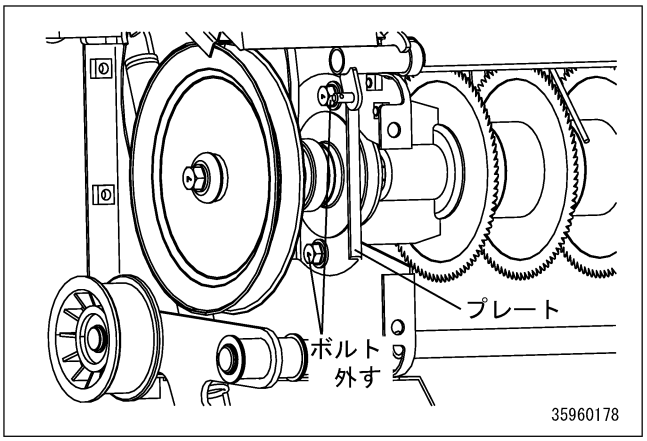


⑸　カッタ左のガイドを外します。

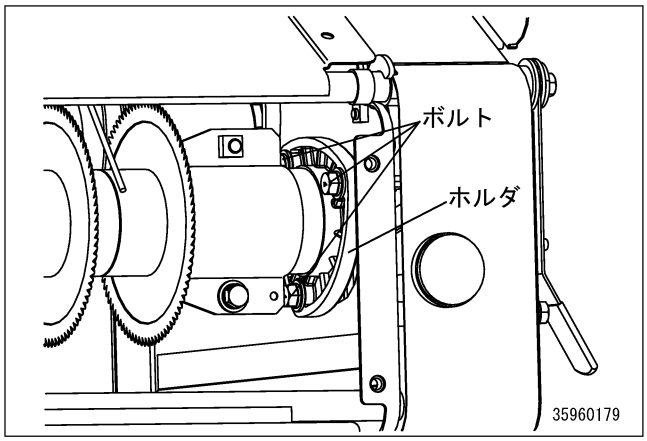




⑹　ノコ刃支持部のプレートのボルトを外します。

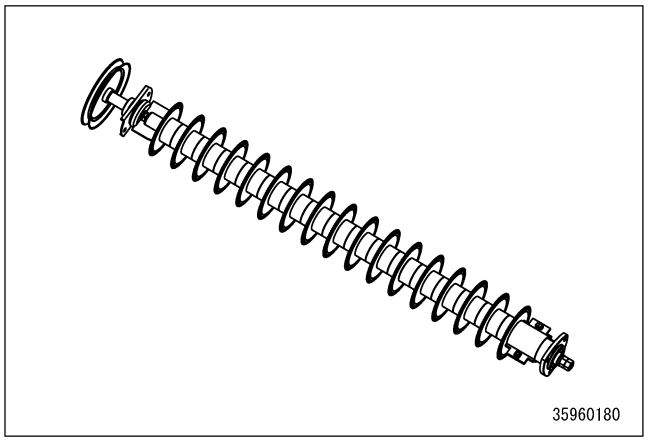


⑺　ノコ刃軸右側を固定しているホルダのボルトを外します。(3 個)



⑻　ノコ刃を左側から後方に引き出します。

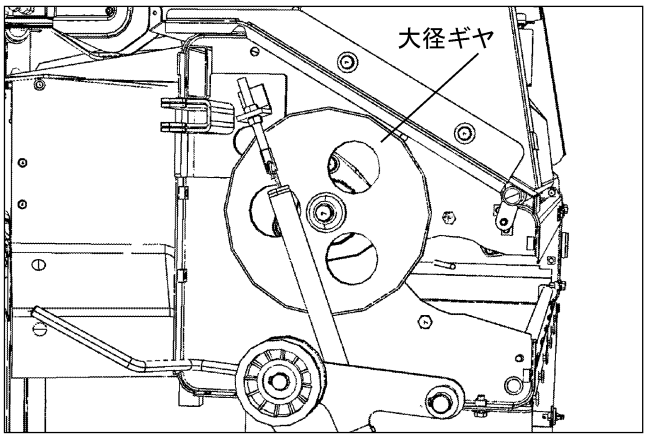
・ノコ刃軸組立品



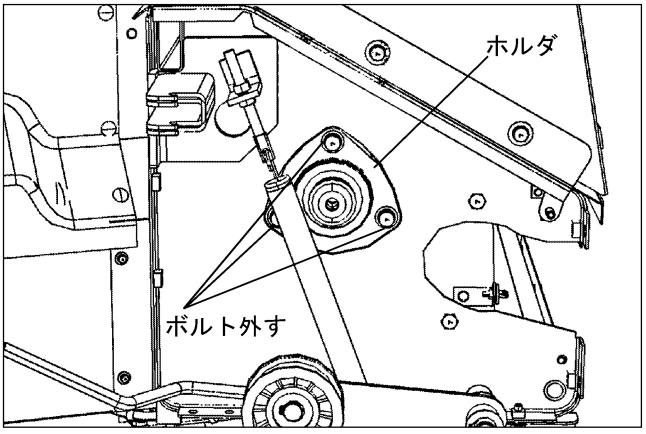
❷　カキコミ軸の交換のしかた

Ⓐおよび Ⓑ の方法でノコ刃軸を外した後，

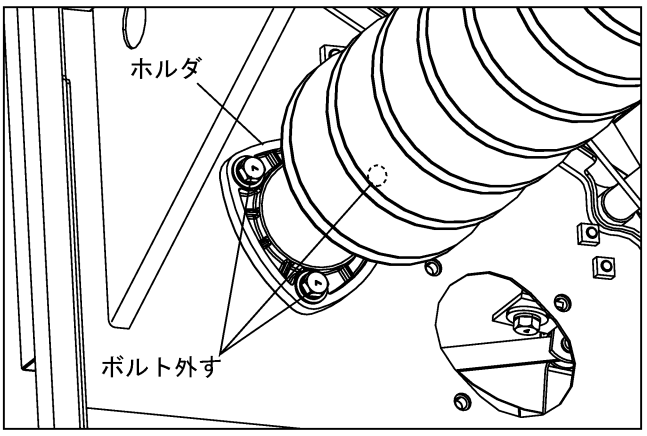
⑴　大径ギヤを外します。



⑵　カキコミ軸左側ホルダのボルトを外し左側ホルダを抜きます。

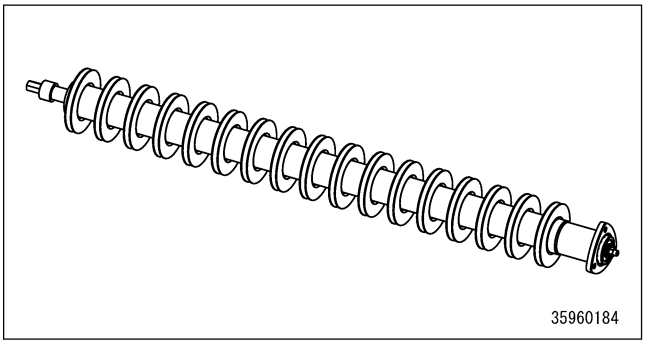


⑶　カキコミ軸右側ホルダのボルトを外します。



⑷　カキコミ軸を持って，左側に移動しながら抜き出します。

・カキコミ軸組立品



取扱いのポイント

- ノコ刃軸組品およびカキコミ軸組品を組付ける時は取外しの逆の手順で行ってください。

❸ ノコ刃の交換のしかた

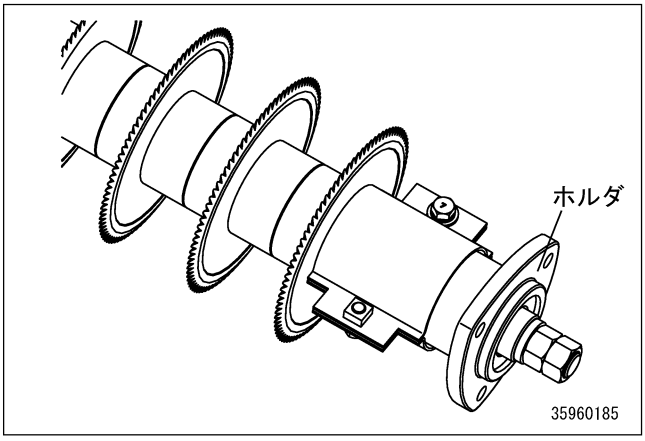
⚠警告　傷害事故防止のために

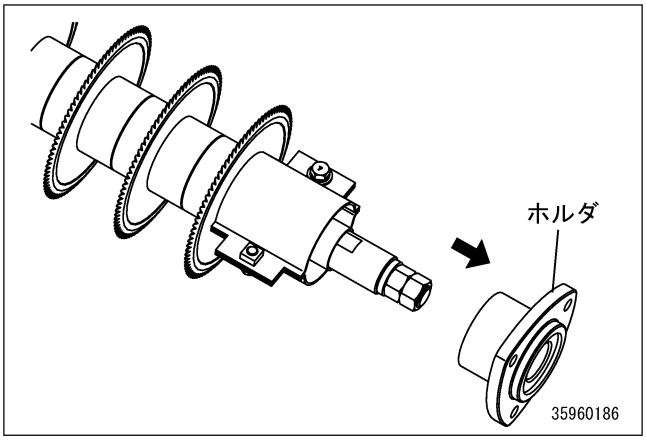
◆刃の交換作業は２人作業で行ってください。

◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

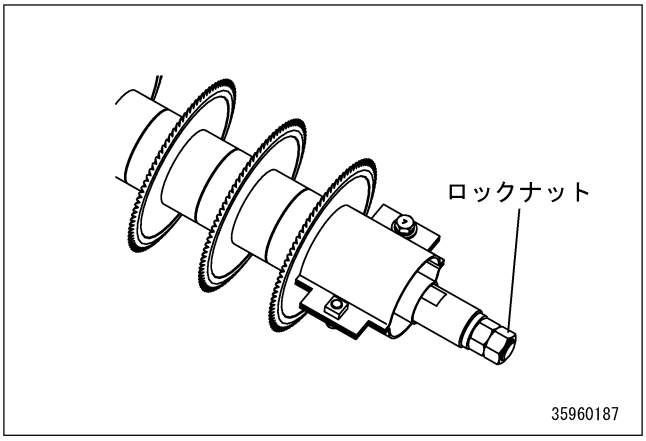
⑴　刃先を傷付けないよう板または布を下に敷いてください。

⑵　ホルダを抜き出します。

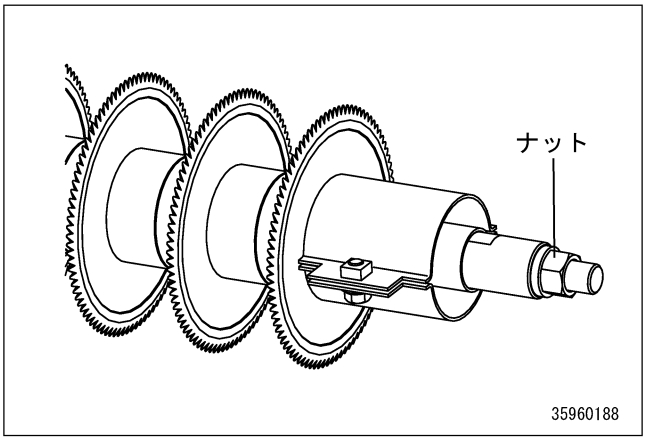




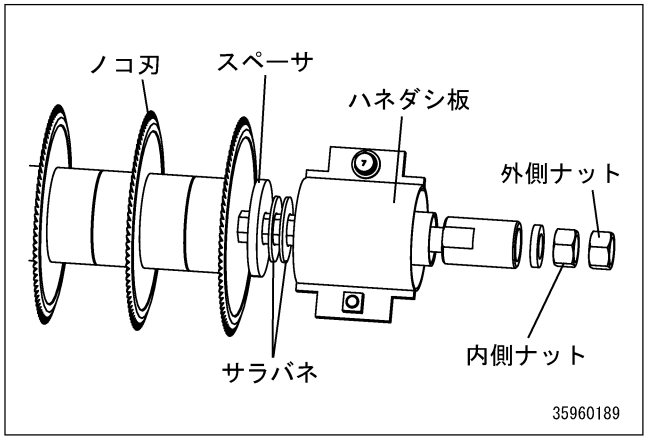
⑶　ロックナットをゆるめて外します。



⑷　ナットを外し順番に抜き出してください。



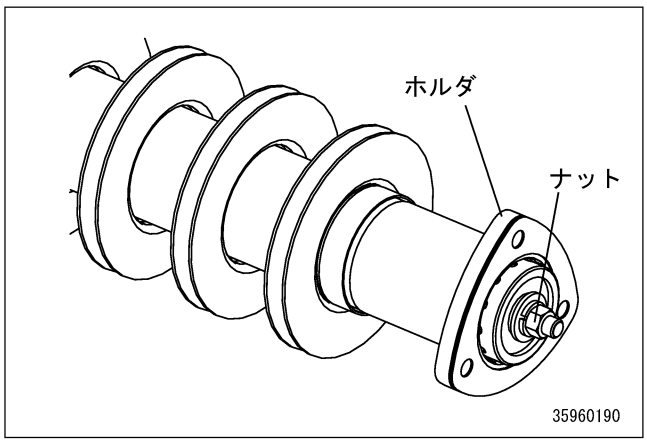
⑸　ノコ刃軸を分解する場合は，スパナ２本を使用し，片方のスパナで内側のナットを固定し，もう一方のスパナで外側のナットをゆるめます。



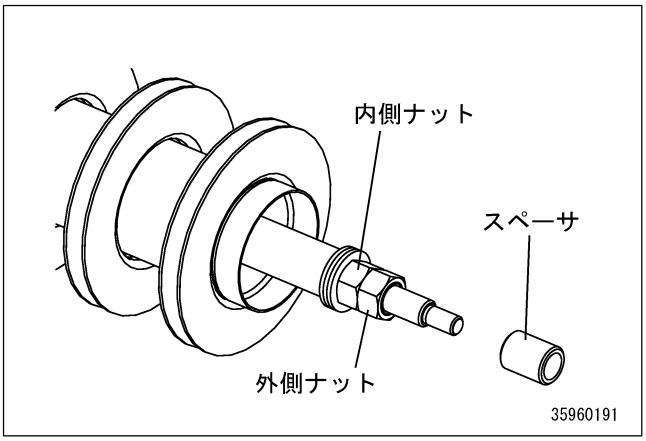
⑹　ノコ刃，カキコバンを新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。（ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照）

❹ カキコミバンの交換のしかた

⑴　カキコミバンはナットを外しホルダ，スペーサを抜きます。



⑵　カキコミ軸を分解する場合は，スパナ２本を使用し，片方のスパナで内側のナットを固定し，もう一方のスパナで外側のナットをゆるめます。



⑶　軸にそって部品を抜取ります。

⑷　カキコミバンを新品に交換し，取付けてあった順に組付けます。（ノコ刃軸，カキコミ軸の組立て図参照）

取扱いのポイント

- **カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，カキコミバン・オサエバンとノコ刃の接触がないことを確かめてください。刃がほぼ中央にあるのが最適です。**
- **ノコ刃，カキコミバンの取付けの時は刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**

❺ 組立詳細図

D323-17 組付要領図

(部品表)

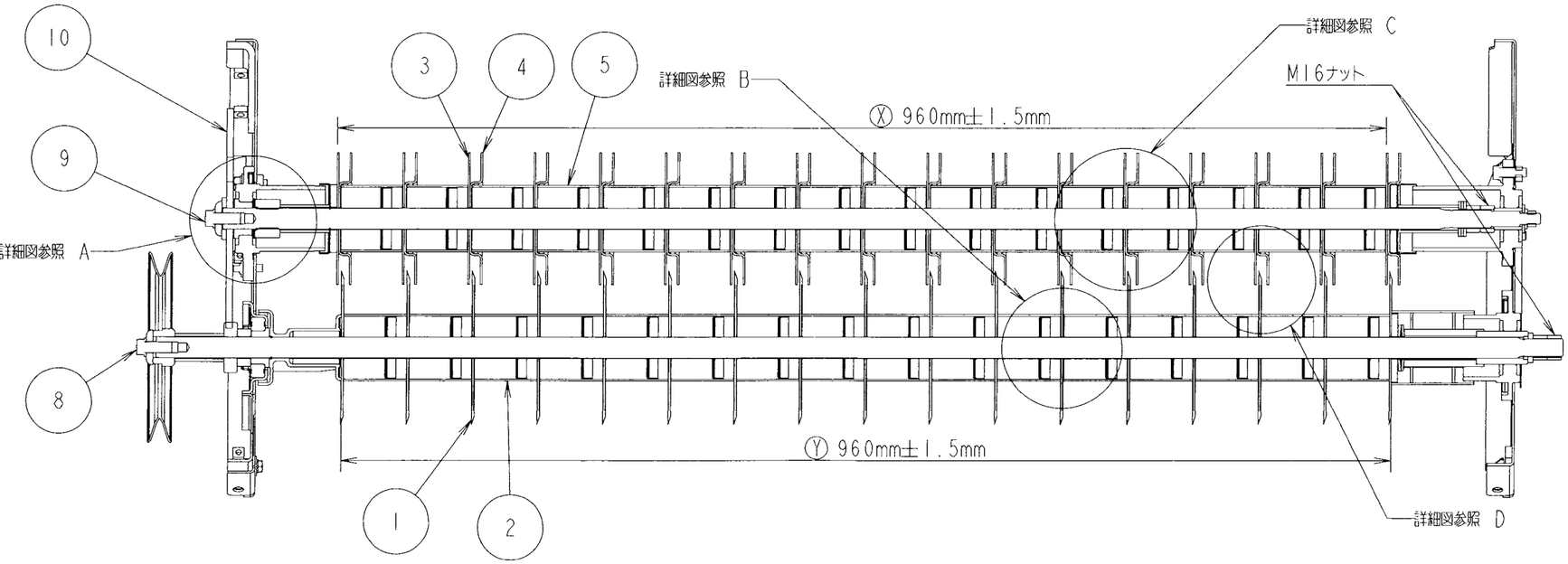
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3578 8817 000	17
2	パイプA	3572 8818 000	16
3	カキコミバン	3572 8834 000	17
4	オサエバン	3572 8836 000	17
5	パイプB　アッシ	3572 8838 000	16
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

＜交換要領＞

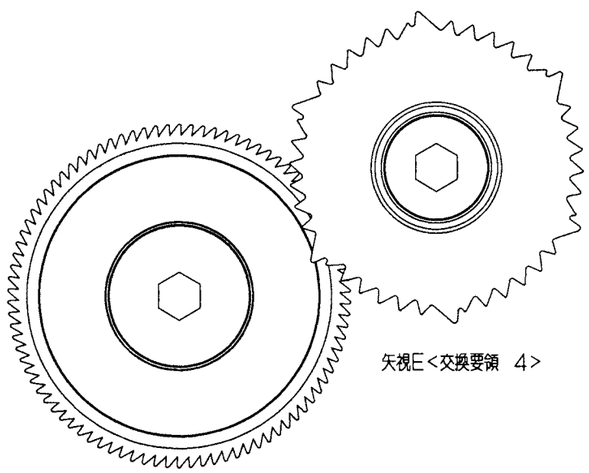
1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (3) カキコミバンは (4) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5. ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (6) ライナは，Ⓧ Ⓨ 寸法が 960mm ± 1.5mm になるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコ刃と (3) カキコミバン，(4) オサエバンのスキマが 2 ～ 5mm（ほぼ中央）になるように，(7) ライナを使用して調整します。
8. M16 ナットの締め付けトルクは 39 ～ 44 N・m {400 ～ 450kgf/cm} に管理し，M16 ナットでロックしてください。
9. (8) ボルト，(9) ボルトの締め付けは，(10) ギヤ 65 の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは 39 ～ 44 N・m {400 ～ 450kgf/cm} に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

＜交換要領＞

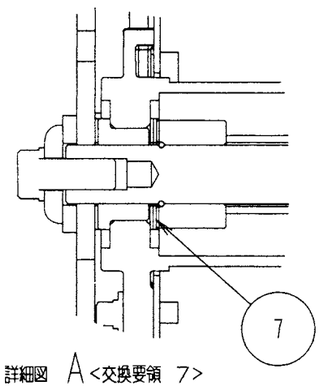
1. ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。(交換要領参照)



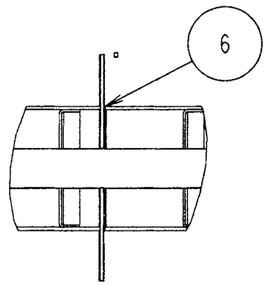
35960192



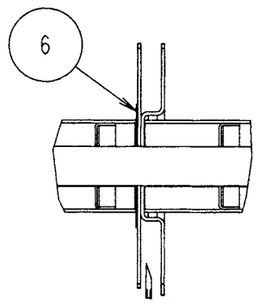
矢視E <交換要領 4>



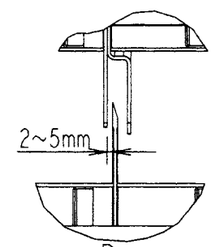
詳細図 A <交換要領 7>



詳細図 B <交換要領 6>



詳細図 C <交換要領 6>



詳細図 D <交換要領 7>

35960300

D323-33 組付要領図

(部品表)

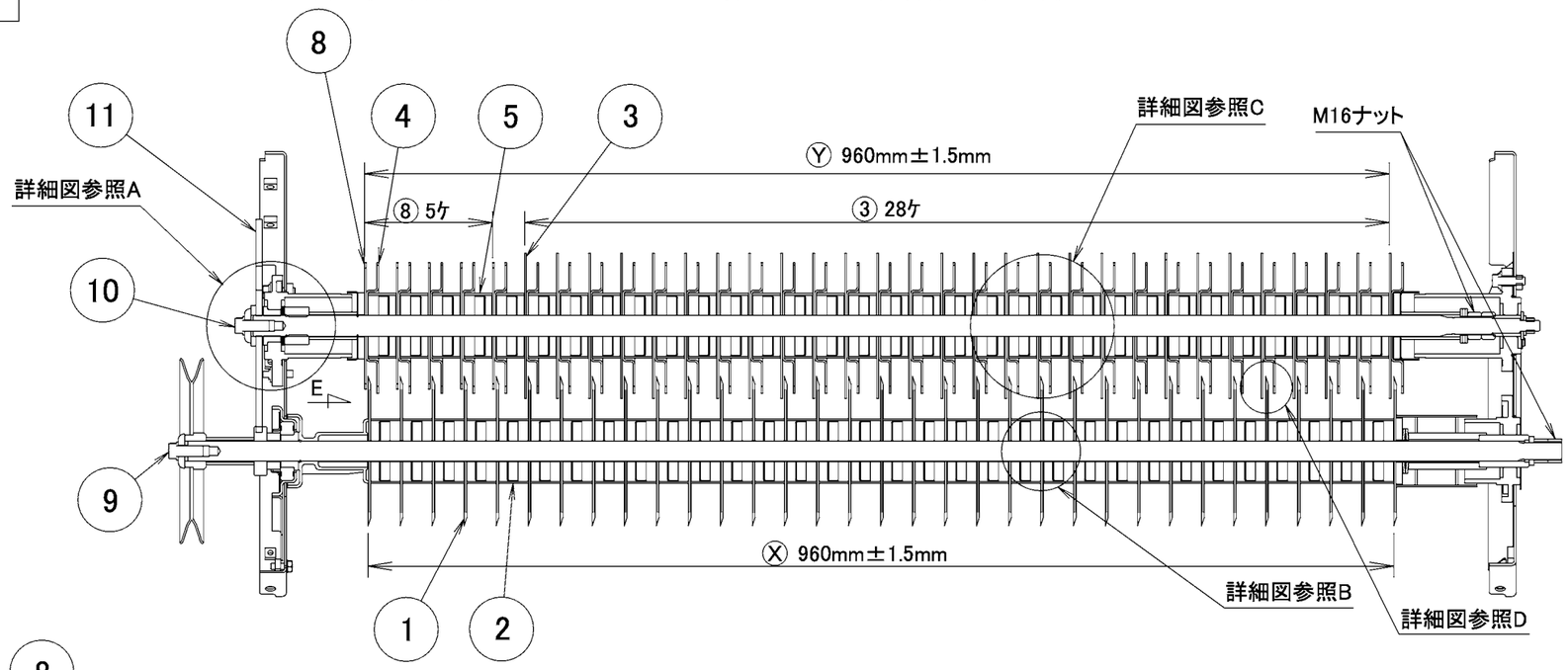
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3578 8817 000	33
2	パイプC　アッシ	3572 8819 000	32
3	カキコミバン	3596 8834 000	28
4	オサエバン	3572 8836 000	33
5	パイプD　アッシ	3572 8839 001	32
6	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
7	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用
8	カキコミバン	3572 8834 000	5

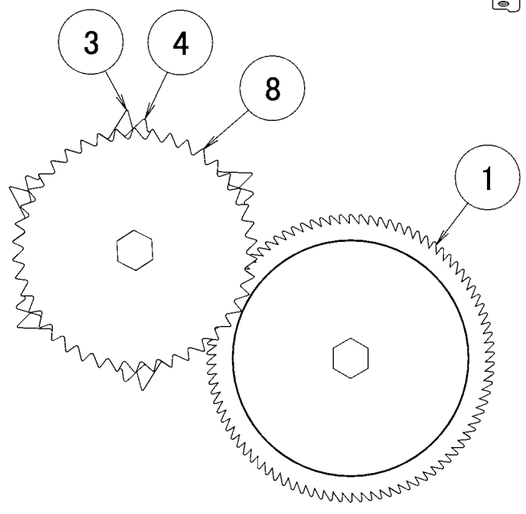
＜交換要領＞

1. 本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2. ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3. ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4. (3),(8) カキコミバンは (4) オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5. ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6. (6) ライナは，Ⓧ Ⓨ 寸法が 960mm ± 1.5mm になるように適切な位置に入れて組付けます。
7. (1) ノコ刃と (3) カキコミバン，(4) オサエバンのスキマが 2 ～ 5mm（ほぼ中央）になるように，(7) ライナを使用して調整します。
8. M16 ナットの締め付けトルクは 39 ～ 44 N・m {400 ～ 450kgf/cm} に管理し，M16 ナットでロックしてください。
9. (8) ボルト，(9) ボルトの締め付けは，(10) ギヤ 65 の穴にボックス等を入れて固定して締め，締め付けトルクは 39 ～ 44 N・m {400 ～ 450kgf/cm} に管理してください。
10. 組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。

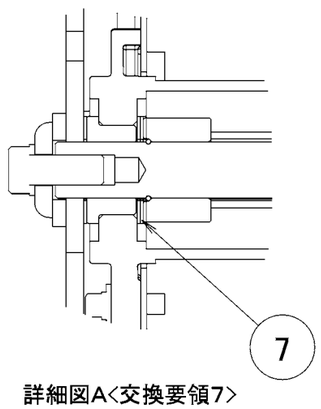
＜交換要領＞

1. ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。(交換要領参照)

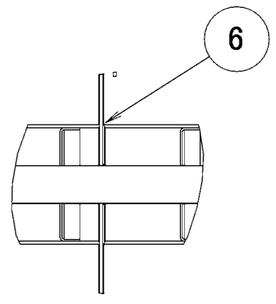




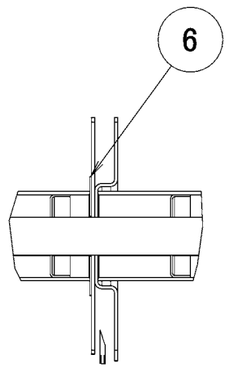
矢視E<交換要領4>



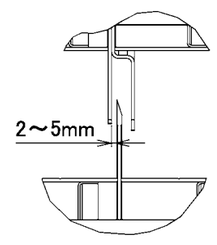
詳細図A<交換要領7>



詳細図B<交換要領6>



詳細図C<交換要領6>



詳細図D<交換要領7>

35960401

2. 爪の交換のしかた

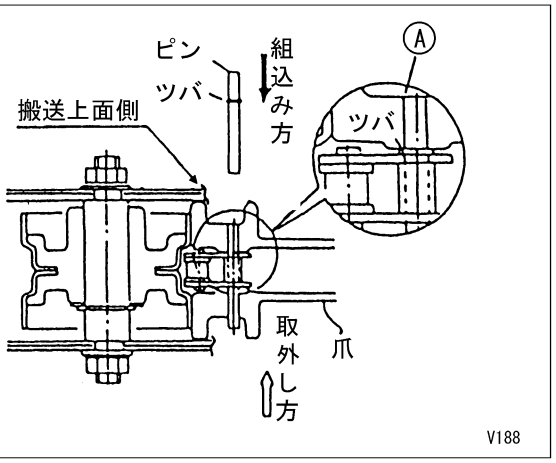
（引き起し爪，穂先搬送爪，かき込み爪）

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。（ピンは強く叩かなくても抜けます）

❷ 爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示 A 部参照）



3. 刈　　刃

⚠危険 傷害事故防止のために

- ◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行ってください。刈刃は内側のボルトを外してください。
- ◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我することがあります。
- ◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

［3 条型 ］

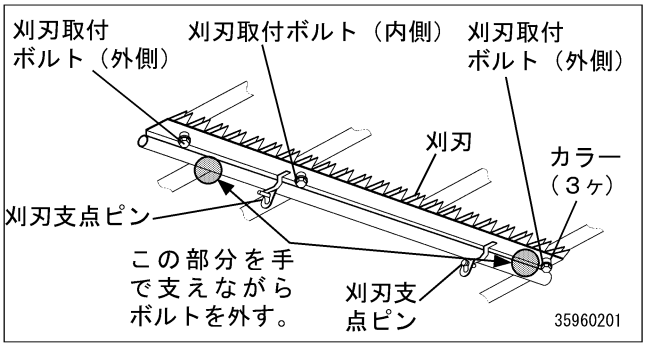
❶ 刈刃のオープン

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，オープン（回動）します。

⑴ エンジンを始動し，マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

⑵ エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

⑶ 刈取部の下方から刈取部を見ると，下図のような取付け状態になっています。

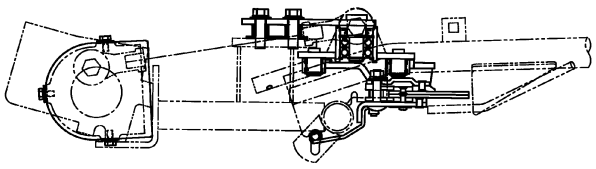


⑷ 内側の刈刃取付ボルト（1 ヶ）を取外します。

⑸ 刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルト（2 ヶ）を取外します。（2 人作業）

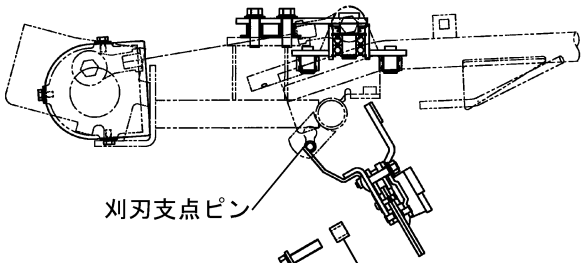
※刈刃取付ボルトには，それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。

［通常状態］



35960262

［オープン状態］



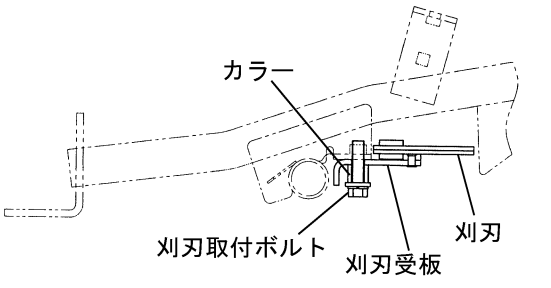
35960264

⑹　刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃をオープン（回動）します。

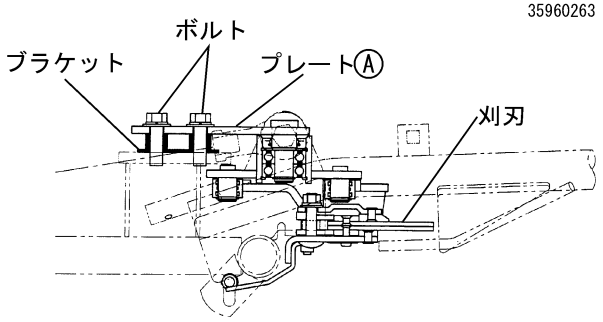
❷ 刈刃の上下調節

・出荷のとき，刈刃は**「上セット」**になっています。

［刈刃上セット状態］（出荷時）



35960263



35960203

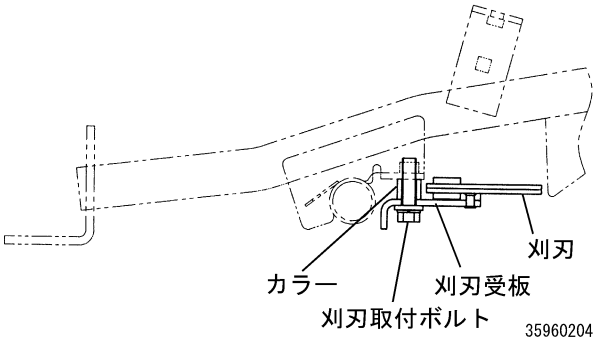
裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃を**「下セット」**にします。

「下セット」にする場合，カラー・ブラケットの２個所の組替えを行います。

⑴　刈刃をオープンします。

⑵　刈刃取付ボルトのカラーを，刈刃受板の**「下側」**から**「上側」**に入れ替えて，ボルトを締付けます。（3 個所）

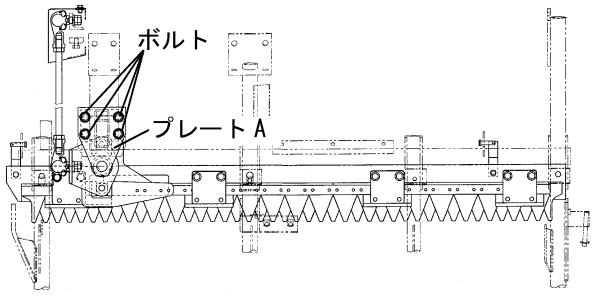
［刈刃下セット状態］



35960204

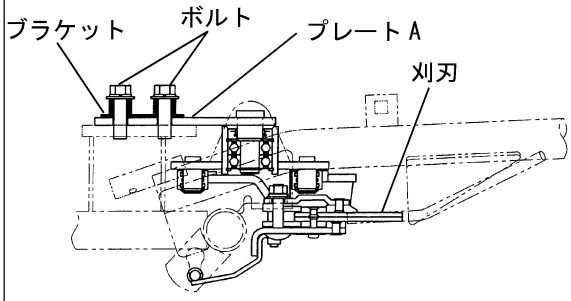
⑶　ボルト４本を外し，ブラケットをプレートＡの下方から上方へ入れ替えて，ボルトを締付けます。

［刈刃を上から見た状態］



35960205

［刈刃下セット状態］



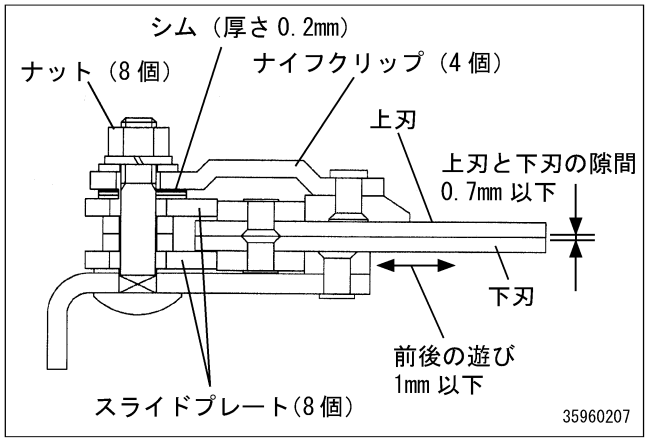
35960206

❸ 刈刃の調整

調整は**「お買いあげ先」**にて行います。

⑴ 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

⑵ ナット（8 個）をゆるめ，ナイフクリップ（4 個）の下側のシム（厚さ 0.2mm）で，上刃と下刃のスキマが 0.7mm 以下になるように調整します。



⑶ 上刃と下刃の前後の遊びが 1mm 以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

⑷ 上刃，下刃共スムーズ（15kg 程度）に作動することを確認します。

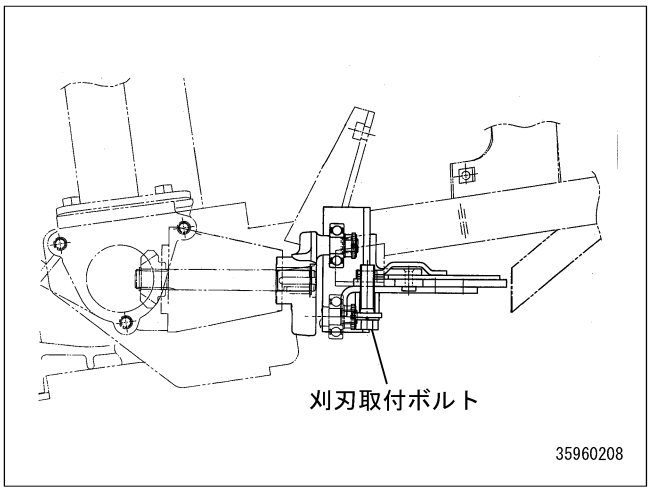
取扱いのポイント

- **1 日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。**

[2 条型]

❶ 刈刃の取外し

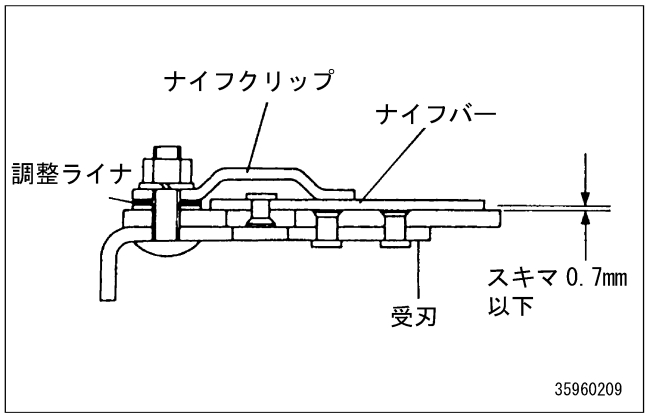
刈刃取付ボルト 2 個所を外します。



❷ 刈刃の調整

⑴ 0.2mm の調整ライナでスキマを 0.7mm 以下に調整します。

⑵ 上刃，下刃共スムーズに作動することを確認します。



❸ 刈刃の取付け

刈刃取付ボルト 2 個にて取付けます。

取扱いのポイント

- 1 日の作業終了後には刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。
- 刈刃の欠けおよび磨耗等の異常がない状態で刈跡が揃わなくなった場合は上刃と下刃のスキマを調整し刈刃に注油をしてください。

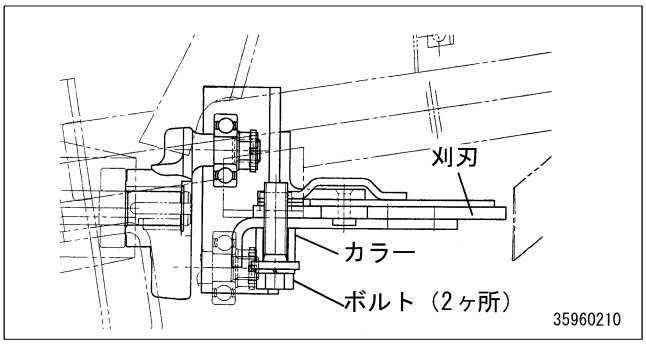
❹ 刈刃の上下調節

⑴ 出荷のときは「**上セット**」になっています。裏作等のために刈株を低くしたいときは，刈刃を「**下セット**」にすることができます。

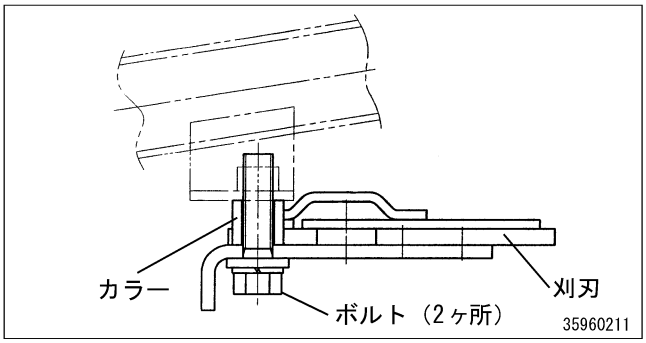
⑵ 刈刃取付ボルト（2ヶ所）を緩めて，刈刃を手でささえながら，ボルトを外しカラーを入替します。

⑶ ボルトを緩めます。

「上セット（出荷状態）」



「下セット」



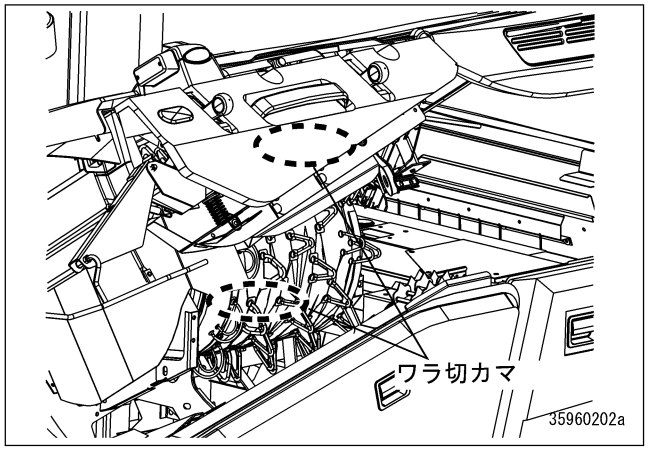
⑷ カラーを刈刃上から下に入替て，ボルトを締付けます。

4. ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

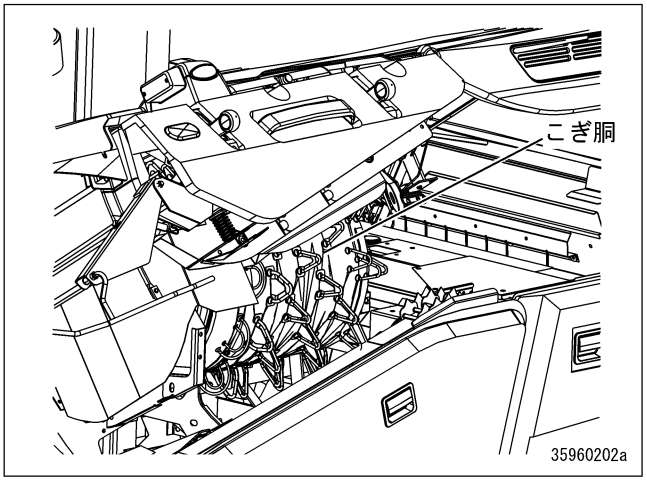
- ◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
- ◆こぎ胴部を開く時は，自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。
- ◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。この時は，回動範囲内には手や体を入れないでください。
- ◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行ってください。
- ◆刃部に手をかけないでください。
- ◆ワラ切カマをグラインダ等で研磨して，再使用しないでください。

ワラ切カマは受網（上）の上部とフィードチェンレールカバーの裏部及び第２こぎ室部の３ヶ所にあります。

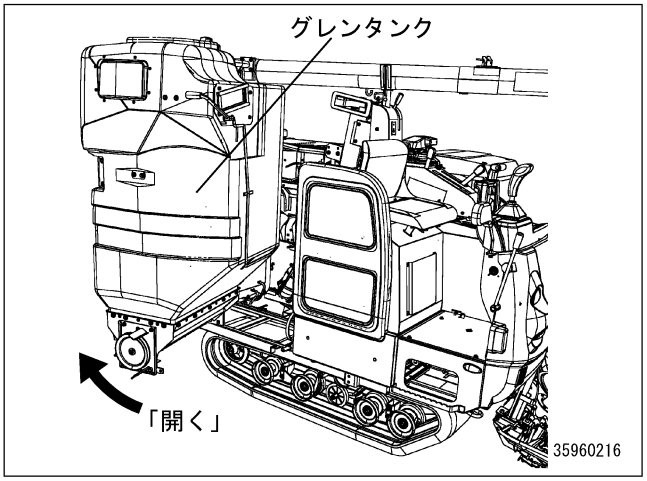


❶ ワラ切カマの取外し

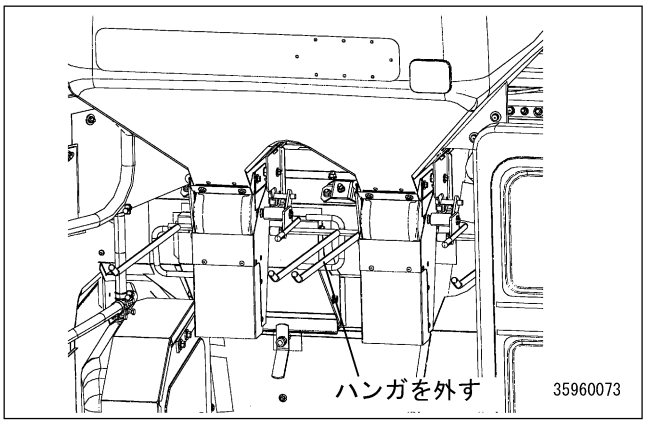
(1) こぎ胴部を開きます。



(2) ・**「グレンタンク仕様」**はグレンタンクを開きます。

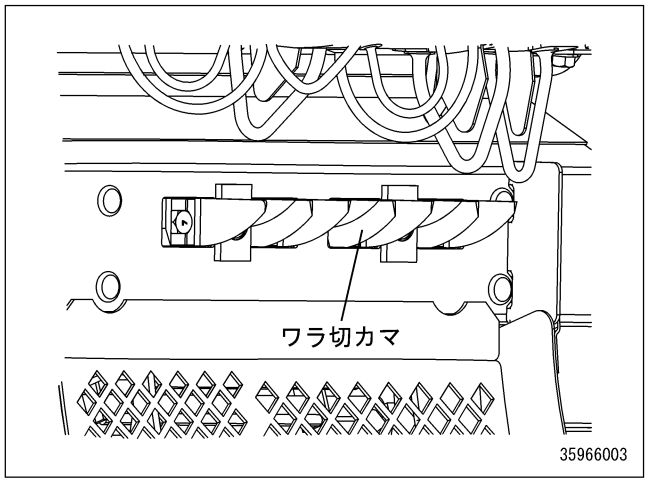


・**「ホッパ仕様」**はハンガを外します。

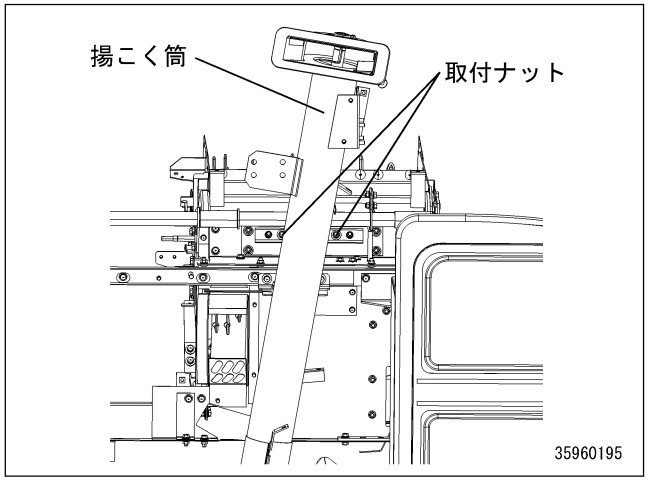


(3) ワラ切カマサポート組品を取外します。

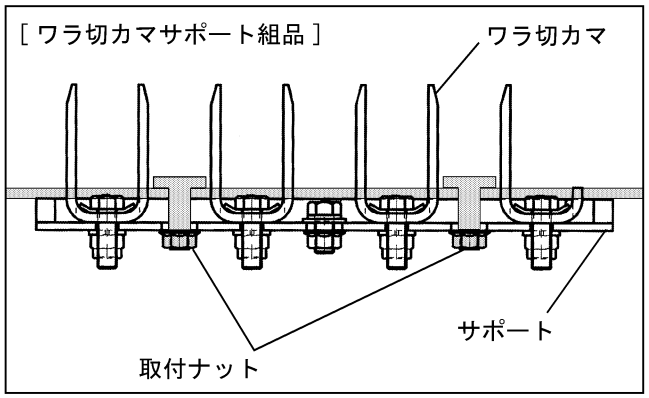
1. 受網（上）の上部にあるワラ切カマの場合



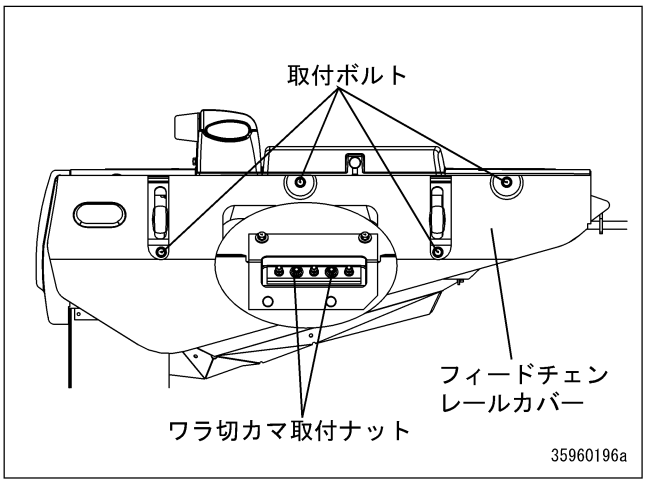
① グレンタンクおよびホッパ側から揚こく筒の奥にあるナット（2ヶ）をゆるめて外します。



② こぎ胴側からワラ切りカマサポート組立を外します。



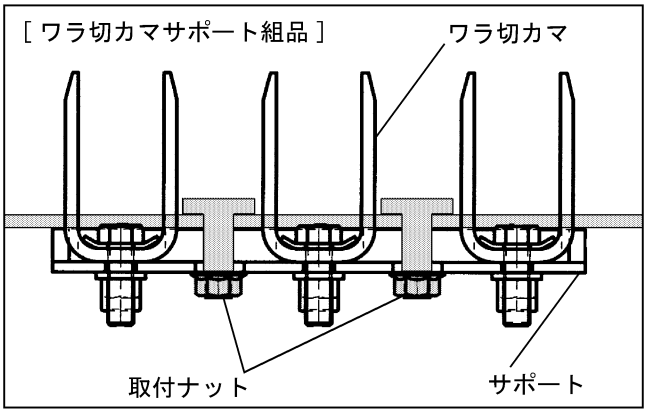
2. フィードチェンカバー裏部にあるワラ切カマの場合



① 取付ボルト（4本）を外してフィードチェンレールカバーを外します。

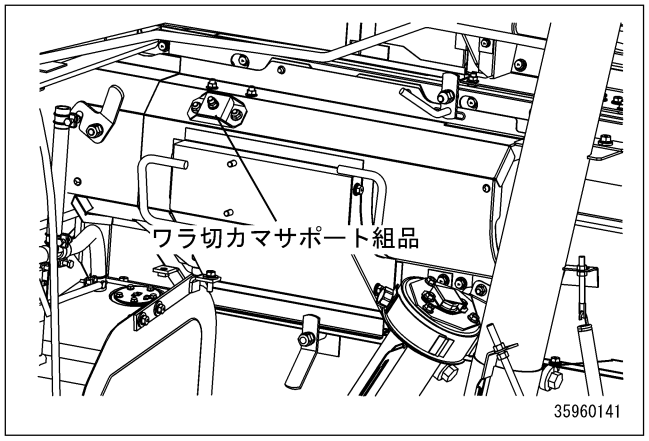
② ワラ切りカマサポート組立の取付ナット（2ヶ）を外してサポート組品を取外します。

③ サポートとワラ切りカマを分離します。

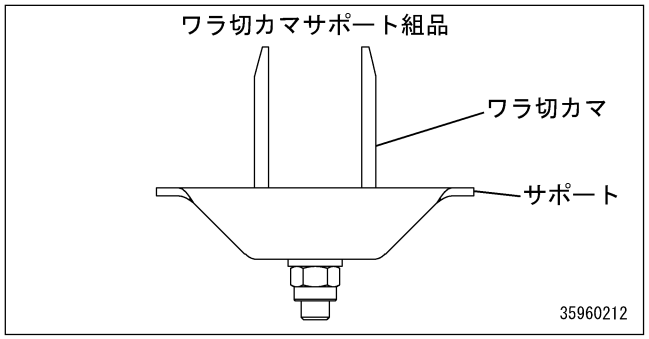


3. 第 2 こぎ室部にあるワラ切カマの場合

① ワラ切カマサポート組品を取外します。

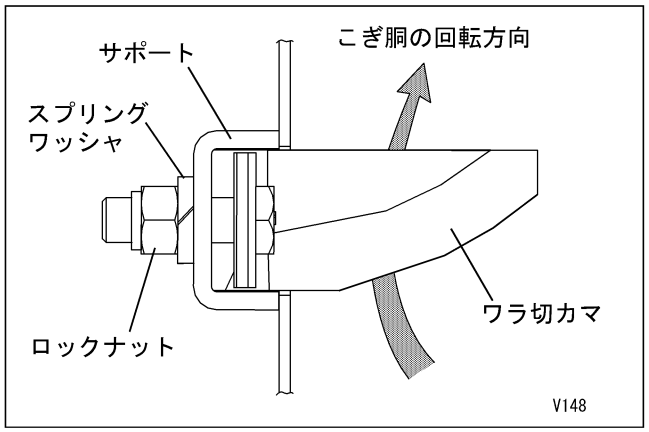


② ワラ切カマをサポートから取外します。



❷ ワラ切カマの取付け

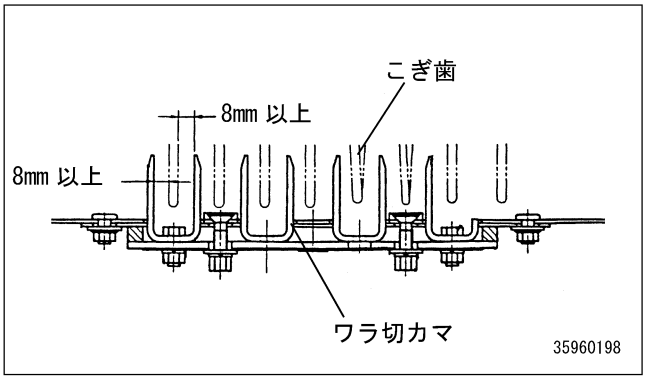
⑴ ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐ締付けます。



⑵ 取外しと逆の手順で取付けます。外したカバー類は元どおり取付けてください。

取扱いのポイント

- ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下し又，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。
- こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。
- 組付ける時は，こぎ歯とワラ切カマのスキマを 8㎜ 以上空けてください。



5. こぎ歯の点検と交換

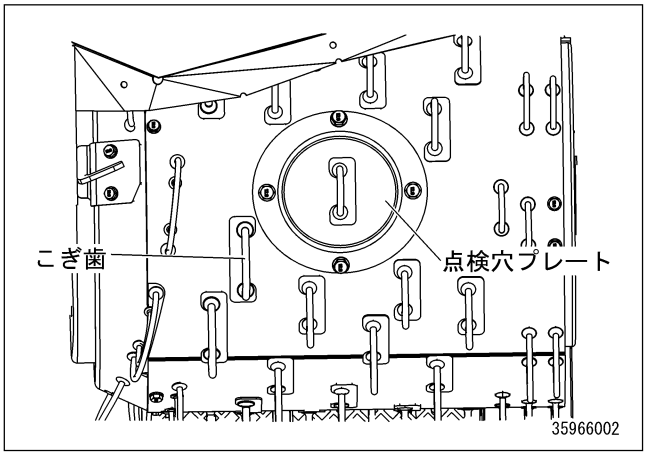
⚠警告　傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開く時は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆こぎ胴部を開く時は自動ロックの作動音「カチッ」が確認できる位置まで持上げ，ゆっくりと手を離します。

◆《自動ロック解除レバー》を操作する時は，アームまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。この時は，回動範囲内には手や体をいれないでください。

❶　こぎ胴部を開きます。



❷　こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

❸　作業後は，点検プレートを取付け，脱こくこぎ胴部を閉めます。

取扱いのポイント

●こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますのでボルトが摩耗し始めた時は，交換が必要です。

6. ホース類の点検と交換

⚠警告　ヤケドや火災防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮のはがれおよび継ぎ部より燃料がもれてないか確認し，損傷したりもれている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出しヤケドをする場合があります。

燃料ホース，ラジエータホース等の燃料もれ，水もれがないかを点検します。また，締付けているバンドや油圧ホースの継ぎ部がゆるんでいないか点検します。

取扱いのポイント

●燃料ホースは定期交換部品ですので，「お買いあげ先」で 2 年ごとに交換してください。

●燃料ホースを交換した時は，燃料のエア抜きをしてください。(94 ページ参照)

5. 各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

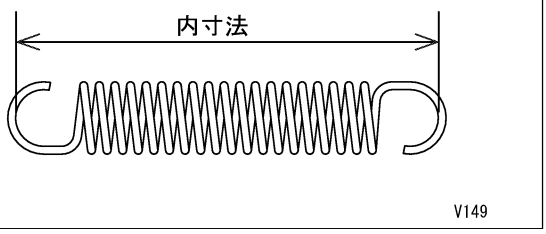
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

- スプリングの取付長さは，フックの内寸法を測定してください。



「レバー・ペダルの点検・調整」

1. 走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告　傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

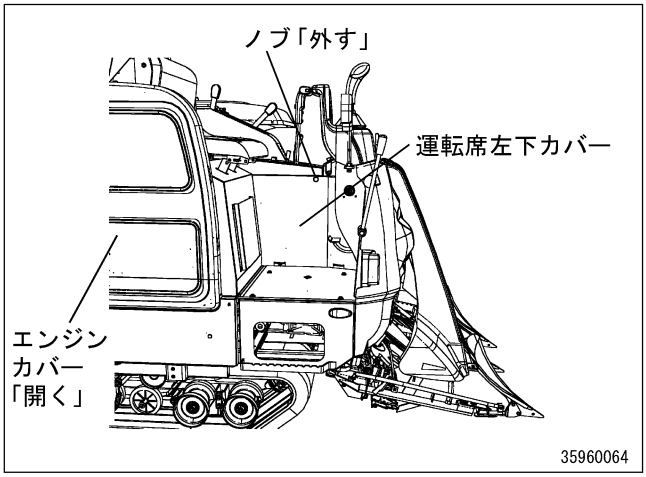
⑴ 走行クラッチペダルフリー状態でスプリング Ⓕ長さが 60 ～ 61mm ですか。

⑵ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態でⒻ長さが 55 ～ 56mm ですか。

⑶ 坂道で駐車ブレーキをかけた時に，機械が停止していますか。

❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開いて，運転席左下カバーを外します。



⑵ ブレーキロッドをロックナット部で調整します。

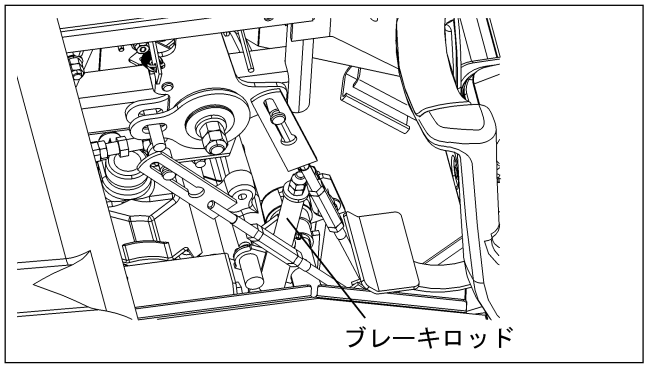
1) 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを 60 ～ 61mm にロックナットＡで調整します。

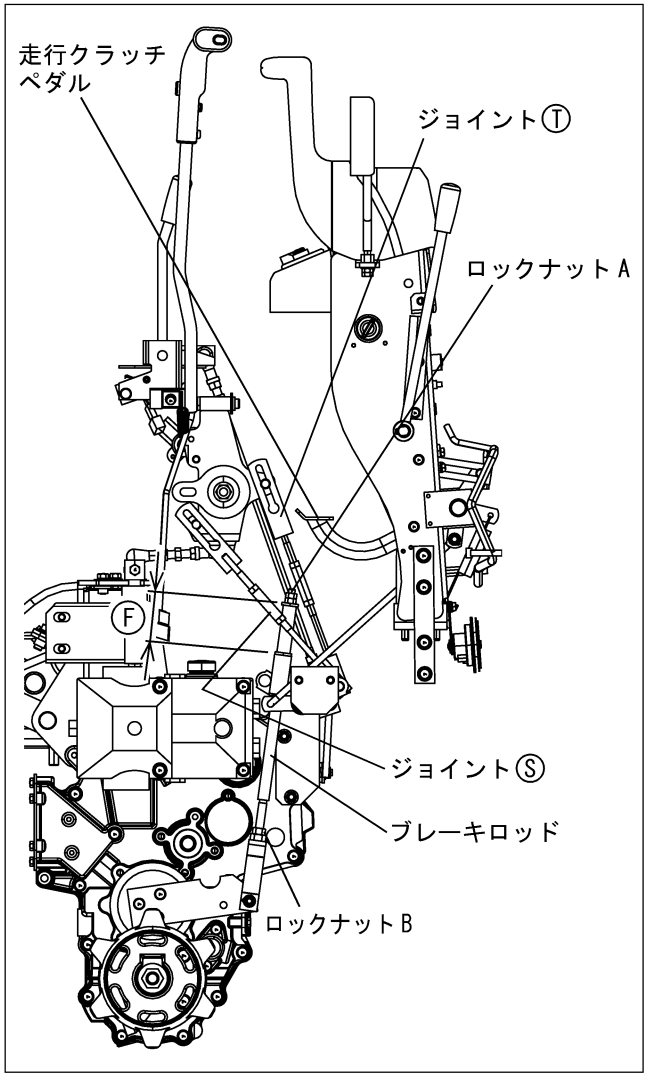
2) 次に，駐車ブレーキをかけた状態でⒻ長さを 55 ～ 56mm にブレーキロッドのロックナットＢをゆるめて調整します。

3) 調整後,ロックナットＡ，Ｂを締付けます。

4) 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようジョイント Ⓢ（前進から戻す）とジョイント Ⓣ（後進から戻す）を調整してナットを締め付けます。

5) 運転席左下カバーを取付けエンジンカバーを閉じます。





2. 脱こく・刈取クラッチレバー

❶ 点検

「脱こくクラッチ」

刈取部をいっぱい下げた状態で，脱こく・刈取クラッチレバーが《**脱こく入**》のとき，スプリングAのⓁ1寸法が 122 ～ 124mm になっていますか。

「刈取クラッチ」

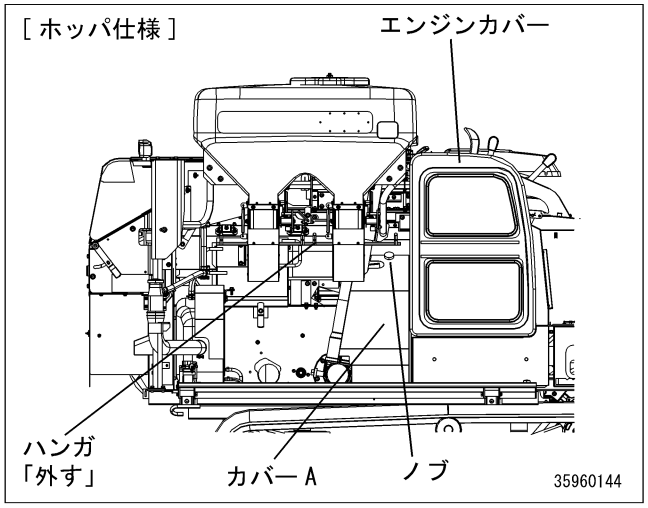
脱こく刈取クラッチレバー《**刈取入**》のとき，スプリングBのⓁ2寸法が 113 ～ 117mm になっていますか。

❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。

⑵ 「**グレンタンク仕様**」はグレンタンクを回動してください。(101 ～ 102 ページ参照)

⑶ 「**ホッパ仕様**」はハンガを上に引き上げ外してください。つぎにノブをゆるめて外し，カバーAを外します。



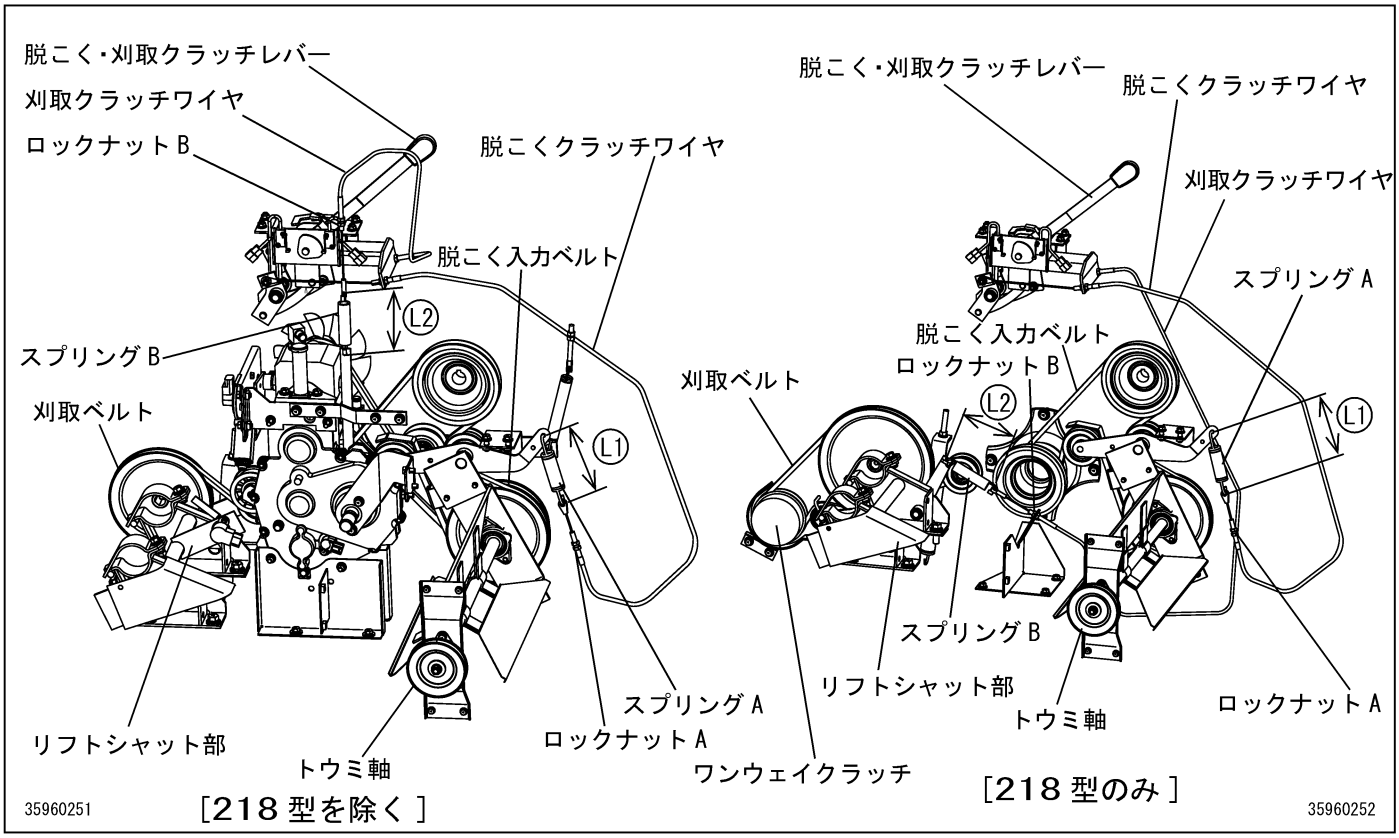
「脱こくクラッチ」

⑷ ロックナットAをゆるめて脱こくクラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

「刈取クラッチ」

⑸ ロックナットBをゆるめて，刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

⑹ 調整後は，運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じ，「**グレンタンク仕様**」はグレンタンクを元どおり閉じ，「**ホッパ仕様**」はハンガ，カバーAを取付けます。



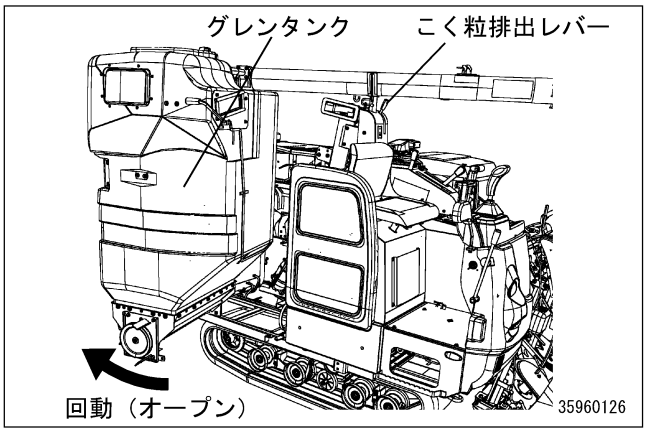
3. こく粒排出レバー［グレンタンク仕様］

❶ 点検

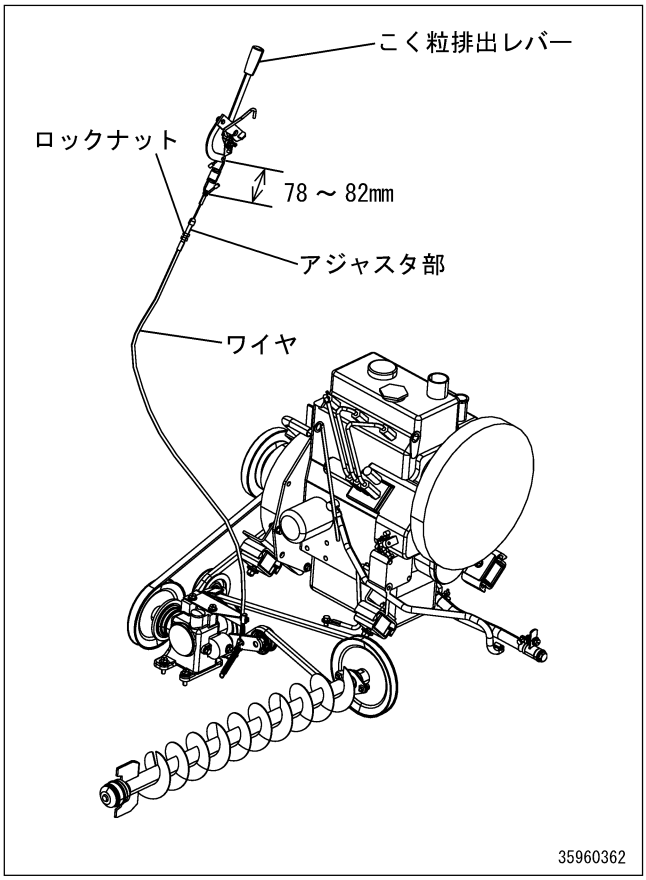
こく粒排出レバー「**入**」のとき，スプリングの長さが 78 ～ 82mm になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動（オープン）します。



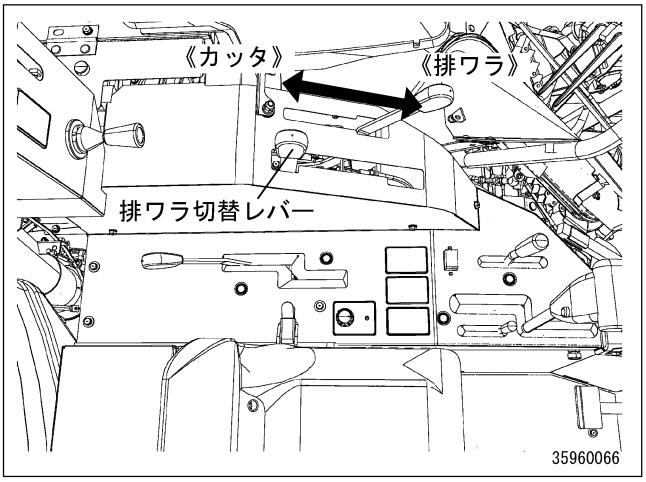
(2) ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



(3) 調整後はグレンタンクを元どおり閉じます。

4. 排ワラ切替レバー

切替レバーが《**排ワラ**》位置にします。



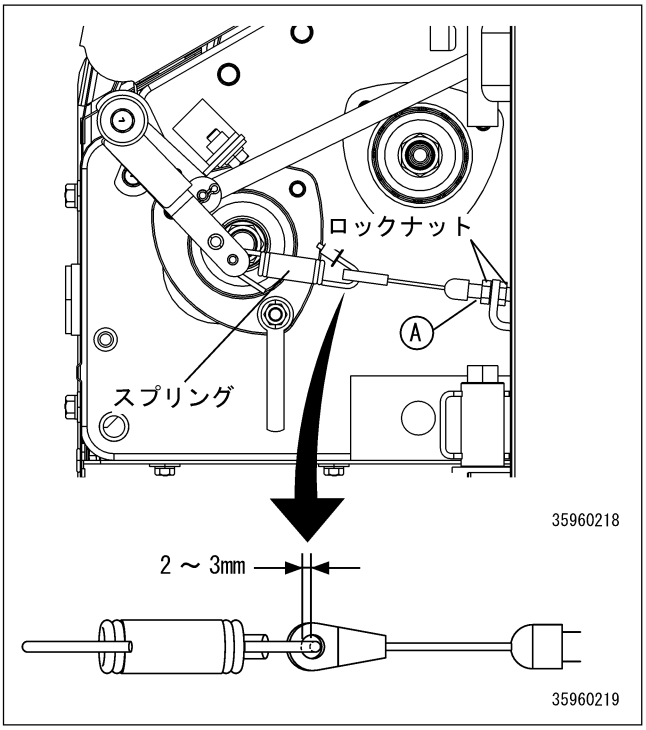
「カッタ部の点検・調整」

❶ 点検

カッタ切替板の先端が浮いていませんか。

❷ 調整

ワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタ部Ⓐでスプリングの遊びを 2mm ～ 3mm もたせます



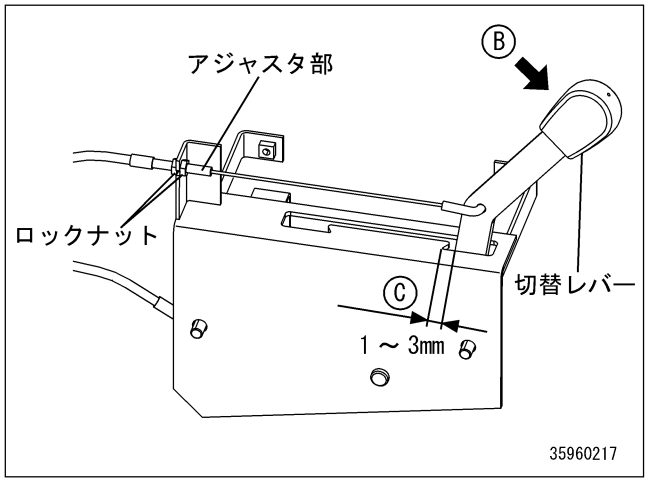
「レバー部の点検・調整」

❶ 点検

切替レバーをⒷ方向にいっぱい倒した時ガイドと切替レバーのスキマⒸが広くなっていませんか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめて，アジャスタ部でスキマⒸを 1mm ～ 3mm に調整してください。



「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

5. エンジンファンベルト

⚠警告 ヤケド防止のために

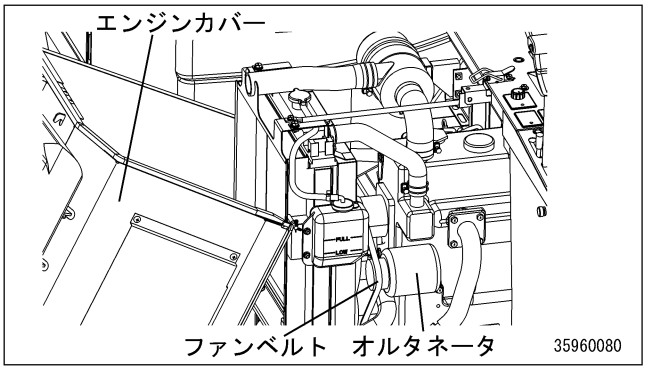
◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行ってください。

❶ 点検

ファンベルト長い部分の中央部を指で押し，タワミ量が 10 ～ 13mm となっていますか。

❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開きます。

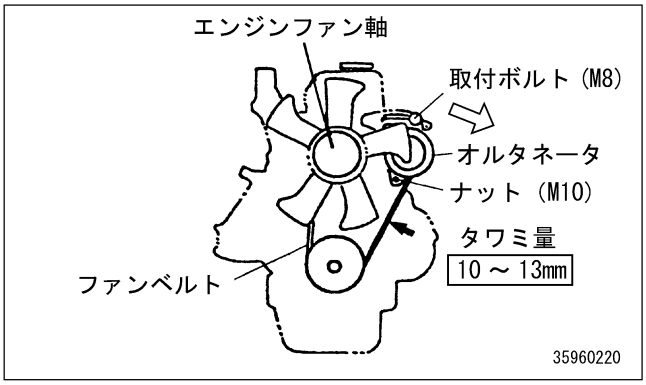


⑵ オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。

・オルタネータを矢印（⇨）側に倒すとベルトが張れます。

⑶ 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

⑷ エンジンカバーを閉じます。



6. 走行ベルト

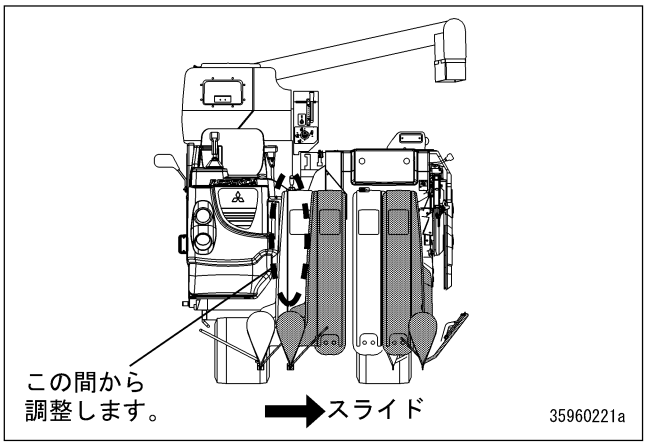
❶ 点検

スプリング長さが 207 ～ 211mm になっていますか。

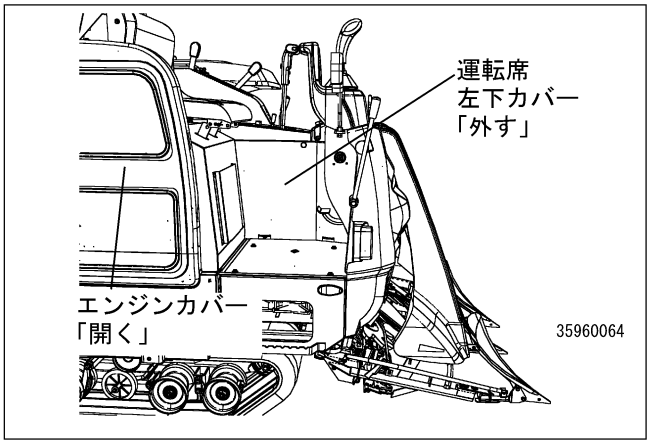
❷ 調整

⑴ 2条型は刈取スライドを左側へスライドさせます。

⑵ 刈取部とコンバイン本機の間にスキマができます。そのスキマから調整できます。

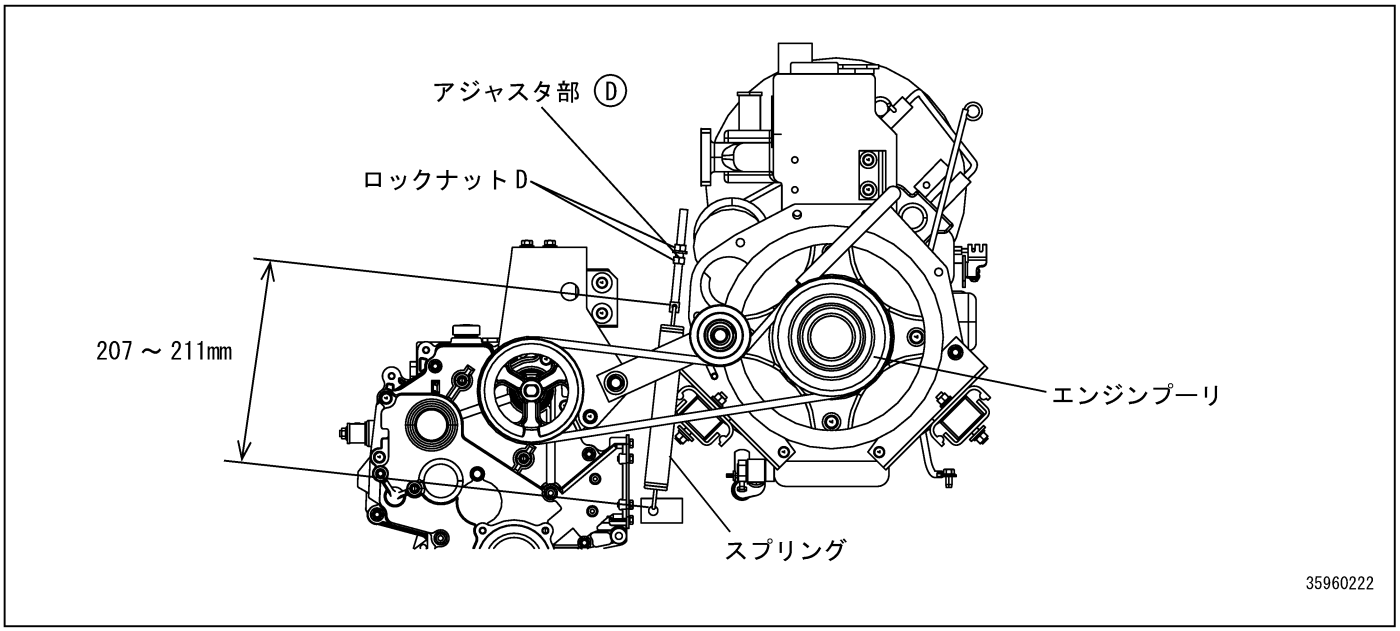


⑶ 3条型は，エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。



⑷ アジャスタDのロックナットDをゆるめてスプリング長さを調整します。

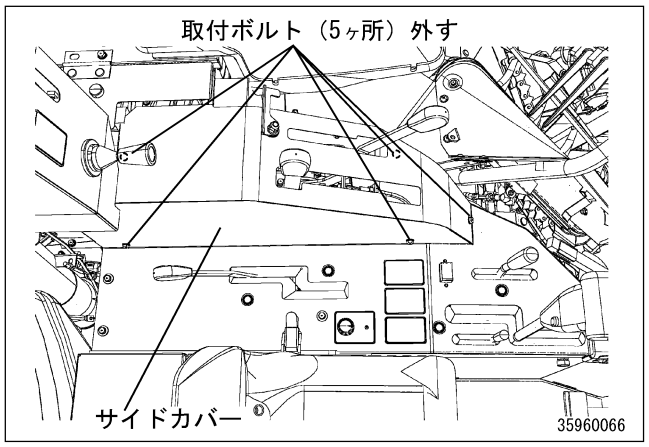
⑸ 調整後，3条型は運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じます。2条型は必要に応じて刈取スライドを移動させます。



7. こぎ胴ベルト

❶ 点検

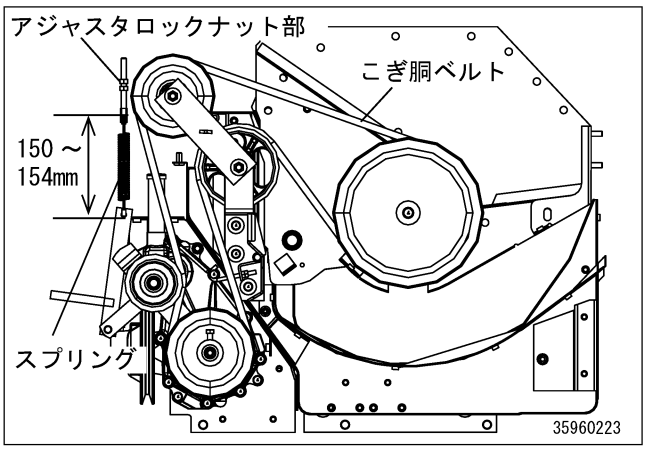
スプリングのセット寸法が 150 ～ 154mm になっていますか。



❷ 調整

⑴ サイドカバーを外します。

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。



⑶ 調整後サイドカバーを取付けます。

8. 1番ラセン駆動ベルト

❶ 点検

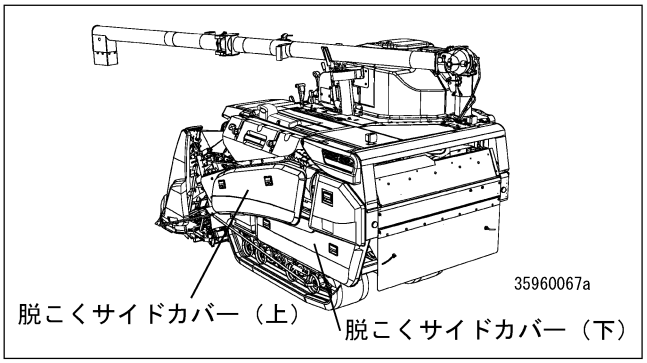
スプリング長さが 122 ～ 126mm になっていますか。

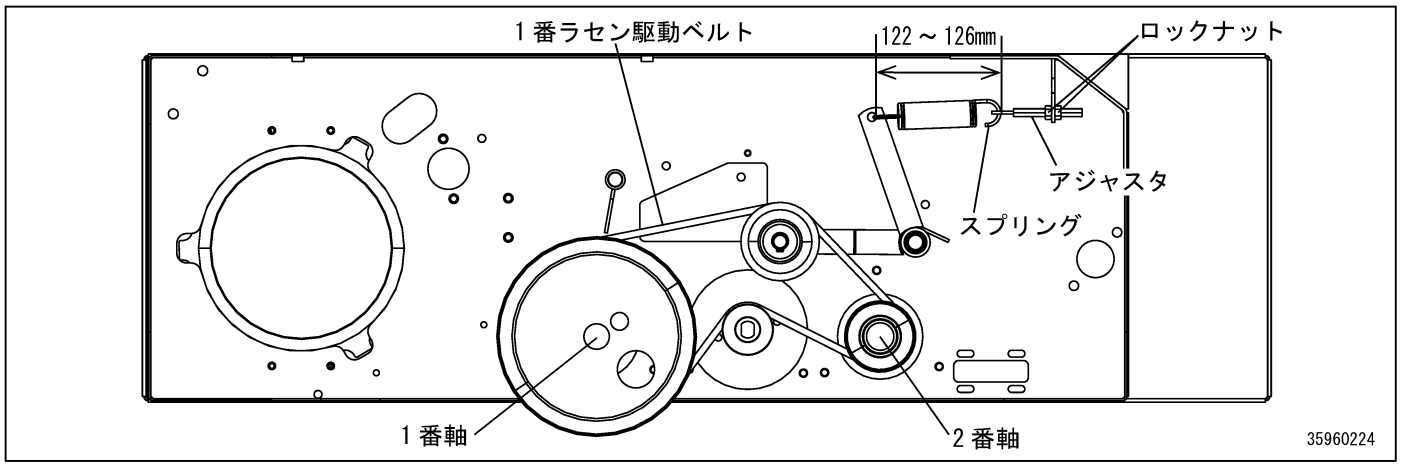
❷ 調整

⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下）を外します。

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。





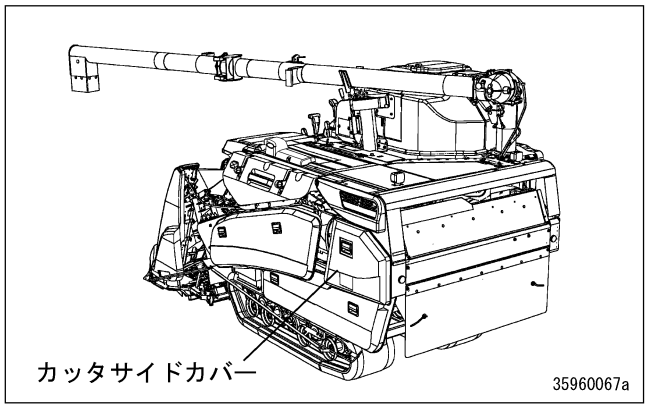
9. カッタベルト

❶ 点検

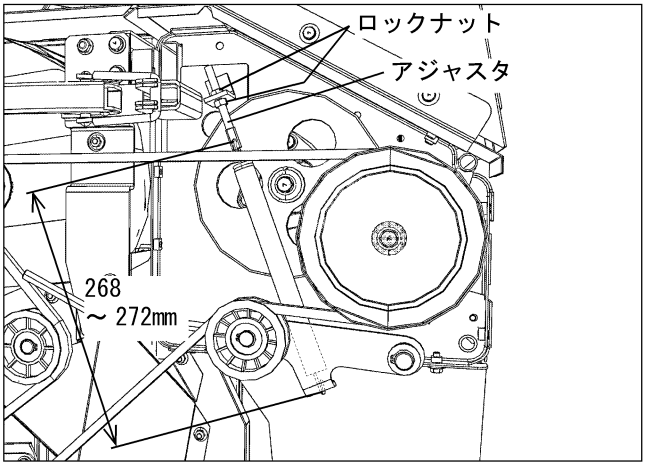
カッタベルトをセットした時，スプリングの寸法が 268 ～ 272mm になっていますか。

❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを外します。



(2) ロックナットをゆるめ，アジャスタで調整します。



(3) 調整後，カッタサイドカバーを取付けます。

10. 選別ベルト

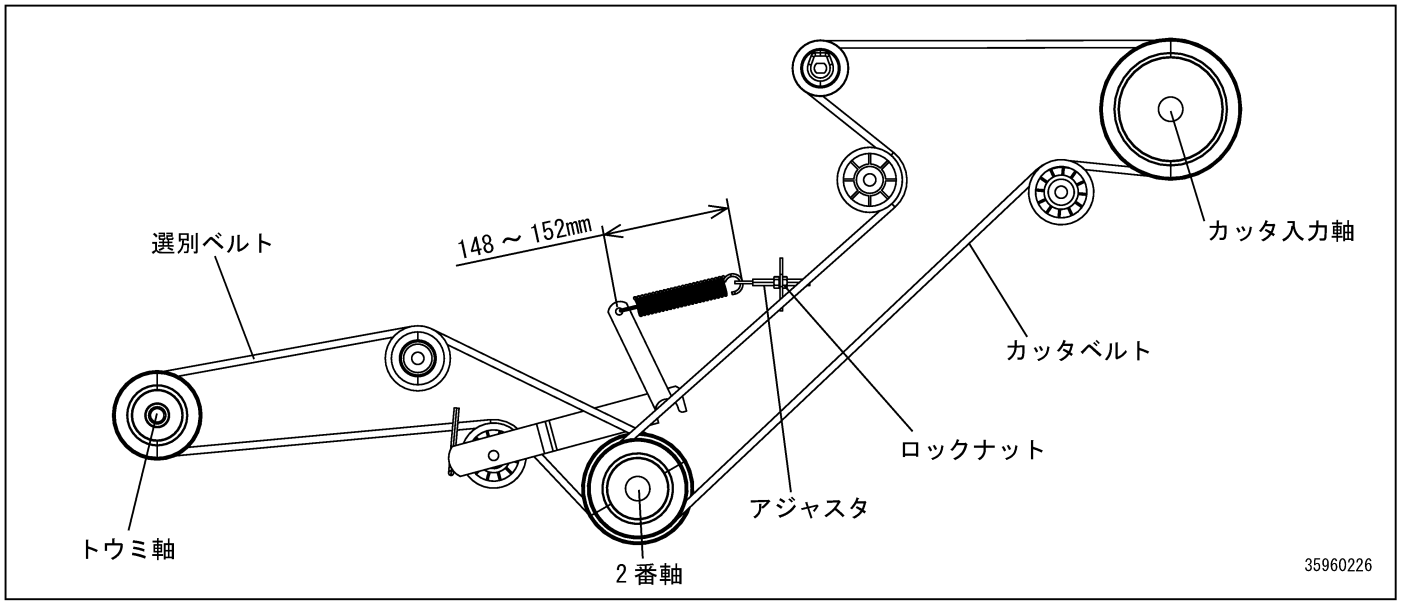
❶ 点検

スプリング長さが 148 ～ 152mm になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

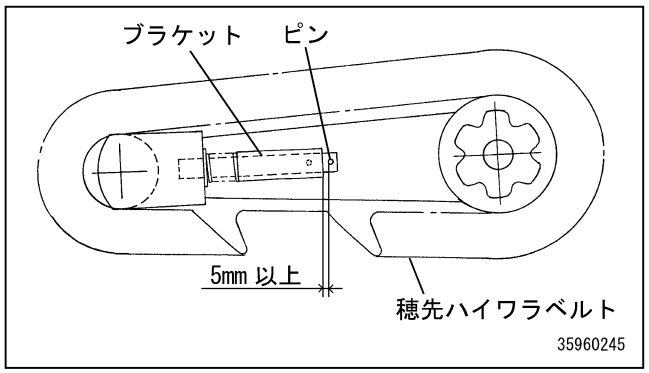
(2) 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



11. 穂先排ワラベルト

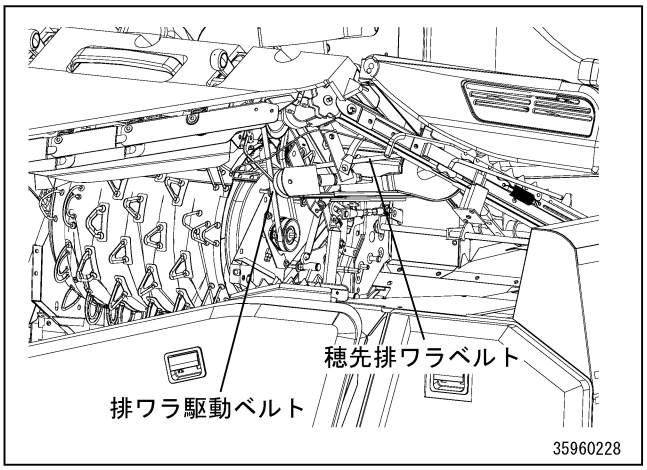
❶ 点検

ブラケットとピンのスキマが 5mm 以上 になっていますか。



❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。



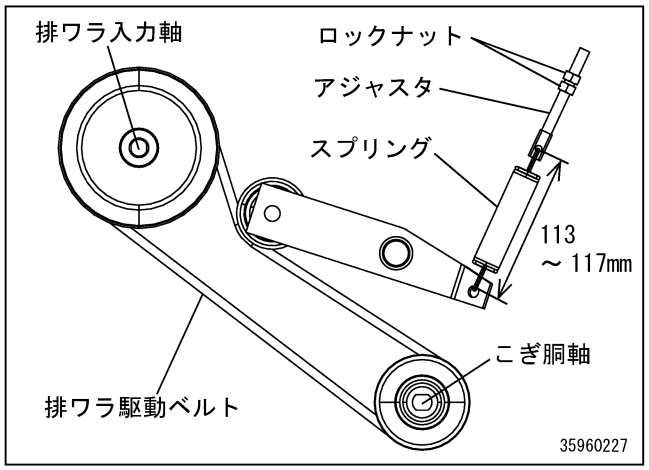
(2) 5mm 以下 になっていたらハイワラベルトを交換します。

(3) こぎ胴部を閉じます。

12. 排ワラ駆動ベルト

❶ 点検

スプリング長さが 113 ～ 117mm になっていますか。



❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。

13. グレン入力ベルト［グレンタンク仕様］

❶ 点検

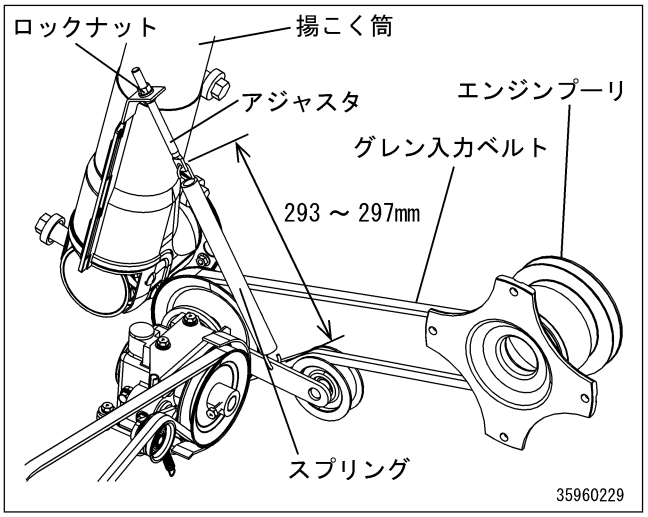
スプリングの長さが 293 ～ 297mm になっていますか。

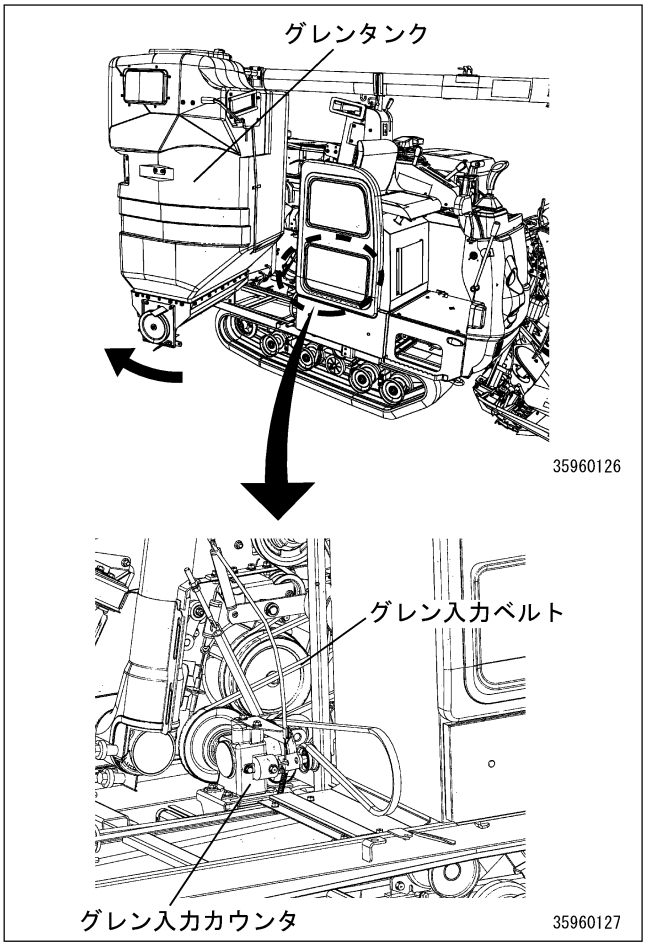
❷ 調整

⑴ グレンタンクを回動します。

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ 調整後，グレンタンクを元どおり閉じます。





14. 搬送 HST 入力ベルト（218 型を除く）

❶ 点検

スプリングの長さが 163 ～ 167mm になっていますか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを回動します。

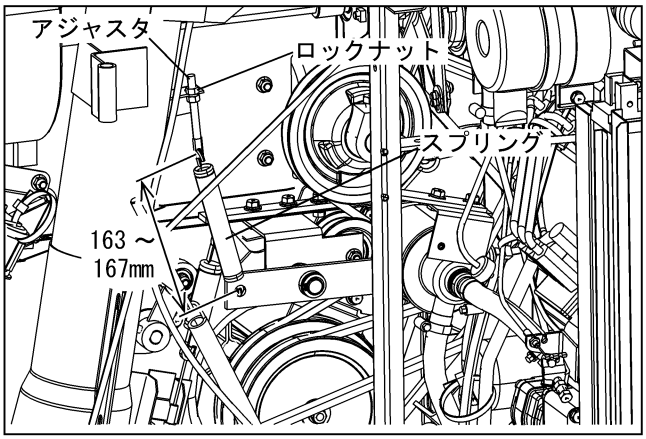
：［グレンタンク仕様］

ハンガを外しカバーAを外します。

：［ホッパ仕様］

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑶ 調整後，グレンタンク［グレンタンク仕様］を元どおり閉じ，ハンガ，カバーA［ホッパ仕様］を取付けます。



15. かき込みベルト（刈取部）

[3 条型]

❶ 点検

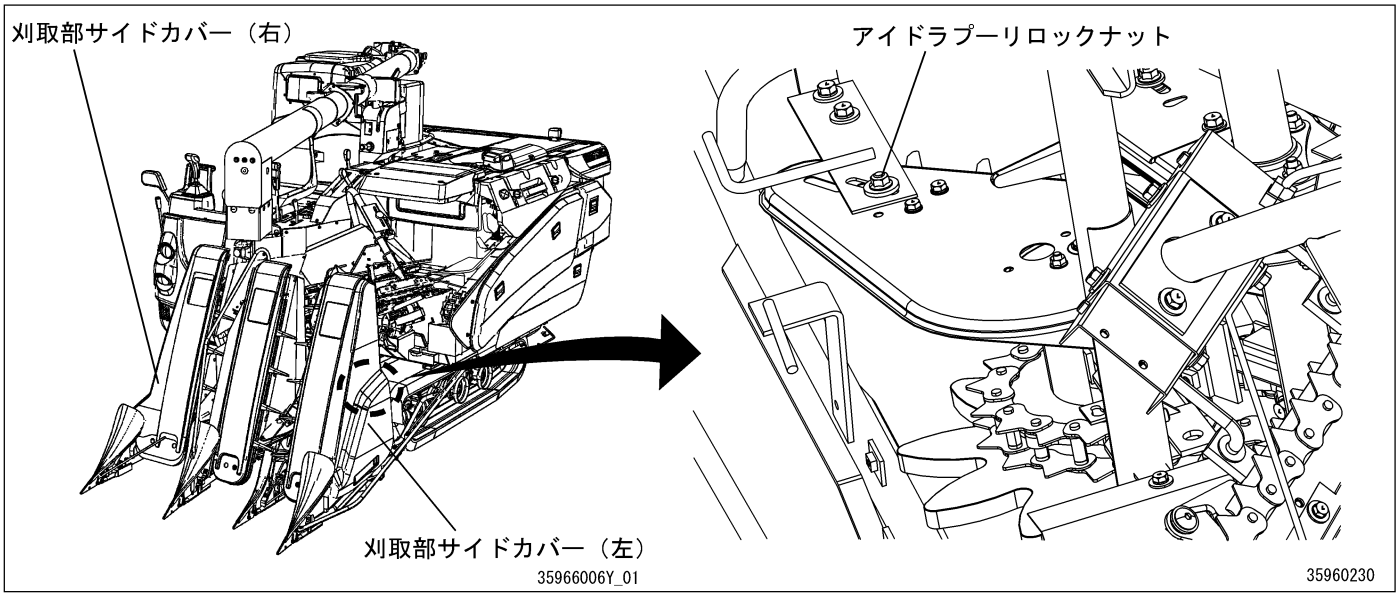
ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5 ～ 10㎜ になっていますか。(右，中，左)

❷ 調整

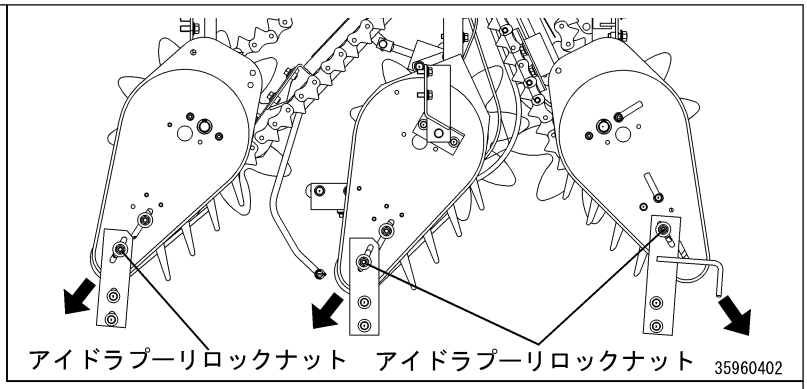
⑴ 刈取部サイドカバー（右），(左）を外します。

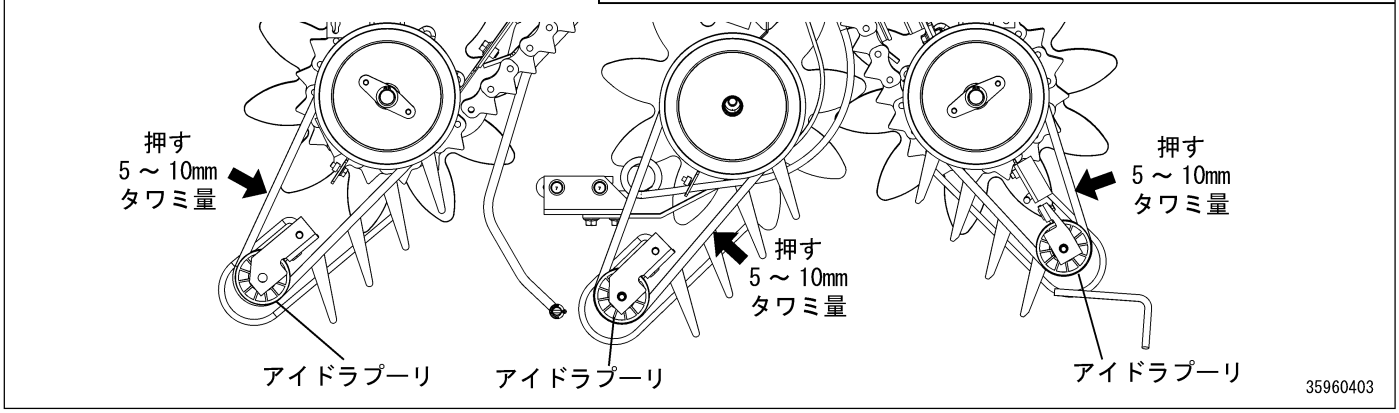
⑵ アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。

⑶ 調整後，刈取部サイドカバー（右），(左）を取付けます。



ベルトタワミ量が 10㎜ 以上ある場合，アイドラプーリロックナットをゆるめ矢印の方向にアイドラプーリを引っ張りながらロックしてください。





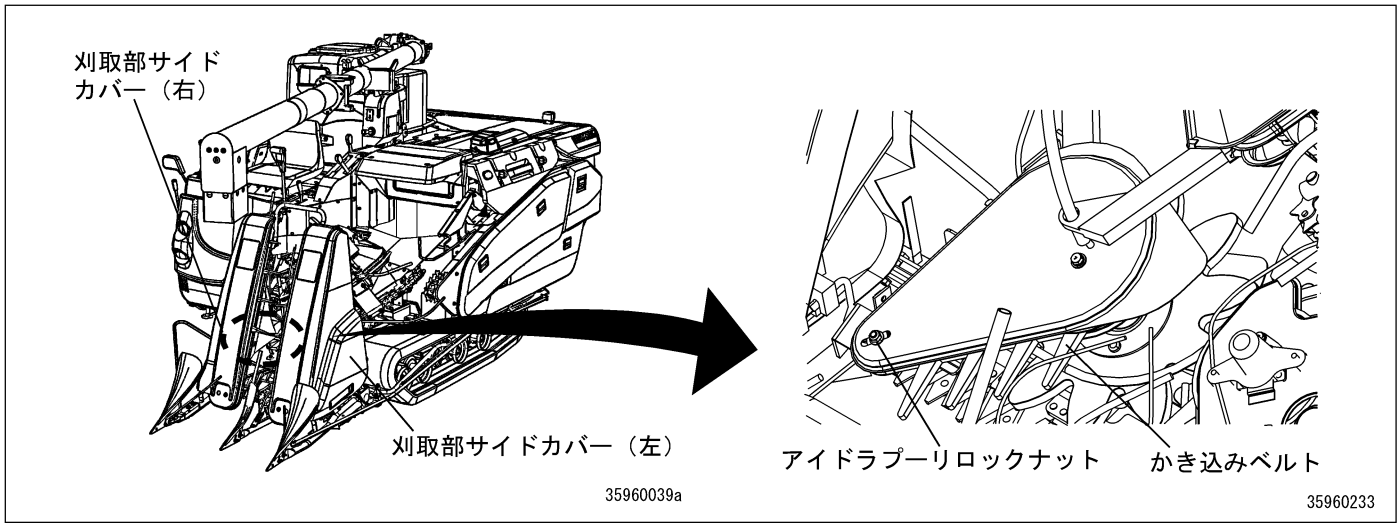
[2 条型]

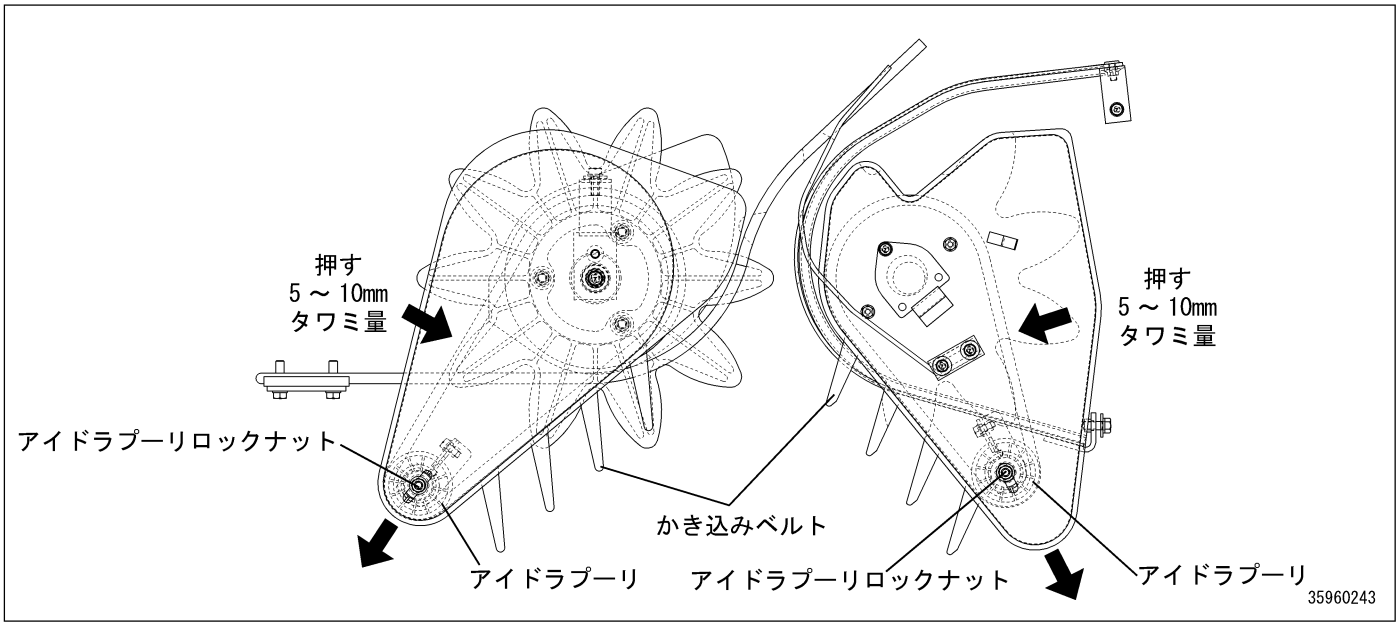
❶ 点検

ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5 ～ 10mm になっていますか。
(右，中，左)

❷ 調整

⑴ 刈取部サイドカバー（右），(左）を外します。
⑵ アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。
⑶ 調整後，刈取部サイドカバー（右），(左）を取付けます。





「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

- 調整ができなくなったら，新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は，スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください。

16. 株元搬送チェン

[3 条型]

株元搬送チェン（右）

❶ 点検

スプリング A 長さが 177 ～ 183mm になっていますか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめ，アジャスタでスプリング A の長さを調整します。

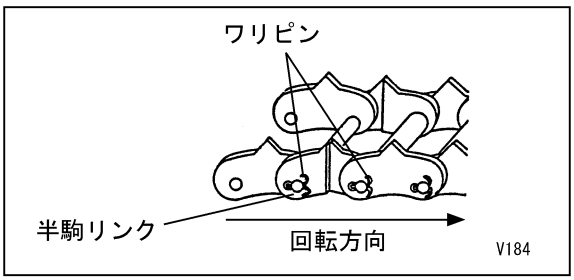
株元搬送チェン（左）

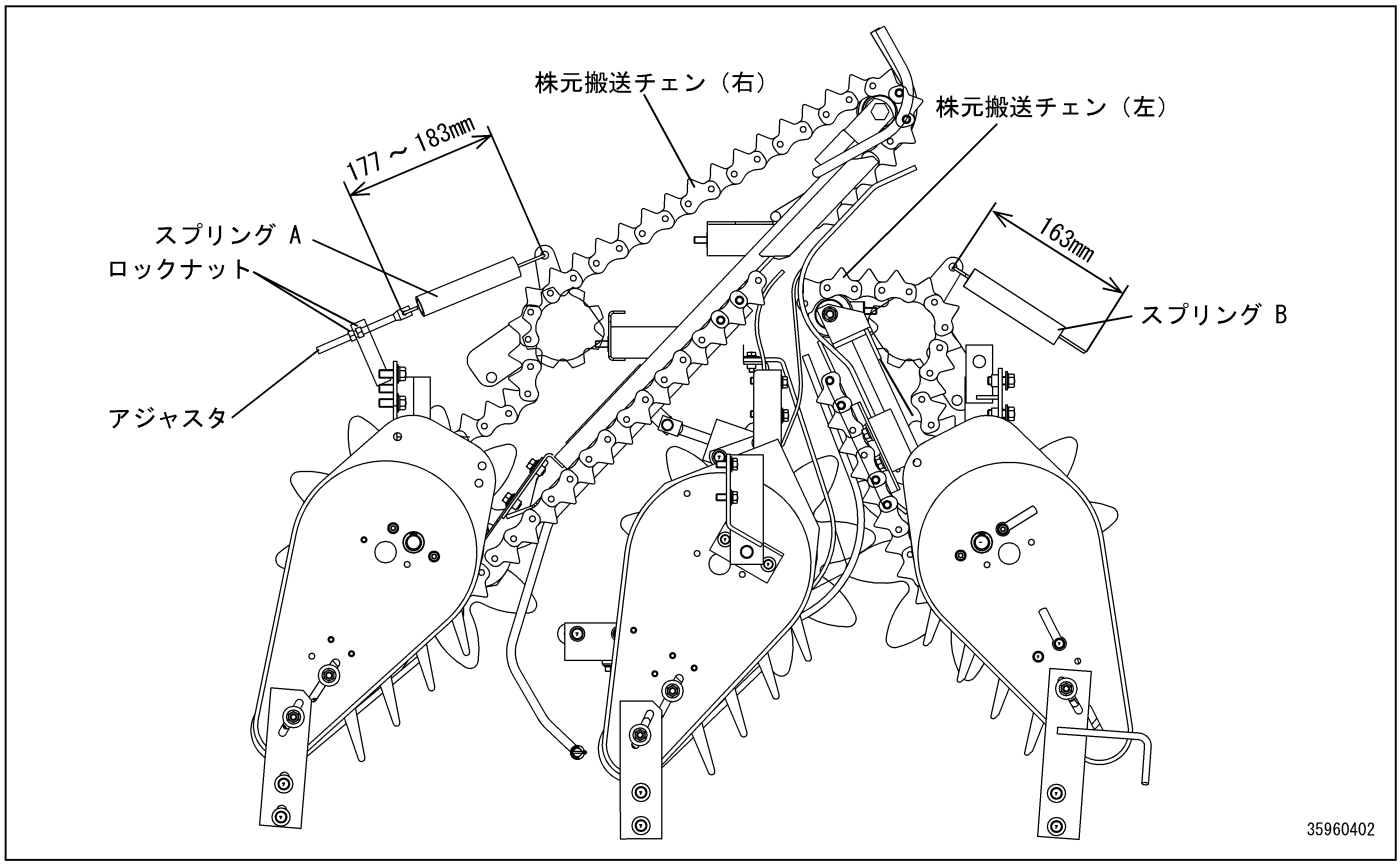
❶ 点検

スプリング B の長さが 163mm 以上 になっていますか。

❷ 調整

チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。





17. こぎ深さ搬送チェン

[3 条型]

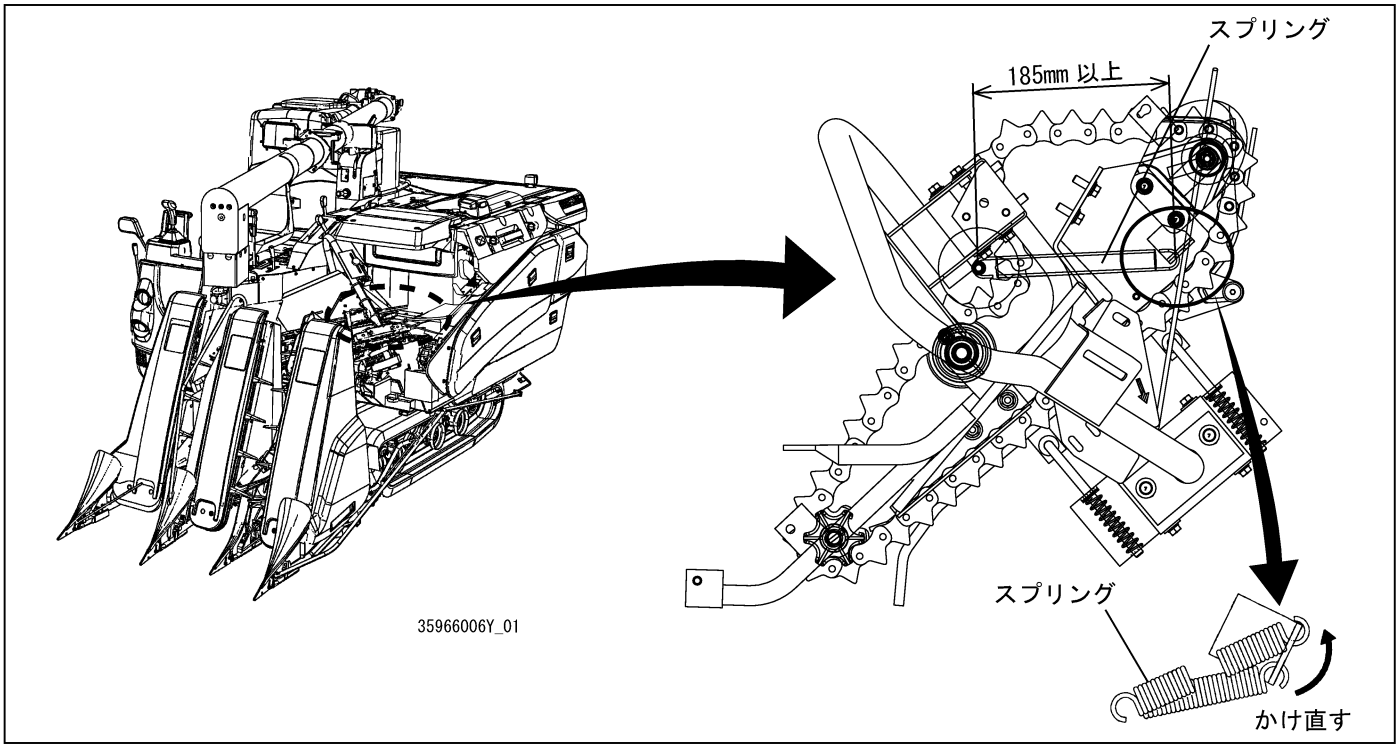
❶ 点検

スプリング長さが 185mm 以上 になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部は下げた状態でこぎ深さ搬送部をいっぱいあげます。(浅こぎ側)

(2) スプリング長さが 185mm 以下 の時は，スプリングをかけ直します。それでもスプリングが 185mm 以下の時は，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



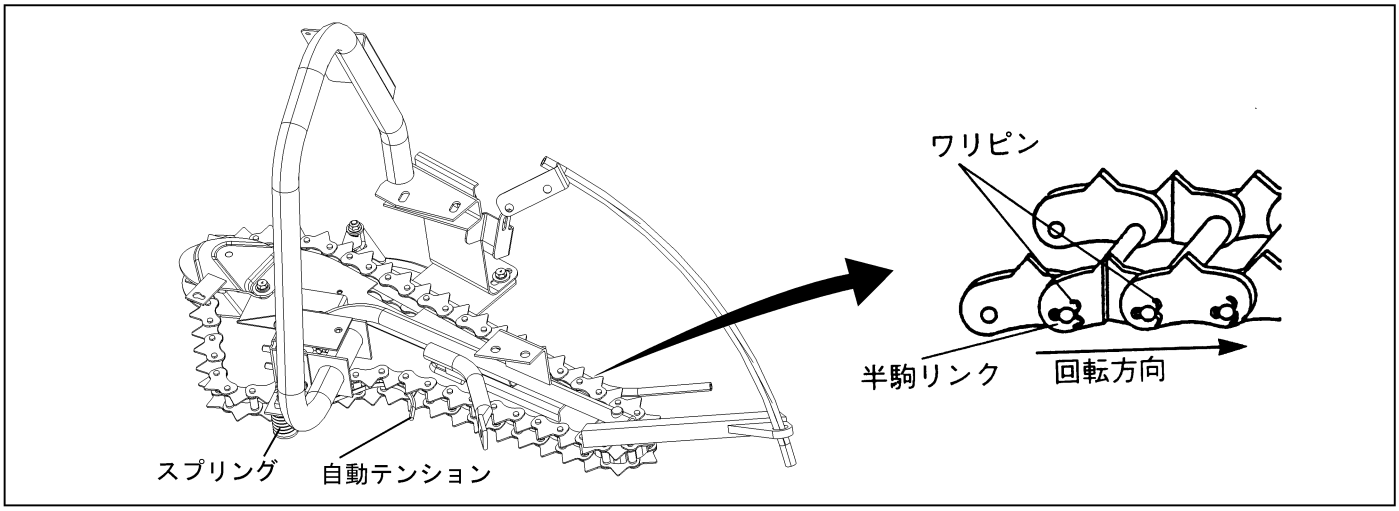
[2 条型]

❶ 点検

・自動テンションが効いていない状態になり，チェーンが緩んでがたつきがありませんか。

❷ 調整

・スプリングの「半こまリンク」を外して，チェーンをつなぎ直します。



18. 穂先搬送チェン

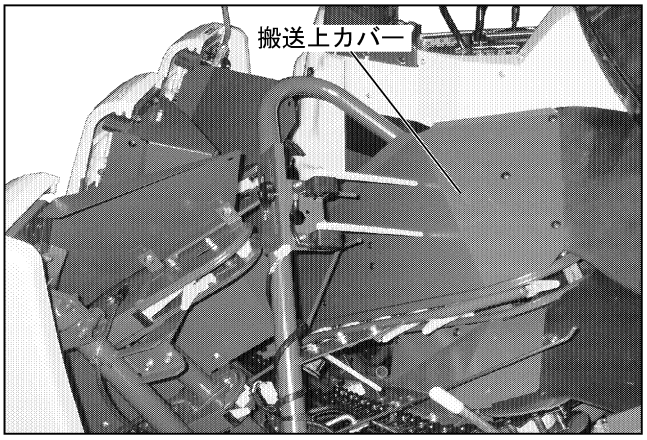
[3 条型]

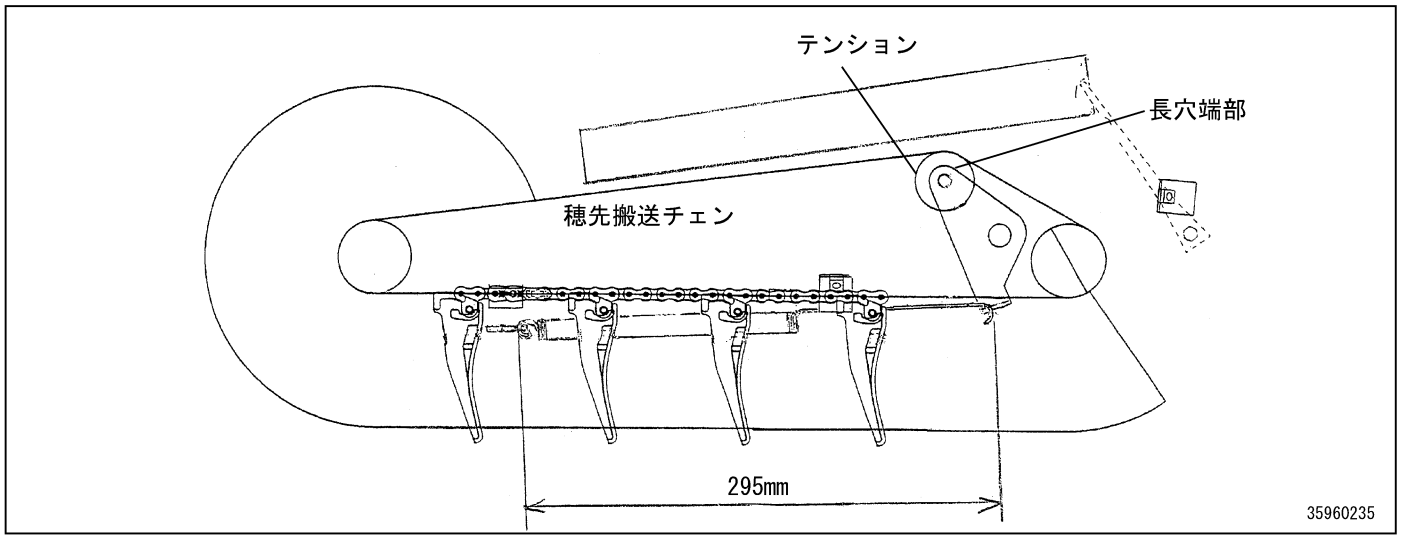
❶ 点検

スプリング長さが 295mm 以上 になっていますか。

❷ 調整

搬送上カバーを外し，チェンを交換します。交換後は，搬送上カバーを取付けます。





[2 条型]

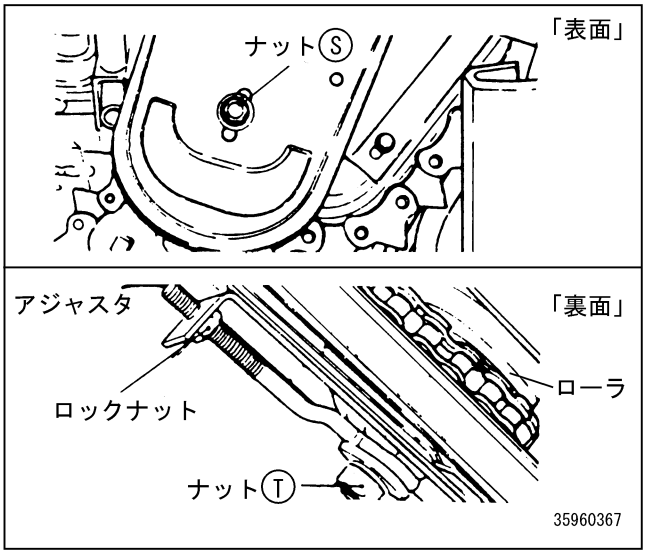
穂先チェンの張りを点検します。

❶ 点検……搬送側でない側の中央部を軽く引き，タワミ量が 5mm 位になっていますか。

❷ 調整……連動側ローラを固定しているナットⓈ・Ⓣをゆるめ，アジャスタで張ります。

取扱いのポイント

- ローラの軸が倒れないように調整してください。



19. かき込み搬送チェン（右，左）

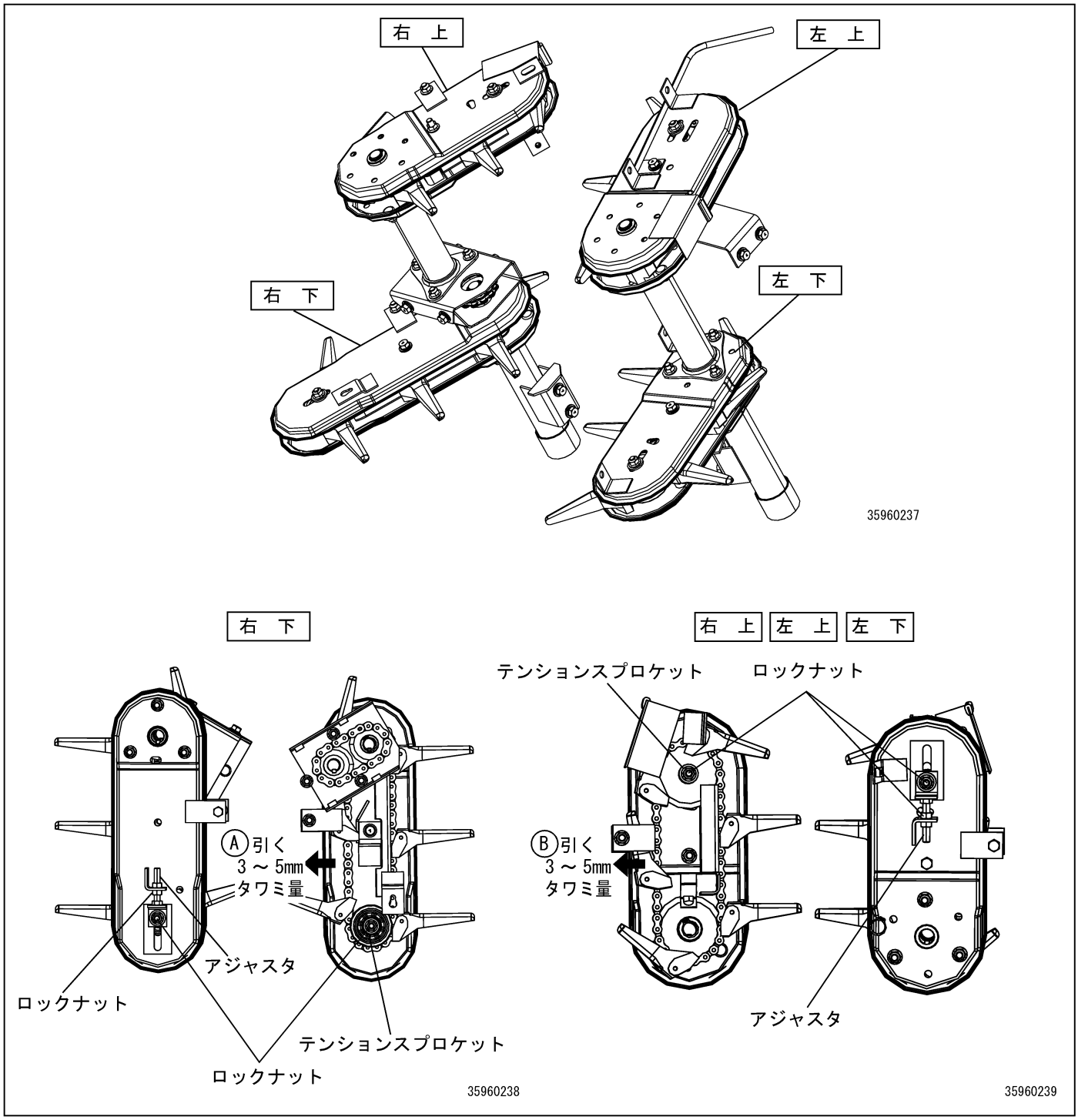
[3 条型]

❶ 点検

かき込み搬送チェン（右上，右下，左上，左下）各々のⒶ,Ⓑ 部を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3 ～ 5mm になっていますか。

❷ 調整

テンションスプロケットのロックナット（表，裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。



20. 脱こくフィードチェン

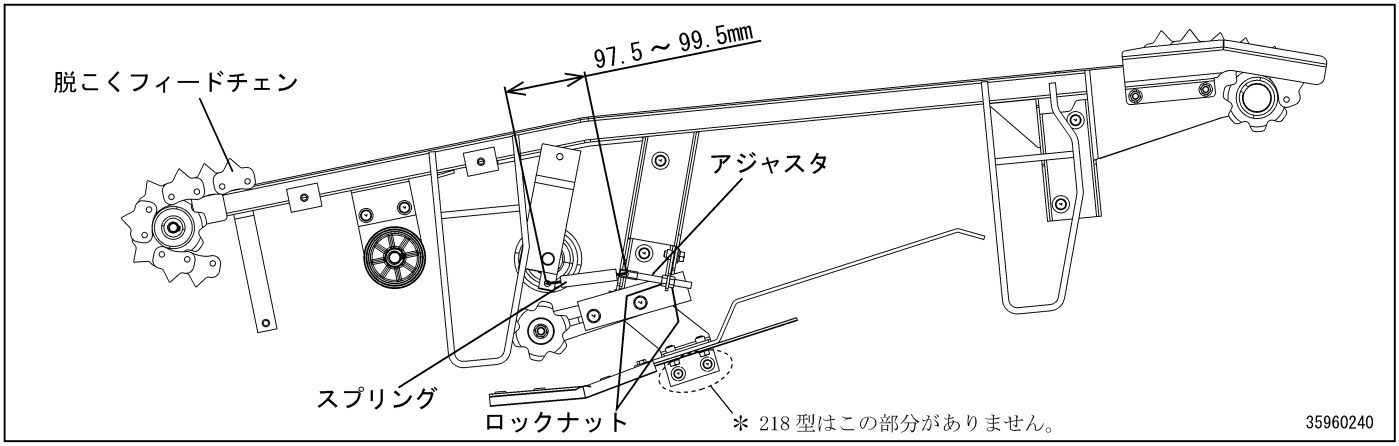
❶ 点検

スプリングの長さが 97.5 ～ 99.5mm になっていますか。

❷ 調整

⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

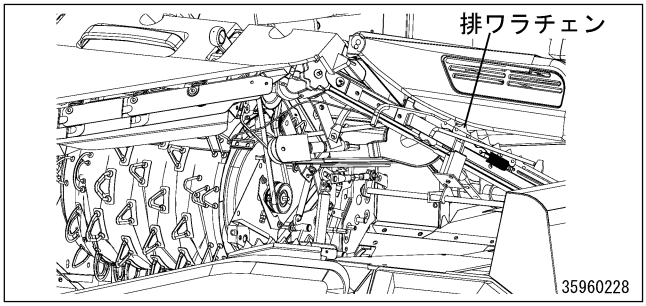
⑵ 調整後は脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



21. 排ワラチェン

❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10 ～ 15mm になっていますか。



❷ 調整

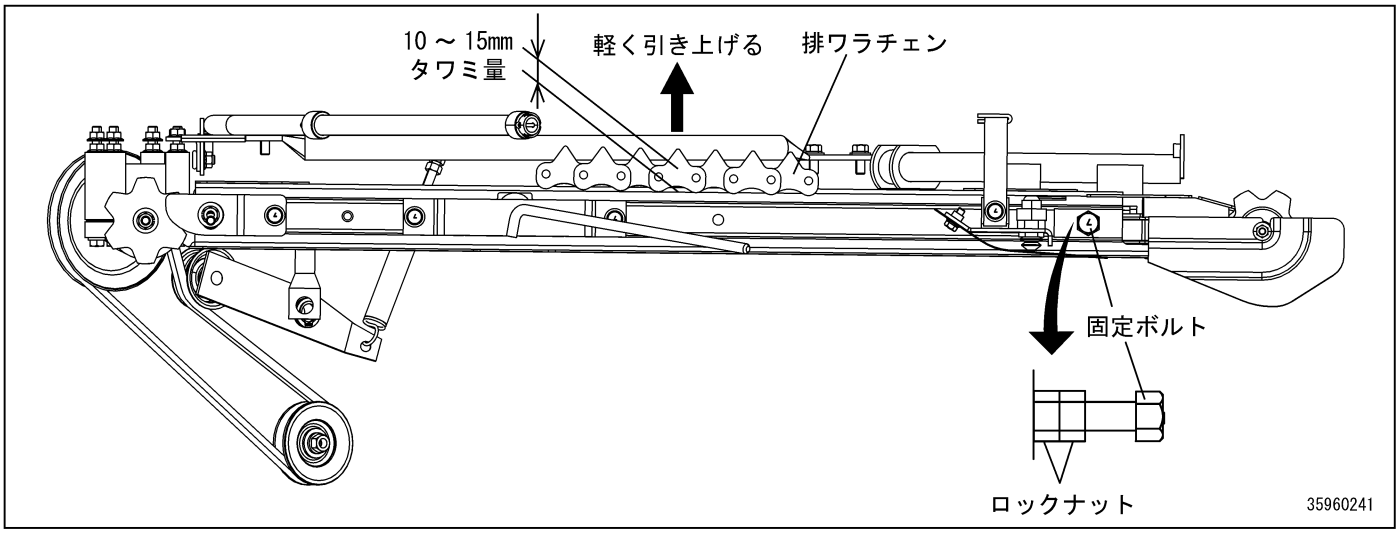
⑴ こぎ胴部を開けます。

⑵ ロックナット固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。

調整後固定ボルトがゆるまないようロックナットで締付けます。

なお，調整できなくなったときは，**「お買いあげ先」**でチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

⑶ 調整後，こぎ胴部を閉じます。



「クローラの点検・調整」

⚠警告　傷害事故防止のために

◆クローラの点検・調整する時は，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆ガレージジャッキがめり込んだり移動したりしない平坦な場所で行ってください。
ガレージジャッキは 1t 以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は機械のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚をかませて落下，転倒防止をしてください。

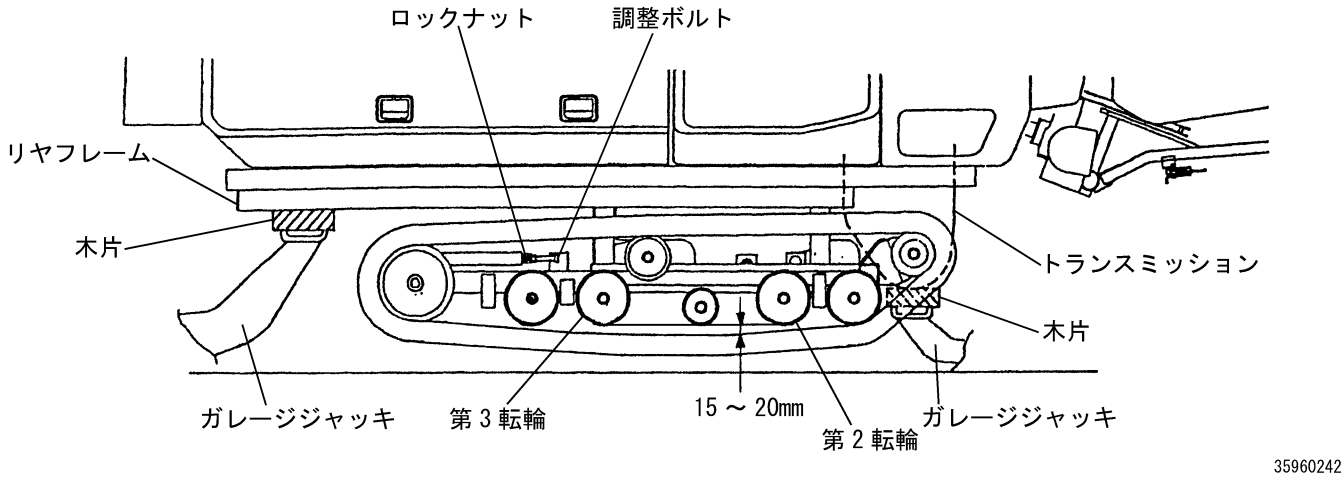
22. クローラ

❶ 点検

フレームをジャッキアップした状態で第 3 転輪とクローラのスキマが 15 ～ 20mm になっていますか。

❷ 調整

⑴ 図示のようにトランスミッションとリヤフレームの右または左に木片を介しガレージジャッキでジャッキアップします。
⑵ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで張ります。



取扱いのポイント

●トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損する恐れがありますので，木片を噛ませて行ってください。

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電でヤケドや損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホースの老化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し，損傷したりもれている場合は交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆機械にシートカバーをかける時は，エンジンが冷えてから行ってください。エンジンが熱い時にシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1. 機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびホッパのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。

(104 ページ～ 114 ページを参照)

2. 錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリスを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆ないようにします。

❸ 塗装がはげた個所は補修塗装を行います。

3. エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行う時は平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチレバーを《切》にしエンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーはいっぱいに戻しておきます。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満タンにしておきます。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。(81 ～ 82 ページ参照)

4. 点検・整備

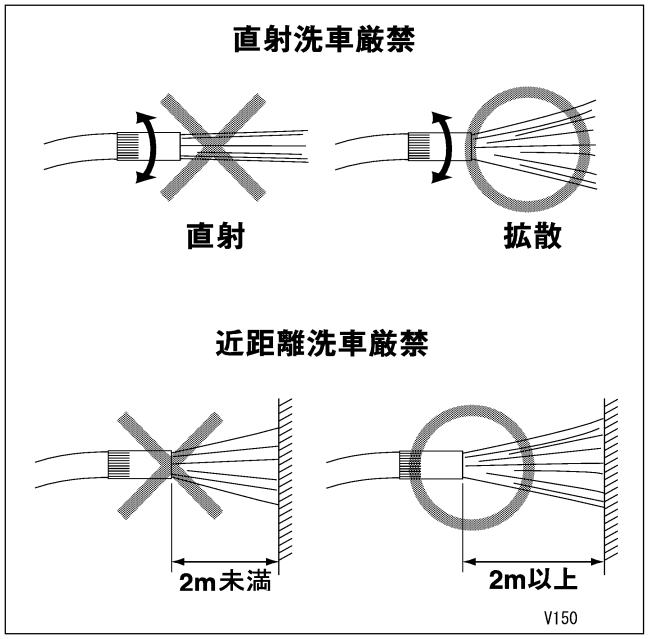
「定期点検整備表」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。

取扱いのポイント

- エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。
- 高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

⚠注意　洗浄時の注意

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
１．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
２．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
３．機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン，ラジエータ，キャビン内等への侵入による故障
(3) クローラ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



5. 格　　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

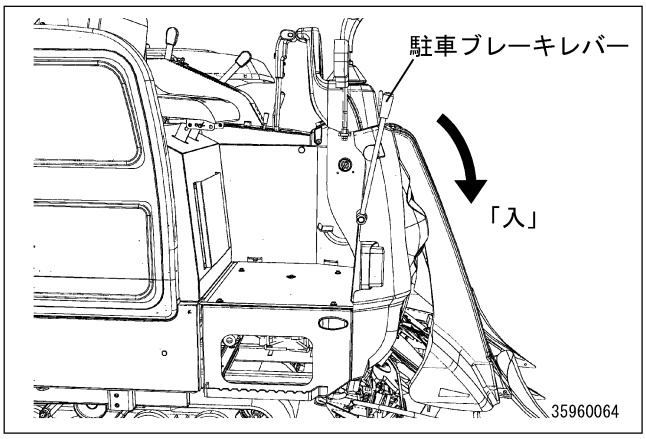
❶ 「クローラ」の下には板等を敷いておきます。

❷ 各レバーは《切》・《Ｎ》（中立）の位置にします。

❸「ナローガイド（左）」，「排出オーガ」（グレンタンク仕様），「補助モミ受台」（ホッパ仕様）を収納し，デバイダ先端に「バンパ」を取付けておきます。

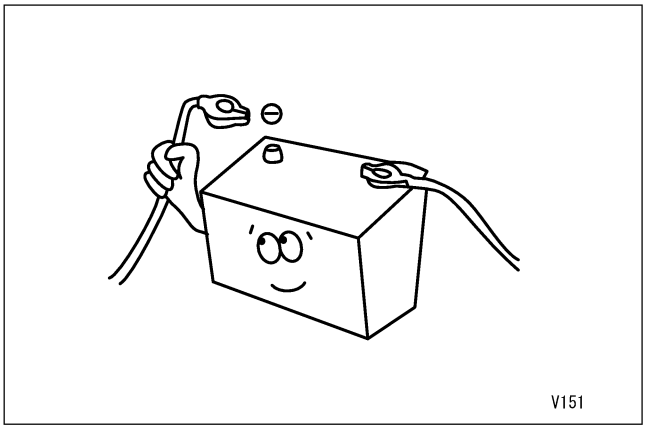
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「キー」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキレバーをかけます。



❻ クローラに「歯止め」をします。

❼「バッテリ」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，⊖側のコードを外しておきます。１ケ月に１回，バッテリ補充電のため，エンジンを約 10 分間回します。



取扱いのポイント

- 錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と同じ場所に格納するのは避けてください。
- エンジンを始動する前に，バッテリターミナル等保管するときに処置した項目を復元してください。

6. 再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナル等保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ **「運転まえの点検」**を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，**「お買いあげ先」**に相談し点検を受けます。
・そのときは**「型式名」**，**「機械番号（製造番号）」**，**「エンジン番号」**をあわせてお知らせください。

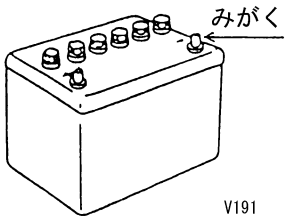
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。点検処置は参照ページの安全上の項目をよく読んでから行ってください。

⚠注意

◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

1. エンジン部

不調の状況	原因（点検個所）	処　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 脱こく・刈取クラッチレバーが**《入》**になっている。	●脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にする。	21
	❷ クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。	17
	❸ こく粒排出レバーが**《入》**になっている。**[グレンタンク仕様]**	●こく粒排出レバーを**《切》**にします。**[グレンタンク仕様]**	25
	❹ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。	95
	❺ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡個所を点検し，修正後，メインヒューズを交換します。	27～29
	❻ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	95～100
	❼**《予熱ランプ》**ヒューズが切れている。	●ヒューズ（10A）を交換します。	27～29

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶ 燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し,エア抜きをします。（燃料タンク容量……25L）	77,94
	❷ ・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアがたまっている。	●エア抜きをします。	94
	❸ **《ランプ・計器》**ヒューズが切れているため,燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	27～29
エンジンの出力が出ない,または自然に止まる	❶ 燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	93
	❷ エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換します。	92
	❸ ラジエータ防じん金網の目詰まり。	●防じん金網を掃除します。	92
	❹ エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	78,79
	❺ 冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	81,82
	❻ エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整します。	139
	❼ **《ランプ・計器》**ヒューズが切れているため,燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズ（15A）を交換します。	27～29

2. 走行・運転操作部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
主変速（無段変速）レバーを操作しても走行しない	❶ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	83, 84
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇・下降しない	❶ 油圧固定レバーが**《油圧固定》**位置になっている。	●油圧固定レバーを**《解除》**にし，油圧固定スイッチを**《作業時》**にします。	15

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
モニタランプが点灯しない	❶**《ランプ・計器》**ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	27～29
	❷ ランプの電球が切れている。	●電球を交換します。	—
前照灯・ホーン・バックブザー・方向指示器が点灯または作動しない	❶**《ランプ・計器》**ヒューズが切れている。	●ヒューズ（15A）を交換します。	27～29
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶**《こぎ深さ》**ヒューズか**《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 **《こぎ深さ》**ヒューズ……20A **《マイコン》**ヒューズ……10A	27～29
	❷ 刈取部のこぎ深センサにワラクズがたまっている。	●ワラクズを取除きます。	—
方向自動制御（ジャストディレクタ）が作動しない ［A仕様］	❶**《操向・リフト・オーガ》**ヒューズか**《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 **《操向・リフト・オーガ》**ヒューズ……10A **《マイコン》**ヒューズ ……10A	27～29
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどがたまっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	—
刈高さポジションコントロールが作動しない	**《操向・リフト・オーガ》**ヒューズか**《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 **《操向・リフト・オーガ》**ヒューズ……10A **《マイコン》**ヒューズ ……10A	27～29

4. 刈取部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを**《切》**にします。 ② エンジンを停止します。 ③ 刈取搬送部の詰まり個所を取除きます。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを**《刈取 入》**にして確認します。 取扱いのポイント **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	―
刈取部が動かない	❶ 刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	137
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	90, 91
	❷ 刈刃の調整不良（刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	127～130
	❸ 刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	127～130
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは急激な操作はさけます。	20
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶ 搬送通路に雑草・ワラクズ・泥等がたまっている。	●搬送通路の雑草・ワラクズ・泥等を除きます。	―
	❷**「深こぎ」**または**「浅こぎ」**となっている。	●適正こぎ深さで作業をします。	65, 66
刈取スライドが重い，作動しない [2条型]	❶ スライド部の注油不足。	●刈取スライド固定レバー摺動部に注油します。	89
	❷ こぎ深さが深くなっている。	●こぎ深さ手動スイッチの**《浅こぎ》**側を押してこぎ深さを最も浅い状態にします。	13

5. 脱こく部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。 （排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動） ❷ 脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動。 （脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動）	●つぎの手順により処置します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ② 排ワラ関係の詰まり個所を取除きます。 ③ 排ワラチェンの張りを点検・調整します。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**入**》にして確認します。	—
ホッパおよびグレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合った回転計の値になっているか確認し回転計を見て《**作業**》の各マークの範囲内になるようにして使用します。	45
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●こぎ胴ベルトを張ります。 ●搬送HST入力ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	137 141 144 142 142
	❸ こぎ深さが**「深こぎ」**のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65, 66
	❹ 作物が雨・霧のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除。	104, 105
	❺ 刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ低能率で作業します。	19
	❻ 揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	21, 22
	❼ 1番ラセン底板，2番ラセン底板の掃除口が開いている。	●掃除口を閉じます。	107

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・霧のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	104, 105
	❷ こぎ深さが**「深こぎ」**のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65, 66
	❸ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て**《作業》**の各マークの範囲内になるようにして使用します。	45
	❹ 刈取り速度が早すぎる。	●主変速レバーで速度を作業速度の低側に下げます。	45, 46
	❺ 送じんがスムーズでない。	●送じん量調節位置を**《多い》**方向へ調節します。 （必要に応じてガイドを固定します。）	70
	❻ ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマを交換します。	131～133
	❼ 揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	21, 22

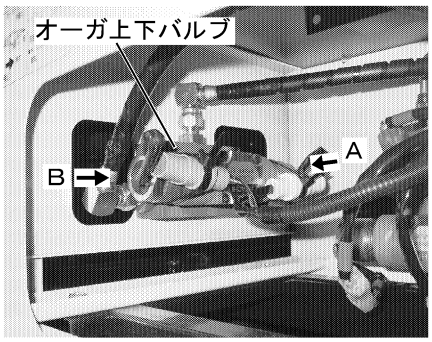
不調時の処置

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
三番ロスが多い	❶ こぎ深さが**「深こぎ」**のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65，66
	❷ 能率の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をします。	45，46
	❸ 作物が雨・霧のためにぬれている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	104，105
	❹ 刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度内で，できるだけ低能率で作業をします。	45，46
	❺ 揺動フィンの設定位置を誤って使用している。	●作業条件に合わせてフィンの調整をします。	21，22
こぎ残しが多い	❶ こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを**「穂先マーク」**位置に合わせます。	65，66
	❷ こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	45
	❸ デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。 （強く操作すると，**「ブレーキ」**が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	―

6. ワラ処理部

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶ カッタ刃の磨耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	117～126
	❷ 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	45，46 65，66
	❸ ワラがぬれているか，雑草が多いためカッタ軸に巻付が発生しています。	●エンジンを停止し，巻付いたワラ草を除去します。	—
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶ 排ワラチェン・ベルトの張り不良。	●チェン・ベルトを張ります。	143，151
	❷ こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	65，66
	❸ 刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	45，46

7. グレンタンク部［グレンタンク仕様］

不調の状況	原因（点検個所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作レバーを操作しても，動かない	❶《操向・リフト・オーガ》《オーガモータ》《マイコン》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 《操向・リフト・オーガ》ヒューズ ……10A 《オーガモータ》ヒューズ ……30A 《マイコン》ヒューズ ……10A	27～29
	❷ オーガ上下バルブのゴミかみ。  左方←　　→右方 ［オーガ上下バルブを前方から見た図］	●エンジンを始動しオーガ上下バルブの「上昇」，「下降」それぞれの手動ピンを数回押すと正常にもどる事があります。 （オーガ上下バルブは運転席足元のステップを外すと，下方にあります。） 機能確認 / チェック方法 上　げ / Aを押す 下　げ / Bを押す 取扱いのポイント ●水，またはスチームでの洗浄は厳禁。	—
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶ ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整します。	138
	❷ タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	—

付　　表

1. 主要諸元

[3条型]

型式名				三菱VS321	三菱VS323
区分				FGAKC	FGAKC
車両型式名				三菱ＶＳ３２３	
機体寸法（格納時）	全長 (mm)			3,370	
	全幅 (mm)			1,680	
	全高 (mm)			1,980	
機体質量（重量） (kg)				1,430	
エンジン	型式			S3L7-12C	S3L7-13C
	種類			水冷4サイクル3気筒ディーゼル	
	総排気量 (L{cc})			1.131 {1,131}	
	出力／回転速度 ({kW{PS}}／rpm)			15.4 {21.0} ／2800	16.9 {23.0} ／2800
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量 (L)			25	
	始動方式			セルスタータ	
	バッテリ (V・Ah)			12・36	
走行部	クローラ	幅×接地長 (mm)		330×1,215	
		中心距離 (mm)		805	
		平均接地圧 (kPa{kgf/㎠})		17.5{0.178}	
	変速方式			油圧モータ式（HST）	
	変速段数 (段)			前進無段，後進無段（副変速3段）	
	走行速度	前進 (m／s)		低速 0～0.57，中速 0～0.87，高速 0～1.75	低速 0～0.61，中速 0～0.95，高速 0～1.90
		後進 (m／s)		低速 0～0.57，中速 0～0.87，高速 0～1.75	低速 0～0.61，中速 0～0.95，高速 0～1.90
刈取部	刈取り条数 (条)			3	
	デバイダ先端間隔 (mm)			1,150～1,200	
	刈取装置形式			往復動刃式	
	刃幅 (mm)			1,150	
	変速段数 (段)			無段変速（車速同調式）	
	刈高さ範囲 (mm)			40～150	
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動，手動併用）	
脱こく部	脱こく方式			複胴下扱軸流式	
	こぎ胴	径×幅 (mm)		410×450	
		回転速度 (rpm)		530	
	処理胴	径×幅 (mm)		140×680	
		回転速度 (rpm)		1,710	
	揺動板	幅×長 (mm)		500×960	
こく粒処理部	こく粒処理方式			グレンタンク式	
	タンク容量 (L)			600	
排ワラ処理装置				ディスクカッタ（切断長60mm）	
適応作物全長 (mm)				550～1200	
倒伏適応性 (度)				追刈85° 向刈70°以下	
作業能率 (分／10a)				23～67	21～67
運転免許				小型特殊免許	

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

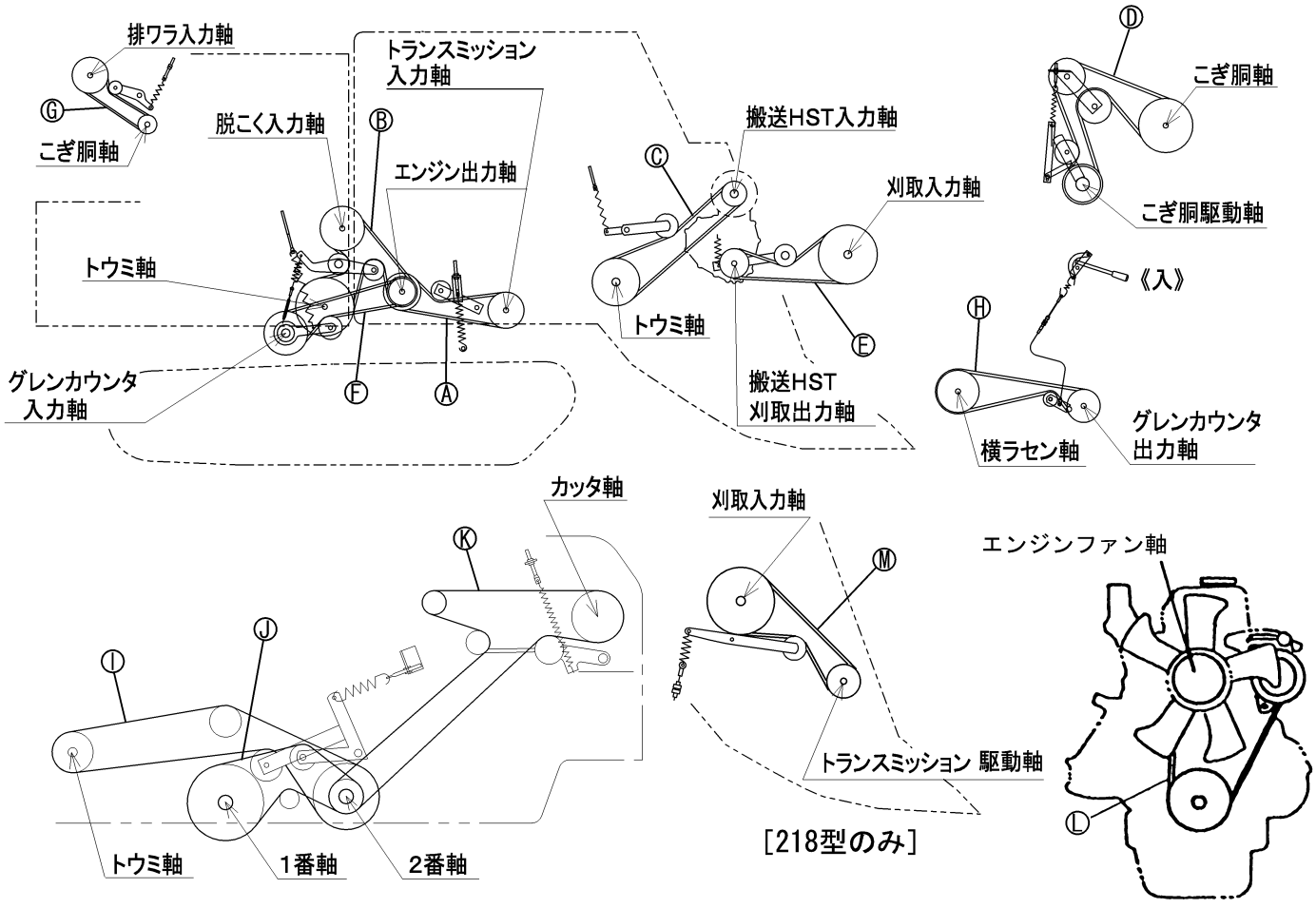
[2条型]

型式名				三菱VM218G	三菱VM219	三菱VM219G	三菱VM221	三菱VM221G
区分				FGKC	FAKC	FGAKC	FAKC	FGAKC
車両型式名				三菱VC18B	三菱VS323			
機体寸法（格納時）	全長		(mm)	3,230	3,180			
	全幅		(mm)	1,680				
	全高		(mm)	1,980	1,760	1,980	1,760	1,980
機体質量（重量）			(kg)	1,250	1,180	1,320	1,180	1,320
エンジン	型式			L3E-19C	S3L7-11C		S3L7-12C	
	種類			水冷4サイクル3気筒ディーゼル				
	総排気量		(L{cc})	0.952{952}	1.131 {1,131}			
	出力／回転速度		(kW{PS}／rpm)	13.3{18.0}/2800	14.0 {19.0} ／2800		15.4 {21.0} ／2800	
	使用燃料			ディーゼル軽油				
	燃料タンク容量		(L)	25				
	始動方式			セルスタータ				
	バッテリ		(V・Ah)	12・36				
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	330×1,200				
		中心距離	(mm)	805				
		平均接地圧	(kPa{kgf/㎠})	15.5{0.158}	14.6{0.149}	16.3{0.167}	14.6{0.149}	16.3{0.167}
	変速方式			油圧モータ式（HST）				
	変速段数		(段)	前進無段，後進無段（副変速3段）				
	走行速度	前進	(m／s)	低速 0~0.55 中速 0~0.85 高速 0~1.70	低速:0~0.62・中速:0~0.95・高速:0~1.90		低速0~0.68,中速0~1.05,高速0~2.10	
		後進	(m／s)	低速 0~0.55 中速 0~0.85 高速 0~1.70	低速:0~0.62・中速:0~0.95・高速:0~1.90		低速0~0.68,中速0~1.05,高速0~2.10	
刈取部	刈取り条数		(条)	2				
	デバイダ先端間隔		(mm)	800～850				
	刈取装置形式			往復動刃式				
	刃幅		(mm)	800				
	変速段数		(段)	無段変速（車速同調式）				
	刈高さ範囲		(mm)	40～150				
	こぎ深さ調節方式			電動式（自動，手動併用）				
脱こく部	脱こく方式			複胴下扱軸流式				
	こぎ胴	径×幅	(mm)	410×450				
		回転速度	(rpm)	470	530			
	処理胴	径×幅	(mm)	140×680				
		回転速度	(rpm)	1,415	1,710			
	揺動板	幅×長	(mm)	500×960				
こく粒処理部	こく粒処理方式			グレンタンク	ホッパ袋詰	グレンタンク	ホッパ袋詰	グレンタンク
	タンク容量		(L)	600	100×2口	600	100×2口	600
排ワラ処理装置				ディスクカッタ（切断長60mm）				
適応作物全長			(mm)	600～1200				
倒伏適応性			(度)	追刈85° 向刈70° 以下				
作業能率			(分／10a)	34～96	30～96		27～96	
運転免許				小型特殊免許				

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

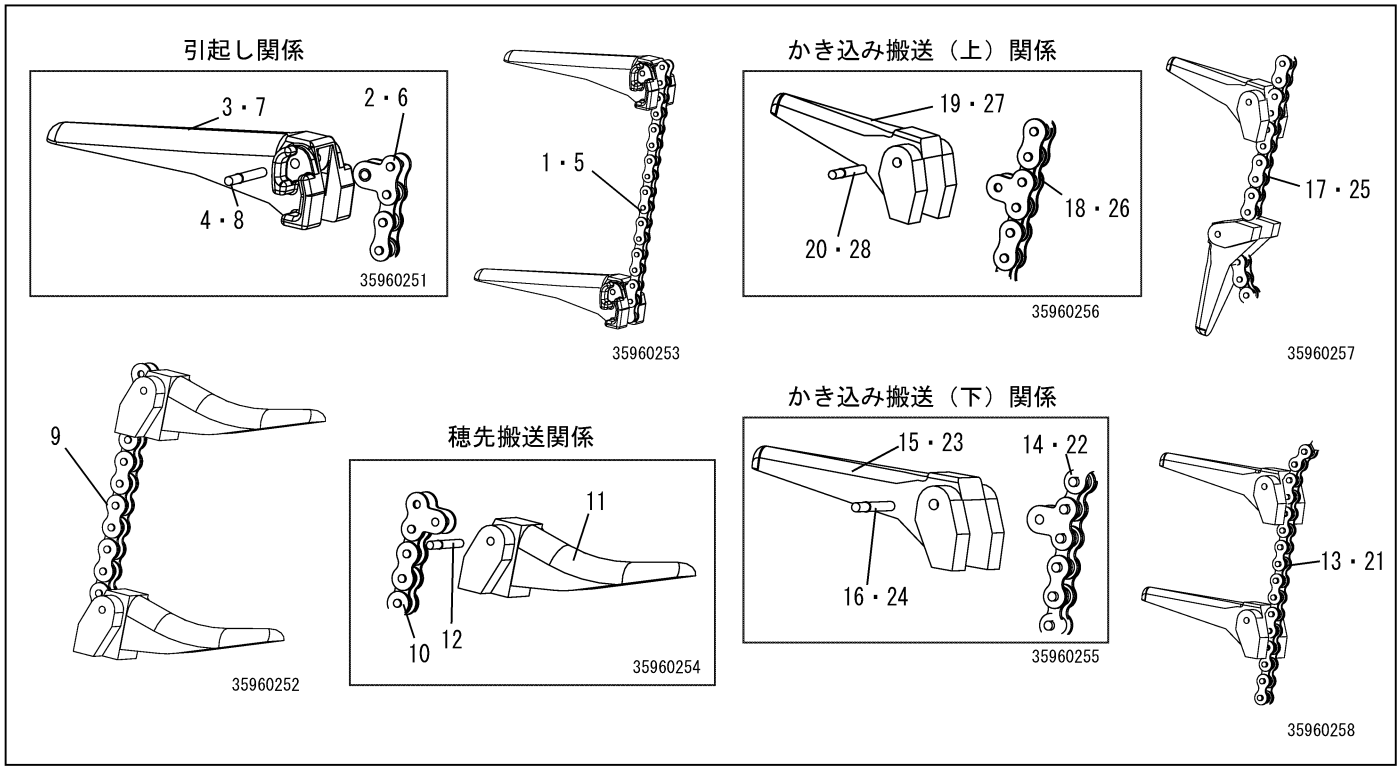
記号	伝　動　系　統	本数	部品番号	仕　　様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	1	3576 0054 000	LB50	走行ベルト[219/221型]
		1	3555 0054 000	LB49	走行ベルト[321/218型]
		1	3576 0054 000	LB50	走行ベルト[323型]
B	エンジン出力軸～トウミ軸	1	3572 6145 000	SB70	脱こく入力ベルト
C	トウミ軸～搬送HST入力軸	1	3596 6232 000	SB53	搬送HST駆動ベルト[218型を除く]
D	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	1	3555 6148 000	LC89	こぎ胴ベルト
E	搬送HST刈取出力軸～刈取入力軸	1	0852 1500 041	SB41	刈取ベルト[219/221型]
		1	3597 4012 000	SB39	刈取ベルト[321/323型]
F	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1200 052	LB52	グレン入力ベルト[グレン仕様]
G	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0851 1200 035	LA35	排ワラ駆動ベルト
H	グレンカウンタ出力軸～横ラセン軸	1	0852 1500 053	SB53	横ラセン駆動ベルト[グレン仕様]
I	トウミ軸～2番軸	1	0852 1500 064	SB64	選別ベルト
J	2番軸～1番軸	1	0851 1500 043	SA43	1番ラセン駆動ベルト
K	2番軸～カッタ軸	1	0852 1500 094	SB94	カッタベルト
L	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	31S94-03800	775mm	ファンベルト[218型を除く]
		1	MD079696	905mm	ファンベルト[218型]
M	トランスミッション駆動軸～刈取入力軸	1	0852 1500 042	SB42	刈取ベルト[218型]



3. 主な消耗部品

1. 爪関係

[3 条型]

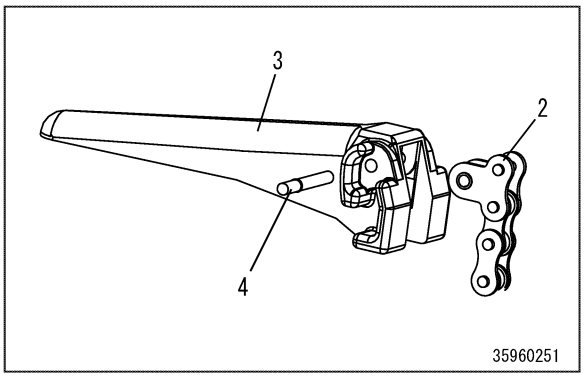


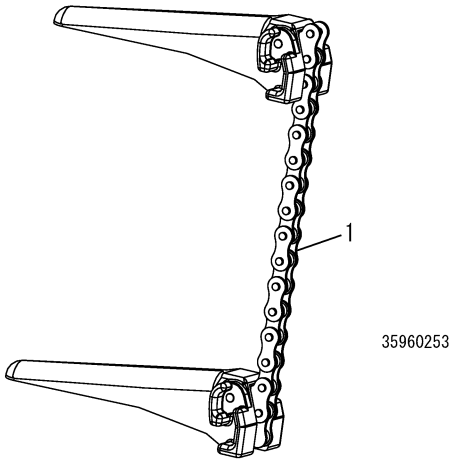
No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4437 006	引起し搬送（左）
	チェンアセンブリ　（1組）	3556 4445 000	引起し搬送（中）
2	チェン　（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ　（20本）	3555 4428 002	
4	ピン　（20本）	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4478 001	引起し搬送（右）
6	チェン　（1本）	3597 4478 100	
7	ツメ　（11本）	3555 4428 002	
8	ピン　（11本）	3523 4428 000	
9	チェンアセンブリ　（1組）	3597 5211 000	穂先搬送
10	チェン96　（1本）	3597 5212 000	
11	ツメ　（12本）	3501 5247 000	
12	ピン　（12本）	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4719 000	かき込み搬送（左下）
14	チェン44　（1本）	3597 4722 001	
15	ツメ　（6本）	3523 4742 001	
16	ピン　（6本）	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4732 000	かき込み搬送（左上）
18	チェン48　（1本）	3597 4733 000	
19	ツメ　（6本）	3543 7765 001	
20	ピン　（6本）	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4758 000	かき込み搬送（右下）
22	チェン54　（1本）	3597 4759 000	
23	ツメ　（6本）	3523 4742 001	
24	ピン　（6本）	3523 4428 000	
25	チェンアセンブリ　（1組）	3597 4779 000	かき込み搬送（右上）
26	チェン46　（1本）	3597 4779 500	
27	ツメ　（6本）	3543 7765 001	
28	ピン　（6本）	3523 4428 000	

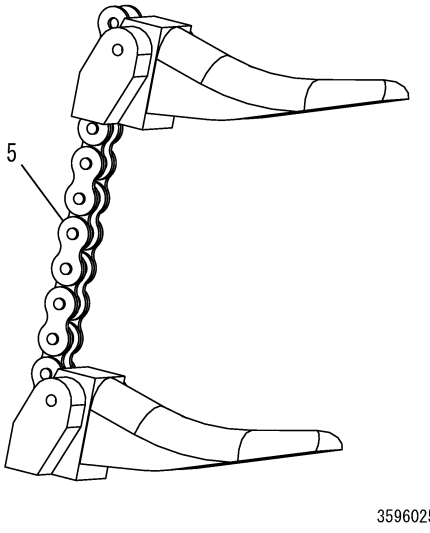
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

[2 条型]

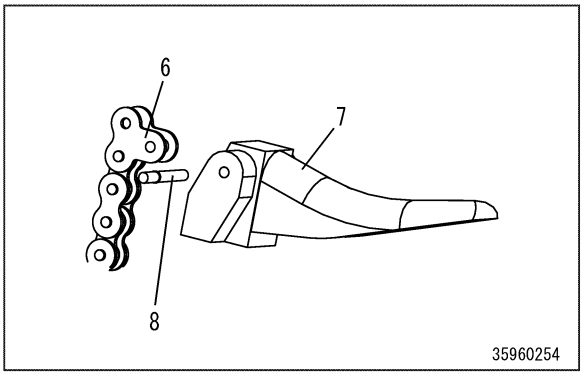
引起し搬送関係







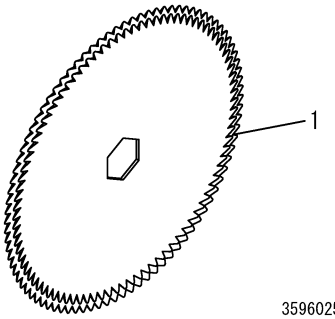
穂先搬送関係



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	チェンアセンブリ　（１組）	3556 4437 006	引起し搬送（左）
	チェンアセンブリ　（１組）	3556 4445 000	引起し搬送（右）
2	チェン　（２本）	3556 4438 000	
3	ツメ　（20本）	3555 4428 002	
4	ピン　（20本）	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ　（１組）	3556 5221 000	穂先搬送
6	チェン89　（１本）	3556 5222 000	
7	ツメ　（９本）	3501 5247 000	
8	ピン　（９本）	3523 4428 000	

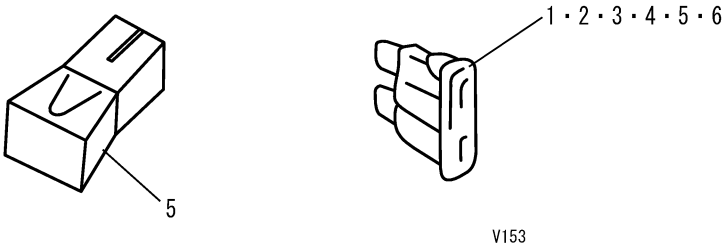
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

2. カッタ関係



No.	部　品　名　称	部品番号	個数（1セット分）	
			D323－17	D323－33
1	ノ　コ　刃	3578 8817 000	17	33

3. ヒューズ

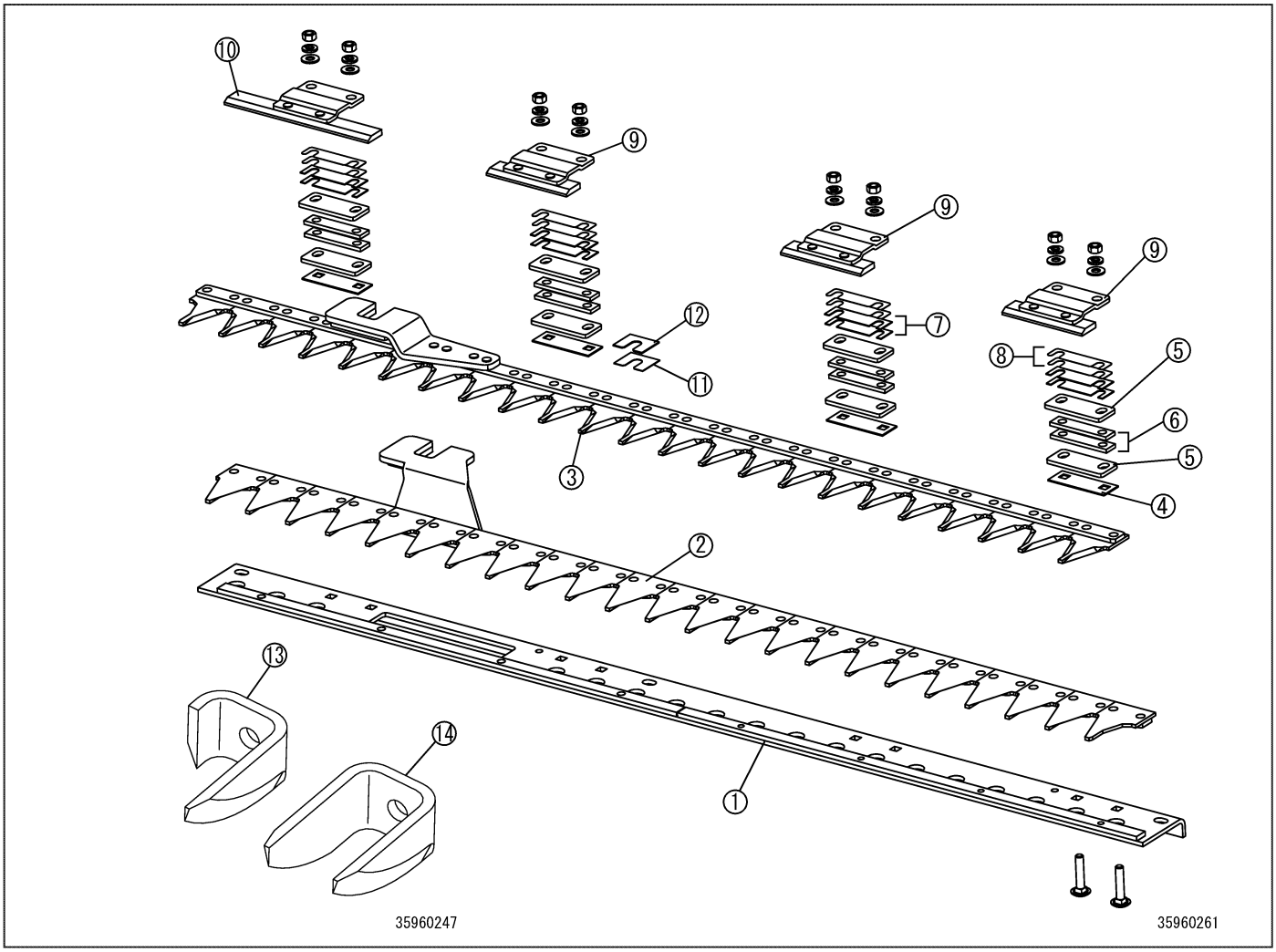


No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1003 006	30A
2	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1002 006	20A
3	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 506	15A
4	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 006	10A
5	ヒ　ュ　ー　ズ	1037 5581 200	50A（メイン）
6	ヒ　ュ　ー　ズ	0980 1001 005	10A

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. 刈刃・カマ関係

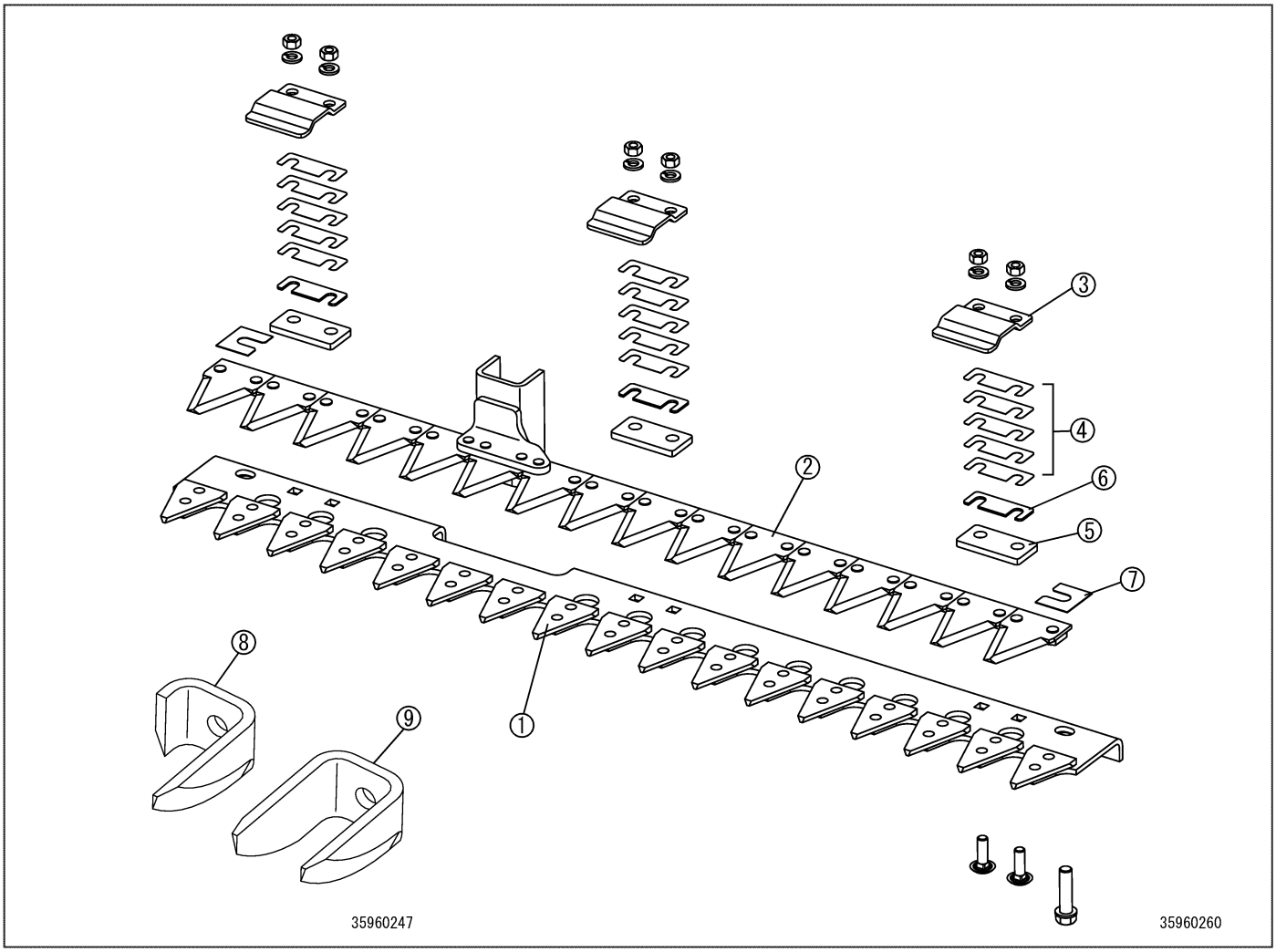
[3条型]



No.	部品名称		部品番号	備考
1~12	カリハクミタテ		3578 4351 000	
1	ウケハダイアッシ		3578 4352 000	
2	シタハアッシ		3578 4354 000	
3	ウエハアッシ		3578 4358 000	
4	スペーサ	（4個）	3555 4366 000	t =1.2㎜
5	スライドシート	（8個）	3532 4365 200	t =4.0㎜
6	ライナ	（8個）	3532 4365 300	t =4.0㎜
7	シム	（8個）	3532 4365 400	t =0.8㎜
8	シム		3532 4365 500	t =0.2㎜（必要に応じて使用）
9	ナイフクリップ	（3個）	3532 4364 001	
10	ナイフクリップB	（1個）	3578 4359 000	
11	ライナ		3690 4406 000	t =0.5㎜（必要に応じて使用）
12	ライナ		3690 4407 000	t =1.0㎜（必要に応じて使用）
13	ワラキリカマ	（1個）	3544 7223 000	
14	ワラキリカマ	（7個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

[2条型]



No.	部　品　名　称	部品番号	備　　考
1~7	カリハクミタテ	3594 4352 000	引起し搬送（左・右）
1	ウケハアッシ	3594 4353 000	
2	カリハアッシ	3594 4355 000	
3	カリハオサエ　（3個）	3690 4911 000	
4	シム	3690 4912 000	t ＝0.2㎜（必要に応じて使用）
5	マサツバン　（3個）	3690 4914 000	
6	ハオサエライナC　（3個）	3518 4357 000	
7	ライナ　（2個）	3690 4406 000	
8	ワラキリカマ　（1個）	3544 7223 000	
9	ワラキリカマ　（7個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　　名	備　　考
基本作業機・部品	KN-S323	ノッタ	株元・穂先結束両用
	S-MS20D	ディスクカッタ用ドロッパ	
	SP-S323W［3条型］	スーパーデバイダ	2連
	SP-S323TQ［3条型］	スーパーデバイダ	3連キット
	SP-MS20［2条型］	スーパーデバイダ	
	R-KSMS20	スタンドノッタ	
	BW-VM13	バランスウェイト	
	VM219G-VS323G	オーガソウサキット	電動クラッチ方式
	(3596 9910 000)	オーガサギョウキトウ	オーガ先端部作業灯
	(3596 9930 000)	テコギサギョウキトウ	脱こく入口部作業灯
	(3596 9950 000)	ホッパサギョウキトウ	ホッパシャッタ部作業灯（ホッパ仕様）

5. 付属品一覧表

No.	部　品　名	個　数	備　考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ（スナップピン付き）	1	
3	コンバインシート	1	
4	品質保証券	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	チョウナット	2	
7	ワッシャ	2	

6. 潤滑油について

オイルは，三菱純正オイルをお奨めします。

1. エンジンオイル

メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル(SAE・10W－30, SD/CD/GL－4) スーパーマルチGDオイル(SAE・10W－30, SL/CF)
全　　農	クミアイディーゼルオイルCFマルチ(SAE・10W－30)
JX日鉱日石エネルギー	HDS－3 ファームユニバーサル

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合はAPIサービス分類CF級オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30, GL－4）
全　　農	クミアイギヤオイル（SAE・10W-30相当品）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

をお使いください。

3. ギヤオイル

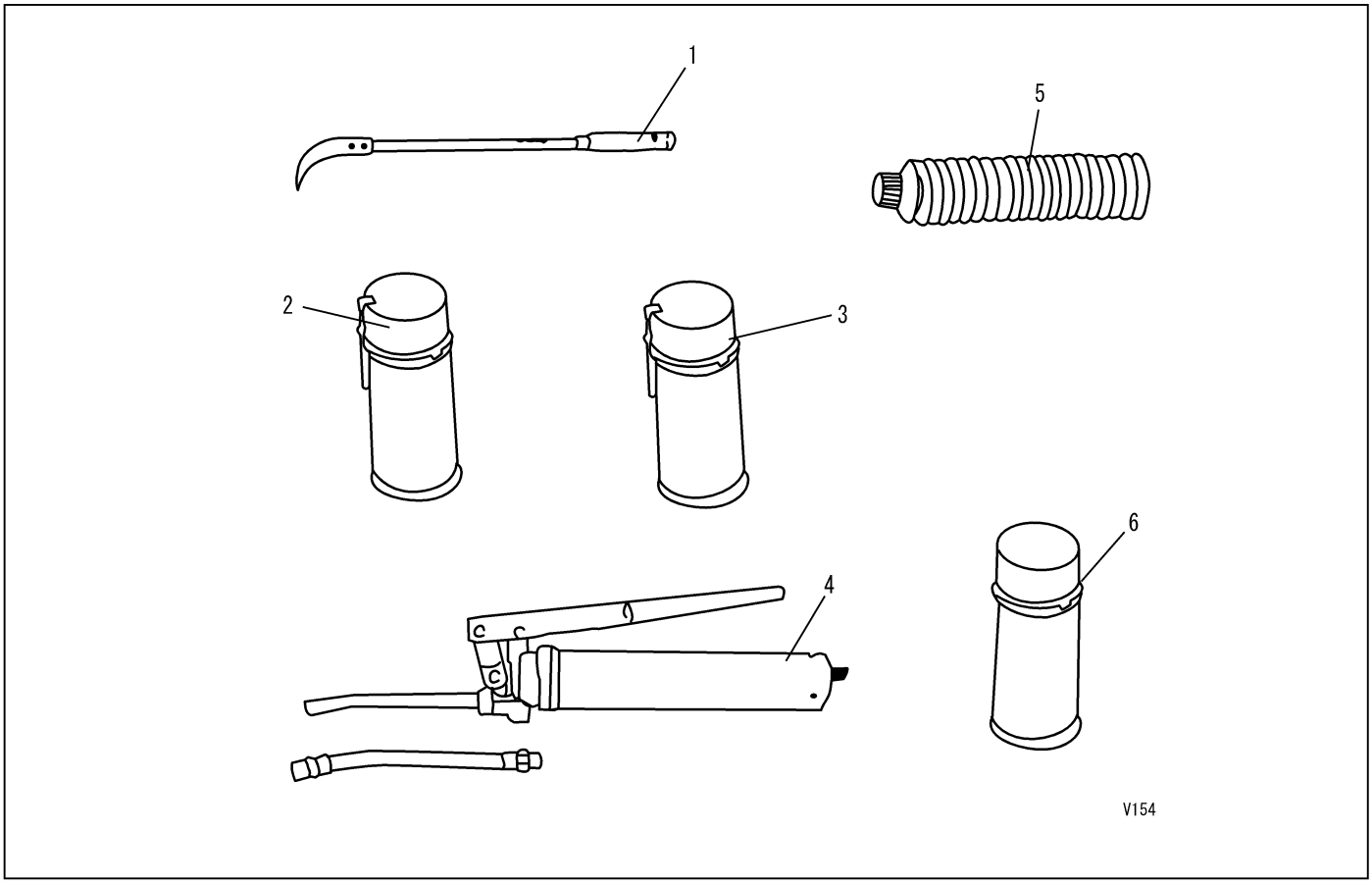
メ　ー　カ	商　　品　　名
三菱農機純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90）
全　　農	クミアイトラクターギヤオイル（SAE80W）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90, GL－5） スーパーハイポイドギヤ（SAE140, GL－5）

をお使いください。

7. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	商 品 名	商 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰替え用
6	カラースプレー（ダークグレー）	0975 0000 690	補修用塗装
	〃　（白）	0975 0000 650	
	〃　（黒）	0975 0000 470	



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号(製造番号)は…？

型　　式

機械番号(製造番号)

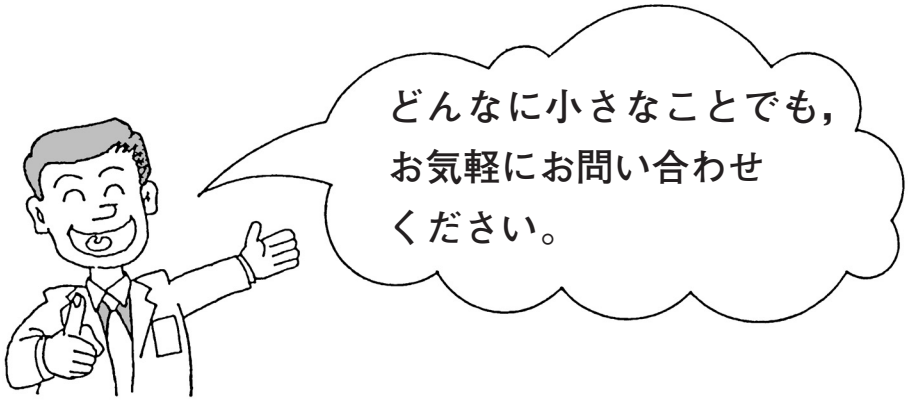
●ご使用状況は…？

(どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)

